

Mageia コントロールセンター

Mageia システムを設定するツール群

本マニュアル内の文章とスクリーンショットは クリエイティブ・コモンズ 表示-継承 3.0 ライセンス <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/> [<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>] のもとで利用可能です。

本マニュアルは [NeoDoc](http://www.neodoc.biz) [<http://www.neodoc.biz>] によって開発された [Calenco CMS](http://www.calenco.com) [<http://www.calenco.com>] の助けを借りて作られました。

これはボランティアによってその自由な時間の中で書かれたものです。もし本マニュアルの改善を手助けしたいのであれば [Documentation Team](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team] までご連絡をお願いします。

Mageia コントロール センター

目次

.....	1
1. Mageia コントロール センターのマニュアルについて	1
2. ソフトウェアの管理	1
2.1. ソフトウェアの管理 (ソフトウェアの追加と削除)	2
2.2. ソフトウェア パッケージの更新	5
2.3. 更新頻度の設定	6
2.4. メディアを設定する	7
3. 共有	12
3.1. FTP を設定する	12
3.2. ウェブ サーバを設定する	19
4. ネットワーク サービス	28
4.1. DHCP を設定する	28
4.2. DNS を設定する	36
4.3. プロキシを設定する	36
4.4. 時刻を設定する	47
4.5. OpenSSH デーモンを設定する	50
5. ハードウェア	61
5.1. ハードウェア設定	62
5.2. サウンドの設定	63
5.3. 3D デスクトップ効果	64
5.4. グラフィカル サーバを設定	67
5.5. キーボード レイアウトを設定する	70
5.6. ポインタ デバイスを設定 (マウス, タッチパッド)	71
5.7. プリンタのインストールと設定	72
5.8. スキャナを設定する	77
5.9. 電源管理のための UPS を設定する	85
6. ネットワークとインターネット	86
6.1. ネットワーク センター	86
6.2. 新しいネットワーク インターフェースを設定する (LAN, ISDN, ADSL など)	94
6.3. 接続を削除する	104
6.4. プロキシ	105
6.5. 他のローカル マシンとインターネット接続を共有する	106
6.6. ネットワーク プロファイルを管理する	108
6.7. セキュアなネットワーク アクセスのために VPN 接続を設定する	109
6.8. ホストの定義	112
7. システム	114
7.1. 認証	114
7.2. システム サービスの有効・無効を管理	115
7.3. フォントの管理, 追加, 削除と Windows(TM) フォントのインポート	116
7.4. 日付と時間を管理する	118
7.5. システムの言語を設定する	119
7.6. システム ログを見る	120
7.7. 管理者として端末を開く	122
7.8. ユーザとグループ	123
7.9. Windows(TM) のドキュメントと設定をインポートする	128
7.10. スナップショット	133
8. ネットワーク共有	135
8.1. Windows (Samba) 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする	135
8.2. ディレクトリやドライブを Samba で共有する	138
8.3. NFS 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする	147
8.4. NFS を使ってドライブ/ディレクトリを共有する	151

8.5. WebDAV 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする	155
9. ローカル ディスク	159
9.1. ディスク パーティションを管理する	159
9.2. CD/DVD 書き込みドライブ	162
9.3. ハード ディスクのパーティションを共有する	164
10. セキュリティ	165
10.1. MSEC: システムのセキュリティと監査	165
10.2. 個人用ファイアウォールを設定する	176
10.3. Mageia ツールの認証を設定する	179
10.4. ネットワーク インターフェースとファイアウォールの高度な設定	181
10.5. ペアレンタル コントロール	182
11. 起動	185
11.1. 自動ログインを設定する	185
11.2. システムの起動を設定する	186
11.3. ディスプレイ マネージャの設定	194
12. 他の Mageia のツール群	195
12.1. Mageia バグ報告ツール	195
12.2. ログやシステム情報をバグ報告のために収集する	196
12.3. 利用可能な NFS や SMB の共有を表示する	198
12.4. PCI, USB, PCMCIA の情報を表示する	198

図目次

1. ポートを選択する	80
-------------------	----

表目次

1.	4
---------	---

1. Mageia コントロール センターのマニュアルについて

Mageia コントロール センター (MCC) は左コラムに八つの異なるタブ項目が存在し、drakwizard パッケージがインストールされていると十個にすなりります。これらの各タブは大きな右パネルに異なる選択可能なツールのセットを提供します。

以下に続く十の章がこれらの十の項目と関連ツールに関するものとなります。

最後の章は幾つかの他の Mageia のツールに関するもので、それらは MCC のタブからは選択できません。

ページのタイトルはしばしばツールの画面のタイトルと同じものとなります。

検索バーも利用可能で、左コラムの "検索" タブをクリックすることで使用できます。

2. ソフトウェアの管理



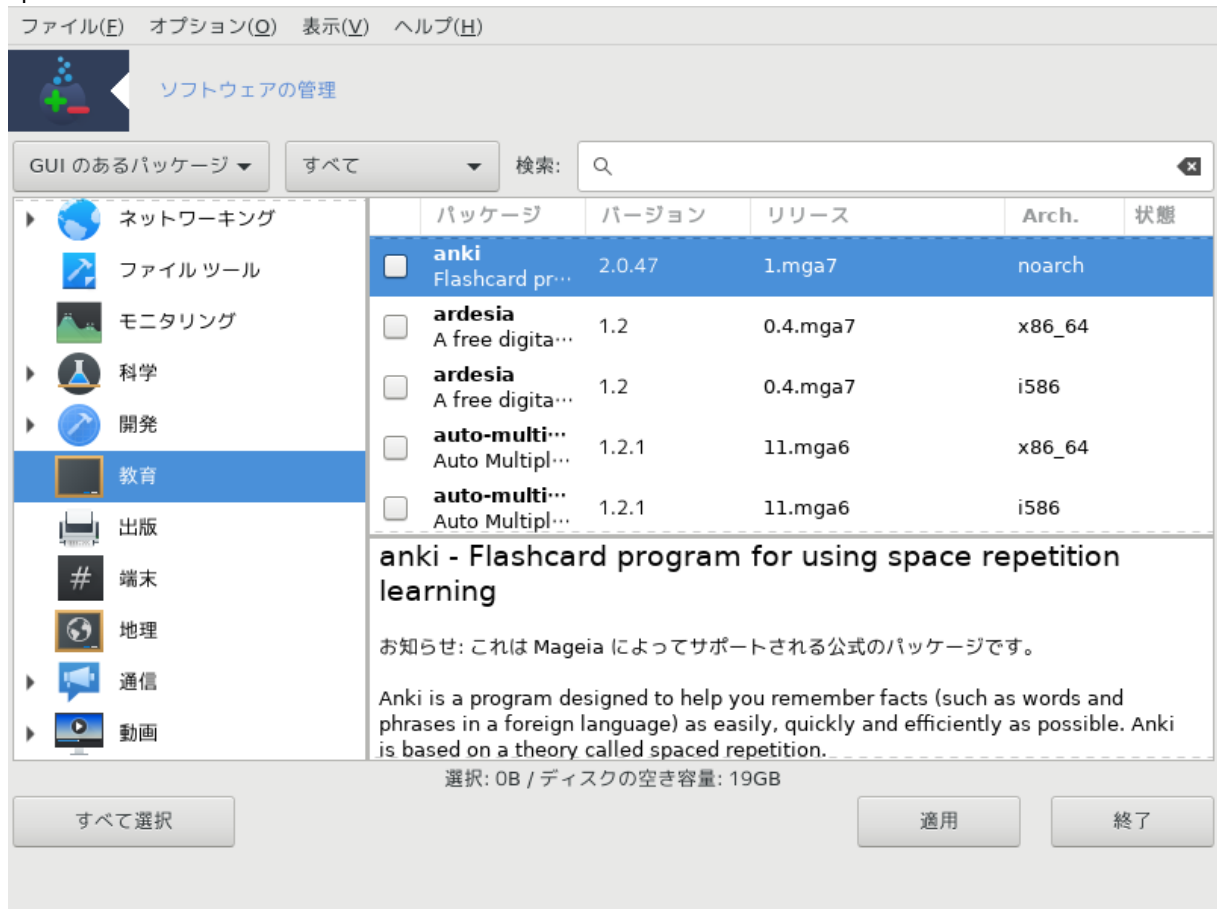
この画面ではソフトウェアを管理するための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

ソフトウェアの管理

1. [「ソフトウェアの管理 \(ソフトウェアの追加と削除\)」](#)
2. [「ソフトウェア パッケージの更新」](#) = システムを更新
3. [「更新頻度の設定」](#)
4. [「メディアを設定する」](#) = インストールと更新のためのメディア ソースを設定

2.1. ソフトウェアの管理 (ソフトウェアの追加と削除)

rpm Drake



2.1.1. rpm Drake の紹介

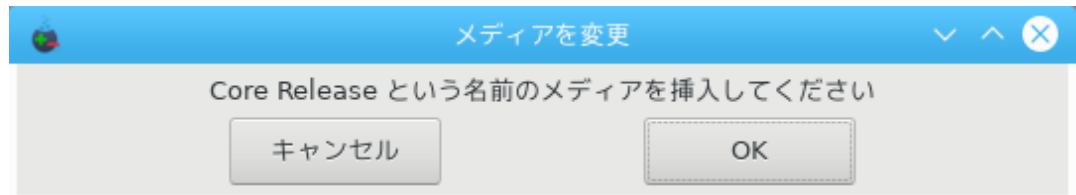
このツール¹ は drakrpm と呼ばれ、パッケージのインストール、アンインストール、更新を行うプログラムです。これは URPMI のグラフィカル ユーザ インターフェースです。起動のたびに、これは Mageia の公式サーバから直接ダウンロードしたオンラインのパッケージ一覧 ('メディア' と呼ばれます) をチェックし、お使いのコンピュータで利用できる最新のアプリケーションやパッケージを表示します。フィルタ システムは特定の種類のパッケージのみを表示できるようにします: インストール済みのアプリケーションのみを表示する (既定) ことや、利用可能な更新のみを表示することができます。インストールされていないパッケージのみを見ることもできます。パッケージ名、パッケージの説明の概要もしくは説明文全体、パッケージに含まれるファイル名で検索することもできます。

rpm Drake が動作するためには、リポジトリが [「メディアを設定する」](#) で設定されている必要があります。



インストールの間、設定済みのリポジトリはインストールに用いられるメディアで、一般的には DVD もしくは CD です。このメディアをそのままにすると、rpm Drake はパッケージをインストールしたいときに毎回このポップアップ ウィンドウで指示を出します:

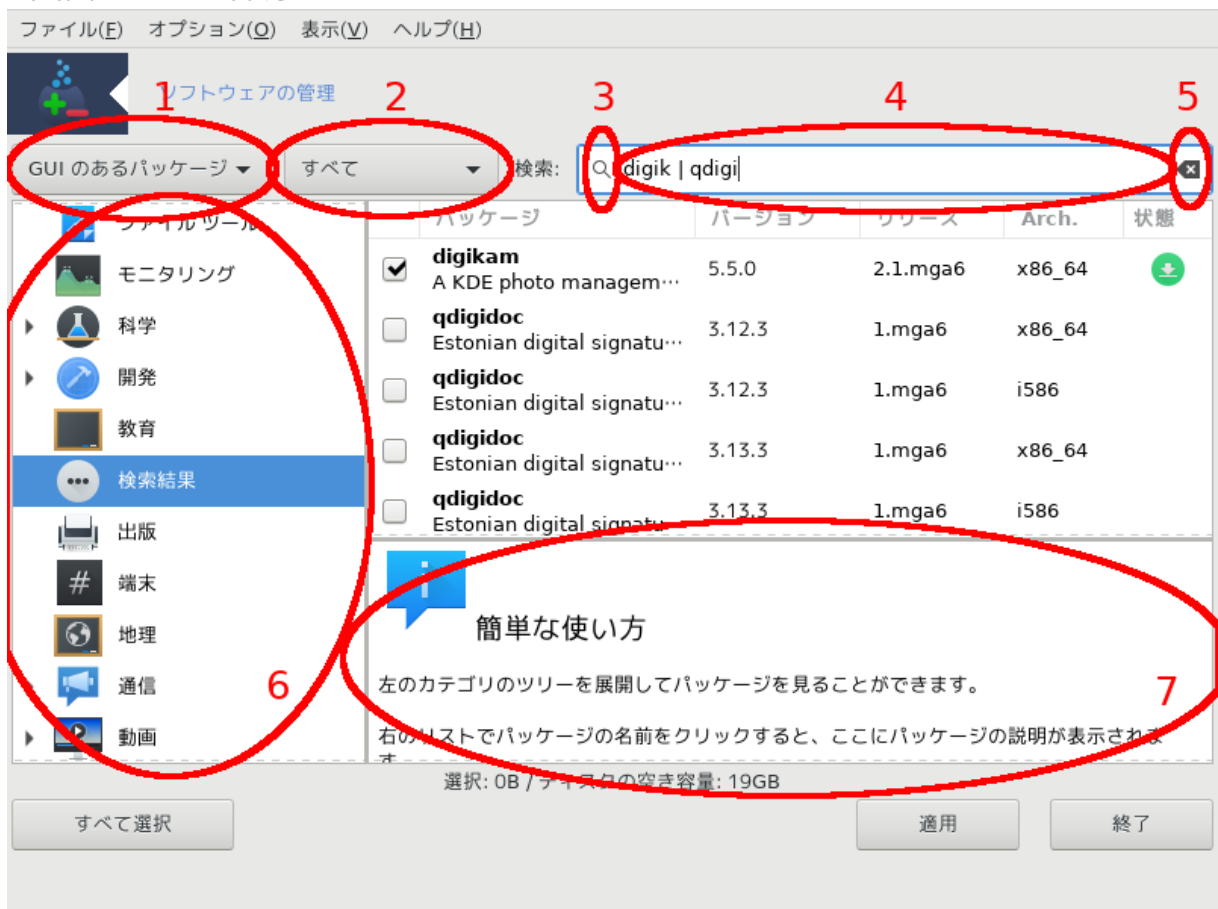
¹このツールはコマンド ラインから開始でき、rpm Drake を root として入力します。



上のメッセージが邪魔で、かつ厳しすぎるダウンロード制限のない優れたインターネット接続がある場合、そのメディアを削除して「[メディアを設定する](#)」でオンラインメディアを設定して置き換えるのがよいでしょう。

その上、オンラインのリポジトリは常に最新の状態で、よりたくさんのパッケージを含んでおり、インストール済みのパッケージを更新することができます。

2.1.2. 画面のメイン部分



1. パッケージの種類フィルタ:

このフィルタでは特定の種類のパッケージのみを表示することができます。最初にこのマネージャを開始したときには、グラフィカル インターフェイスのあるアプリケーションのみが表示されます。すべてのパッケージとそれらが依存するすべてのパッケージやライブラリもしくは、アプリケーションのみ、更新のみ、Mageia のより新しいバージョンからバックポートされたパッケージのようなパッケージ グループのみのいずれかを表示することができます。



既定のフィルタ設定は Linux や Mageia の初心者、コマンド ラインや専門家向けのツールを求めない人に向けたものとなっています。あなたがこのドキュメントを読

んでいるということは、Mageia の知識を向上させることに明らかに興味をお持ち
ですから、このフィルタを "すべて" にするのが一番です。

2. パッケージの状態のフィルタ:

このフィルタではインストール済みのパッケージのみ、未インストールのパッケージのみ、イン
ストール済みと未インストールの両方・すべてのパッケージのいずれかを表示できます。

3. 検索モード:

このアイコンをクリックしてパッケージ名、概要、説明文全体、パッケージ内のファイルのいず
れかで検索を行います。

4. "検索" ボックス:

ここに一つ以上のキーワードを入力します。複数のキーワードを使用したい場合は単語間に '|'
を入力します。例えば "mplayer" と "xine" を同時に検索するには 'mplayer | xine' と入力しま
す。

5. すべて削除:

このアイコンをクリックすると "検索" ボックスに入力したすべてのキーワードを消すことがで
きます。

6. カテゴリー一覧:





このサイド バーはすべてのアプリケーションやパッケージを分かりやすいカテゴリとサブカテ
ゴリにグループ化します。

7. 説明文パネル:

このパネルはパッケージの名前、概要、説明文全体を表示します。これは選択パッケージについ
ての多くの有用な要素を表示します。これはパッケージの詳細も表示でき、パッケージ内に含
まれるファイルに加え、メンテナによる直近の変更の一覧も表示できます。

2.1.3. 状態のコラム

いったん正しくフィルタを設定すると、ソフトウェアをカテゴリ (上の領域 6) か 名前/概要/説
明文 のいずれかを領域 4 を用いて探すことができ、条件を満たすパッケージの一覧が表示されま
す。それから、選択されたメディアは各パッケージがインストール済み/未インストール/更新など
によって異なる状態のマーカとともに表示されることを忘れないでください。この状態を変更す
るには、パッケージ名の左にあるボックスのチェックを入れたり外したりして適用をクリックしま
す。

アイコン	説明
	このパッケージは既にインストールされていま す
	このパッケージはインストールされます
	このパッケージは変更できません
	このパッケージは更新です


アイコン	説明
	このパッケージはアンインストールされます

表1

上のスクリーンショットにおける例:

- digikam (緑の矢印はインストール済みを示します) のチェックを外した場合、状態のアイコンは上矢印のある赤いアイコンになり、適用をクリックするとアンインストールされます。
- qdigidoc (未インストール, 状態を参照) にチェックした場合、下矢印のあるオレンジのアイコンが現れ、適用をクリックするとインストールされます。

2.1.4. 依存パッケージ



幾つかのパッケージは動作するために依存パッケージと呼ばれる他のパッケージを必要とします。それらは例えばライブラリやツールです。この場合、Rpm Drake は情報ウィンドウを表示し、選択された依存パッケージを受け入れるかどうかの選択ができ、詳しい情報も得られます (上を参照)。必要とされるライブラリを幾つかのパッケージが提供する場合も起こりえますが、その場合 rpm Drake は代替の一覧を表示し、詳しい情報を得るためのボタンとどのパッケージをインストールするかを選択する別のボタンが利用できます。

2.2. ソフトウェアパッケージの更新

MageiaUpdate もしくは drakrpm-update

ソフトウェアパッケージの更新

ソフトウェア パッケージの更新の一覧です

	名前	バージョン	リリース	アーキテクチャ
<input checked="" type="checkbox"/>	cpupower the cpupower tools	4.14.13	1.mga7	x86_64
<input checked="" type="checkbox"/>	gzip The GNU data compression program	1.9	2.mga7	x86_64
<input checked="" type="checkbox"/>	lib64cups-filters1 OpenPrinting CUPS filters and backends - cupsfilters and ...	1.17.9	4.mga7	x86_64
<input checked="" type="checkbox"/>	lib64javascriptcore-gir4.0 GObject Introspection interface description for JSCore	2.18.5	1.mga7	x86_64
<input checked="" type="checkbox"/>	lib64javascriptcoregtk4.0_18 GTK+ port of WebKit web browser engine	2.18.5	1.mga7	x86_64
<input type="checkbox"/>	lib64opencv_core2.4			

gzip - The GNU data compression program

お知らせ: これは Mageia によってサポートされる公式のパッケージです。

The gzip package contains the popular GNU gzip data compression program. Gzipped files have a .gz extension.

Gzip should be installed on your Mageia system, because it is a very commonly used data compression program.

▶ 詳細:

▶ ファイル:

▶ 変更履歴:

ヘルプ すべて選択 更新 終了

このツール²は Mageia コントロール センターのソフトウェアの管理タブにあります。




動作のために、MageiaUpdate は drakrpm-editmedia で更新としてチェックされた幾つかのメディアを必要とします。これらが無い場合、それを行うように促されます。

このツールは起動直後にインストール済みのパッケージを調べ、リポジトリで利用可能な更新を一覧表示します。これらはすべて自動的にダウンロードとインストールが行われるように既定で選択されます。更新ボタンをクリックすると処理を開始します。

パッケージをクリックすると、詳しい情報がウィンドウの下半分に表示されます。タイトルの前の > はテキストをクリックすると展開できることを意味します。

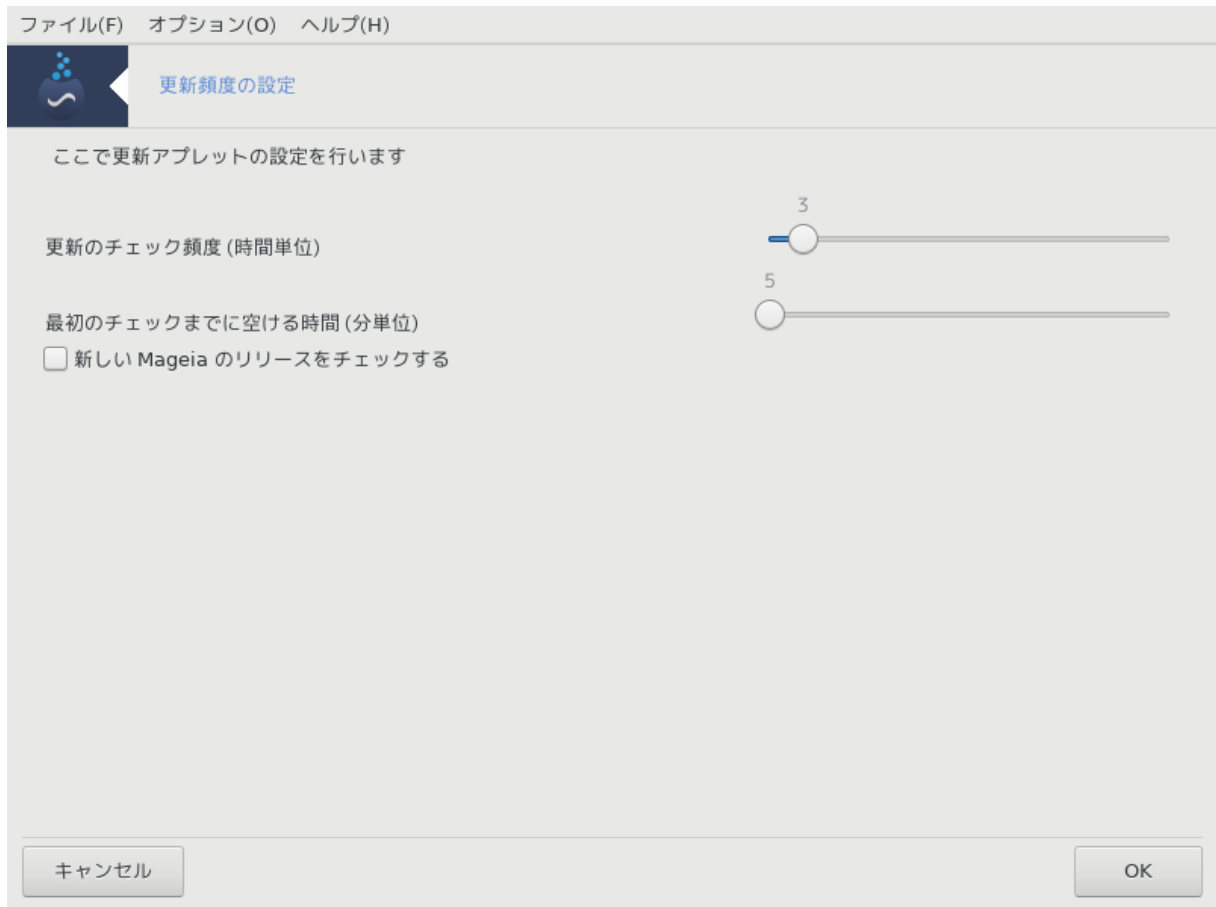



更新が利用できる場合、システムトレイのアプレットがこの赤いアイコン  を表示して警告します。クリックしてユーザのパスワードを入力するだけの操作でも同様にシステムを更新します。

2.3. 更新頻度の設定

mgaapplet-config

²このツールはコマンド ラインから開始でき、MageiaUpdate もしくは drakrpm-update を root として入力します。



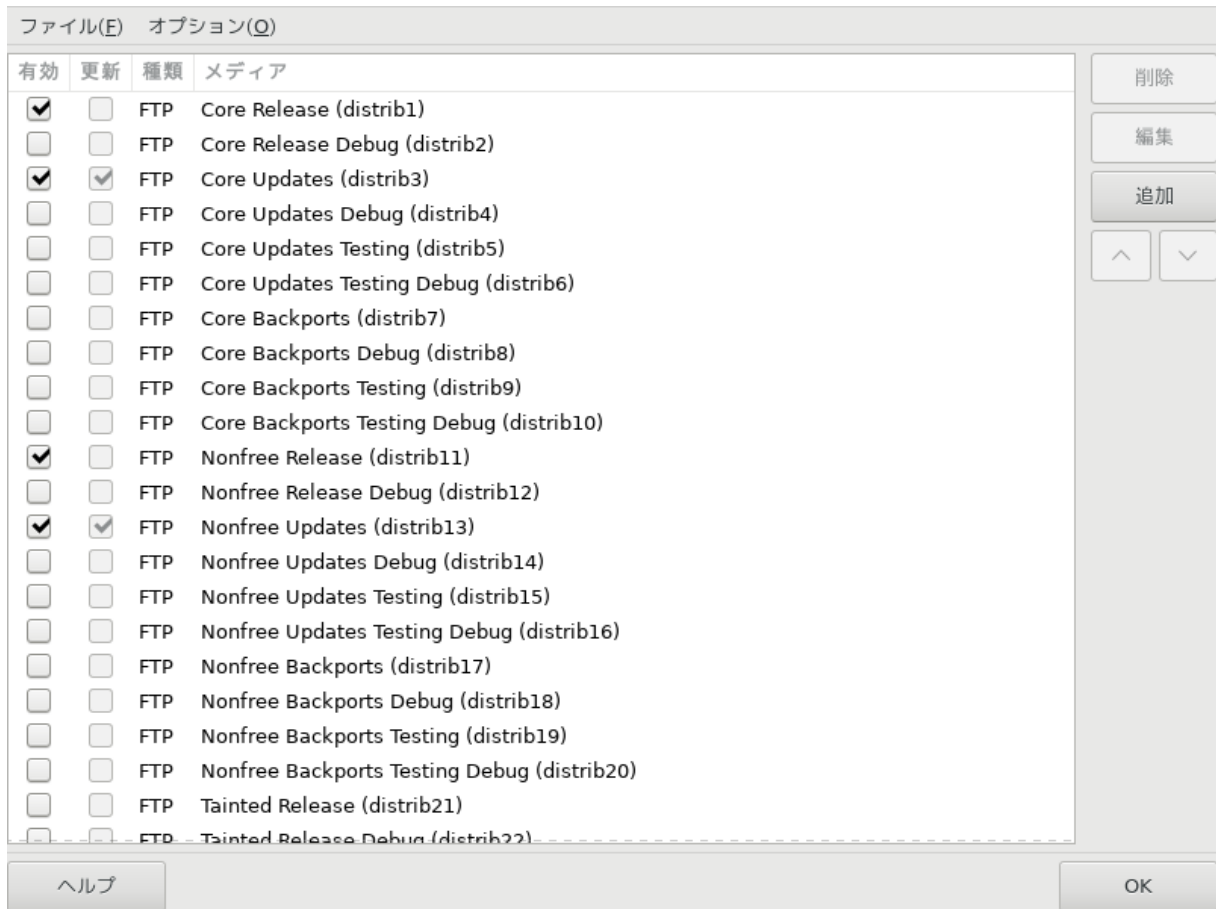
このツール³は Mageia コントロール センターのソフトウェアの管理タブにあります。これはシステムトレイの赤いアイコン  上で右クリック / 更新の設定から開くこともできます。

最初のスライダーでは Mageia が更新をチェックする頻度を、二つめではブート後に最初のチェックを行うまでに空ける時間を変更できます。チェック ボックスは新しい Mageia のリリースが公開されたときに知らせるための設定項目を提供します。

2.4. メディアを設定する

drakrpm-edit-media

³このツールはコマンド ラインから開始でき、mgaapplet-config を root として入力します。



インストール後に最初に行うことはソフトウェアのソース（リポジトリ、メディア、ミラーとも呼ばれます）を追加することです。これはパッケージやアプリケーションをインストールしたり更新したりするのにメディア ソースを選択しなければならないことを意味します（下の追加ボタンを参照してください）。



Mageia を光学メディア（DVD もしくは CD）や USB デバイスを用いてインストール（もしくはアップグレード）する場合、その光学メディアがソフトウェア ソースとして設定されます。新しいパッケージをインストールする際にメディアを挿入するように指示されるのを避けるには、このメディアを無効化（もしくは削除）したほうがよいでしょう（これはメディアの種類が CD-Rom となります）。



あなたのシステムは 32-bit (i586 と呼ばれます) もしくは 64-bit (x86_64 と呼ばれます) の可能性があるアーキテクチャのもとで動作しています。幾つかのパッケージはお使いのシステムが 32-bit か 64-bit かに依存しません; これらは noarch のパッケージと呼ばれます。これらはミラー上に自身の noarch ディレクトリを持ちませんが、i586 と x86_64 の両方のメディア内にすべて存在します。

このツールは Mageia コントロール センターのソフトウェアの管理タブにあります。⁴

⁴このツールはコマンド ラインから開始でき、drakrpm-edit-media を root として入力します。

2.4.1. コラム

有効:

チェックしたメディアは新しいパッケージをインストールするために使用されます。Testing や Debug のような幾つかのメディアには気をつけてください、これらはお使いのシステムを使えなくしてしまうかもしれません。

更新:

チェックしたメディアはパッケージを更新するために使用され、これは有効にしなければなりません。"Update" と名前にあるものだけを選択してください。セキュリティ上の理由により、このコラムはこのツールからは変更できず、root として端末を開いて `drakrpm-edit-media --expert` と入力しなければなりません。

メディア:

メディアの名前が表示されます。Mageia の正式リリース版の公式リポジトリは少なくとも以下を含んでいます:

- Core Mageia によってサポートされるほとんどのプログラムを含んでいます。
- Nonfree 自由ではない幾つかのプログラムを含んでいます。
- Tainted 自由なソフトウェアですが、幾つかの国において特許クレームが存在する可能性があります。

各メディアには 4 つのサブ セクションがあります:

- Release このバージョンの Mageia が公開された時点のパッケージです。
- Updates リリースの後でセキュリティやバグの関係で更新されたパッケージです。このメディアはインターネット接続が非常に低速な場合であっても全員が有効にするべきです。
- Backports Cauldron (次期開発版) からバックポートされた幾つかのパッケージです。
- Testing 新しい更新の一時的なテストのために用いられ、これにより、バグ報告者や QA チームは修正を検証することができます。

2.4.2. 右側のボタン

削除:

メディアを削除するには、それをクリックしてからこのボタンをクリックします。インストールに使用したメディア (CD や DVD など) は、その中のすべてのパッケージが公式の Core release メディアに含まれるため、削除するのが賢明です。

編集:

選択されたメディアの設定を変更できます (URL, ダウンローダ, プロキシ)。

追加:

インターネットで利用可能な公式リポジトリを追加します。これらのリポジトリは、安全でよくテストされたソフトウェアしか含んでいません。"追加" ボタンをクリックするとあなたの設定をミラーの一覧に追加し、これは最寄りのミラーからインストールや更新を確実に行うように設計されています。特定のミラーを選択する場合、ドロップダウンの "ファイル" メニューから "ミラーの一覧からメディアを追加" を選択することで追加します。

上下矢印:

一覧の順番を変更します。Drakrpm がパッケージを探す際、これは表示されている順番で一覧を読み込み、同一のリリース番号で最初に見つかったパッケージをインストールします - バージョン

が一致しない場合には、最新のリリースがインストールされます。そのため、可能であれば、最も速いリポジトリを一番上に配置してください。

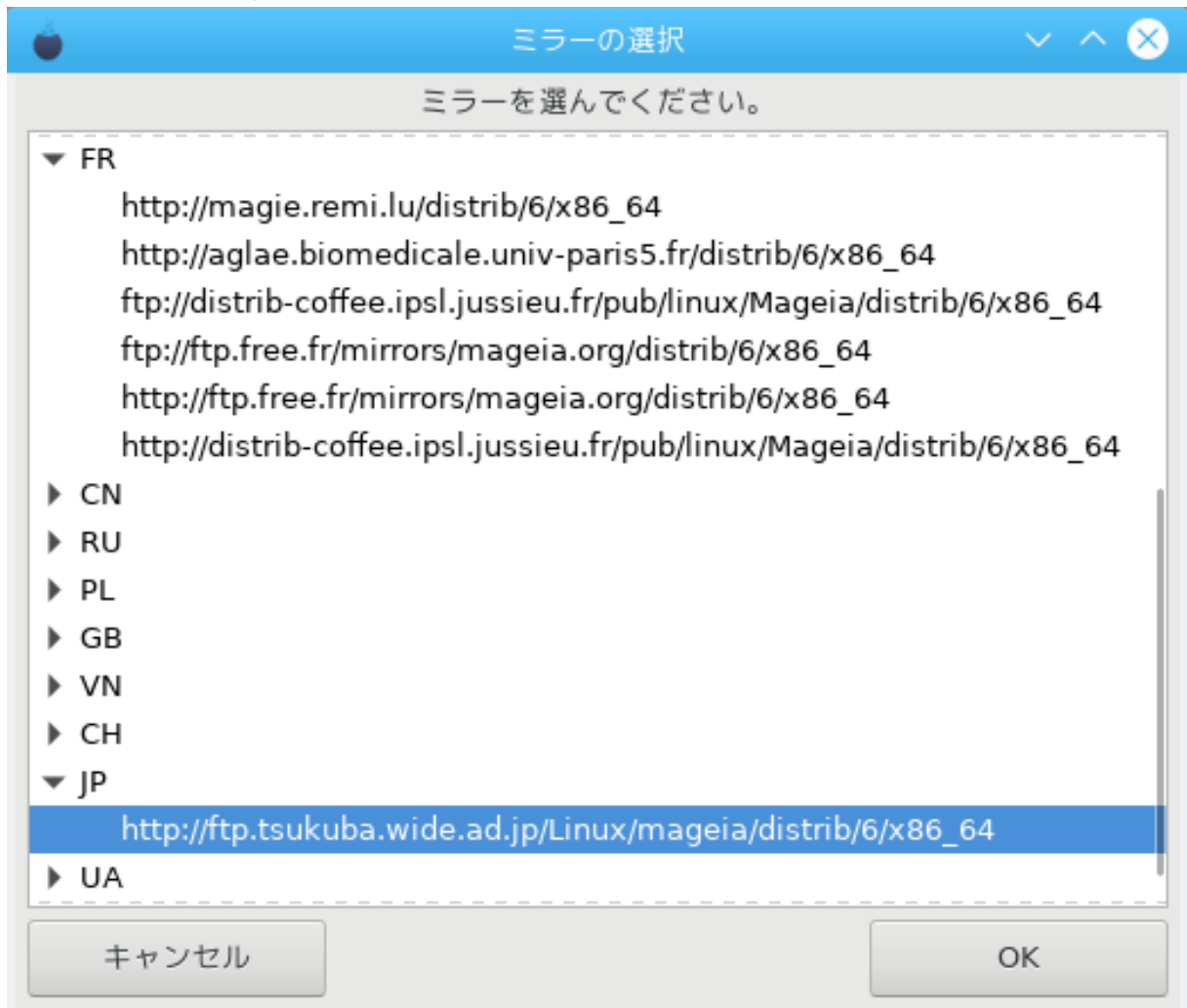
2.4.3. メニュー

ファイル -> 更新:

メディア一覧のウィンドウが現れます。更新したい項目を選択して更新ボタンをクリックします。

ファイル -> ミラーの一覧からメディアを追加:

遅すぎたり頻繁に利用不能になったりという理由で現在のミラーに満足していないと仮定して、別のミラーを選択することができます。現在のすべてのミラーを選択して削除をクリックしてこれらを取り除きます。ファイル -> ミラーの一覧からメディアを追加をクリックし、更新のみか完全なセットかを選択（分からなければ、完全なソースを選択してください）し、はいをクリックすることで受け入れます。このウィンドウが開きます:



左側に国の一覧が見えるので、あなたのいる国がそれに非常に近い項目を > のシンボルをクリックすることで選択すると、その国で利用可能なすべてのミラーが表示されます。いずれかを選択してOKをクリックします。

ファイル -> カスタム メディアを追加:

Mageia にサポートされていない新しいメディア (サード パーティなど) をインストールすることができます。新しいウィンドウが現れます:

メディアを追加:

メディアの種類: HTTP サーバ

メディア名: MOPL 64bit stable

URL: .mageia.org.pl/7/stable/x86_64

ディストリビューションのすべてのメディアを追加
 このメディアを更新メディアとして設定

キャンセル OK

メディアの種類を選択し、そのメディアをよく表している上手な名前を探して URL (もしくは、メディアの種類によってはパス名) を指定します。

オプション -> 共通オプション:

この項目ではいつ "インストールする RPM の署名を確認" するか (常に行う, 行わない), ダウンロード プログラム (curl, wget, aria2), パッケージ情報のダウンロード ポリシーの定義 (必要に応じて行う -既定-, 更新のみ行う, 常に行う, 行わない) を選択できます。

オプション -> 鍵を管理:

高レベルのセキュリティを保証するために、メディアの認証に電子鍵が使用されます。メディアごとに鍵の許可と不許可を設定できます。現れるウィンドウの中で、メディアを選択して追加をクリックすると新しい鍵を許可でき、鍵を選択して削除をクリックするとその鍵を不許可にできます。



これはすべてのセキュリティ関係の事柄と同様、慎重に行ってください。

オプション -> プロキシ:

インターネットにアクセスするのにプロキシ サーバが必要な場合、ここで設定できます。プロキシのホスト名と、必要であればユーザ名とパスワードを入力するだけです。

メディアの設定についての詳細は、[Mageia Wiki のページ](https://wiki.mageia.org/en/Software_management) [https://wiki.mageia.org/en/Software_management]を参照してください。

3. 共有



この画面とネットワーク サービスの画面は drakwizard パッケージがインストールされている場合にのみ見られます。あなたはさまざまなサーバを設定するための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクが [「ネットワーク サービス」](#) をクリックします。

共有

1. [「FTP を設定する」](#)
2. [「ウェブサーバを設定する」](#)

3.1. FTP を設定する

drakwizard proftpd



このツール⁵はFTPサーバの設定を手助けできます。

3.1.1. FTP とは何ですか？

ファイル転送プロトコル (FTP) は TCP に基づいたインターネットのようなネットワークでホスト間のファイル転送に用いられる標準のネットワーク プロトコルです。(Wikipedia より)

3.1.2. drakwizard proftpd で FTP サーバを設定する

FTP ウィザードへようこそ。準備はいいですか。

⁵このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard proftpd を root として入力します。

1. はじめに



最初のページは単なる前書きで、次へをクリックします。

2. サーバの公開範囲を選択します: ローカル ネットおよび/もしくは全世界

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

FTP を設定

FTP サーバ

このサーバはイントラネット (内部ネットワーク) とインターネットの FTP サーバとして使えます。

有効にする FTP サービスを選んでください:

イントラネット FTP サーバを有効にする

インターネット FTP サーバを有効にする

キャンセル 戻る 次へ

FTP サーバをインターネットに公開することにはリスクがあります。悪いことに備えてください。

3. サーバ情報

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

FTP を設定

FTP ProFTPD サーバの設定 - ステップ 1

root ログインを許可: root での FTP サーバへのログインを許可する
管理者のメール: FTP 管理者のメールアドレス

サーバ名:

管理者のメール:

root ログインを許可:

キャンセル 戻る 次へ

サーバが自身の紹介に用いる名前, 管理者のメール アドレス, root のログインを許可するかどうかを入力します。

4. サーバの追加設定

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

FTP を設定

FTP ProFTPD サーバの設定 - ステップ 2

Chroot ホーム ユーザ: ユーザは自分のホーム ディレクトリ以下しか参照できません。
FTP レジュームを許可: アップロード/ダウンロード時にレジュームを許可します。
FXP を許可: 他の FTP 経由のファイル転送を許可します。

FTP ポート:

Chroot ホーム ユーザ:

FTP レジュームを許可:

FXP を許可:

キャンセル

待ち受けポート, chroot jail, レジュームの許可, FXP (File eXchange Protocol) を設定します。

5. まとめ



これらの設定を確認したら、次へをクリックします。

6. 完了



終わりました! 完了をクリックしてください。

3.2. ウェブサーバを設定する

drakwizard apache2



このツール⁶ はウェブ サーバの設定を手助けできます。

3.2.1. ウェブ サーバとは何ですか？

ウェブ サーバとはインターネットを通してアクセス可能なウェブ コンテンツを渡すのを助けるソフトウェアのことです。(Wikipedia より)

3.2.2. drakwizard apache2 でウェブ サーバを設定する

ウェブ サーバ ウィザードへようこそ。

⁶このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard apache2 を root として入力します。

1. はじめに



最初のページは単なる前書きで、次へをクリックします。

2. サーバの公開範囲を選択します: ローカル ネットおよび/もしくは全世界

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

WEB Web サーバを設定

ウェブサーバ

このサーバは内部ネットワーク (イントラネット) とインターネットのウェブサーバとして使えます。

有効にするウェブ サービスを選んでください:

ウェブサーバを有効にしない場合は全てのチェックを外してください。

イン트라ネット用のウェブサーバを有効にする

インターネット用のウェブサーバを有効にする

キャンセル 戻る 次へ

ウェブサーバをインターネットに公開することにはリスクがあります。悪いことに備えてください。

3. サーバユーザ モジュール



ユーザが各自のサイトを作成することを許可します。

4. ユーザのウェブ ディレクトリ名

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

WEB Web サーバを設定

ユーザがホームに作成するディレクトリの名前を ~/ を付けずに入力してください。http://www.yourserver.com/~user 経由で利用できるようになります。

ユーザの HTTP サブディレクトリ: ~/

キャンセル 戻る 次へ

ユーザはこのディレクトリを作成して中身をこの中に配置する必要があり、サーバはこれを表示します。

5. サーバのドキュメント ルート

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

WEB Web サーバを設定

ドキュメント ルートにするディレクトリのパスを入力してください。

ドキュメント ルート:

キャンセル 戻る 次へ

ウェブ サーバの既定のドキュメントのパスを設定できます。

6. まとめ



これらの設定を確認したら、次へをクリックします。

7. 完了



終わりました! 完了をクリックしてください。

4. ネットワーク サービス



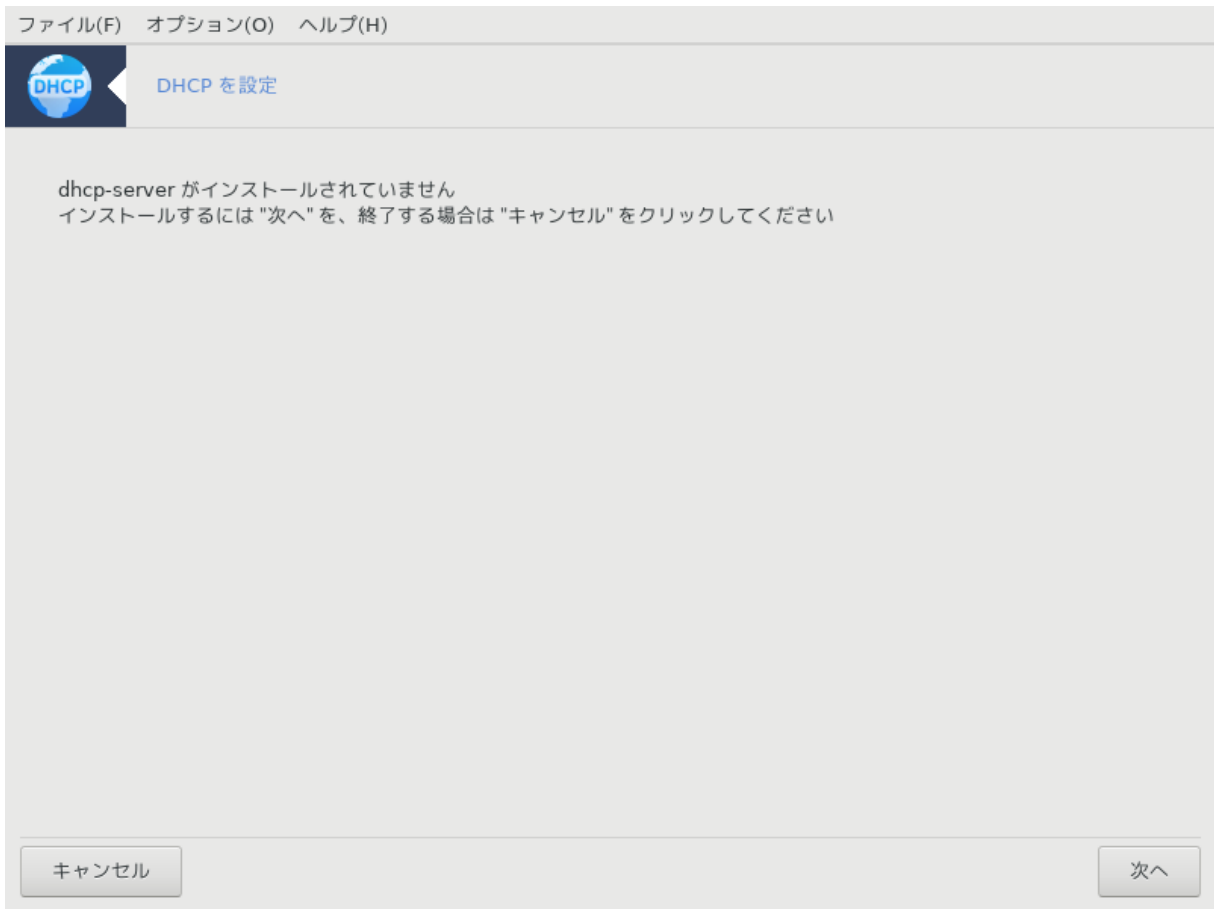
この画面と共有の画面は drakwizard パッケージがインストールされている場合にのみ見られます。あなたはさまざまなサーバを設定するための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクか [「共有」](#) をクリックします。

ネットワーク サービス

1. [「DHCP を設定する」](#)
2. [「DNS を設定する」](#)
3. [「プロキシを設定する」](#)
4. [「時刻を設定する」](#)
5. [「OpenSSH デーモンを設定する」](#)

4.1. DHCP を設定する

drakwizard dhcp



このツールは Mageia 4 ではネットワーク インターフェースの命名方式が新しくなったことにより正しく動作しません。

このツール⁷ は DHCP サーバの設定を手助けできます。これは drakwizard のコンポーネントで、使用するためには先にそれをインストールする必要があります。

4.1.1. DHCP とは何ですか？

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) は IP ネットワークで用いられる標準化されたネットワーク プロトコルで、IP アドレスやインターネット接続に必要な他の情報を動的に設定します。(Wikipedia より)

4.1.2. drakwizard dhcp で DHCP サーバを設定する

DHCP サーバ ウィザードへようこそ。

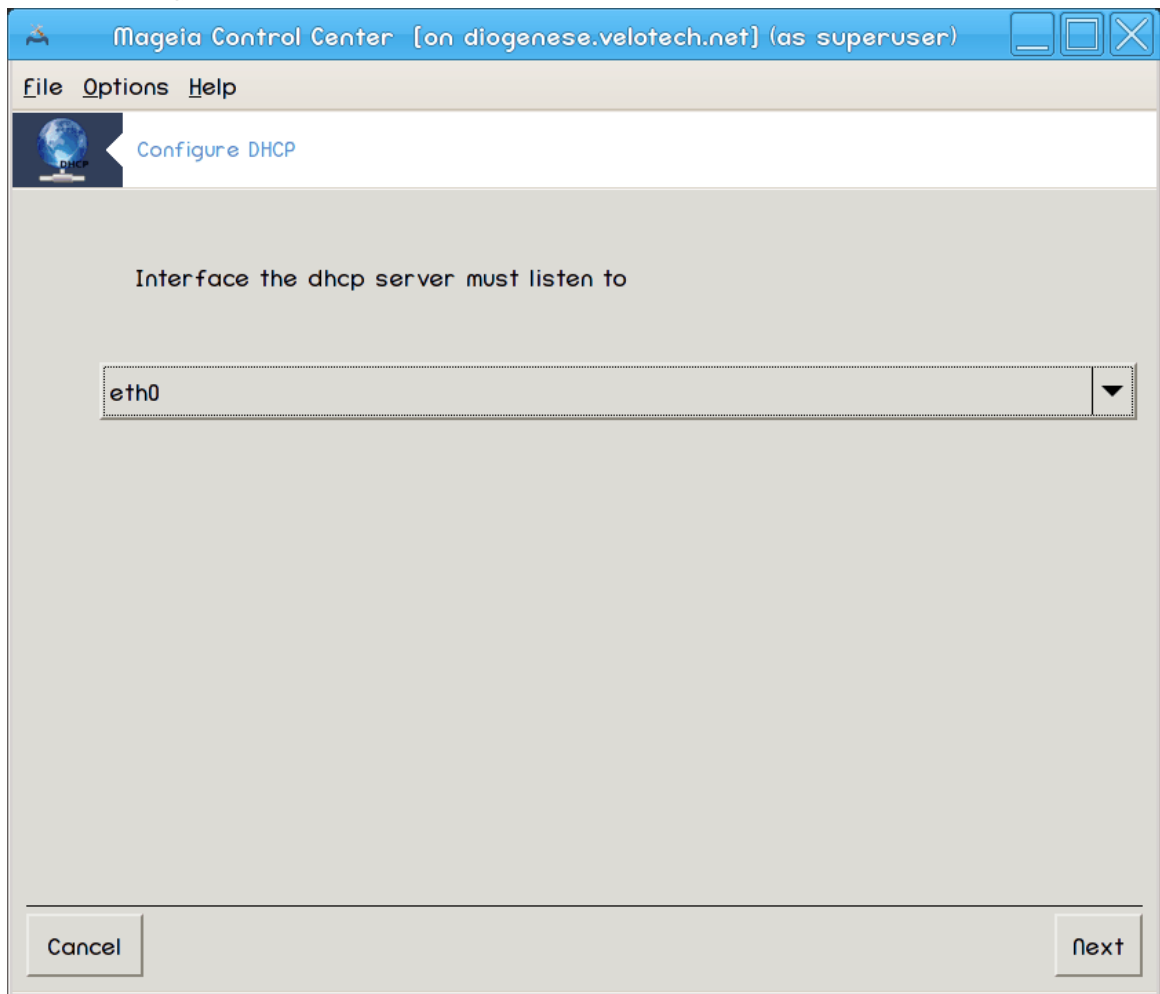
⁷このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard dhcp を root として入力します。

1. はじめに



最初のページは単なる前書きで、次へをクリックします。

2. アダプタを選択する



サブ ネットに接続されていて、かつ DHCP で IP アドレスを割り当てるネットワーク インターフェイスを選択し、次へをクリックします。

3. IP の範囲を選択する

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

DHCP DHCP を設定

DHCP で用いるアドレスの範囲
DHCP サービスがワークステーションに割り当てるアドレスの範囲を指定してください。特別な必要がなければ、既定値のまま
で問題ありません。(例: 192.168.100.20 192.168.100.40)

DHCP サーバで PXE を有効にする場合はチェックを入れてください。
Pre-boot eXecution Environment はネットワーク ブートを可能にするプロトコルです。

下限の IP アドレス: 192.168.10.100

上限の IP アドレス: 192.168.10.254

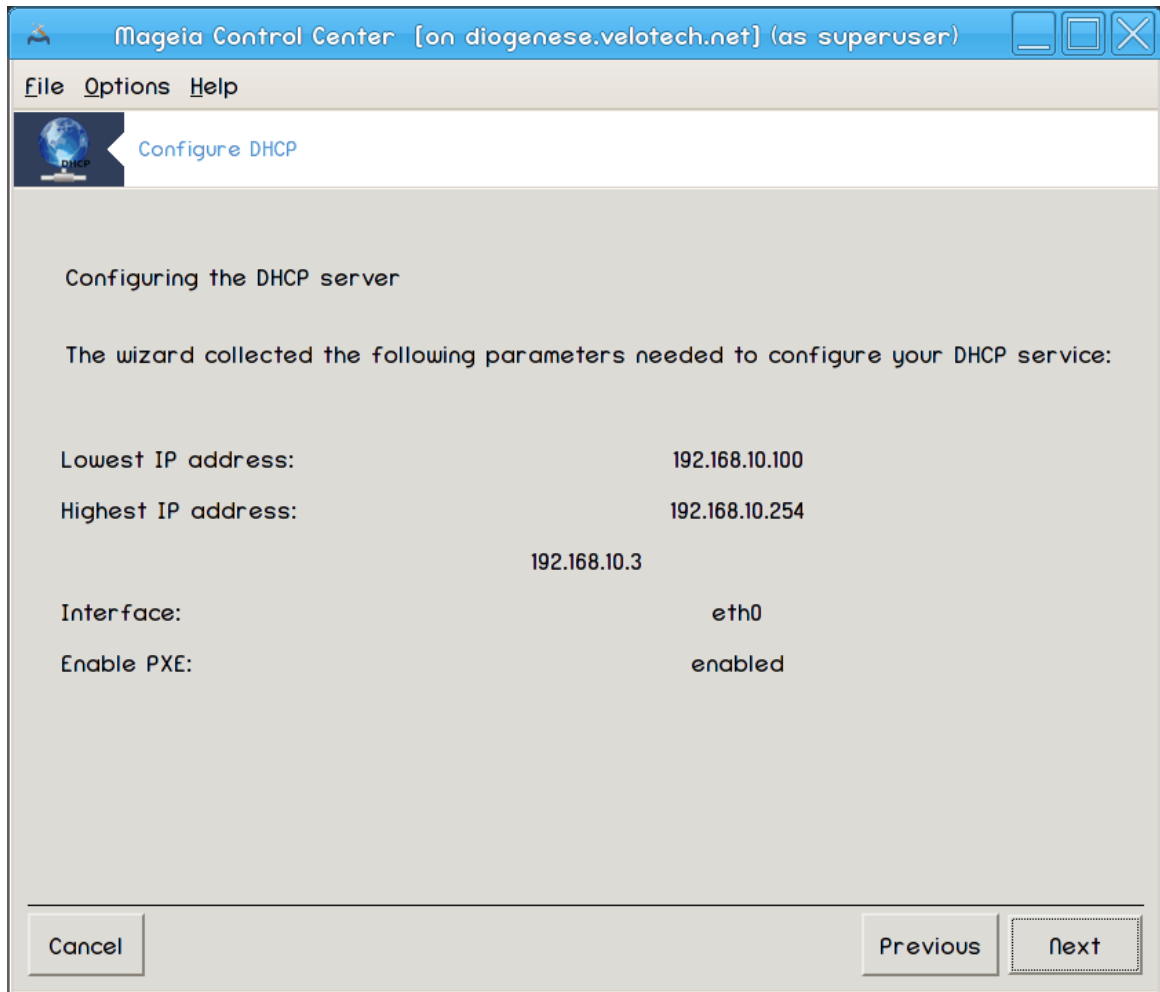
ゲートウェイの IP アドレス: 192.168.10.3

PXE を有効にする:

キャンセル 次へ

サーバに提供させたい IP アドレス範囲の開始と終了の IP アドレスを選択し、同時にローカルネットワークの外側、できればインターネットに近いゲートウェイ マシンの IP アドレスも指定します。その後次へをクリックします。

4. まとめ



これらの設定を確認したら、次へをクリックします。

5. ちょっと待ってください...



これは修正が可能です。戻るを数回クリックした後で該当する設定を変更します。

6. 数時間後...



4.1.3. 行われること

- 必要があればパッケージ `dhcp-server` をインストール;
- `/etc/dhcpd.conf` を `/etc/dhcpd.conf.orig` に保存;
- `/usr/share/wizards/dhcp_wizard/scripts/dhcpd.conf.default` をもとに以下のパラメータを追加して新しい `dhcpd.conf` を作成:
 - `hname`
 - `dns`
 - `net`
 - `ip`
 - `mask`
 - `rng1`
 - `rng2`
 - `dname`
 - `gateway`
 - `tftpserverip`
 - `dhcpd_interface`
- Webmin の設定ファイル `/etc/webmin/dhcpd/config` も変更
- `dhcpd` を再起動。

4.2. DNS を設定する

drakwizard bind



このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard bind を root として入力します。

4.3. プロキシを設定する

drakwizard squid



このツール⁸ はプロキシ サーバの設定を手助けできます。これは drakwizard のコンポーネントで、使用するためには先にそれをインストールする必要があります。

4.3.1. プロキシ サーバとは何ですか？

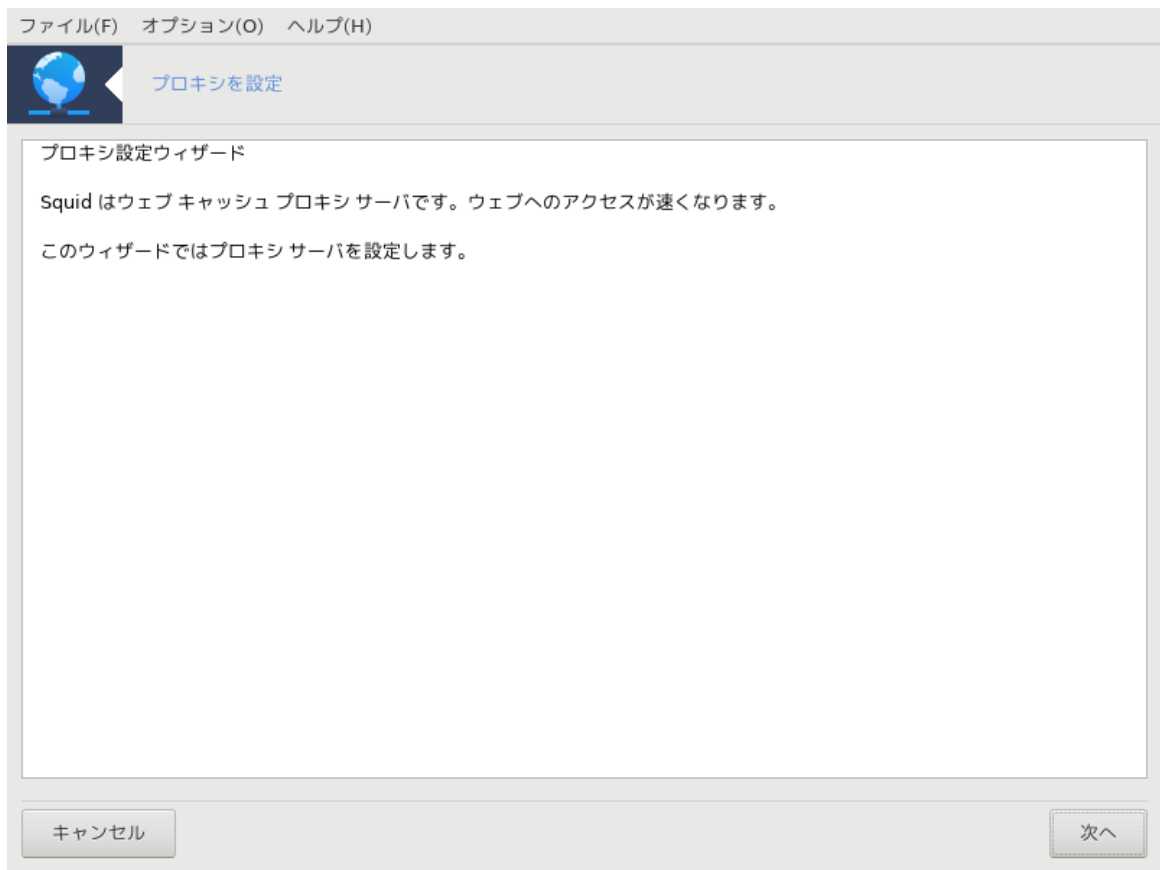
プロキシ サーバは他のサーバからリソースを探しているクライアントからの要求を仲介する者として動作するサーバ (コンピュータ システムもしくはアプリケーション) です。クライアントはプロキシサーバに接続し、ファイル, 接続, ウェブ ページ, 異なるサーバから利用できる他のリソースといった幾つかのサービスを要求し、プロキシ サーバは要求の複雑さを簡単にしたりコントロールしたりする方法として評価します。(Wikipedia より)

4.3.2. drakwizard squid でプロキシ サーバを設定する

プロキシ サーバ ウィザードへようこそ。

⁸このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard squid を root として入力します。

1. はじめに



最初のページは単なる前書きで、次へをクリックします。

2. プロキシのポートを選択する

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 プロキシを設定

プロキシポート

プロキシポートには、http リクエストに対してプロキシサーバが参照するポート番号を設定します。既定値は 3128 です。8080 もよく使われます。ポート番号は 1025 以上を指定してください。


プロキシポート:

キャンセル 戻る 次へ

ブラウザが接続するプロキシのポートを選択し、次へをクリックします。

3. メモリとディスクの使用量

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 プロキシを設定

プロキシのキャッシュ サイズ

メモリ キャッシュは、メモリ操作をキャッシュするのに使う RAM の量です (注意: squid プロセスで実際に使用するメモリ量のほうが大きくなります)。

ディスク キャッシュは、キャッシュに使うディスクの容量です。

あなたが /var/spool/squid で利用できるディスク容量については以下を参照してください:

ファイルシステム	1M-ブロック	使用	使用可	使用%	マウント位置
/dev/sda1	24062	4579	18239	21%	/

メモリ キャッシュ (MB):

ディスク容量 (MB):

メモリとディスク キャッシュの上限を設定し、次へをクリックします。

4. ネットワークのアクセス制御を選択する



ローカル ネットワークと全世界のどちらに公開するかを設定し、次へをクリックします。

5. ネットワーク アクセスを許可する

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 プロキシを設定

ローカル ネットワークのアクセスを許可

ネットワーク上のホストにアクセスを許可します。現在のローカル ネットワークの情報は次のとおりです。必要な場合は変更してください。

数値形式 (例: "192.168.1.0/255.255.255.0") もしくは
テキスト形式 (例: ".domain.net") を使うことができます

許可するネットワーク:

キャンセル 戻る 次へ

ローカル ネットワークにアクセスを許可し、次へをクリックします。

6. 上位レベルのプロキシ サーバを使用しますか？



別のプロキシ サーバを通してカスケードを行いますか？ そうでなければ、次の段階はスキップしてください。

7. 上位レベル プロキシの URL とポート

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 プロキシを設定

キャッシュ階層

使用するホスト名 (例: "cache.domain.net") とプロキシ ポートを入力してください。

上位プロキシのホスト名:

上位プロキシのポート:

キャンセル 戻る 次へ

上位レベル プロキシのホスト名とポートを提供し、次へをクリックします。

8. まとめ



これらの設定を確認したら、次へをクリックします。

9. ブート時に開始しますか？



プロキシ サーバを起動時に開始する場合には選択し、次へをクリックします。

10. 完了



終わりました! 完了をクリックしてください。

4.3.3. 行われること

- 必要があればパッケージ squid をインストール;
- /etc/squid/squid.conf を /etc/squid/squid.conf.orig に保存;
- squid.conf.default をもとに以下のパラメータを追加して新しい squid.conf を作成:
 - cache_dir
 - localnet
 - cache_mem
 - http_port
 - level 1, 2, 3 のいずれかとレベルにより http_access
 - cache_peer
 - visible_hostname
- squid を再起動。

4.4. 時刻を設定する

drakwizard ntp

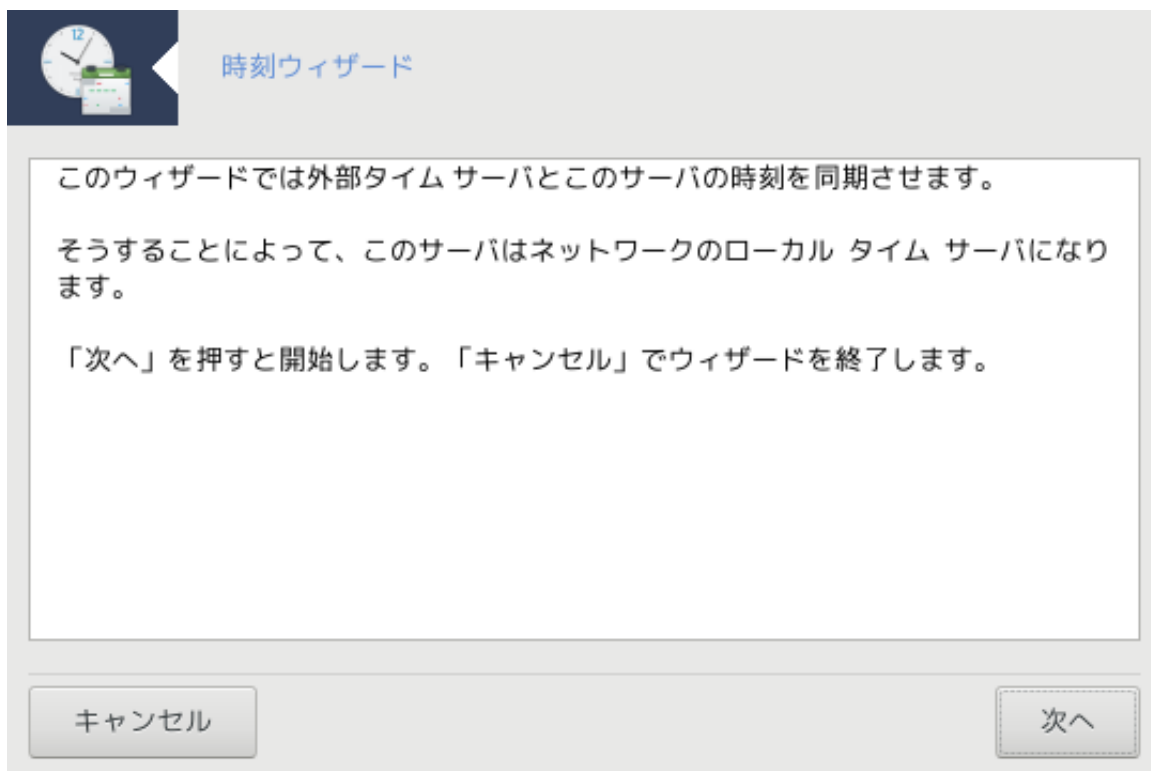


このツール⁹ の目的はお使いのサーバの時刻を外部のサーバと同期させることです。これは既定ではインストールされず、drakwizard と drakwizard-base のパッケージをインストールする必要があります。

4.4.1. drakwizard ntp で NTP サーバを設定する

1. ようこそ画面 (上を参照) の後、二つ目の画面では三つの時刻サーバをドロップダウンリストから選択するように指示し、pool.ntp.org を二度使用するよう提案します。これは利用可能な時刻サーバをこのサーバが常に指し示すためです。

⁹このツールはコマンドラインから開始でき、drakwizard ntp を root として入力します。



時刻ウィザード

このウィザードでは外部タイムサーバとこのサーバの時刻を同期させます。

そうすることによって、このサーバはネットワークのローカル タイム サーバになります。

「次へ」を押すと開始します。「キャンセル」でウィザードを終了します。

キャンセル 次へ



時刻ウィザード

タイムサーバ
プライマリ/セカンダリ/サード サーバを一覧から選んでください。
(pool.ntp.org を二回使うことをおすすめします。このサーバは利用可能なタイムサーバをランダムに返します。)

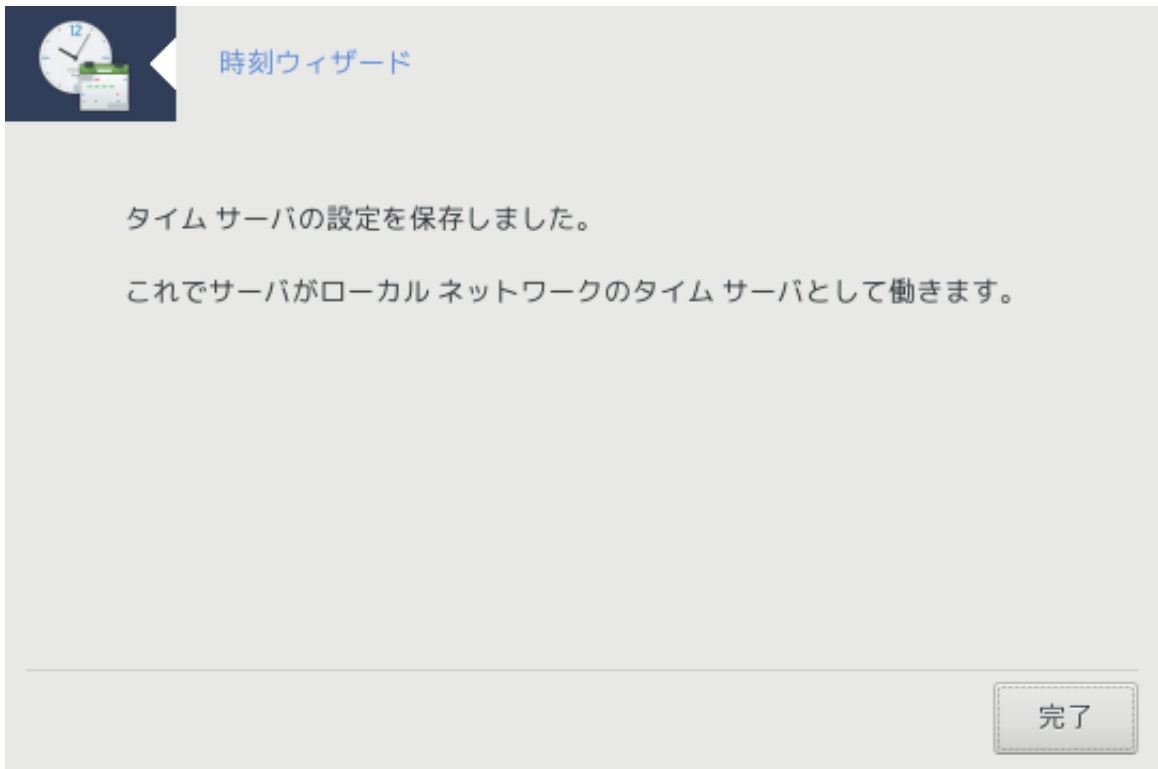
プライマリタイムサーバ: pool.ntp.org

セカンダリタイムサーバ: pool.ntp.org

サードタイムサーバ: jp.pool.ntp.org

キャンセル 戻る 次へ

2. これに続く画面では地域と都市が選択でき、その後まとめの画面にたどり着きます。何か間違っている場合、戻るボタンを用いてそれを変更することができます。問題がなければ、次へボタンでテストに進みます。これにはしばらく時間がかかる可能性があり、最後に下の画面が表示されます:



3. 完了ボタンを押すとこのツールを閉じます。

4.4.2. 行われること

このツールは以下のステップを実行します:

- 必要があればパッケージ `ntp` をインストール
- ファイル `/etc/sysconfig/clock` を `/etc/sysconfig/clock.orig` に、`/etc/ntp/step-tickers` を `/etc/ntp/step-tickers.orig` にそれぞれ保存;
- サーバの一覧を新しいファイル `/etc/ntp/step-tickers` に書き込む;
- ファイル `/etc/ntp.conf` に最初のサーバ名を挿入して変更する;
- `cron`, `atd`, `ntpd` のサービスを再起動;
- ハードウェア時計を現在のシステム時刻に UTC で設定。

4.5. OpenSSH デーモンを設定する

```
drakwizard sshd
```




このツール¹⁰ は SSH デーモンの設定を手助けできます。

4.5.1. SSH とは何ですか？

Secure Shell (SSH) は、安全でないネットワーク上の安全なチャンネルを通した、ネットワーク越しに接続された二つのコンピュータ間の安全なデータのやりとり, リモートのコマンドライン ログイン, リモートのコマンド実行, 他の安全なネットワーク サービスのための暗号ネットワーク プロトコルで、これら二つのコンピュータはサーバとクライアント (それぞれ SSH サーバと SSH クライアントのプログラムを動かしている) です。(Wikipedia より)

4.5.2. drakwizard sshd で SSH デーモンを設定する

Open SSH ウィザードへようこそ。

¹⁰このツールはコマンド ラインから開始でき、drakwizard sshd を root として入力します。

1. 設定の種類を選択する



すべての項目が設定できる上級者かステップ 3-7 をスキップする初心者を選択し、次へをクリックします。

2. 全般設定

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

SSH OpenSSH デーモンの設定

SSH サーバ - 標準的オプション

root ログインを許可: without-password

リスンするアドレス: 0.0.0.0

ポート番号: 22

キャンセル 戻る 次へ

公開範囲と root アクセスの項目を設定します。ポート 22 は標準の SSH のポートです。

3. 認証方式

The screenshot shows the 'OpenSSH デーモンの設定' (OpenSSH Daemon Settings) window. The title bar includes 'ファイル(F)', 'オプション(O)', and 'ヘルプ(H)'. The window title is 'SSH OpenSSH デーモンの設定'. The main area is titled '認証方法' (Authentication Method) and contains the following settings:

設定項目	値
DSA 認証:	yes
RSA 認証:	yes
公開鍵認証:	no
認証鍵ファイル:	.ssh/authorized_keys
パスワード認証:	no
rhosts ファイルを無視:	yes
空白のパスワードを認める:	no

At the bottom of the window, there are three buttons: 'キャンセル' (Cancel), '戻る' (Back), and '次へ' (Next).

接続時にユーザが使用できる色々な認証方式の許可を行い、次へをクリックします。

4. ログの出力

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 OpenSSH デーモンの設定

ログ

Syslog ファシリティ: sshd からのメッセージを記録する時に使用されるファシリティ コードを提供します。
ログ レベル: sshd からのメッセージを記録する際の詳細レベルを指定

Syslog ファシリティ:

ログ レベル:

キャンセル

ログのファシリティと出力レベルを選択し、次へをクリックします。

5. ログインの設定

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

SSH OpenSSH デーモンの設定

ログインの設定

前回のログを表示: sshd にユーザが前回ログインした日付と時刻を表示させるかどうかです

ログイン猶予時間:

接続を保つ:

motd を表示:

前回のログを出力:

キャンセル

ログインごとの設定を行い、次へをクリックします。

6. ユーザ ログインの設定

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 OpenSSH デーモンの設定

ユーザ ログインの設定

厳格モード: ログインを許可する前に sshd にユーザのファイルとホーム ディレクトリの属性・所有者をチェックさせるかどうかを指定します。初心者は誤ってディレクトリやファイルを全員から書き込み可能にしていることがあるので、一般的にはこのオプションを有効にすることをお勧めします。

厳格モード:

許可するユーザ:

拒否するユーザ:

ユーザのアクセス設定を行い、次へをクリックします。

7. 圧縮とフォワーディング

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

SSH OpenSSH デーモンの設定

圧縮: 圧縮を許可するかどうかを指定します。
X11 フォワーディング: X11 フォワーディングを許可するかどうかを指定します。ただし、X11 フォワーディングを無効にしても、ユーザはいつでも自分自身のフォワーディング用プログラムをインストールできるので、ユーザが X11 フォワーディングを行うことを止めることはできません。

圧縮:

X11 フォワーディング:

キャンセル

X11 フォワーディングと転送時の圧縮を設定し、次へをクリックします。

8. まとめ



これらの設定を確認したら、次へをクリックします。

9. 完了



終わりました! 完了をクリックしてください。

5. ハードウェア

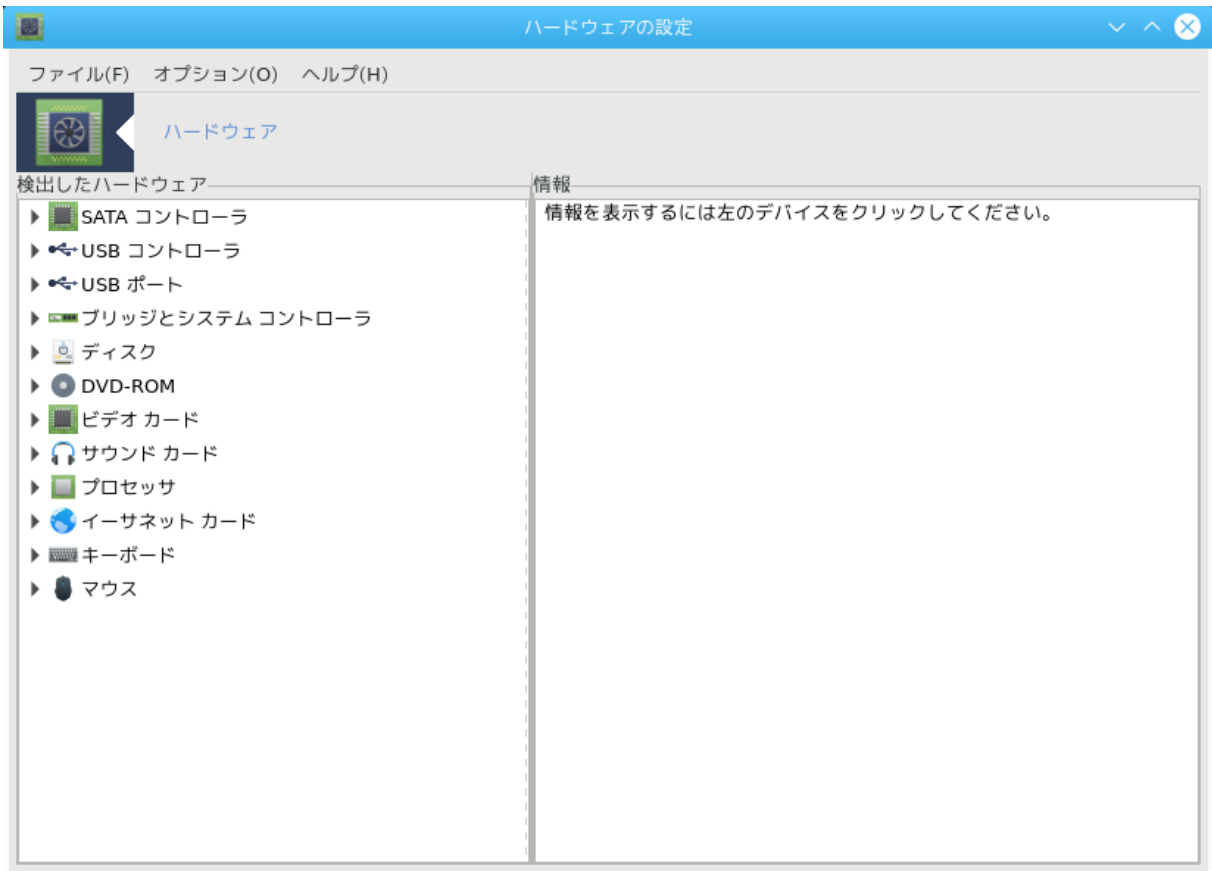


この画面ではお使いのハードウェアを設定するための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

1. ハードウェアの管理
 - a. [「ハードウェア設定」](#) = ハードウェアの情報表示と設定
 - b. [「サウンドの設定」](#)
2. グラフィックスの設定
 - a. [「3D デスクトップ効果」](#) = 3D デスクトップ効果を設定
 - b. [「グラフィカル サーバを設定」](#)
3. マウスとキーボードの設定
 - a. [「キーボード レイアウトを設定する」](#)
 - b. [「ポインタ デバイスを設定 \(マウス, タッチパッド\)」](#)
4. 印刷とスキャンの設定
 - a. [「プリンタのインストールと設定」](#) = プリンタや印刷ジョブのキューなどを設定
 - b. [「スキャナを設定する」](#)
5. その他
 - a. [「電源管理のための UPS を設定する」](#)

5.1. ハードウェア設定

harddrake2



このツール¹¹ ではお使いのコンピュータの全体像を見ることができます。このツールは、起動時にハードウェアの各要素を探索するジョブを実行します。そのため、これは `ldetect-1st` パッケージに含まれる、ハードウェア一覧を参照するコマンド `ldetect` を使用します。

5.1.1. ウィンドウ

ウィンドウは二つのコラムに分割されています。

左コラムは検出されたハードウェアの一覧を含んでいます。デバイスはカテゴリでグループ化されています。> をクリックするとカテゴリの中身を展開します。各デバイスはこのコラムの中で選択することができます。

右コラムは選択されたデバイスの情報を表示します。ヘルプ -> 項目の説明ではフィールド内容についての幾つかの情報を提供します。

選択されたデバイスの種類によって、一つまたは二つのボタンが右コラムの下部で利用できます：

- 現在のドライバのオプションを設定：このデバイスに関連するモジュールのパラメータを設定するために使用できます。上級者以外は使用しないでください。
- 設定ツールを実行：デバイスを設定可能なツールを実行します。ツールは `MCC` から直接実行することもしばしばできます。

¹¹このツールはコマンドラインから開始でき、`harddrake2` を `root` として入力します。

5.1.2. メニュー

オプション

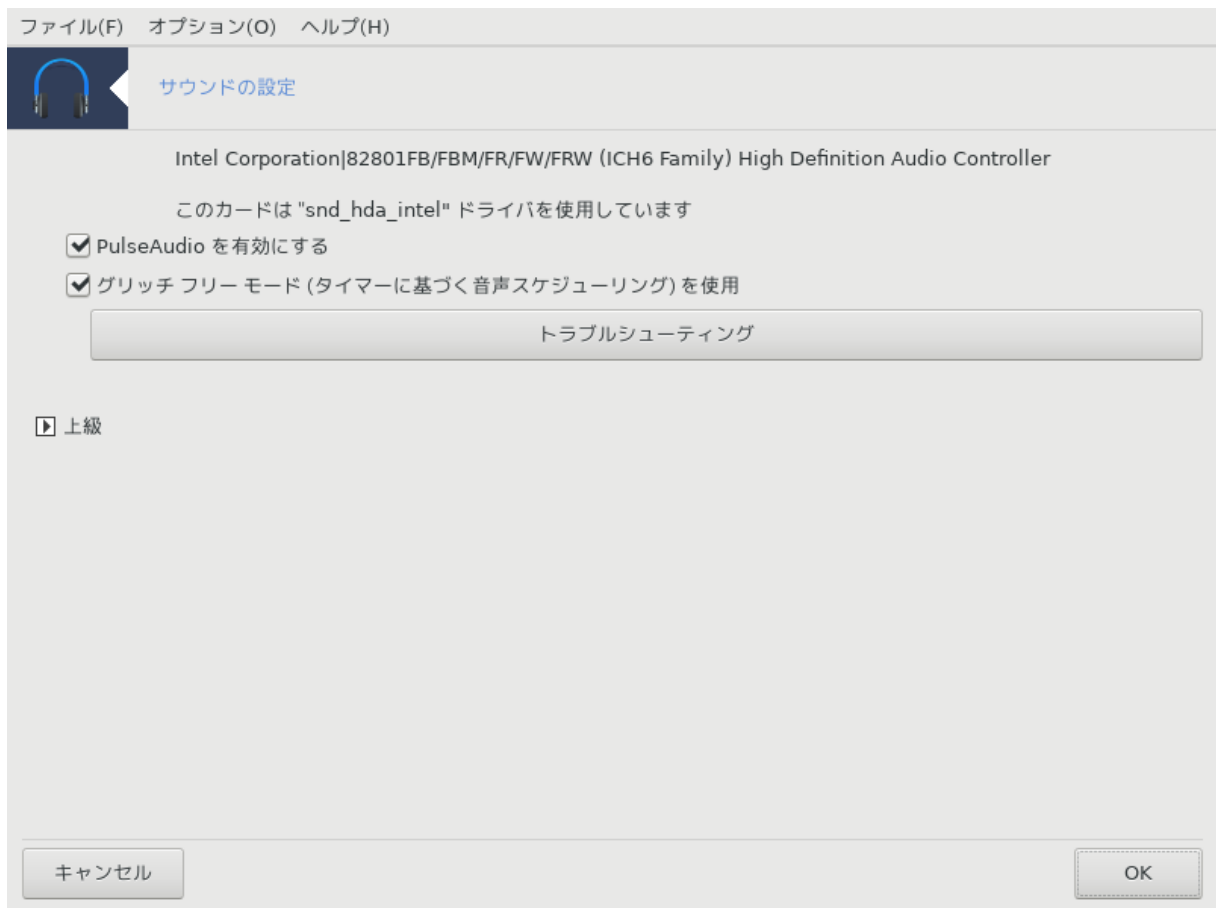
オプションメニューは自動検出を有効にするためのチェック ボックスを提供します:

- モデム
- Jaz デバイス
- Zip パラレル デバイス

これらは遅いため、既定ではこれらの検出は有効化されていません。このハードウェアが接続されている場合は適切なボックスをチェックしてください。検出は次回このツールを起動したときに行われます。

5.2. サウンドの設定

drksound



このツール¹² は Mageia コントロール センターのハードウェア タブにあります。

Drksound はサウンド設定, PulseAudio の設定, トラブルシューティングを処理します。サウンドの問題に直面したときやサウンド カードを変更したいときに助けになるでしょう。

PulseAudio はサウンド サーバです。これはすべてのサウンド入力を受け取り、ユーザ設定に従ってそれらを合成し、処理済みのサウンドを出力先に送り出します。設定を行うにはメニュー -> サウンドとビデオ -> PulseAudio 音量調節を参照してください。

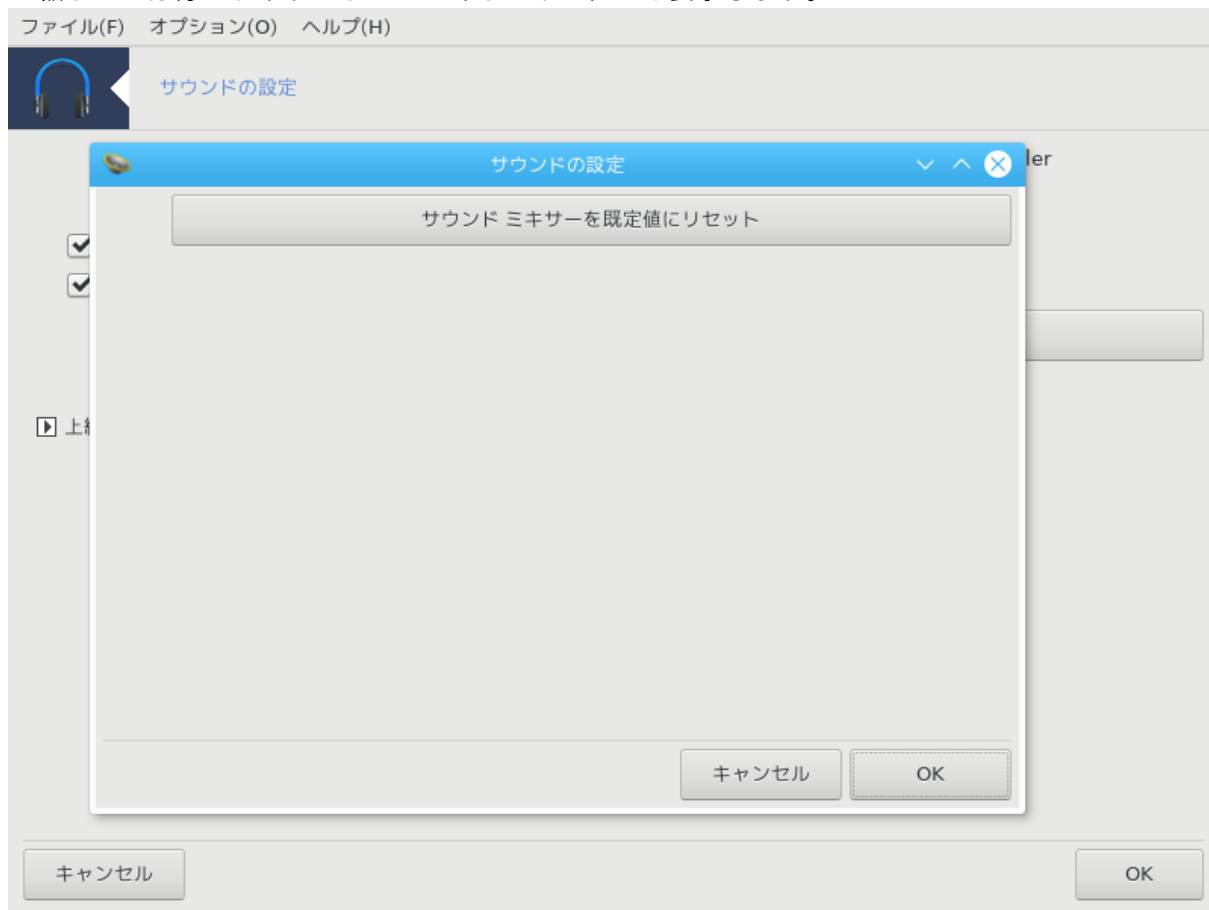
¹²このツールはコマンド ラインから開始でき、drksound を root として入力します。

PulseAudio は既定のサウンド サーバで、有効のままにしておくことが推奨されます。

グリッチ フリーは幾つかのプログラムで PulseAudio の動作を改善します。これも有効のままにしておくことが推奨されます。

トラブルシューティング ボタンは起こりうる問題を修正する上での助けとなる情報を提供します。コミュニティに助けを求めて質問する前にこれを試すと役に立つでしょう。

上級ボタンは分かりやすいボタンのあるウィンドウを表示します。



5.3. 3D デスクトップ効果

drak3d



5.3.1. はじめに

このツール¹³ ではお使いのオペレーティング システム上の 3D デスクトップ効果を管理できません。3D 効果は既定では無効になっています。

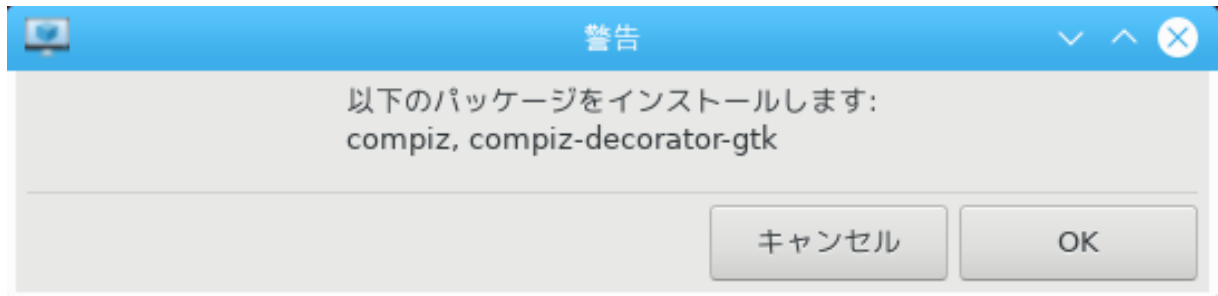
5.3.2. 開始する

このツールを用いるには、`glxinfo` パッケージがインストールされている必要があります。このパッケージがインストールされていない場合、`drak3d` を開始できるようにするために事前にそれを行うように促されます。

`drak3d` を開始した後、メニュー ウィンドウが表示されます。ここで 3D デスクトップ効果なしと `Compiz Fusion` のどちらかを選択できます。`Compiz Fusion` はコンポジット/ウィンドウ マネージャの一部で、ハードウェア アクセラレーションによるデスクトップ特殊効果を含んでいます。これを有効にするには `Compiz Fusion` を選択します。

¹³このツールはコマンド ラインから開始でき、`drak3d` を `root` として入力します。

Mageia をクリーン インストールした後にこのプログラムを初めて使用する場合、Compiz Fusion を使用するためにどのパッケージがインストールされている必要があるかを知らせる警告メッセージが表示されます。OK ボタンを押すと続行します。



いったん適切なパッケージがインストールされると、Compiz Fusion が drak3d のメニューで選択されていることに気づくでしょう。しかし、変更を反映するにはログアウトした後で再ログインしなければなりません。

再度ログインした後、Compiz Fusion が有効になります。Compiz Fusion を設定するには、ccsm (CompizConfig Settings Manager) ツールのページを参照してください。

5.3.3. トラブルシューティング

5.3.3.1. ログイン後にデスクトップが表示されない

Compiz Fusion を有効にした後にお使いのデスクトップに再ログインしようとしても何も表示されない場合、お使いのコンピュータを再起動してログイン画面に戻ってください。そうしたら、デスクトップアイコンをクリックして drak3d を選択します。



ログインすると、お使いのアカウントが管理者として登録されている場合にはパスワードを再度入力するよう促されます。そうでなければ、そのアカウントで管理者ログインを行います。その後ログインの問題の原因となった可能性のある変更を取り消すことができます。

5.4. グラフィカル サーバを設定

XFdrake



このツールは Mageia コントロールセンターのハードウェア タブにあります。グラフィカルサーバを設定を選択します。¹⁴

これらのボタンでグラフィックの設定を変更することができます。

グラフィック カード:

現在検出済みのグラフィック カードが表示され、これに合ったサーバが設定済みです。このボタンをクリックすると別のサーバに変更します。例えばプロプライエタリ ドライバを用いたサーバです。

利用可能なサーバはベンダでメーカーがアルファベット順に並んでおり、次にモデルもアルファベット順に並んでいます。自由なドライバは Xorg でアルファベット順に並んでいます。



問題がある場合、Xorg - Vesa がほとんどのグラフィック カードで動作し、お使いのデスクトップ環境で正しいドライバを探したりインストールしたりする時間が得られません。

Vesa でさえも動かない場合は、Mageia のインストール時に用いられる Xorg - fbdev を選択します。ただし、解像度やリフレッシュレートの変更はできません。

自由なドライバを選択した場合、より高機能 (3D エフェクトなど) なプロプライエタリ ドライバを使用したいかを訊かれるかもしれません。

¹⁴このツールはコマンド ラインから開始でき、XFdrake を通常ユーザとして実行するか drakx11 を root として入力します。大文字に注意してください。

モニタ:

上と同様に、検出済みのモニタが表示されて、ボタンをクリックすると別のものに変更できます。変更したいモニタがベンダの一覧にない場合、一般の一覧の中で同じ機能を持ったモニタを選択します。

解像度:

このボタンでは解像度 (ピクセル数) と色深度 (色数) が選択できます。これはこの画面を表示します:



色深度を変更すると、複数色のバーが二つめのボタンの横に現れて、選択された色深度の見え方のプレビューを表示します。

最初のボタンは現在の解像度を示し、クリックすると他の解像度に変更します。この一覧はグラフィックカードとモニタが利用可能なすべての選択肢を提供し、その他をクリックすると他の解像度を設定することができますが、モニタを破損したり使い心地の悪い設定を選んだりする可能性があることを心に留めておいてください。

二つめのボタンは現在の色深度を示し、クリックすると別のものに変更します。



選択された解像度によっては、設定を反映するためにログアウトをしてグラフィカル環境を再起動する必要があるかもしれません。

テスト:

いったん設定が完了したら、OK をクリックする前にテストを行うことを推奨します。これはグラフィカル環境が動作しない場合に後からよりも今のほうが変更が簡単のためです。



グラフィカル環境が動作しない場合、Alt+Ctrl+F2 を押してテキスト環境を開き、root としてログインして XFdrake を (大文字を用いて) 入力して XFdrake のテキスト版を使用します。

テストが失敗した場合は終わりまで待ち、動作はしたが結局変更はしたくないという場合、いいえをクリックし、問題がなければ OK をクリックします。

追加の設定:

1. 全体設定: Ctrl-Alt-Backspace を無効にするがチェックされている場合、Ctrl+Alt+Backspace キーを用いて X サーバを再起動することはできなくなります。
2. グラフィック カードの設定: グラフィック カードによって三つの特定の機能を有効もしくは無効にできます。
3. 起動時のグラフィカル インターフェース: ほとんどの場合、起動時に自動的にグラフィカル インターフェース (Xorg) を立ち上げるがチェック済みでブート時にグラフィカル モードに切り替わります。サーバではチェックを外すこともできます。

終了ボタンをクリック後、システムは確認の質問を行います。まだすべてを取り消して前の設定のままにするための時間はあり、さもなければ受け入れます。この場合、新しい設定を有効にするには再ログインを行う必要があります。

5.5. キーボード レイアウトを設定する

keyboarddrake



5.5.1. はじめに

keyboarddrake ツール¹⁵ は Mageia 上で使用したいキーボードの基本レイアウトの設定を手助けします。これはシステム上のすべてのユーザに影響します。これは Mageia コントロールセンター (MCC) のハードウェア セクションで見つかり、"マウスとキーボードの設定" と書かれています。

5.5.2. キーボード レイアウト

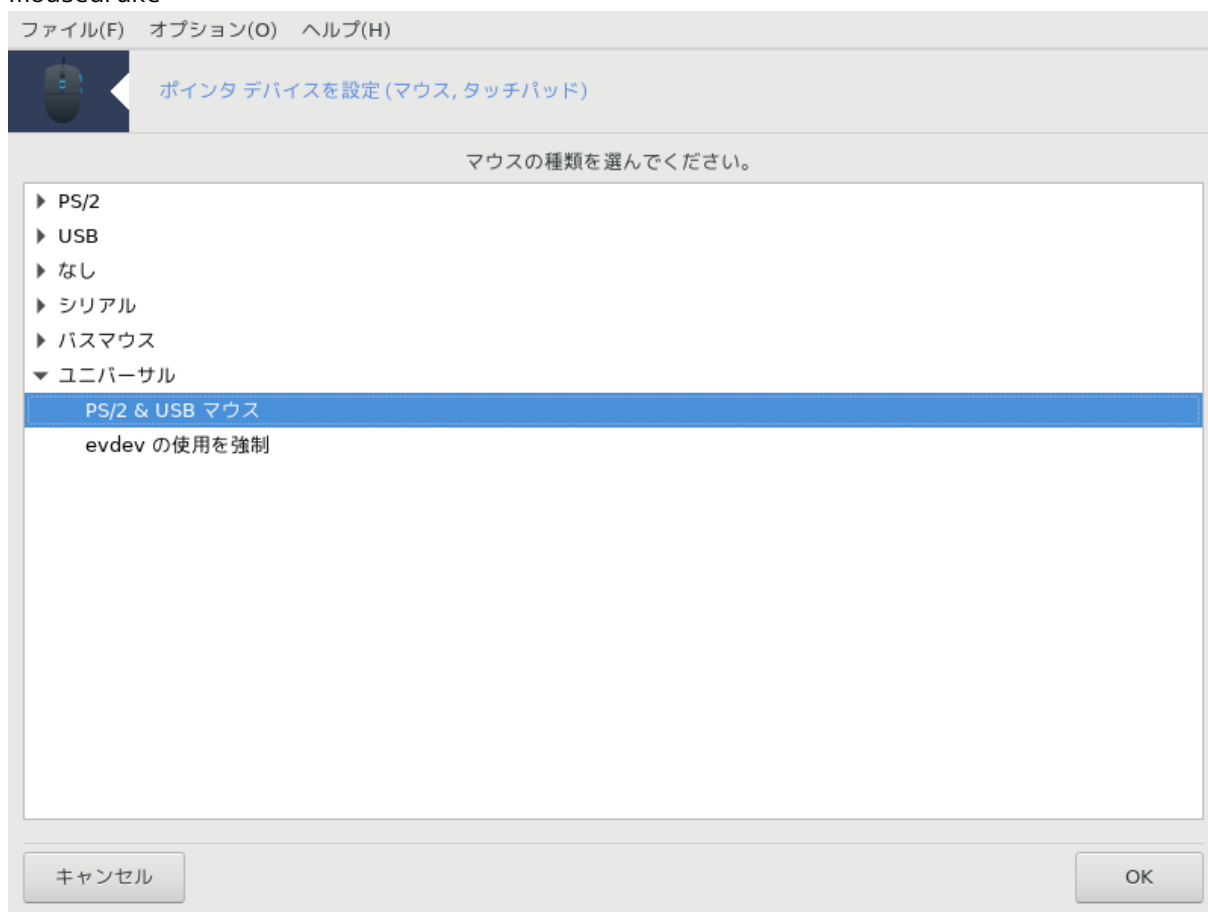
ここでどのキーボード レイアウトを使用したいかを選択できます。名前 (アルファベット順) はレイアウトの使用対象となる言語, 国, 民族を表しています。

5.5.3. キーボードの種類

このメニューはお使いのキーボードの種類を選択するものです。どれを選択するか分からない場合、既定の種類のままにしておくのが一番です。

5.6. ポインタ デバイスを設定 (マウス, タッチパッド)

mousedrake



このツール¹⁶ は Mageia コントロールセンターのハードウェア タブにあります。

Mageia をインストールするにはマウスが必須なので、これは既に Drakinstall によりインストール済みです。このツールでは別のマウスのインストールが行えます。

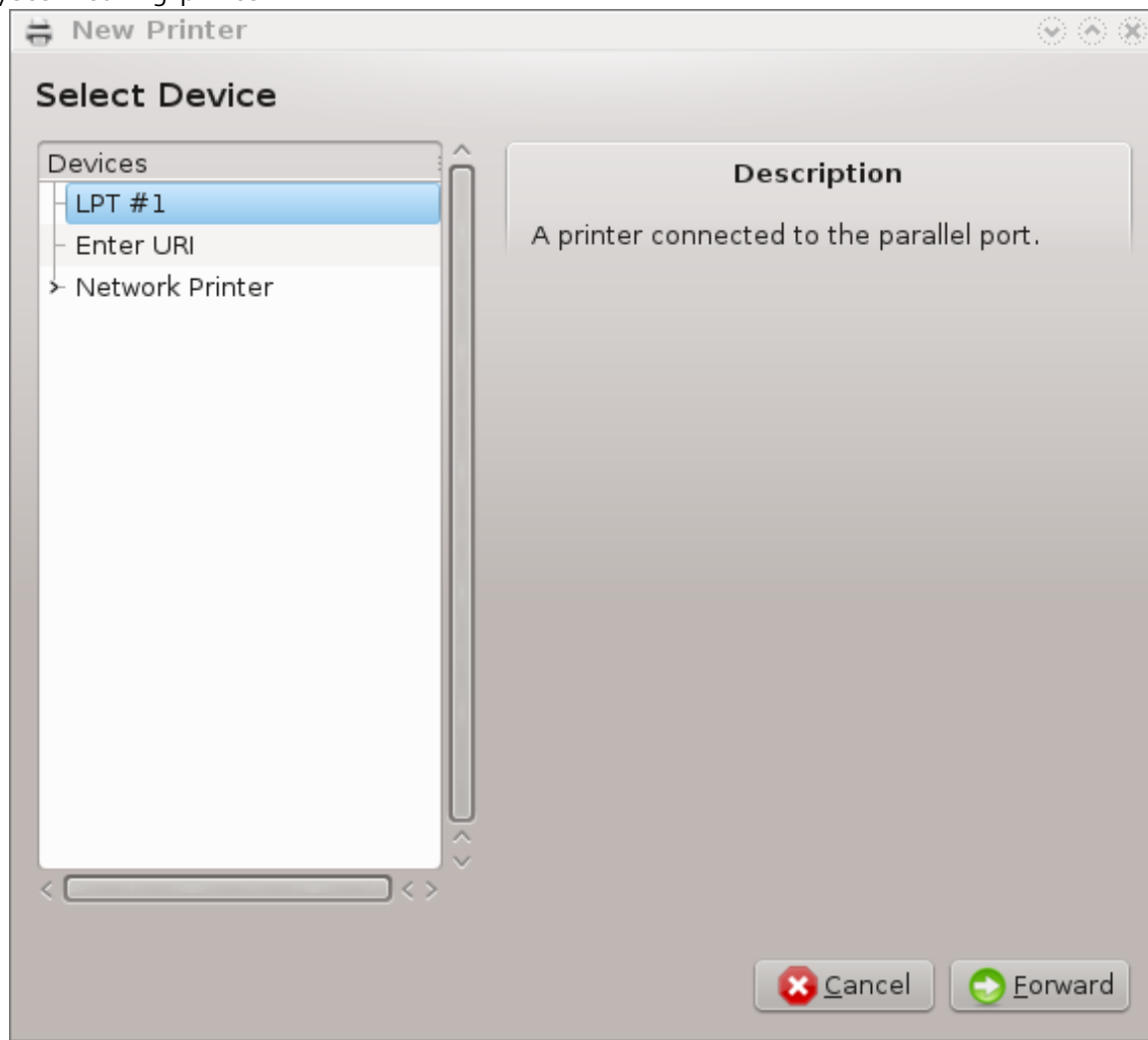
¹⁵このツールはコマンド ラインから開始でき、keyboarddrake を root として入力します。

¹⁶このツールはコマンド ラインから開始でき、mousedrake を root として入力します。

マウスは接続の種類とモデルによって並んでいます。マウスを選択して OK をクリックします。ほとんどの場合 "ユニバーサル / PS/2 & USB マウス" が最近のマウスに適しています。新しいマウスはすぐに有効になります。

5.7. プリンタのインストールと設定

system-config-printer



5.7.1. はじめに

Mageia では印刷は CUPS と呼ばれるサーバによって管理されます。これは自身の[設定インターフェース](http://localhost:631) [http://localhost:631]を持ち、インターネット ブラウザでアクセスできますが、Mageia はプリンタをインストールするための system-config-printer と呼ばれる自身のツールを提供し、これは Fedora, Mandriva, Ubuntu, openSUSE のような他のディストリビューションと共有されます。

インストールを続行する前に non-free リポジトリを有効にしてください。これは幾つかのドライバがこの方法でしか利用できないためです。

プリンタのインストールは Mageia コントロール センターのハードウェア セクションで行われます。印刷とスキャンの設定のツール¹⁷を選択します。

MCC は二つのパッケージのインストールを要求します:

¹⁷このツールはコマンド ラインから開始でき、system-config-printer を入力します。root のパスワードを訊かれます。

task-printing-server

task-printing-hp

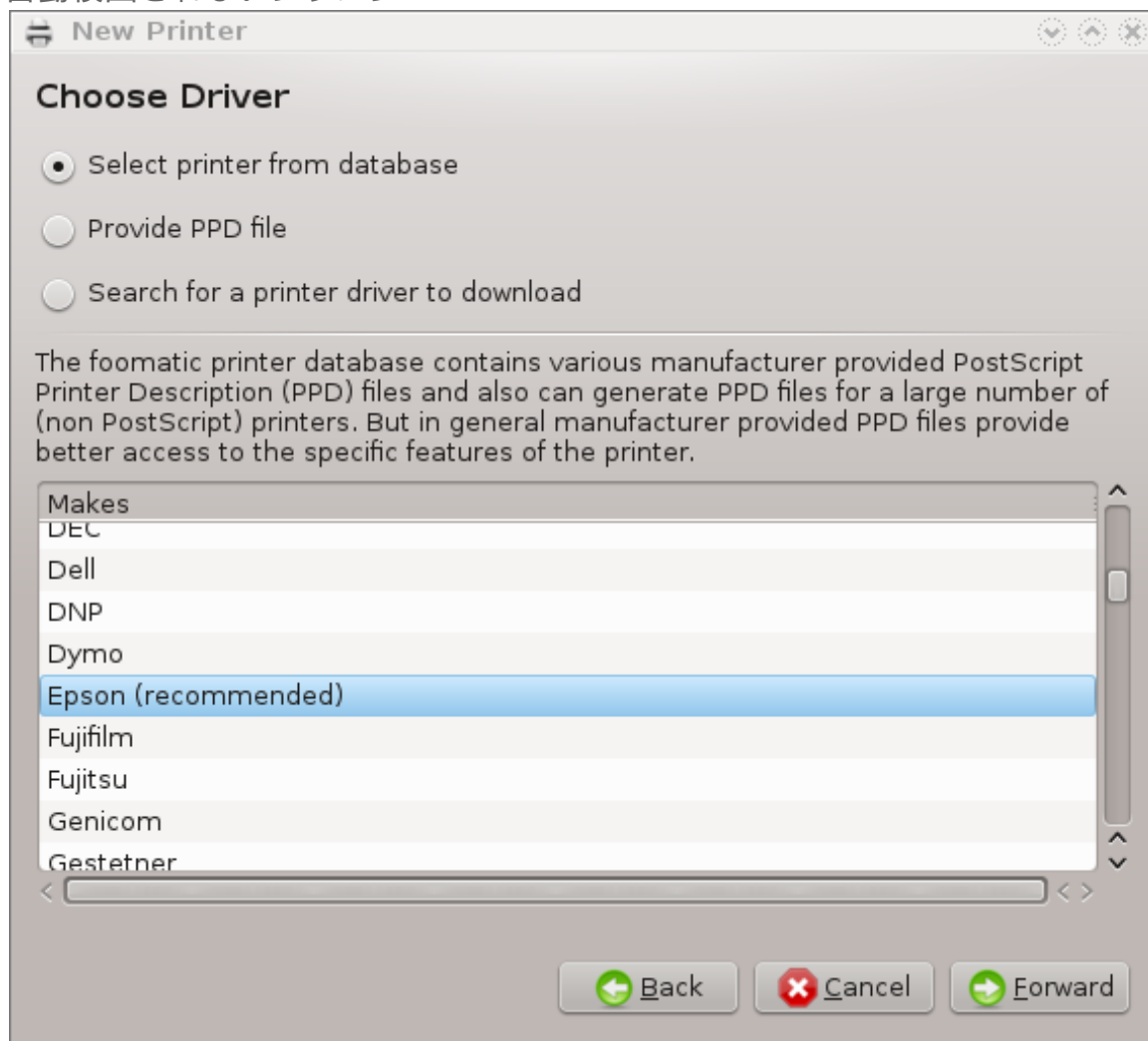
続行するには、このインストールを受け入れる必要があります。最大で 230MB の依存パッケージが必要です。

プリンタを追加するには、プリンタの "追加" ボタンを選択します。システムはプリンタと利用可能なポートを検出しようとします。スクリーンショットはパラレル ポートに接続されたプリンタを表示しています。プリンタが検出された場合、USB ポートのプリンタのように、最初の行に表示されます。このウィンドウはネットワーク プリンタの設定も試みます。

5.7.2. 自動検出されたプリンタ

これは通常 USB プリンタに当てはまります。このユーティリティは自動的にプリンタの名前を探してそれを表示します。そのプリンタを選択して "次へ" をクリックします。そのプリンタに対する既知のドライバがある場合、それは自動的にインストールされます。複数のドライバがある場合や既知のドライバがない場合、次の段落で説明するようにウィンドウがドライバを選択もしくは提供するように指示します。[「インストールプロセスの完了」](#)に続きます。

5.7.3. 自動検出されないプリンタ



ポートを選択する際、システムはドライバの一覧を読み込んでドライバを選択するためのウィンドウを表示します。選択は以下の選択肢のいずれかで行えます。

- データベースからプリンターを選択する
- PPD ファイルを提供
- ダウンロードするプリンタードライバーを検索

データベースからの選択により、ウィンドウはまずプリンターのメーカーを提案し、次にデバイスと関連ドライバを提案します。複数のドライバが提案された場合、推奨されるものを選択します。ただし、過去にそれを用いて問題に出くわした場合は動作することが分かっているものを選択します。

5.7.4. インストール プロセスの完了

ドライバを選択した後、システムがプリンタを示したり見つけたりできるようにするための幾つかの情報をウィンドウが要求します。最初の行はアプリケーション内で表示される利用可能プリンタの一覧における名前です。インストーラは次にテスト ページの印刷を提案します。この段階の後、プリンタが追加されて利用可能プリンタの一覧に現れます。

5.7.5. ネットワーク プリンタ

ネットワーク プリンタは有線もしくは無線のネットワークに直接接続されたプリンタで、印刷サーバか、印刷サーバを動かしている別のワークステーションに接続されています。



しばしば、DHCP サーバには固定された IP アドレスとプリンタの MAC アドレスとを常に関連付けさせるのがよいでしょう。もちろん、固定アドレスがある場合、これは印刷サーバのプリンタに設定された IP アドレスと同一にするべきです。

プリンタの Mac アドレスはプリンタもしくはこれが接続された印刷サーバかコンピュータのシリアル番号で、プリンタによって表示される設定ページから得られるか、もしくはプリンタや印刷サーバのラベルに書かれているかもしれません。お使いの共有プリンタが Mageia システムに接続されている場合、同システム上で `ifconfig` を `root` として実行して MAC アドレスを探します。これは "HWaddr" の後の数字とアルファベットの並びです。

お使いのコンピュータとネットワーク越しにやりとりするプロトコルを選択することでネットワーク プリンタを追加することができます。どのプロトコルを選択するのか分からない場合、デバイス メニューのネットワークプリンター - ネットワークプリンターを検索の選択肢を試すことができ、右側の "ホスト" というボックスにプリンタの IP アドレスを入力します。

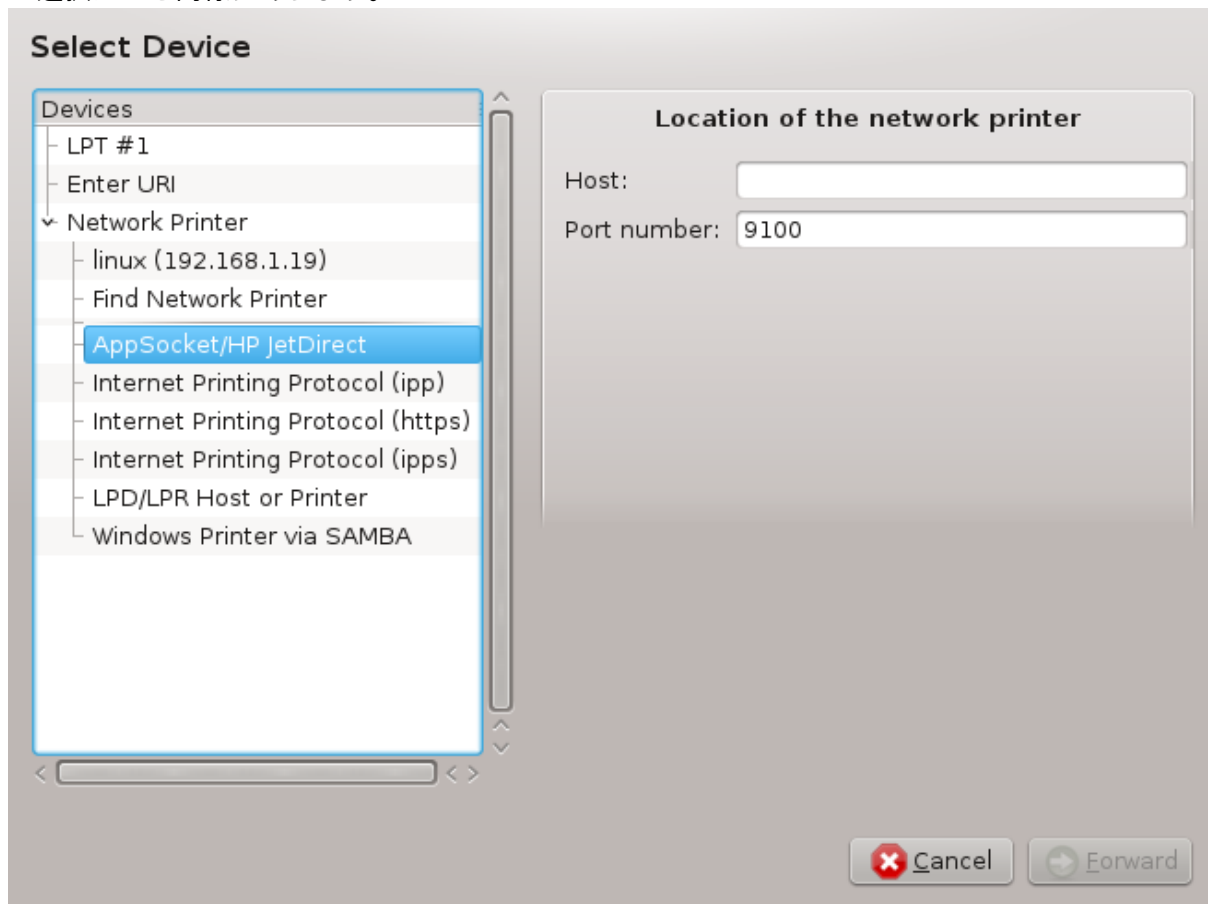
このツールがお使いのプリンタもしくは印刷サーバを認識した場合、これはプロトコルとキューを提案しますが、下の一覧からより適切なものを選択したり、一覧にない場合に正しいキュー名を入力したりすることができます。

プリンタもしくは印刷サーバに付属の文書を参照して、サポートされるプロトコルと指定可能なキュー名を探してください。

5.7.6. ネットワーク印刷プロトコル

現在の技術の一つにヒューレット パッケージによって開発され JetDirect として知られるものがあります。これはイーサネット ポートによってネットワークに直接接続されたプリンタにアクセスできるようにします。プリンタがネットワーク上でどの IP アドレスでアクセスできるかを知らなければなりません。この技術はプリンタを接続するための USB ポートを含む幾つかの ADSL ルータの内部でも用いられています。この場合、IP アドレスはルータのものとなります。ツール "Hp Device manager" は動的に設定された IP アドレスの管理ができ、`hp:/net/<name-of-the-printer>` のような URI を設定します。この場合、固定 IP アドレスは必要ありません。

項目 AppSocket/HP JetDirect をプロトコルとして選択してアドレスをホスト: に設定し、ポート番号は変更する必要があると分かていなければ変更しません。プロトコルの選択後、ドライバの選択が上と同様にあります。



他のプロトコル:

- インターネット印刷プロトコル (ipp): IPP プロトコルにより TCP/IP ネットワーク上でアクセス可能なプリンタで、例えば CUPS を用いたマシンに接続されたプリンタです。このプロトコルは幾つかの ADSL ルータによっても用いられることがあります。
- インターネット印刷プロトコル (https): ipp と同様ですが、http 転送と TLS の安全なプロトコルを用いています。ポートが定義されている必要があります。既定では、ポート 631 が用いられます。
- インターネット印刷プロトコル (ipps): ipp と同様ですが、TLS の安全なプロトコルを用いています。
- LPD/LPR ホストまたはプリンター: LPD プロトコルにより TCP/IP ネットワーク上でアクセス可能なプリンタで、例えば LPD を用いたマシンに接続されたプリンタです。
- Samba 経由の Windows プリンター: Windows が動作しているマシンもしくは SMB サーバに接続かつ共有されたプリンタです。

URI は直接追加することもできます。以下に URI の形式の幾つかの例を示します:

- Appsocket
socket://ip-address-or-hostname:port

- インターネット印刷プロトコル (IPP)

ipp://ip-address-or-hostname:port-number/resource

http://ip-address-or-hostname:port-number/resource

- ライン プリンタ デーモン (LPD) プロトコル

lpd://username@ip-address-or-hostname/queue

追加の情報が [CUPS のドキュメント](http://www.cups.org/documentation.php/doc-1.5/network.html) [http://www.cups.org/documentation.php/doc-1.5/network.html]で見つかります。

5.7.7. デバイスのプロパティ

デバイスのプロパティにアクセスできます。メニューから CUPS サーバへアクセスできます。既定では CUPS サーバはお使いのシステム上で実行されますが、異なるものをサーバ | 接続... メニューで指定でき、サーバ | 設定をたどると別のウィンドウでサーバの他の特定のパラメータの調整が行えます。

5.7.8. トラブルシューティング

/var/log/cups/error_log を詳しく調べることで印刷時にエラーが発生した際の幾つかの情報が探せます。

ヘルプ | トラブルシューティング メニューを用いて問題を分析するツールにアクセスすることもできます。

5.7.9. 特別な場合

特定のプリンタ向けの幾つかのドライバは Mageia では利用できないか、もしくは機能しない可能性があります。この場合、[openprinting](http://openprinting.org/printers/) [http://openprinting.org/printers/] のサイトを見てお使いのデバイスが利用できるかを確認してください。利用可能な場合、パッケージが既に Mageia に存在するかを確認し、ある場合は手動でインストールします。次に、プリンタを設定するためのインストール手順をやり直します。いずれの場合も、このツールに満足したのであれば、問題を bugzilla かフォーラムで報告し、モデルやドライバの情報とプリンタがインストール後に動作したかどうかについてお知らせください。以下は他の最新のドライバやより最近のデバイスを見つけるための幾つかの情報です。

ブラザーのプリンタ

[このページ](http://welcome.solutions.brother.com/bsc/public_s/id/linux/en/download_prn.html) [http://welcome.solutions.brother.com/bsc/public_s/id/linux/en/download_prn.html]にブラザーによって提供されるドライバ一覧があります。お使いのデバイス用のドライバを検索して、rpm をダウンロードおよびインストールしてください。

この設定ユーティリティを実行する前にブラザーのドライバをインストールしてください。

ヒューレット パッカードのプリンタとオール イン ワン デバイス

これらのデバイスは hplip ツールを使用します。これはプリンタの検出と選択の後に自動的にインストールされます。[こちら](http://hplipopensource.com/hplip-web/index.html) [http://hplipopensource.com/hplip-web/index.html]では他の情報が見つかります。ツール "HP Device Manager" はシステム メニューで利用できます。プリンタの管理の[設定](http://hplipopensource.com/hplip-web/install/manual/hp_setup.html) [http://hplipopensource.com/hplip-web/install/manual/hp_setup.html]もご覧ください。

HP のオール イン ワン デバイスはプリンタとしてインストールされていなければならない、スキャナ機能は後から追加されます。場合によっては、Xsane インターフェースはフィルムやスライドのス

キャンが行えません (光がスライドしません)。この場合、スキャンを行うことは可能で、スタンドアロン モードを使用し、画像をデバイスに挿入されたメモリー カードや USB スティックに保存します。その後、好きな画像ソフトウェアを開いて /media フォルダに現れたメモリー カードから画像を読み込みます。

サムスのカラー プリンタ

特定のサムスンとゼロックスのカラー プリンタについては、[このサイトが QPDL プロトコル用のドライバを提供しています](http://foo2qpdل.rkkda.com/) [http://foo2qpdل.rkkda.com/]。

エプソンのプリンタとスキャナ

エプソンのプリンタ用のドライバは[この検索ページ](http://download.ebz.epson.net/dsc/search/01/search/?OSC=LX) [http://download.ebz.epson.net/dsc/search/01/search/?OSC=LX]から利用できます。スキャナ部分については、まず "iscan-data" パッケージをインストールし、次に "iscan" を (この順序で) インストールしなければなりません。iscan-plugin パッケージも利用可能でインストールするべきです。お使いのアーキテクチャに従って rpm パッケージを選択します。

iscan パッケージは sane との衝突についての警告を表示する可能性があります。この警告は無視できるとユーザによって報告されています。

キャノンのプリンタ

キャノンのプリンタでは、[こちらで利用可能](http://www.turboprint.info/) [http://www.turboprint.info/]な turboprint というツールをインストールするとよいかもしれません。

5.8. スキャナを設定する

scannerdrake

5.8.1. インストール

このツール¹⁸ は一つのスキャナ デバイスやスキャナ機能を備えた多機能デバイスの設定を可能にします。これはこのコンピュータに接続されたローカル デバイスのリモート コンピュータとの共有やリモート スキャナへのアクセスも可能にします。

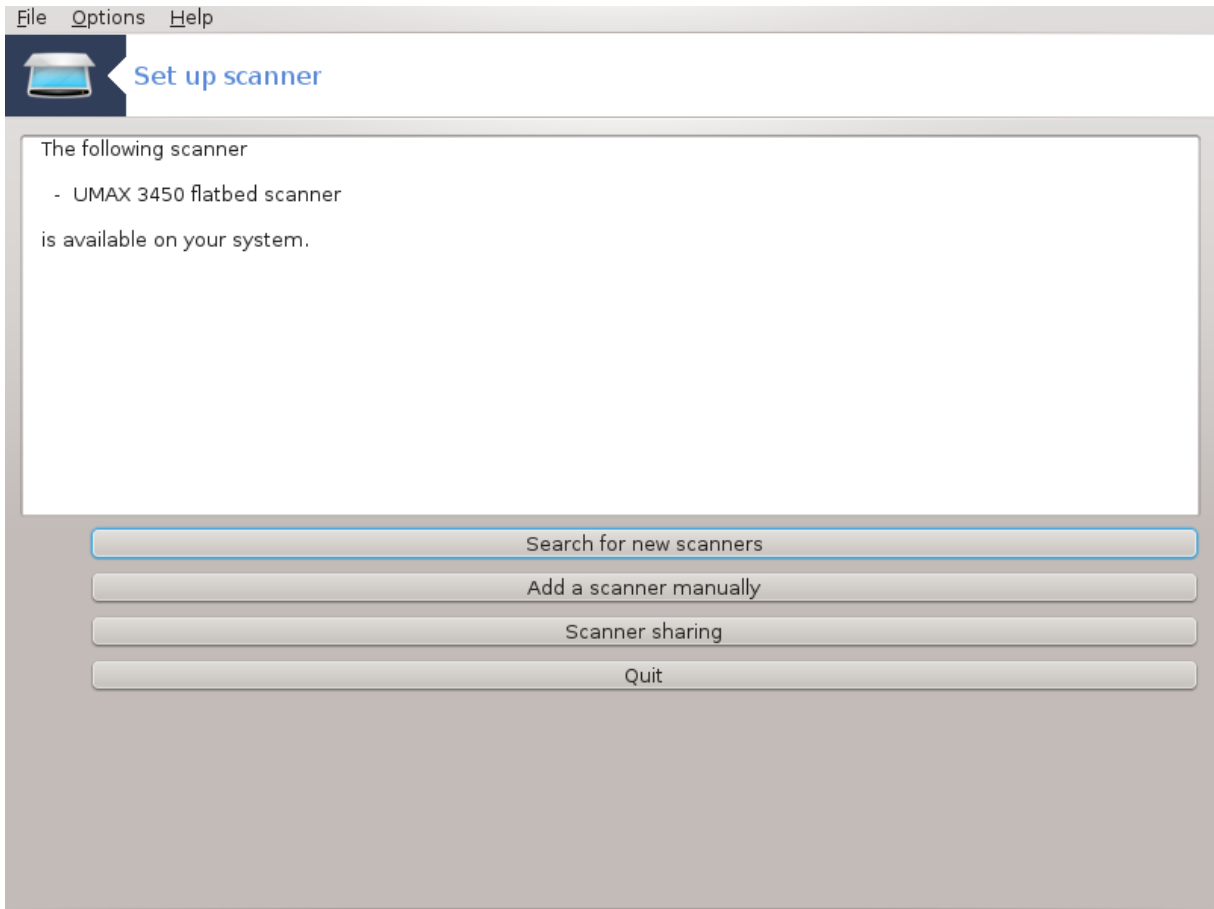
このツールの初回実行時、以下のメッセージが表示されるかもしれません:

"スキャナを使うには SANE パッケージが必要です

SANE パッケージをインストールしますか?"

続行するにははいを選択します。これは scanner-gui と task-scanning がまだインストールされていない場合にインストールします。

¹⁸このツールはコマンド ラインから開始でき、scannerdrake を root として入力します。

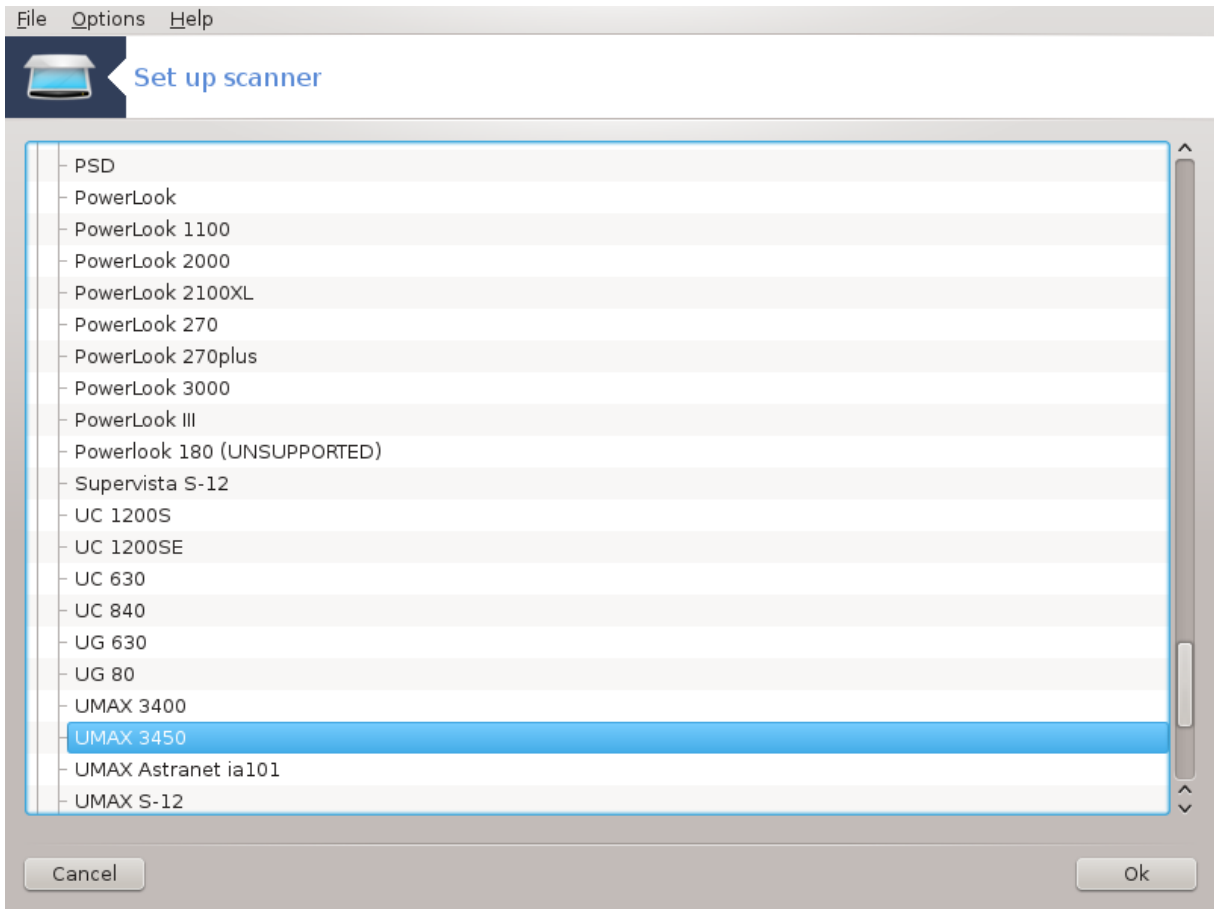


お使いのスキヤナが正しく認識されて上の画面でお使いのスキヤナの名前が見つかった場合、そのスキヤナは XSane や Simple Scan などを使用する準備ができた状態です。

その場合、今度はスキヤナを共有の項目を設定したいかもしれません。それについては [「スキヤナの共有」](#) で読むことができます。

一方、お使いのスキヤナが正しく認識されず、ケーブルや電源スイッチを確認済みで新しいスキヤナを検索を押してもうまくいかない場合、手動でスキヤナを追加を押す必要があります。

表示される一覧の中でお使いのスキヤナのブランド名を選択し、次にそのブランド名の一覧から種類を選択して OK をクリックします。



お使いのスキヤナが一覧に見つからない場合、キャンセルをクリックします。

お使いのスキヤナがサポートされているかどうかを [SANE: Supported Devices](http://www.sane-project.org/lists/sane-mfgs-cvs.html) [http://www.sane-project.org/lists/sane-mfgs-cvs.html] のページでチェックし、[フォーラム](http://forums.mageia.org/en/) [http://forums.mageia.org/en/]で助けを求めてください。

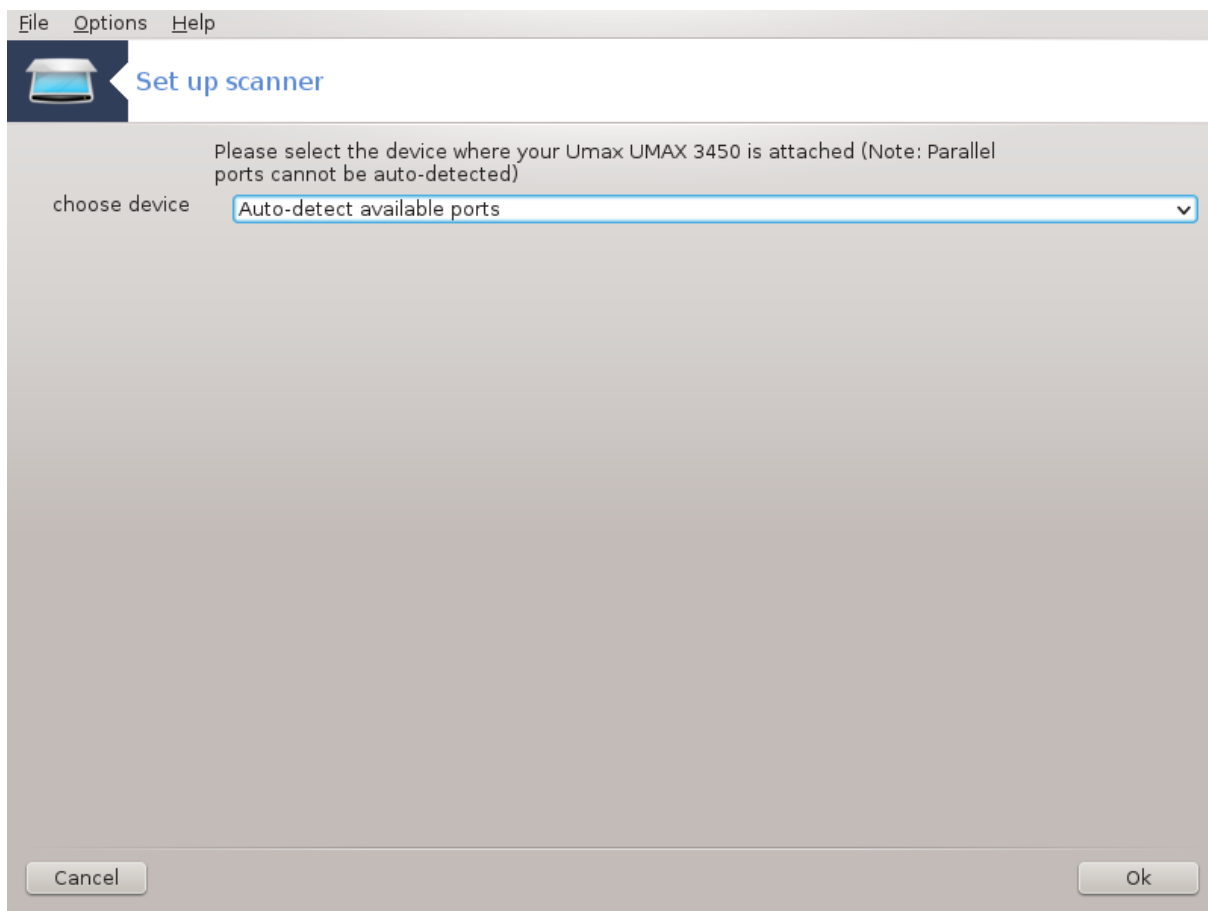


図1 ポートを選択する

この設定はお使いのスキヤナのインターフェースがパラレル ポートでなければ利用可能なポートを自動的に検出のままにしておくことができます。パラレル ポートの場合、スキヤナが一台であれば /dev/parport0 を選択します。

OK をクリックした後、ほとんどの場合で下のような画面が表示されます。

この画面が表示されない場合、[「追加のインストール手順」](#)を参照してください。

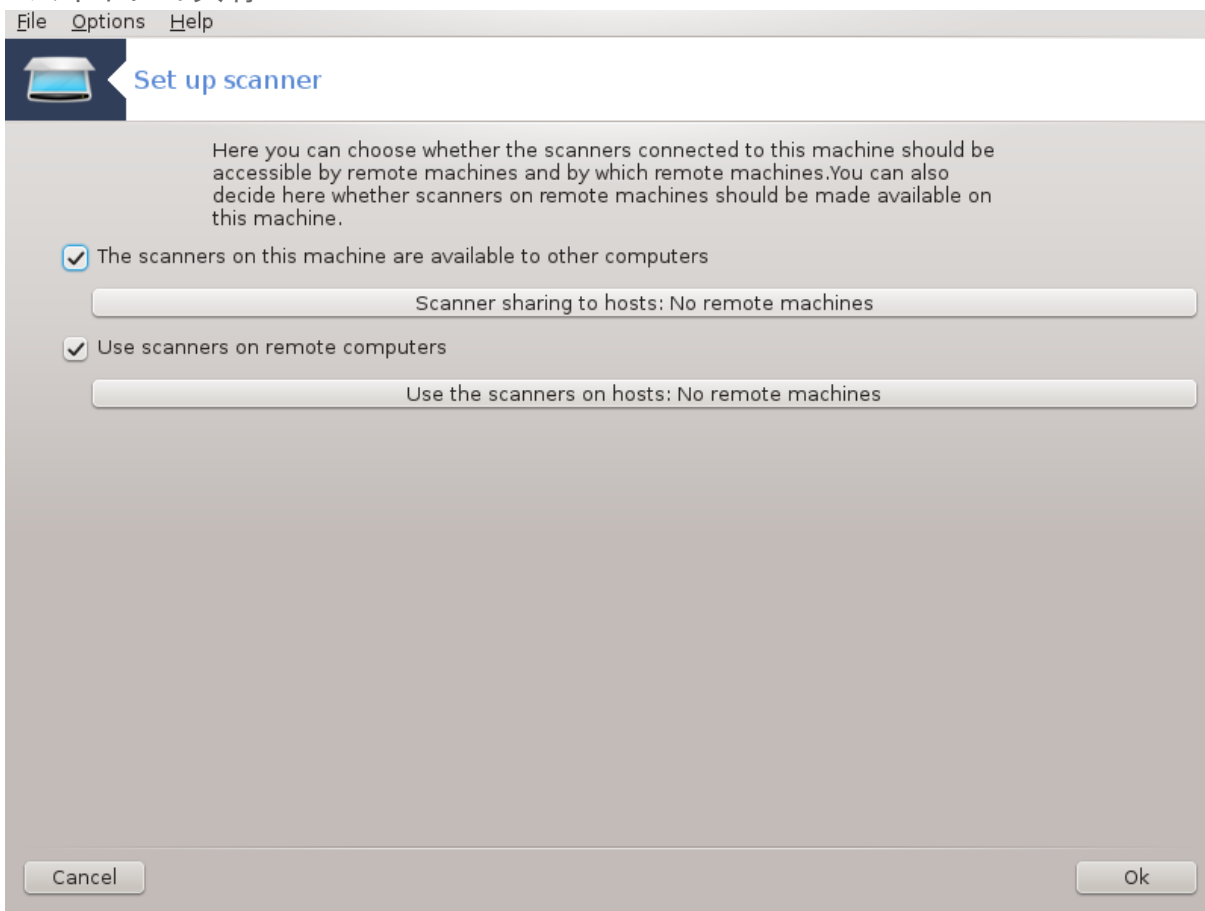


Set up scanner

Your Umax UMAX 3450 has been configured.
You may now scan documents using "XSane" or "Skanlite" from Multimedia/
Graphics in the applications menu.

Ok

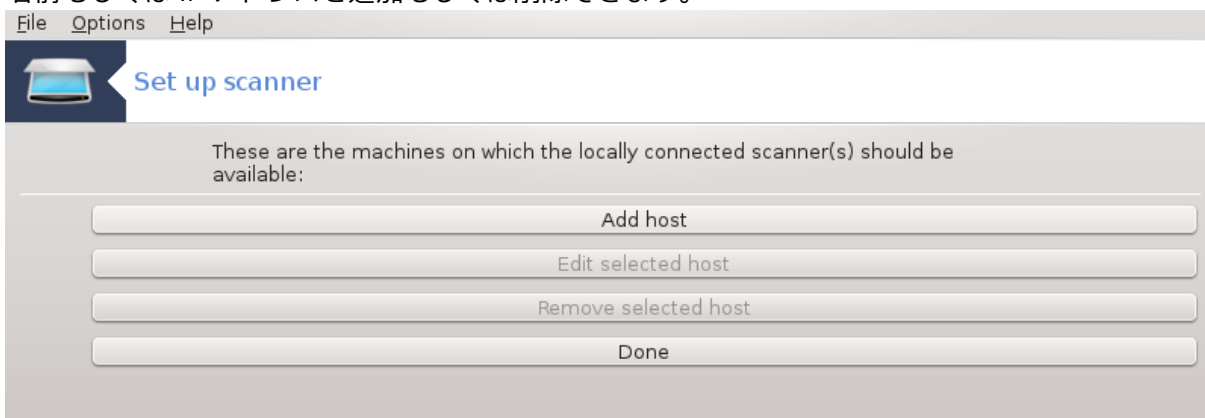
5.8.2. スキャナの共有



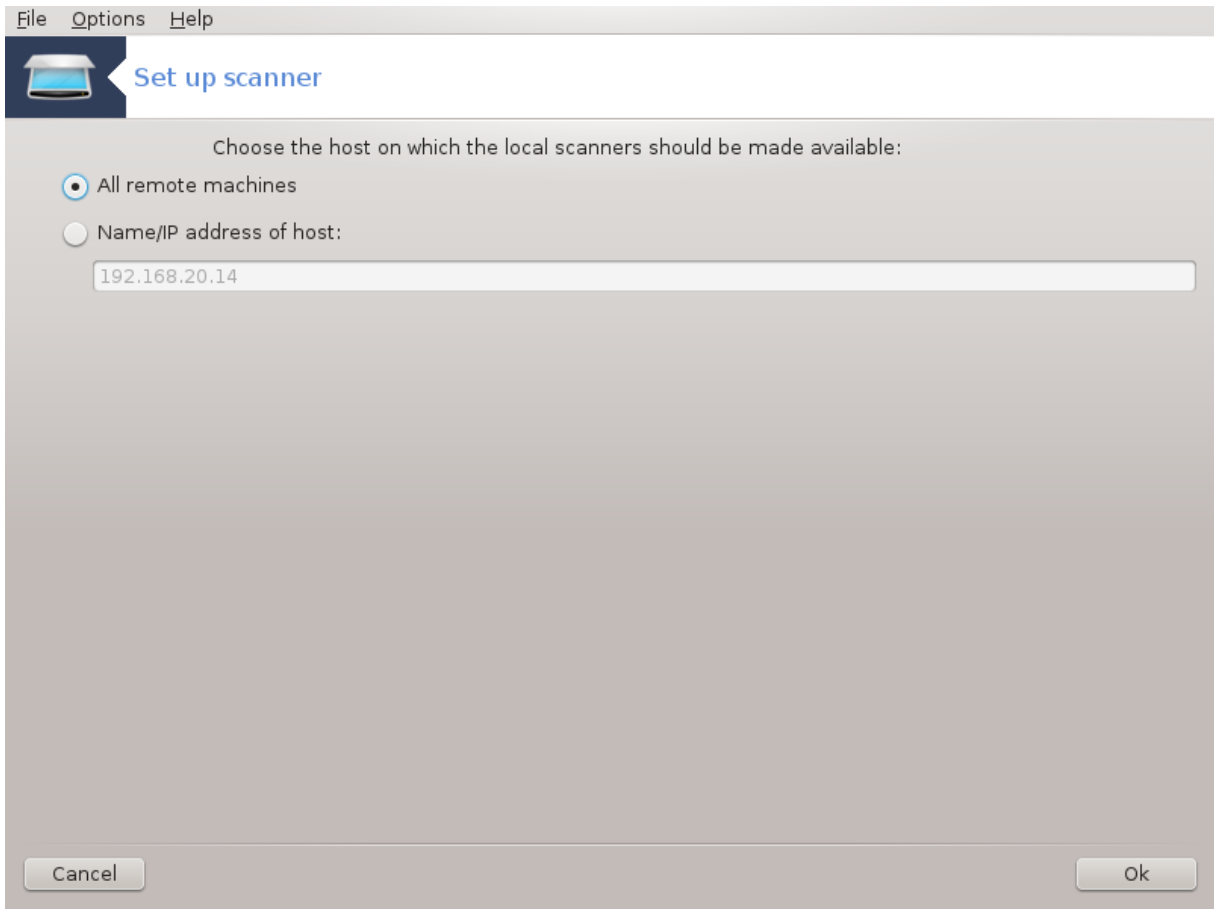
ここでは、このマシンに接続されたスキャナをリモートのマシンから利用可能にするかどうかと対象のリモート マシンを選択できます。ここではリモート マシンのスキャナをこのマシンで利用可能にするかどうかを決めることができます。

以下のホストにスキャナを共有させる: このコンピュータ上のローカル デバイスへのアクセスを許可するホストの一覧からホストの名前もしくは IP アドレスを追加もしくは削除できます。

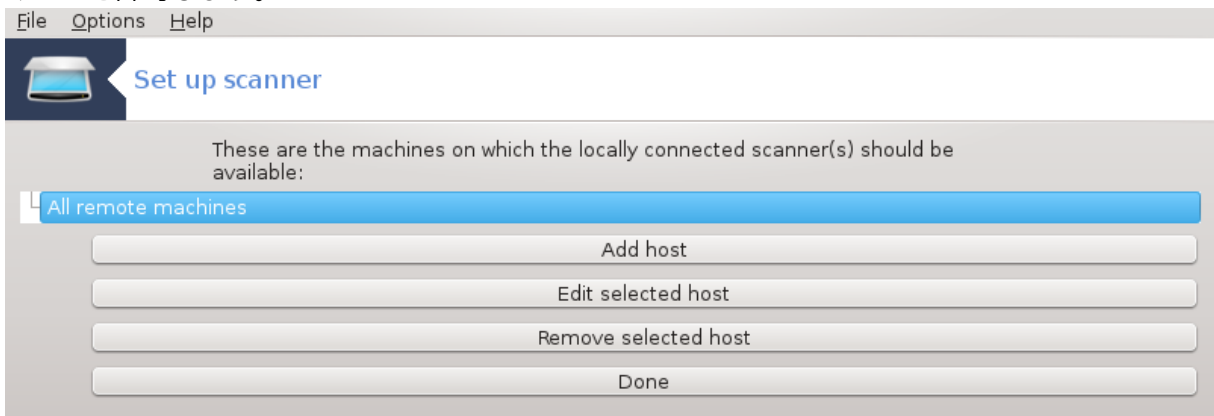
リモート スキャナの使用: リモートのスキャナへのアクセスを提供するホストの一覧からホストの名前もしくは IP アドレスを追加もしくは削除できます。



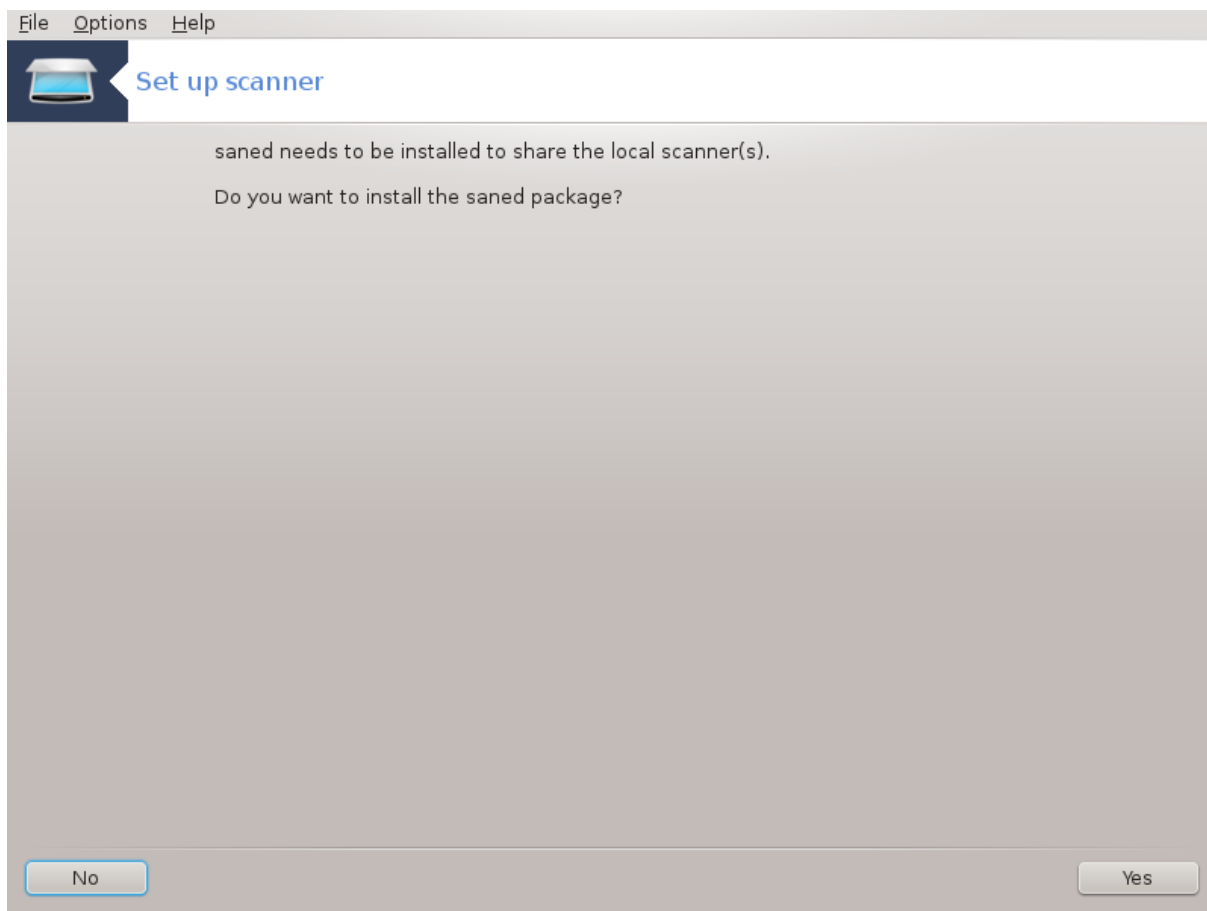
以下のホストにスキャナを共有させる: ホストを追加できます。



以下のホストにスキャナを共有させる： 追加するホストを指定するか、もしくはすべてのリモートマシンを許可します。



"すべてのリモート マシン" はローカルのスキャナへのアクセスが許可されます。



パッケージ sane がまだインストールされていない場合、このツールはそれを提案します。

最後に、このツールはこれらのファイルを変更します:

/etc/sane.d/saned.conf

/etc/sane.d/net.conf

/etc/sane.d/dll.conf ディレクティブ "net" を追加もしくはコメントにします

これは sane と xinetd がブート時に開始するようにする設定も行います。

5.8.3. 特別な場合

- ヒューレット パッケージ

ほとんどの HP のスキャナは HP Device Manager (hplip) で管理されこれはプリンタも管理します。この場合、このツールでは設定はできず HP Device Manager を使用するように促します。

- エプソン

ドライバは[このページ](http://download.ebz.epson.net/dsc/search/01/search/?OSC=LX) [http://download.ebz.epson.net/dsc/search/01/search/?OSC=LX]から入手できます。通知を受け取った際には、まず iscan-data パッケージをインストールし、次に iscan を (この順序で) インストールしなければなりません。iscan パッケージは sane との衝突についての警告を表示する可能性があります。この警告は無視できるとユーザによって報告されています。

5.8.4. 追加のインストール手順

お使いのスキヤナを正しく設定するために、[図1「ポートを選択する」](#)画面でスキヤナのポートを選択した後に一つ以上の追加の手順が必要になる可能性があります。

- 場合によっては、起動のたびにスキヤナがファームウェアの転送を必要とする通知を受けることがあります。このツールはそれをお使いのシステムにインストールした後でデバイスに読み込ませることができます。この画面ではファームウェアを CD やインストール済みの Windows からインストールするか、ベンダのインターネット サイトからダウンロードしたものをインストールできます。

お使いのデバイスでファームウェアの読み込みが必要な場合、毎回最初の使用時に長い時間、場合によっては一分を超える時間がかかるかもしれません。なので気長に待ちましょう。

- また、`/etc/sane.d/"name_of_your_SANE_backend".conf` のファイルを調整するように指示する画面が表示されるかもしれません。
- それらか、もしくは他の指示を注意深く読み、何をすればよいか分からない場合は、気軽に[フォーラム](http://forums.mageia.org/en/) [http://forums.mageia.org/en/]で助けを求めてください。

5.9. 電源管理のための UPS を設定する

drakups



このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

このツールはコマンド ラインから開始でき、drakups を root として入力します。

6. ネットワークとインターネット



この画面では幾つかのネットワーク ツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

1. ネットワーク デバイスの管理

- [「ネットワーク センター」](#)
- [「新しいネットワーク インターフェイスを設定する \(LAN, ISDN, ADSL など\)」](#)
- [「接続を削除する」](#)

2. ネットワークのカスタマイズと保護

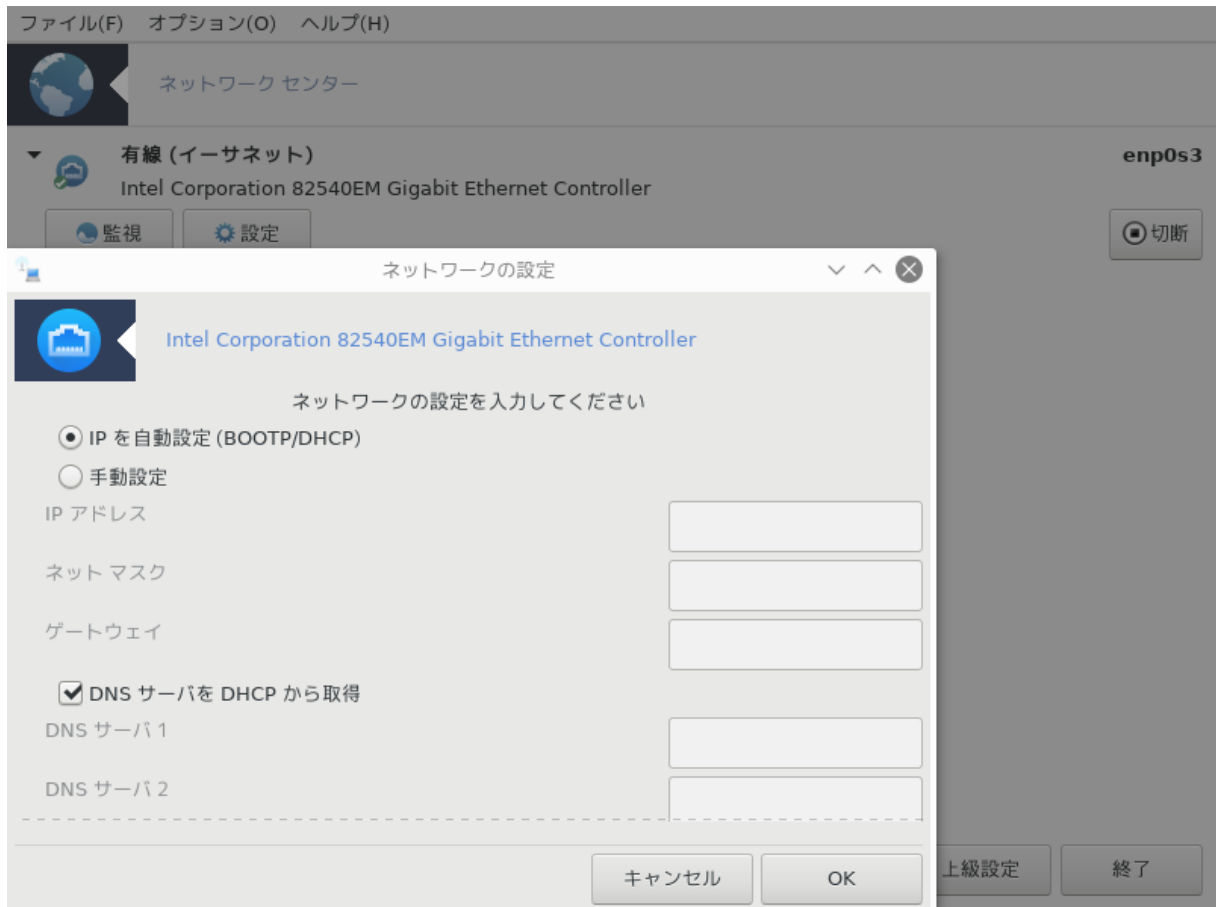
- [「プロキシ」](#)
- [「他のローカル マシンとインターネット接続を共有する」](#)
- [「ネットワーク プロファイルを管理する」](#)
- [「セキュアなネットワーク アクセスのために VPN 接続を設定する」](#)

3. その他

- [「ホストの定義」](#)

6.1. ネットワーク センター





draknetcenter



このツール¹⁹ は Mageia コントロール センターのネットワーク タブで見つかり、"ネットワーク センター" と書かれています。

6.1.1. はじめに

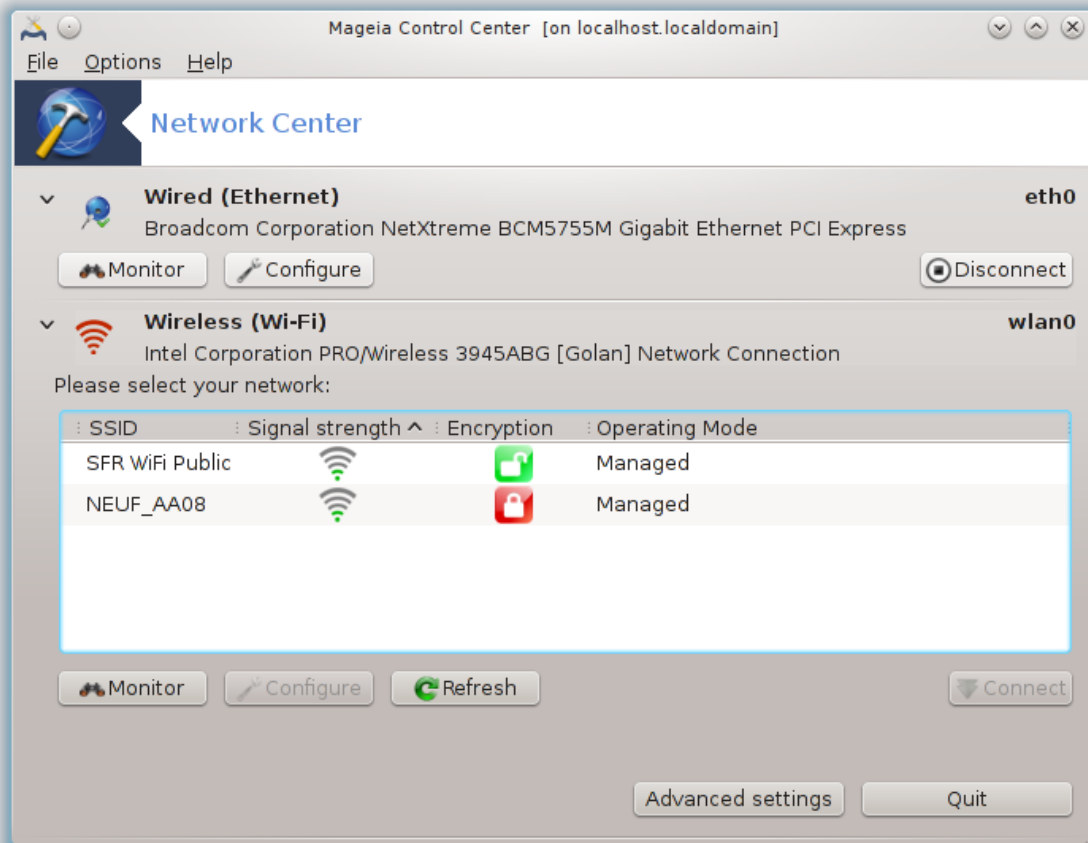
このツールが起動したときに、このコンピュータで設定されたすべてのネットワークが種類 (有線, 無線, 衛星など) によらずに一覧表示されたウィンドウが開きます。いずれかをクリックすると、ネットワークの種類によって三つもしくは四つのボタンが現れ、ネットワークの管理を行って設定や接続/切断を変更できます。このツールはネットワークを作成することを意図してはならず、このためには MCC の同じタブにある新しいネットワーク インターフェイスを設定 (LAN, ISDN, ADSL など) を参照してください。

例として、下のスクリーンショットでは、二つのネットワークが見えて、一つめは有線で接続されており、このアイコン  で識別でき (このアイコンは未接続のもので ) 二つめのセクションは無線ネットワークを表示しており、未接続でこのアイコン  で識別でき、接続時はこれ  になります。もう一方のネットワークの種類は、色コードは常に同じで、接続時が緑で未接続時が赤です。

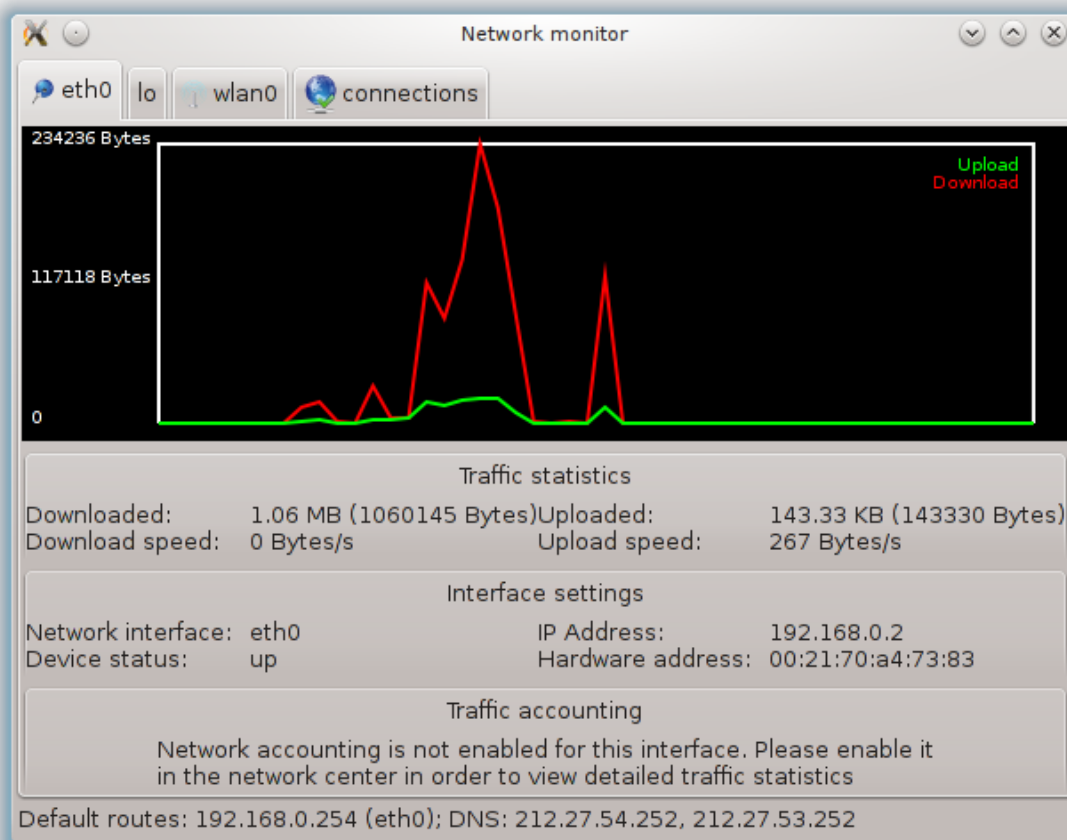
画面内の無線の部分では、検出されたすべてのネットワークを見ることもでき、SSID, 信号強度, 暗号化されている (赤) かされていない (緑) か, 動作モードが表示されます。選択した項目をクリックし監視, 設定, 接続のいずれかをクリックします。ここではネットワークから別のネットワークへ移動可能です。プライベートなネットワークが選択された場合、ネットワーク設定ウィンドウ (下記参照) は追加の設定 (特に暗号化鍵) を開いて行うことができます。

更新をクリックすると画面を更新します。

¹⁹このツールはコマンド ラインから開始でき、draknetcenter を root として入力します。



6.1.2. 監視ボタン



このボタンではダウンロード (PC に向かう方向, 赤) やアップロード (インターネットに向かう方向, 緑) のネットワーク活動を監視できます。同じ画面がシステムトレイのインターネットアイコン > ネットワークを監視を右クリックすることで利用できます。

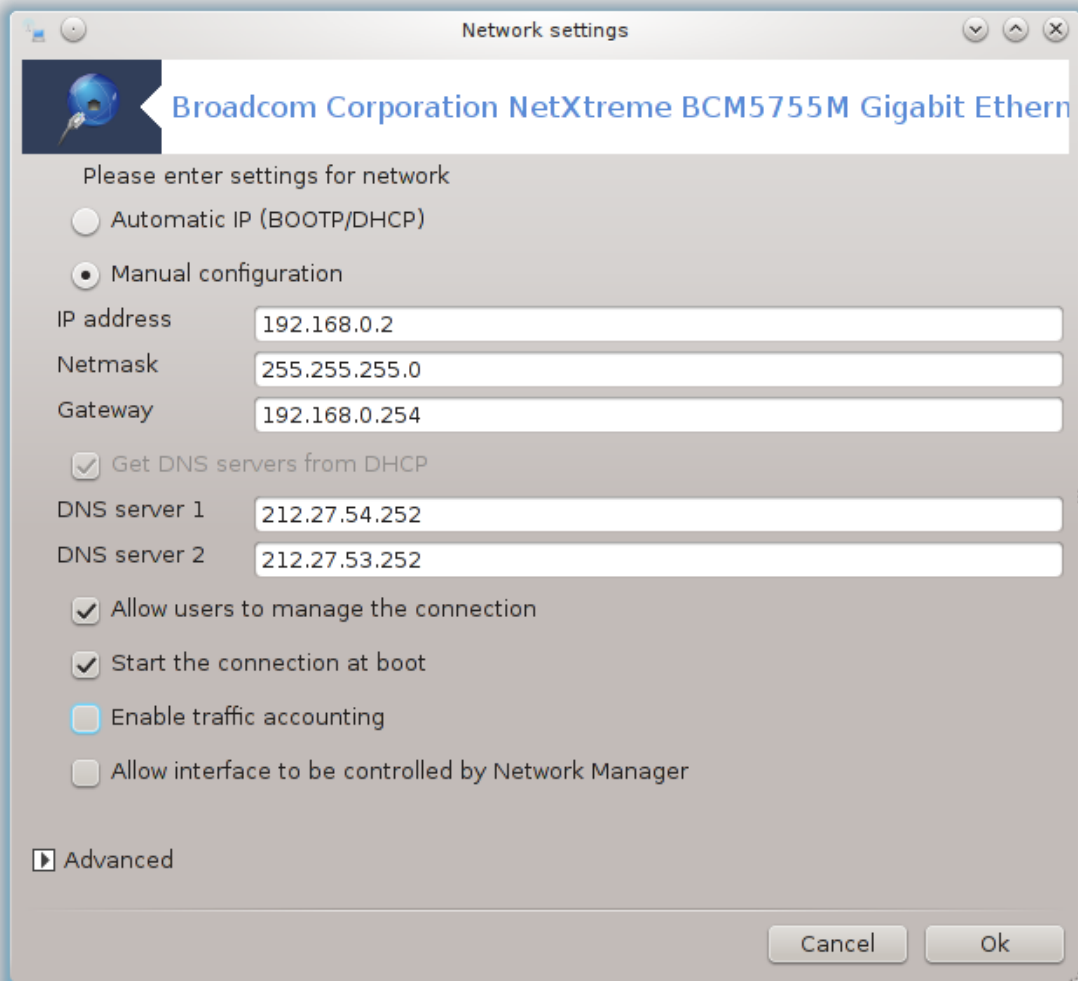
各ネットワーク (ここで eth0 は有線ネットワーク, lo はローカルのループバック, wlan0 は無線ネットワークです) ごとにタブがあり、加えて接続の状態についての詳細を表示する接続タブがあります。



ウィンドウ底部にトラフィック アカウンティングという見出しがあり、次のセクションで扱います。

6.1.3. 設定ボタン

A - 有線ネットワーク



ネットワークの作成時に設定されたすべての項目が変更可能です。ほとんどの場合、IP を自動設定 (BOOTP/DHCP) で動作しますが、問題があれば、手動で設定するとより良い結果になるかもしれません。

住宅のネットワークでは、IP アドレスは常に 192.168.0.x のようになり、ネット マスクは 255.255.255.0 で、ゲートウェイや DNS サーバ群はお使いのプロバイダのウェブ サイトから得られます。

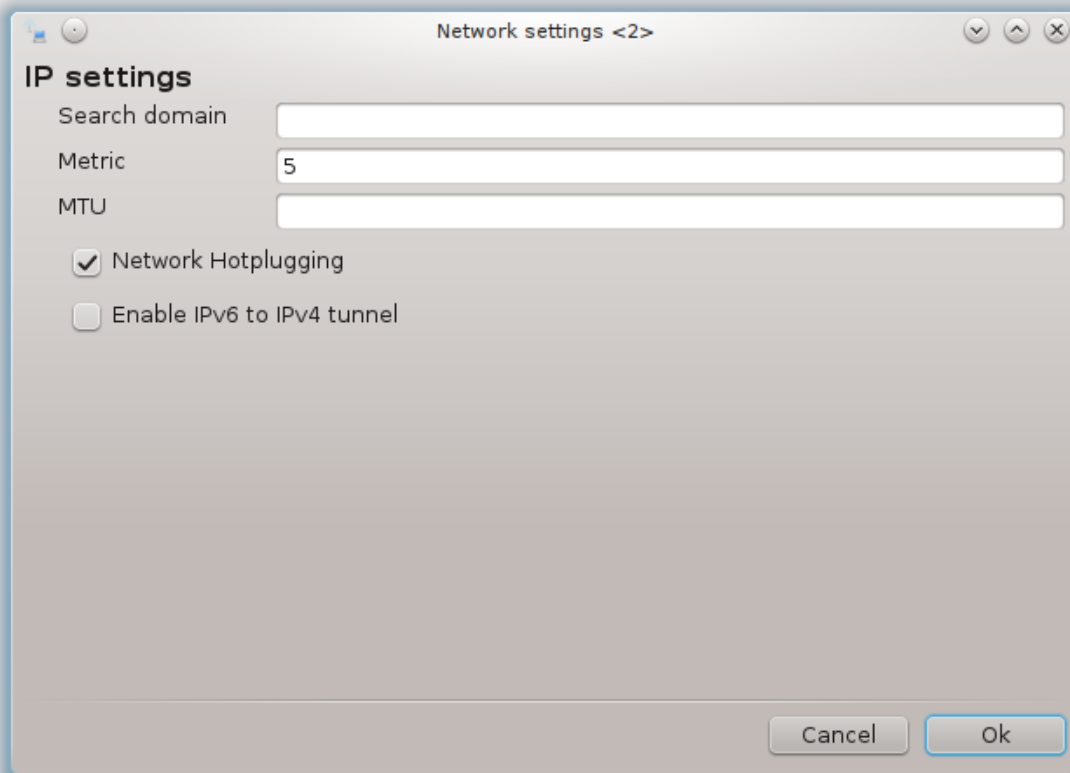
トラフィック アカウンティングを有効にするにチェックした場合、通信量を一時間、一日、一ヶ月単位でカウントします。結果は前のセクションで詳述したネットワーク モニタで見ることができます。これを有効にすると、ネットワークに再度接続する必要があるかもしれません。

インターフェースをネットワーク マネージャによって制御可能にする:

このセクションはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願ひします。

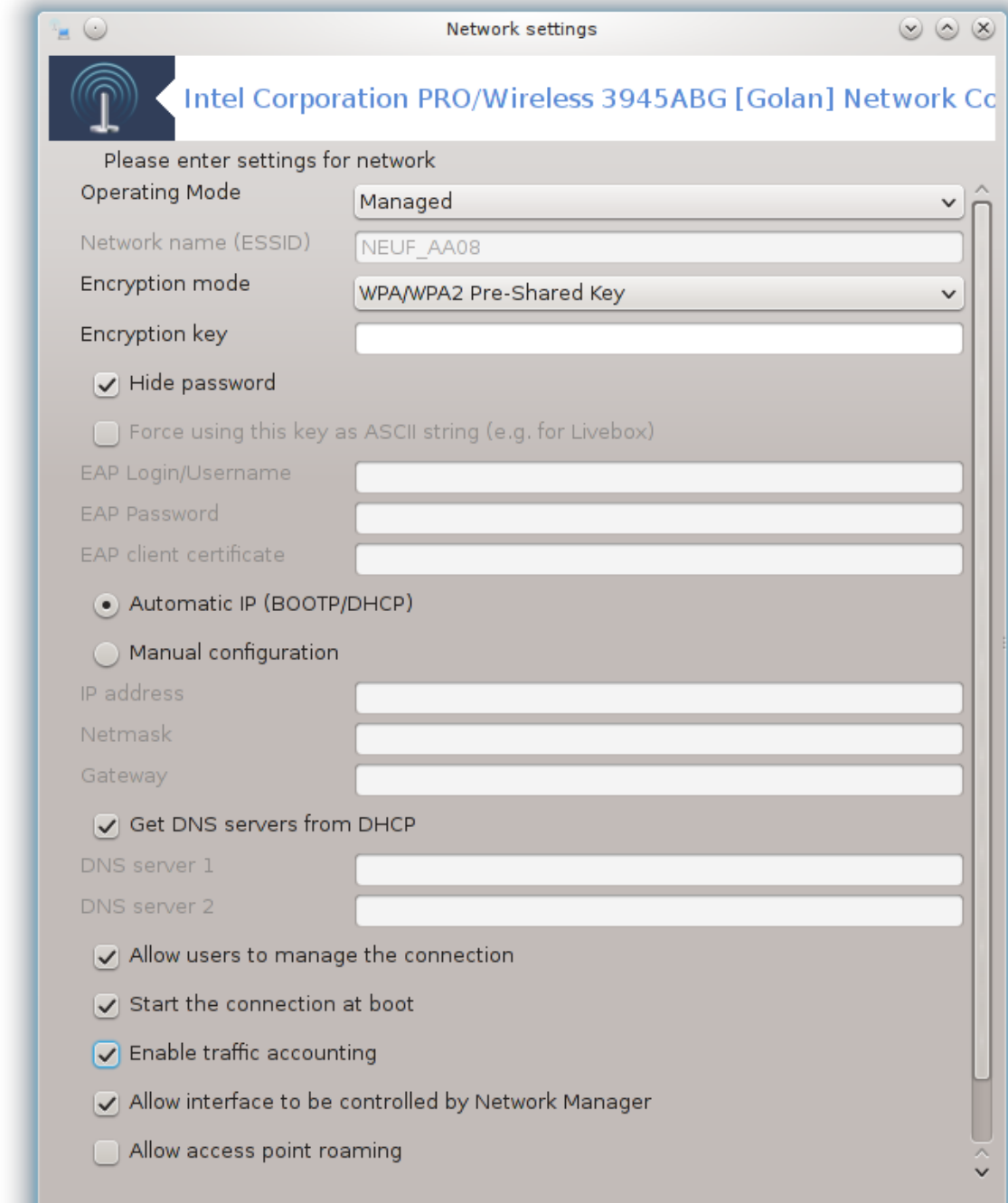
上級ボタン:

このセクションはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。



B - 無線ネットワーク

既に上で見えている項目以外についてのみを説明します。



動作モード:

アクセス ポイントを通して接続している場合はマネージドを選択します。検出された ESSID が表示されます。ピア ツー ピア ネットワークの場合はアド ホックを選択します。お使いのネットワーク カードをアクセス ポイントとして用いる場合はマスターを選択し、お使いのネットワーク カードはこのモードに対応している必要があります。

暗号化モードと暗号化鍵:

プライベートなネットワークの場合、これらの設定を把握している必要があります。

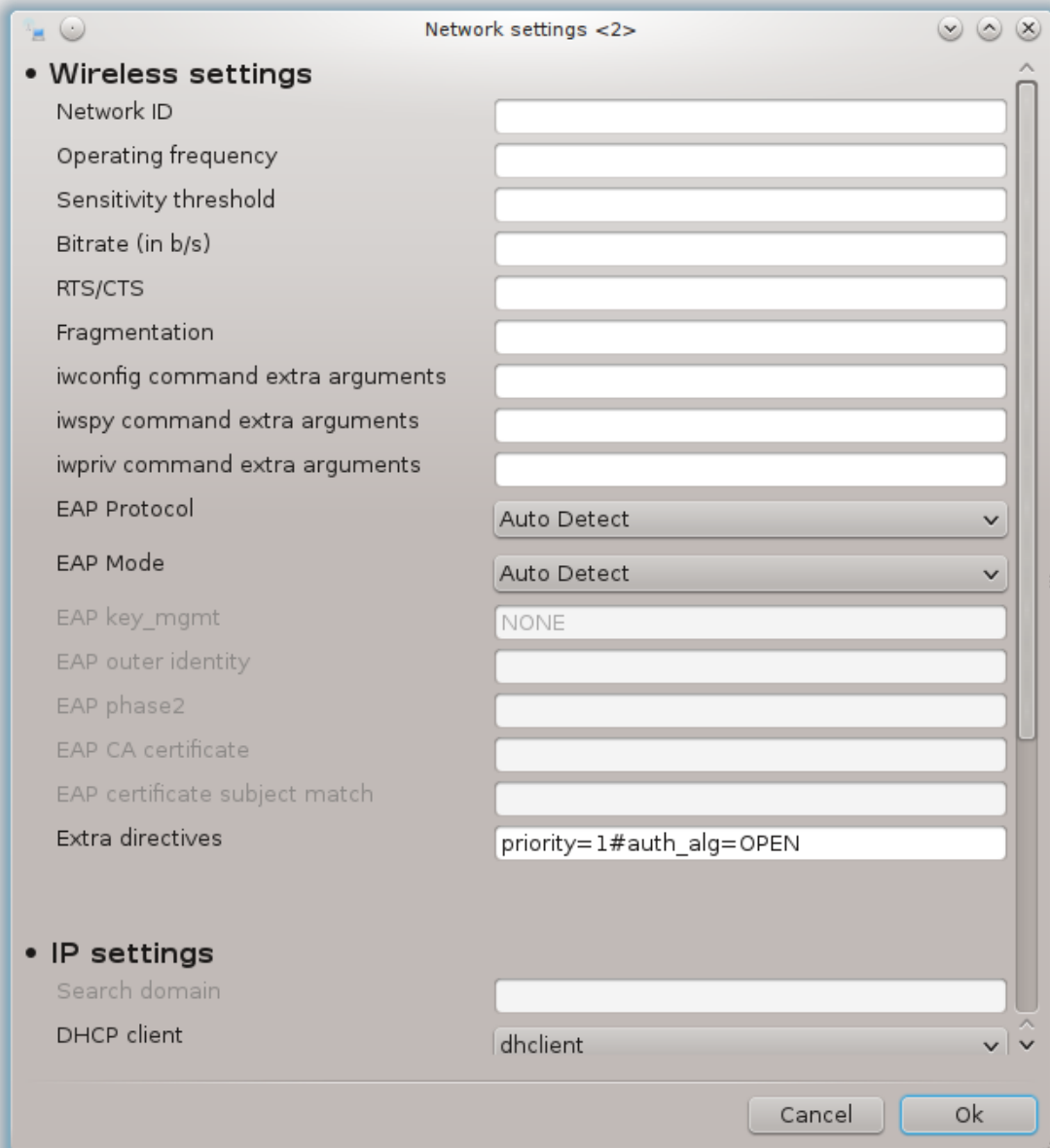
WEP はパスワードを使用し、パスフレーズを用いる WPA よりも弱いです。WPA 事前共有鍵は WPA パーソナルや WPA ホームとも呼ばれます。WPA エンタープライズはプライベートなネットワークではあまり使われません。

アクセス ポイント ローミングを許可:

ローミングはネットワークに接続したままコンピュータがアクセス ポイントを変更できるようにする技術です。

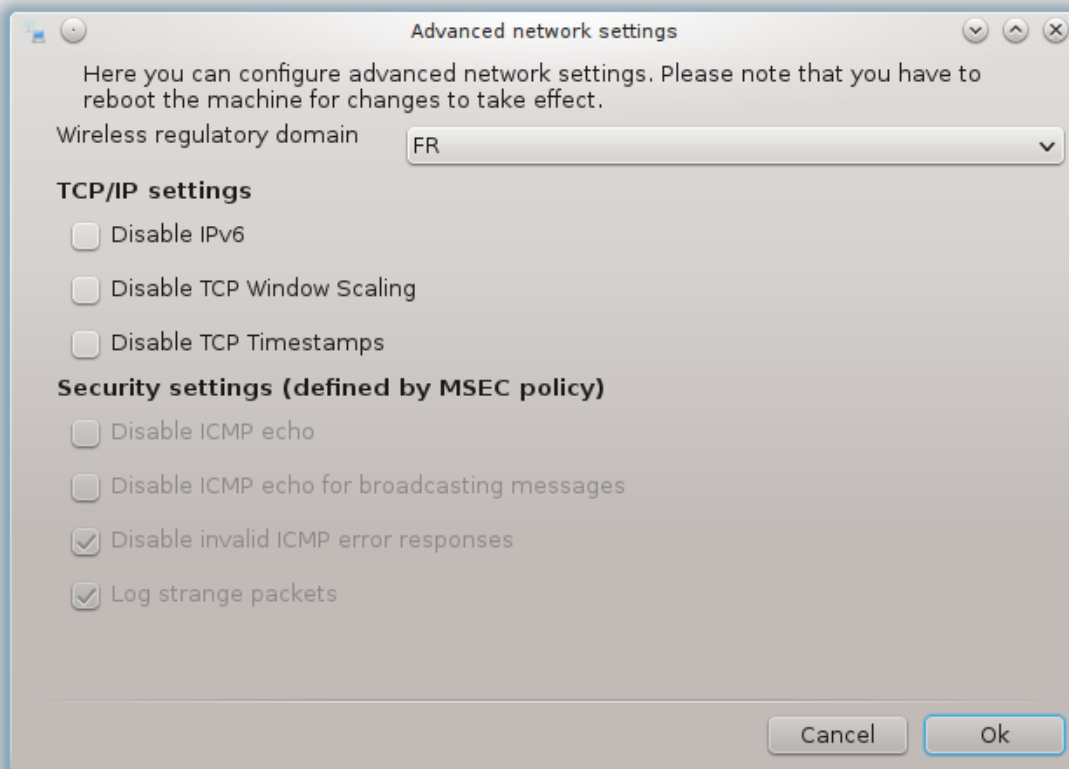
上級ボタン:

このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。



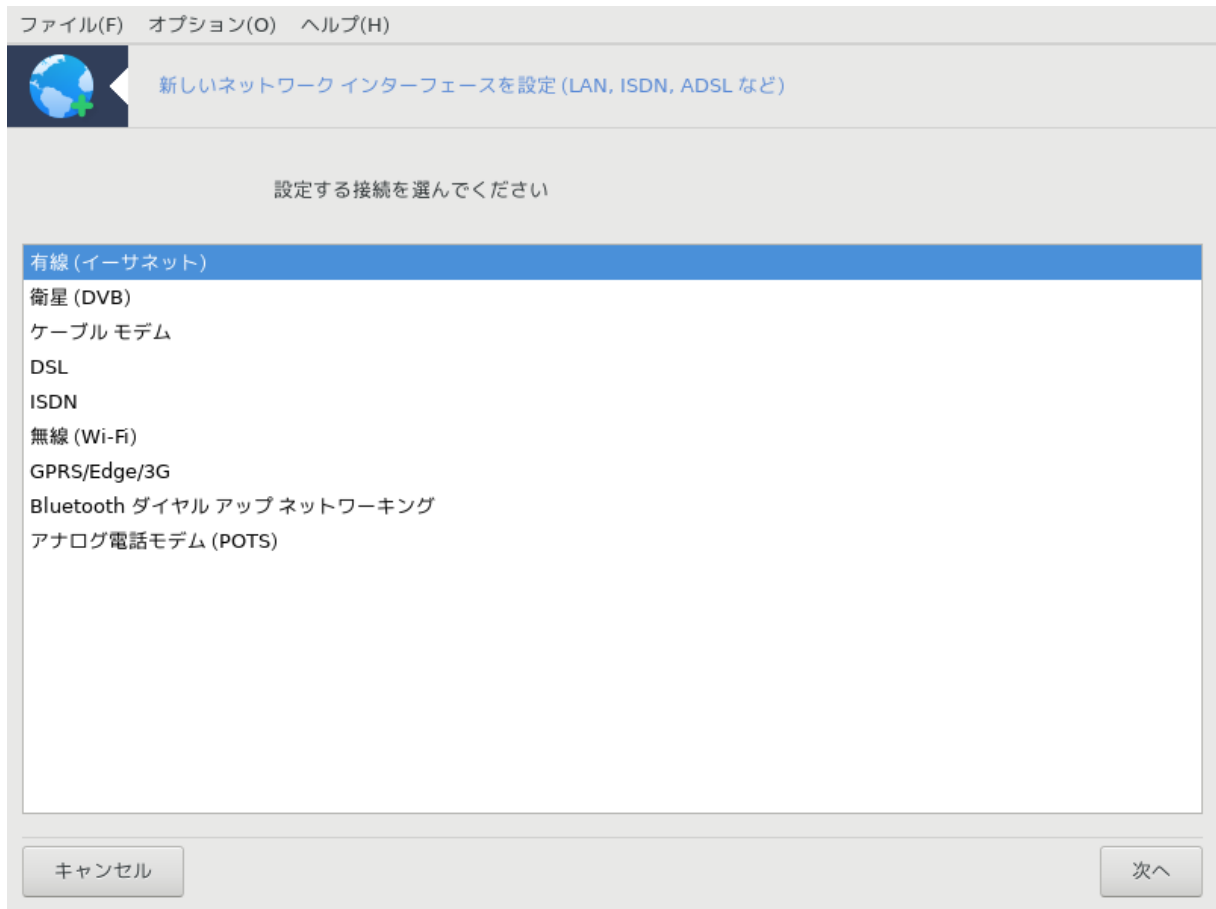
6.1.4. 上級設定ボタン

このセクションはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。



6.2. 新しいネットワーク インターフェースを設定する (LAN, ISDN, ADSL など)

drakconnect



6.2.1. はじめに


このツール²⁰ではローカル ネットワークやインターネット アクセスの多くの設定を行うことができます。お使いのアクセス プロバイダやネットワーク管理者から幾つかの情報を知っている必要があります。

お使いのハードウェアやプロバイダに合わせて、設定したい接続の種類を選択します。

6.2.2. 新しい有線接続 (イーサネット)

1. 最初のウィンドウは利用可能なインターフェースを一覧表示します。設定したいものを選択してください。
2. ここでは、IP アドレスが自動か手動かを選択します。
3. 自動 IP
 - a. イーサネット/IP の設定: DNS サーバ群が DHCP サーバによって指定されるか手動で指定する場合に以下で説明されている通りに選択する必要があります。最後の場合は、DNS サーバ群の IP アドレスが設定されている必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain という名前が付けられます。ホスト名は、ホスト名を DHCP サーバから割り当てるを付けて DHCP サーバから割り当てることもできます。すべての DHCP サーバがこのような機能を持っているわけではなく、家庭の ADSL ルータから IP アドレスを取得するためにお使いの PC を設定しているのであれば、これができる可能性は低いでしょう。

²⁰このツールはコマンド ラインから開始でき、drakconnect を root として入力します。



ネットワークとインターネットの設定

イーサネット

IP の設定

DNS サーバを DHCP から取得

DNS サーバ 1

DNS サーバ 2

ホスト名を DHCP サーバから割り当てる (もしくは一意の名前を生成する)

ホスト名:

キャンセル 戻る 次へ

b. 上級ボタンでは以下を指定できます:

- 検索ドメイン (DHCP サーバに供給されている通りにアクセスできない場合)
- DHCP クライアント
- DHCP タイムアウト
- DHCP から YP サーバを取得 (既定でチェック済み): NIS サーバを指定
- DHCP から NTPD サーバを取得 (時刻の同期)
- DHCP によって要求されるホスト名。この項目はクライアントに IP アドレスを割り当てる前にクライアントがホスト名を指定することを DHCP サーバが要求する場合にのみ使用してください。この項目は幾つかの DHCP サーバでは処理されません。

c. 受け入れた後、すべての接続設定に共通の最後の段階が説明されています: [「設定の終了」](#)

4. 手動設定

a. イーサネット/IP の設定: 使用する DNS サーバを指定する必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain という名前が付けられます。

住宅のネットワークでは、IP アドレスは通常 192.168.x.x のようになり、ネット マスクは 255.255.255.0 で、ゲートウェイや DNS サーバ群はお使いのプロバイダのウェブサイトから得られます。

上級設定では、検索ドメインを設定できます。これは通常はあなたのホーム ドメインで、言い換えると、お使いのコンピュータが "splash" と呼ばれていて、完全ドメイン名が "splash.boatanchor.net" の場合、検索ドメインは "boatanchor.net" となります。特に必要というわけではなければ、この設定を定義しなくてもかまいません。繰り返しますが、家庭の ADSL ではこの設定は不要です。

ネットワークとインターネットの設定

イーサネット

IP の設定

IP アドレス	192.168.1.63
ネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバ 1	
DNS サーバ 2	

キャンセル 戻る 次へ

b. 次の段階は「[設定の終了](#)」で説明されています。

6.2.3. 新しい衛星接続 (DVB)

このセクションはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

6.2.4. 新しいケーブル モデム接続

1. 最初のウィンドウは利用可能なインターフェースを一覧表示します。設定したいものを選択してください。
2. ここでは、IP アドレスが自動か手動かを選択します。
3. 認証方式を指定する必要があります：
 - なし
 - BPALogin (テルストラで必要) です。この場合ユーザ名とパスワードを提供する必要があります。
4. 自動 IP
 - a. ケーブル/IP 設定: DNS サーバ群が DHCP サーバによって指定されるか手動で指定する場合に以下で説明されている通りに選択する必要があります。最後の場合では、DNS サーバ群の IP アドレスが設定されている必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain という名前が付けられます。ホスト名は、ホスト名を DHCP サーバから割り当てるを付けて DHCP サーバから割り当てることもできます。すべての DHCP サーバがこのような機能を持っているわけではなく、家庭の ADSL ルータから IP アドレス

を取得するためにお使いの PC を設定しているのであれば、これができる可能性は低いでしょう。

b. 上級ボタンでは以下を指定できます:

- 検索ドメイン (DHCP サーバに供給されている通りにアクセスできない場合)
- DHCP クライアント
- DHCP タイムアウト
- DHCP から YP サーバを取得 (既定でチェック済み): NIS サーバを指定
- DHCP から NTPD サーバを取得 (時刻の同期)
- DHCP によって要求されるホスト名。この項目はクライアントに IP アドレスを割り当てる前にクライアントがホスト名を指定することを DHCP サーバが要求する場合にのみ使用してください。この項目は幾つかの DHCP サーバでは処理されません。

c. 受け入れた後、すべての接続設定に共通の最後の段階が説明されています: [「設定の終了」](#)

5. 手動設定

a. ケーブル/IP 設定: 使用する DNS サーバ群を指定する必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain という名前が付けられます。

住宅のネットワークでは、IP アドレスは通常 192.168.x.x のようになり、ネット マスクは 255.255.255.0 で、ゲートウェイや DNS サーバ群はお使いのプロバイダのウェブサイトから得られます。

上級設定では、検索ドメインを設定できます。これは通常はあなたのホーム ドメインで、言い換えると、お使いのコンピュータが "splash" と呼ばれていて、完全ドメイン名が "splash.boatanchor.net" の場合、検索ドメインは "boatanchor.net" となります。特に必要というわけではなければ、この設定を定義しなくてもかまいません。繰り返しますが、家庭の接続ではこの設定は不要です。

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

新しいネットワーク インターフェースを設定 (LAN, ISDN, ADSL など)

イーサネット
IP の設定

IP アドレス	192.168.1.54
ネット マスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバ 1	8.8.8.8
DNS サーバ 2	4.4.4.4
ホスト名:	mycomputer.athome

▶ 上級

キャンセル 戻る 次へ

b. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

6.2.5. 新しい DSL 接続

1. このツールがネットワーク インターフェースを検出した場合、一つを選択してそれを設定するように提案します。
2. プロバイダの一覧が提示され、国ごとに分類されます。お使いのプロバイダを選択してください。一覧にない場合、該当なしを選択してお使いのプロバイダが提供する情報を入力します。
3. 利用可能なプロトコルから一つを選択します：
 - Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)
 - 手動による TCP/IP 設定
 - PPP over ADSL (PPPoA)
 - PPP over Ethernet (PPPoE)
 - Point to Point Tunneling Protocol (PPTP)
4. アクセスの設定
 - アカウントのログイン (ユーザ名)
 - アカウントのパスワード
 - (上級) Virtual Path ID (VPI)
 - (上級) Virtual Circuit ID (VCI)
5. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

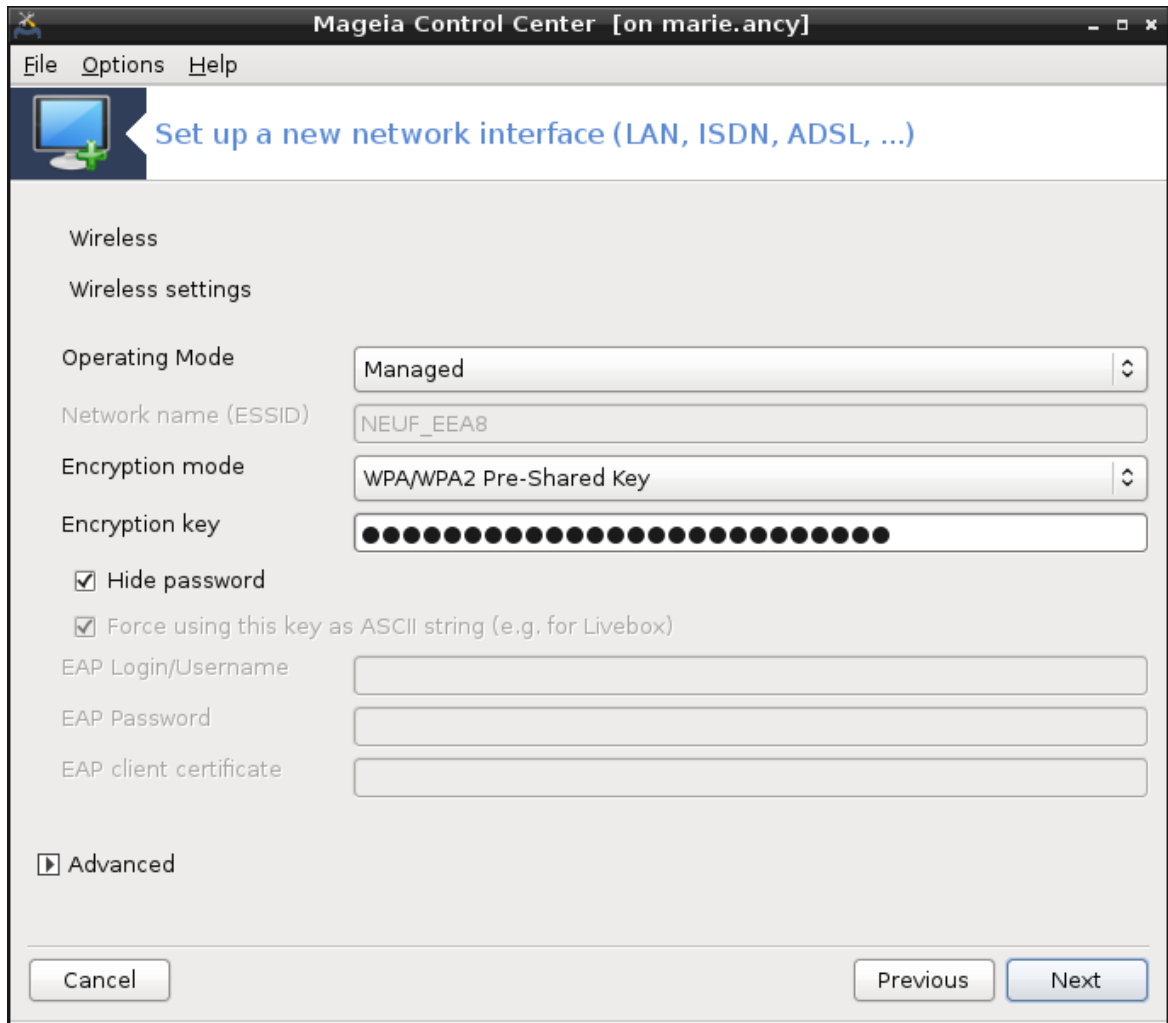
6.2.6. 新しい ISDN 接続

1. このウィザードは設定するデバイスを質問します：

-
- 手動選択 (内蔵 ISDN カード)
 - 外付け ISDN モデム
2. ハードウェアの一覧が提示され、カテゴリやメーカーによって分類されます。お使いのカードを選択してください。
 3. 利用可能なプロトコルから一つを選択します:
 - ヨーロッパ以外の全世界向けのプロトコル (DHCP)
 - ヨーロッパ向けのプロトコル (EDSS1)
 4. プロバイダの一覧が提示され、国ごとに分類されます。お使いのプロバイダを選択してください。一覧にない場合、該当なしを選択してお使いのプロバイダが提供する情報を入力します。次にパラメータを求められます:
 - 接続名
 - 電話番号
 - ログイン ID
 - アカウントのパスワード
 - 認証方法
 5. その後、IP アドレスを自動的もしくは手動で取得する場合に選択する必要があります。最後の場合、IP アドレスとサブネット マスクを指定します。
 6. 次の段階は DNS サーバ群のアドレスを自動的もしくは手動で取得する方法を選択することです。手動設定の場合、以下を指定する必要があります:
 - ドメイン名
 - 一番目と二番目の DNS サーバ
 - ホスト名が IP から設定される場合に選択します。この項目はお使いのプロバイダがそれを受け入れるように設定されていることが確実な場合にのみ選択するものです。
 7. 次の段階はゲートウェイのアドレスを自動的もしくは手動で取得する方法を選択することです。手動設定の場合、IP アドレスを入力する必要があります。
 8. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

6.2.7. 新しい無線接続 (WiFi)

1. 最初のウィンドウは利用可能なインターフェースと Windows ドライバ (ndiswrapper) を一覧表示します。設定する項目を選択します。ndiswrapper は他の設定方法がうまくいかなかった場合にのみ使用してください。
2. この段階では、カードが検出した異なるアクセス ポイントのいずれかを選択します。
3. 無線カード固有のパラメータがあります:



- 動作モード:

マネー 既存のアクセス ポイントにアクセスします (最も普通です)。
ジド

アド コンピュータ間の直接の接続を設定します。
ホック

- ネットワーク名 (ESSID)

- 暗号化モード: これはアクセス ポイントがどのように設定されているかによります。

WPA/ この暗号化モードはお使いのハードウェアが対応していれば望ましいもので
WPA2 す。

WEP 幾つかの古いハードウェアはこの暗号化方式しか扱えません。

- 暗号化鍵

これは通常アクセス ポイントを提供するハードウェアとともに提供されます。

4. この段階では、IP アドレスが自動か手動かを選択します。

5. 自動 IP

- IP の設定: DNS サーバ群が DHCP サーバによって指定されるか手動で指定する場合に以下で説明されている通りに選択する必要があります。最後の場合では、DNS サーバ群の IP アドレスが設定されている必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain

という名前が付けられます。ホスト名は、ホスト名を DHCP サーバから割り当てるを付けて DHCP サーバから割り当てることもできます。

b. 上級ボタンでは以下を指定できます:

- 検索ドメイン (DHCP サーバに供給されている通りにアクセスできない場合)
- DHCP クライアント
- DHCP タイムアウト
- DHCP から YP サーバを取得 (既定でチェック済み): NIS サーバ群を指定
- DHCP から NTPD サーバを取得 (時刻の同期)
- DHCP によって要求されるホスト名。この項目はクライアントに IP アドレスを割り当てる前にクライアントがホスト名を指定することを DHCP サーバが要求する場合にのみ使用してください。この項目は幾つかの DHCP サーバでは処理されません。

c. 設定を受け入れた後、すべての接続設定に共通の最後の段階が説明されています: [「設定の終了」](#)

6. 手動設定

a. IP の設定: DNS サーバ群を指定する必要があります。ここでは、このコンピュータのホスト名を指定することができます。ホスト名が指定されない場合、既定では localhost.localdomain という名前が付けられます。

住宅のネットワークでは、IP アドレスは常に 192.168.x.x のようになり、ネット マスクは 255.255.255.0 で、ゲートウェイや DNS サーバ群はお使いのプロバイダのウェブサイトから得られます。

上級設定では、検索ドメインを設定できます。これはお使いのホスト名の最初の名前、ピリオドより前の部分を除いた形にならなければなりません。

b. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

6.2.8. 新しい GPRS/Edge/3G 接続

1. このツールが無線インターフェースを検出した場合、一つを選択して設定するよう提案します。
2. PIN を訊かれます。PIN が必要ない場合は空のままにしてください。
3. このウィザードはネットワークを探します。検出されない場合、該当なしを選択してください。
4. プロバイダの一覧が提示され、国ごとに分類されます。お使いのプロバイダを選択してください。一覧にない場合、該当なしを選択してお使いのプロバイダが提供する情報を入力します。
5. アクセス設定を提供します。
 - アクセス ポイント名
 - アカウントのログイン (ユーザ名)
 - アカウントのパスワード
6. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

6.2.9. 新しい Bluetooth ダイアル アップ ネットワーキング接続

このセクションはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願ひします。

6.2.10. 新しいアナログ電話モデム接続 (POTS)

1. このウィザードは設定するデバイスを質問します:
 - 手動選択
 - 存在する場合、検出済みのハードウェア
2. ポートの一覧が提示されます。お使いのポートを選択してください。
3. 未インストールの場合、パッケージ `kppp-provider` のインストールが提案されます。
4. プロバイダの一覧が提示され、国ごとに分類されます。お使いのプロバイダを選択してください。一覧にない場合、該当なしを選択してお使いのプロバイダが提供する情報を入力します。次にダイヤル アップの情報を求められます:
 - 接続名
 - 電話番号
 - ログイン ID
 - パスワード
 - 認証、以下から選択:
 - PAP/CHAP
 - スクリプトを使う認証
 - PAP
 - ターミナルからの認証
 - CHAP
5. 次の段階は [「設定の終了」](#) で説明されています。

6.2.11. 設定の終了

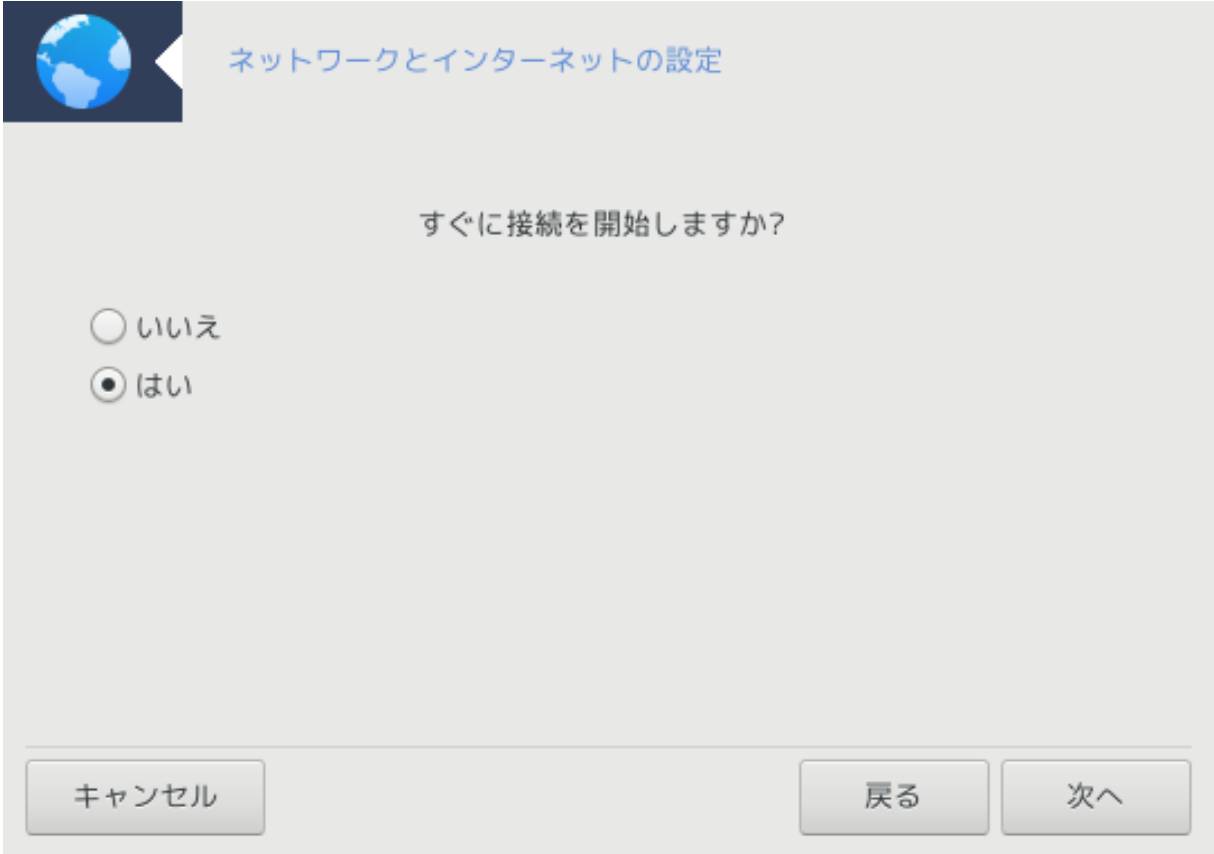
次の段階では、以下を指定できます:

- ユーザに接続の管理を許可
- 起動時に接続を開始
- トラフィック アカウンティングを有効にする
- インターフェースをネットワーク マネージャによって制御可能にする
- 無線接続の場合、アクセス ポイント ローミングを許可ボックスが追加され、信号の強度によって自動的にアクセス ポイントを切り替えることを可能にします。

上級ボタンでは、以下を指定できます:

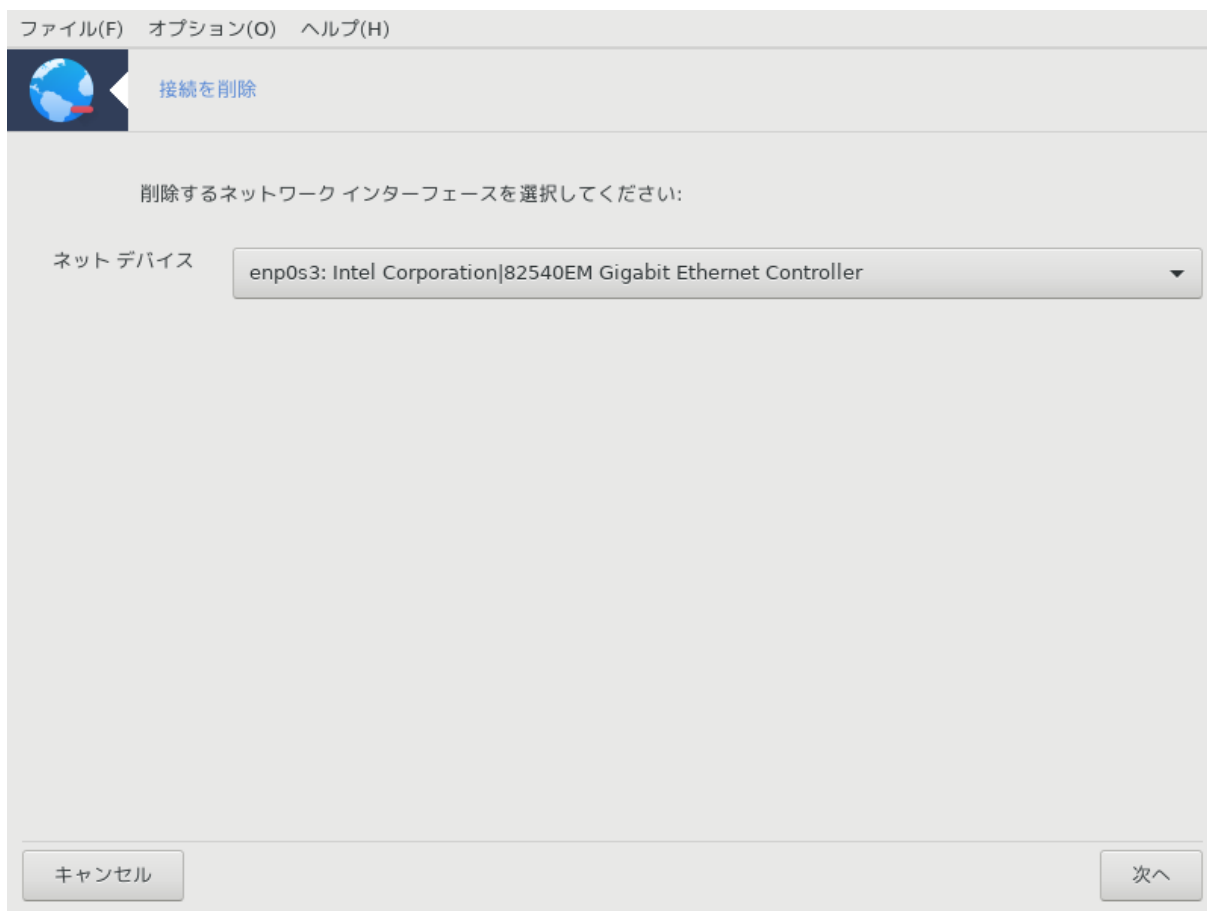
- メトリック (既定値は 10)
- MTU
- ネットワーク ホットプラグング
- IPv6 to IPv4 トンネルを有効にする

最後の段階では、接続をすぐに開始するかどうかを指定できます。



6.3. 接続を削除する

`drakconnect --del`



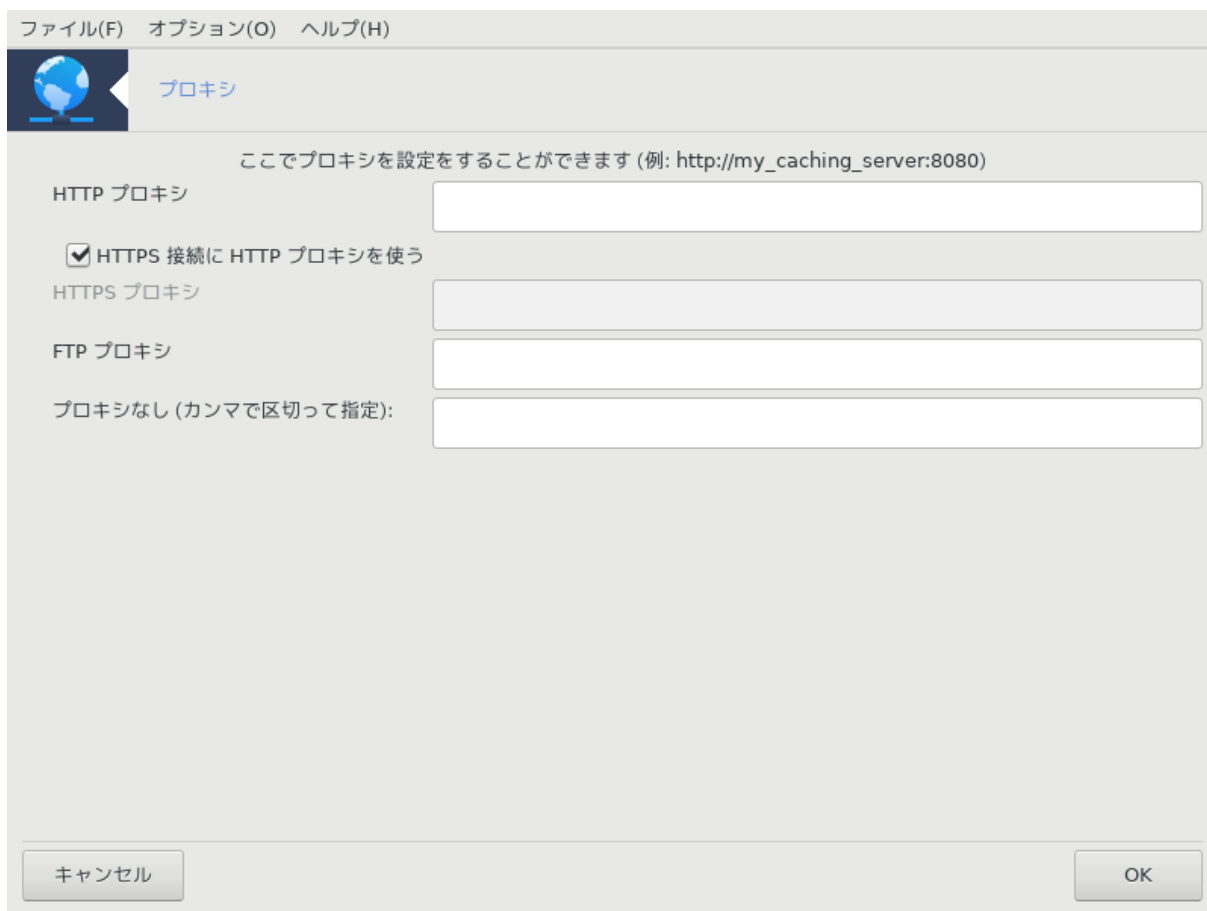
ここでは、ネットワーク インターフェースを削除できます²¹。

ドロップダウンメニューをクリックし、削除したい項目を選択して次へをクリックします。

ネットワーク インターフェースが正常に削除されたというメッセージが表示されます。

6.4. プロキシ drakproxy

²¹このツールはコマンド ラインから開始でき、`drakconnect --del` を root として入力します。



インターネットにアクセスするためにプロキシ サーバを用いることが必要な場合、このツール²²を用いて設定することができます。あなたのネットワークの管理者はあなたが必要とする情報を提供してくれるでしょう。例外によりプロキシなしでアクセス可能な幾つかのサービスを指定することもできます。

2012-09-24 時点の Wikipedia のプロキシ サーバの記事より: コンピュータ ネットワークでは、プロキシ サーバは他のサーバからリソースを探しているクライアントからの要求を仲介する者として動作するサーバ (コンピュータ システムもしくはアプリケーション) です。クライアントはプロキシサーバに接続し、ファイル, 接続, ウェブ ページ, 異なるサーバから利用できる他のリソースといった幾つかのサービスを要求します。プロキシ サーバは要求の複雑さを簡単にしたりコントロールしたりする方法として評価します。

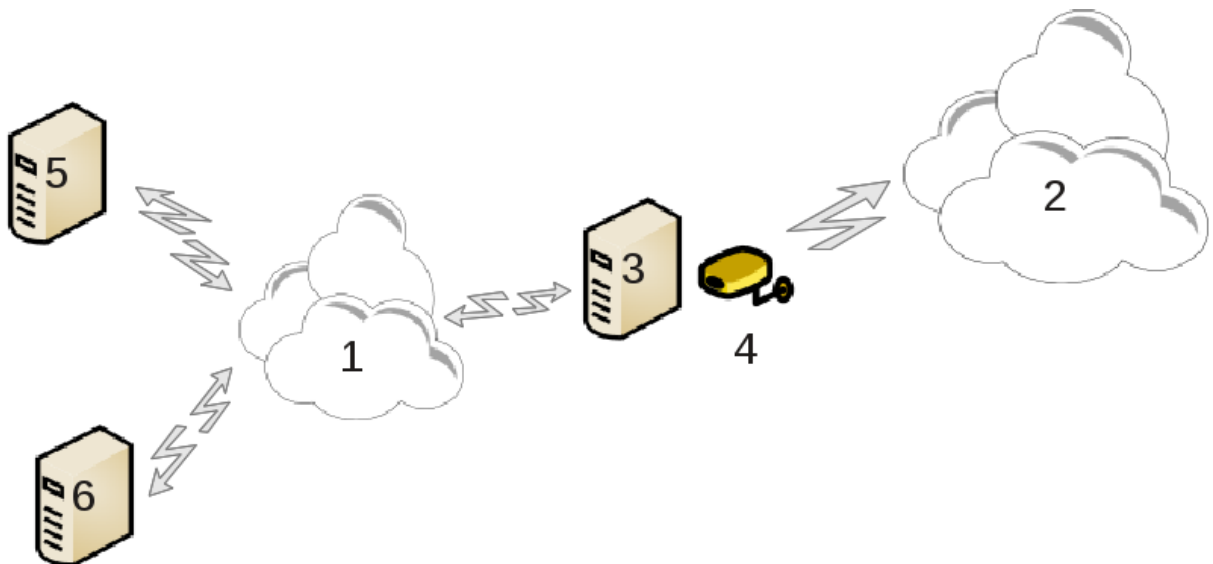
6.5. 他のローカル マシンとインターネット接続を共有する

drakgw

²²このツールはコマンド ラインから開始でき、drakproxy を root として入力します。



6.5.1. 原則



これはインターネット (2) とローカル ネットワーク (1) に接続されたコンピュータ (3) をお持ちの場合に有用です。あなたはインターネットへのアクセスをローカル ネットワーク (1) 内の他のワークステーション (5) と (6) に提供するゲートウェイとしてコンピュータ (3) を使用できます。このために、ゲートウェイには二つのインターフェースがなければなりません; イーサネット カードなどの一つめはローカル ネットワークに接続し、二つめ (4) はインターネット (2) に接続していなければなりません。

最初のステップはネットワークとインターネットへのアクセスが設定されているかを確認することで、[「ネットワークセンター」](#)に記述されています。

6.5.2. ゲートウェイ ウィザード

このウィザード²³ は以下に示す一連の流れを提供します:

- このウィザードが少なくとも二つのインターフェースを検出しない場合、これについて警告を行ってネットワークの停止とハードウェアの設定の中止を求めます。
- インターネット接続用に使用しているインターフェースを指定します。ウィザードは自動的にインターフェースのいずれかを提案しますが、あなたはどれが適切なものかを確認する必要があります。
- Lan アクセス用に使用しているインターフェースを指定します。ウィザードはいずれかの提案も行いますが、それが正しいことを確認してください。
- ウィザードは IP アドレス, マスク, ドメイン名のような Lan ネットワークのパラメータを提案します。これらのパラメータが実際の設定に適合しているかを確認してください。これらの値を受け入れることが推奨されます。
- コンピュータを DNS サーバとして使用するかどうかを指定します。使用する場合、ウィザードは bind がインストールされているかをチェックします。そうでなければ、DNS サーバのアドレスを指定する必要があります。
- コンピュータを DHCP サーバとして使用するかどうかを指定します。使用する場合、ウィザードは dhcp-server がインストールされているかをチェックして DHCP のアドレス範囲の開始と終了のアドレスとともにこれを設定するように提案します。
- コンピュータをプロキシ サーバとして使用するかどうかを指定します。使用する場合、ウィザードは squid がインストールされているかをチェックして管理者のアドレス (admin@mydomain.com), プロキシ名 (myfirewall@mydomain.com), ポート (3128), キャッシュサイズ (100 Mb) とともにこれを設定するように提案します。
- 最後の段階ではゲートウェイのマシンがプリンタに接続されているかのチェックとこれらの共有が行えます。

ファイアウォールがアクティブな場合にはこれをチェックする必要性について警告されます。

6.5.3. クライアントを設定する

ゲートウェイ マシンを DHCP ありで設定した場合、ネットワーク設定ツール内でアドレスを自動的に (DHCP を用いて) 取得することを指定するだけでかまいません。パラメータはネットワークに接続する際に取得されます。この方法はクライアントにどのオペレーティング システムが使用されていても有効です。

ネットワークのパラメータを手動で指定しなければならない場合、ゲートウェイとして動作するマシンの IP アドレスを入力することで特別にゲートウェイを指定しなければなりません。

6.5.4. 接続の共有を停止する

Mageia コンピュータ上の接続の共有を停止したい場合、このツールを実行します。これは接続を再設定するか共有を停止するように提案します。

6.6. ネットワーク プロファイルを管理する

draknetprofile

²³このツールはコマンド ラインから開始でき、drakgw を root として入力します。

このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

このツールはコマンド ラインから開始でき、draknetprofile を root として入力します。

6.7. セキュアなネットワーク アクセスのために VPN 接続を設定する

drakvpn



6.7.1. はじめに

このツール²⁴ ではローカルのワークステーションとの間にトンネルを確立するリモートのネットワークへのセキュアなアクセスを設定できます。ここではワークステーション側の設定についてのみを扱います。リモートのネットワークは既に稼働しており、ネットワーク管理者から .pcf 設定ファイルのような接続情報を提供されているということを前提としています。

6.7.2. 設定

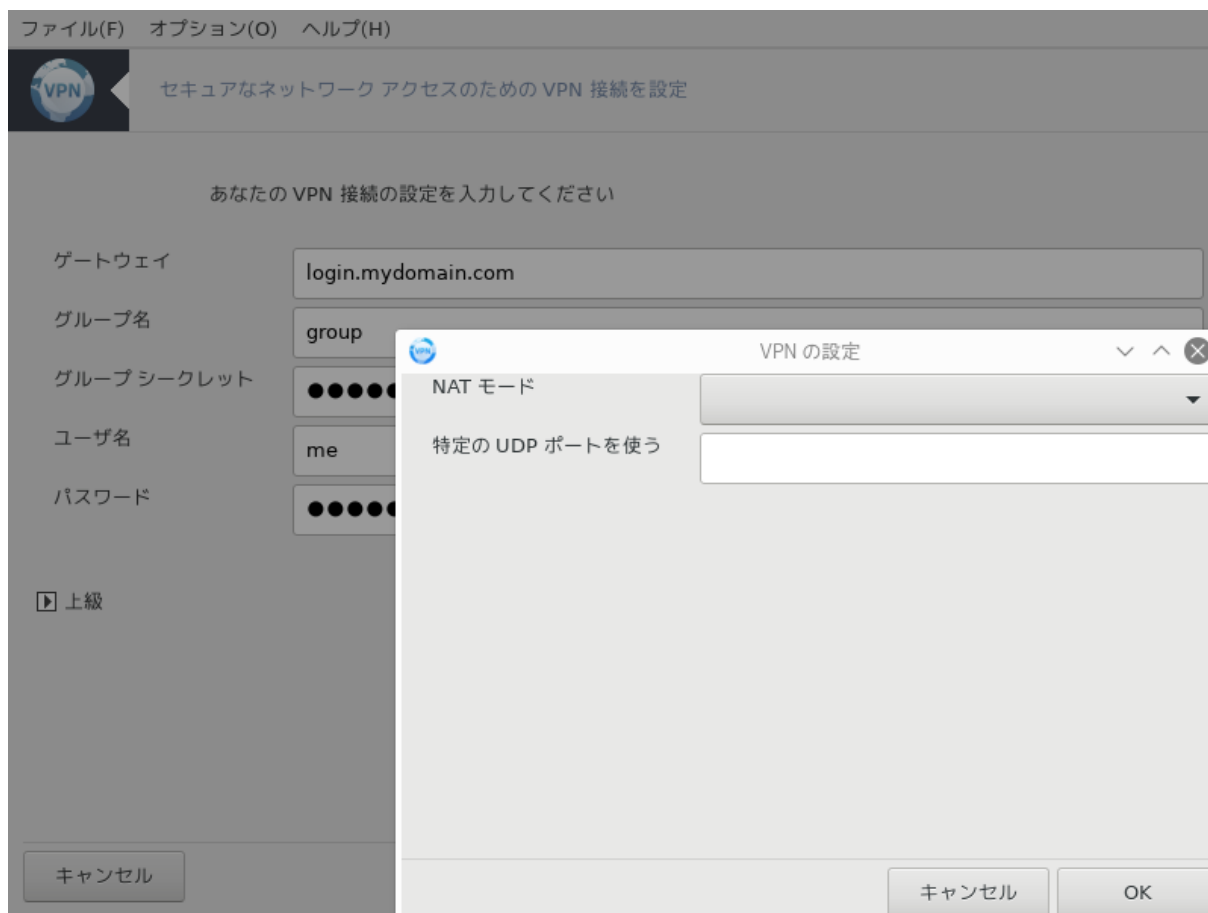
はじめに、お使いの仮想プライベート ネットワークで用いられているプロトコルに合わせて Cisco VPN Concentrator か OpenVPN のいずれかを選択します。

次にお使いの接続に名前を付けます。

次の画面で、お使いの VPN 接続に対して詳細な設定を行います。

²⁴このツールはコマンド ラインから開始でき、drakvpn を root として入力します。

- Cisco VPN の場合



- openvpn の場合、このツールが最初に使用されたときに openvpn パッケージとその依存パッケージがインストールされます。

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

 セキュアなネットワーク アクセスのための VPN 接続を設定

必要な項目を入力してください

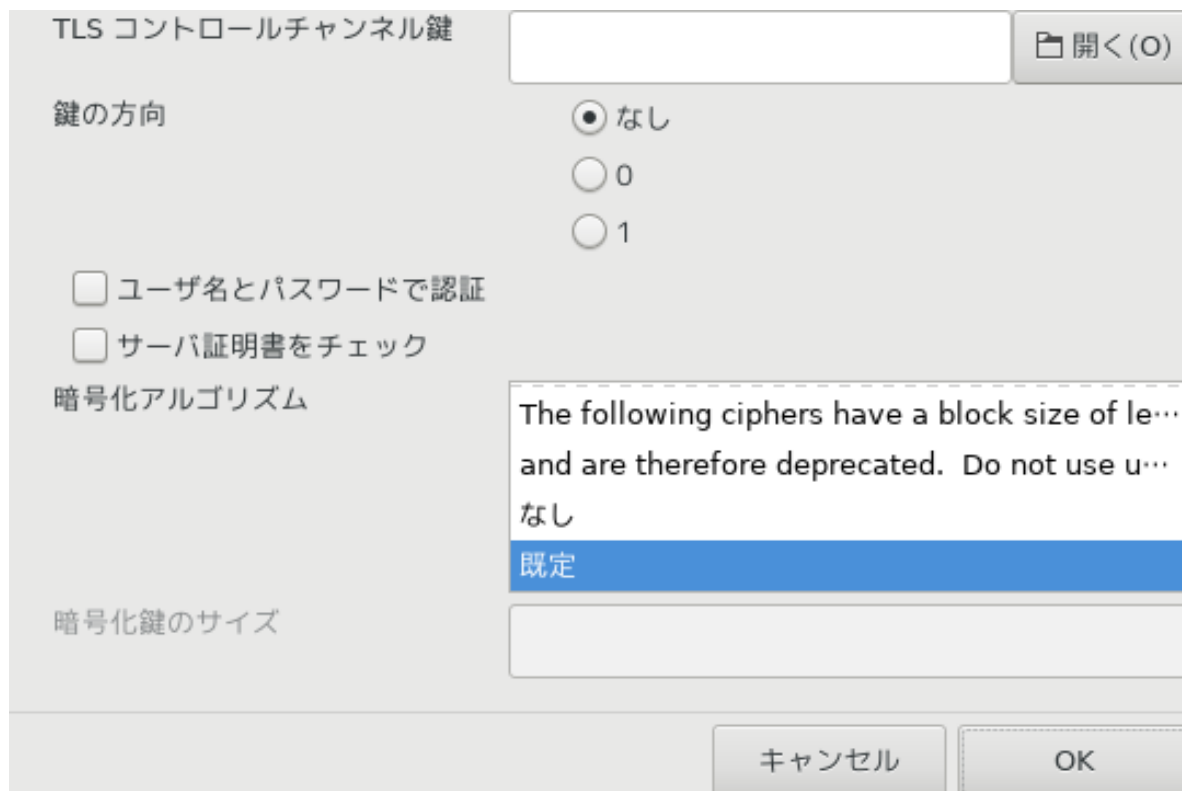
種類	X509 公開鍵インフラストラクチャ	
PKCS #12	<input type="text"/>	開く(O)
認証局 (CA)	<input type="text"/>	開く(O)
証明書	<input type="text"/>	開く(O)
鍵	<input type="text"/>	開く(O)

上級

キャンセル 戻る 次へ

ネットワーク管理者から受け取ったファイルを選択します。

上級パラメータ:



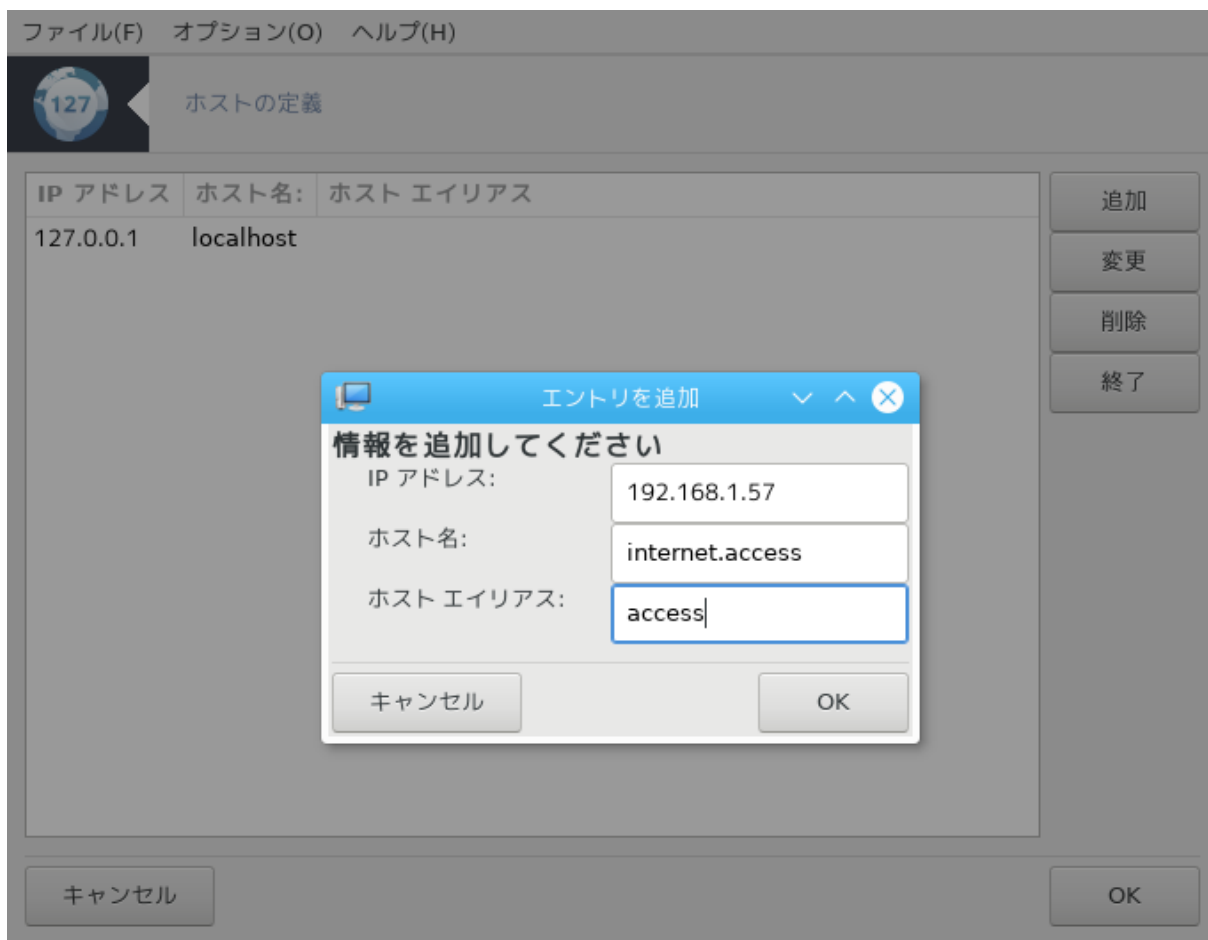
次の画面ではゲートウェイの IP アドレスを訊かれます。

パラメータを設定したら、VPN 接続を開始する項目が現れます。

この VPN 接続はネットワーク接続と同時に自動的に開始するように設定することができます。これを行うには、この VPN へ常に接続されるようにネットワーク接続を再設定します。

6.8. ホストの定義

drakhosts



お使いのネットワーク上の幾つかのシステムがあなたにサービスを提供しており、かつそれらの IP アドレスが固定されている場合、このツール²⁵ はそれらにアクセスするための名前をより簡単に指定できるようにします。つまり、あなたはその名前を IP アドレスの代わりに使用できます。

追加

このボタンを用いて、新しいシステムに対する名前を追加します。IP アドレス、そのシステムのホスト名、任意で名前に同様に使用できるエイリアスを指定するウィンドウが表示されます。

変更

過去に定義したエントリのパラメータにアクセスすることができます。追加時と同じウィンドウが表示されます。

²⁵このツールはコマンドラインから開始でき、drakhosts を root として入力します。

7. システム



この画面では幾つかのシステム ツールや管理ツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

1. システム サービスを管理
 - a. [「認証」](#)
 - b. [「システム サービスの有効・無効を管理」](#)
 - c. [「フォントの管理, 追加, 削除と Windows\(TM\) フォントのインポート」](#)
2. 地域と言語
 - a. [「日付と時間を管理する」](#)
 - b. [「システムの言語を設定する」](#)
3. 管理ツール
 - a. [「システム ログを見る」](#)
 - b. [「管理者として端末を開く」](#)
 - c. [「ユーザとグループ」](#) = システム上のユーザを管理
 - d. [「Windows\(TM\) のドキュメントと設定をインポートする」](#)

7.1. 認証

drakauth



このツール²⁶ではこのマシンもしくはネットワークのユーザとして認識できるようにする方法を変更できます。

既定では、あなたの認証情報はお使いのコンピュータに保存されます。ネットワーク管理者があなたにこれを変更するよう促してその情報を提供した場合にのみこれを変更してください。

7.2. システム サービスの有効・無効を管理

drakxservices

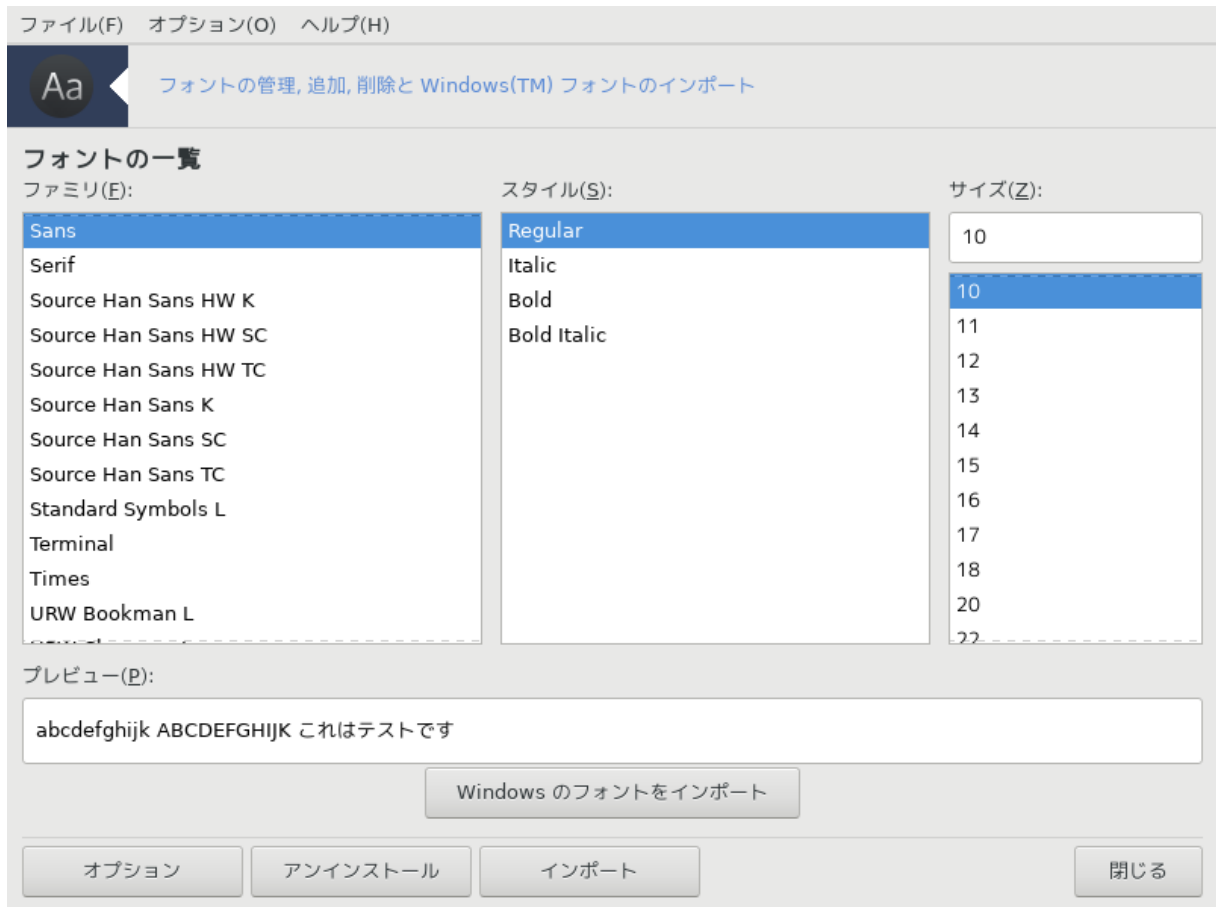
²⁶このツールはコマンドラインから開始でき、drakauth を root として入力します。



このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願ひします。

このツールはコマンド ラインから開始でき、drakxservices を root として入力します。

7.3. フォントの管理, 追加, 削除と Windows(TM) フォントのインポート drakfont



このツール²⁷は Mageia コントロールセンターのシステム タブにあります。これはこのコンピュータで利用できるフォントの管理を可能にします。上のメイン画面は以下を表示しています：

- インストール済みのフォントの名前, スタイル, サイズ。
- 選択されたフォントのプレビュー。
- ここで後述する幾つかのボタン。

Windows のフォントをインポート：

このボタンは Windows のパーティション上で見つかったフォントを自動的に追加します。このためには Microsoft Windows がインストールされていなければなりません。

オプション：

フォントを使用できるようにするアプリケーションやデバイス (主にプリンタ) が指定できます。

アンインストール：

このボタンはインストール済みのフォントを削除したり幾らかの領域を節約したりするためのものです。フォントの削除はこれらを使用しているドキュメントに重大な結果をもたらす可能性があるため、注意して行ってください。

インポート：

サードパーティ (CD, インターネットなど) からフォントを追加できます。サポートされる形式は ttf, pfa, pfb, pcf, pfm, gsf です。インポート ボタンをクリックして追加をクリックすると、

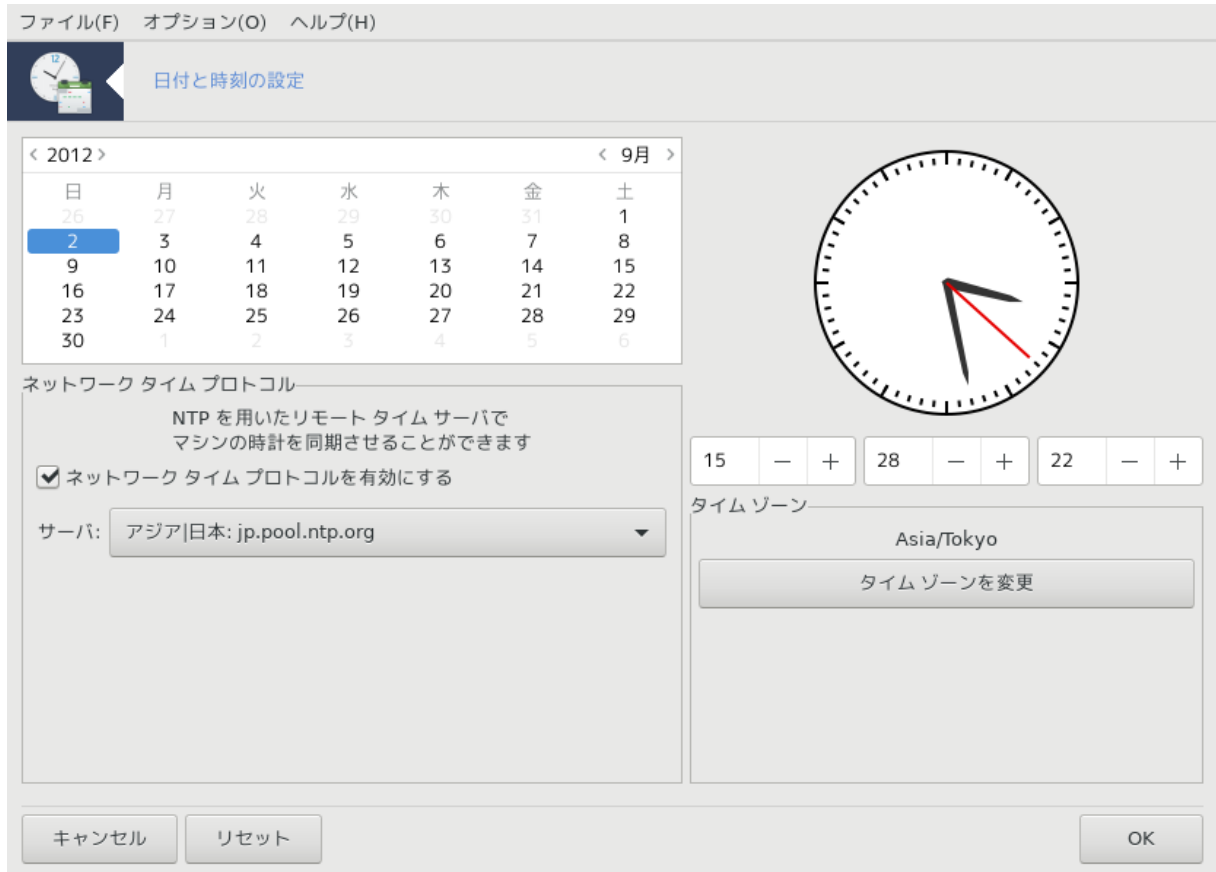
²⁷このツールはコマンドラインから開始でき、drakfont を root として入力します。

ファイル マネージャが現れてインストールするフォントの場所を選択できます。完了したらインストールをクリックします。これらは /usr/share/fonts フォルダにインストールされます。

新しくインストール (もしくは削除) されたフォントが Drakfont のメイン画面に現れない場合、変更を確認するためにこれを閉じた後で開き直してください。

7.4. 日付と時間を管理する

dracklock



このツール²⁸ は Mageia コントロール センターのシステム タブで見つかり、"日付と時刻の設定"と書かれています。幾つかのデスクトップ環境ではシステム トレイ内の時計で右クリック / 日付と時刻の調整 ... とすることでも可能です。

これは非常にシンプルなツールです。

左上部は、カレンダーです。上のスクリーンショットでは、日付は9月(左上), 2012年(右上), 2日(青色)で日曜日となっています。月(もしくは年)を9月(もしくは2012)の両側の小さな矢印をクリックするとこれを選択します。日付はその数字をクリックすることで選択します。

底部はネットワーク タイム プロトコルの同期で、サーバに同期することで時計を常に合わせ続けることができます。ネットワーク タイム プロトコルを有効にするをチェックして最寄りのサーバを選択します。

右部は時計です。NTP が有効になっている場合は時計を設定するためには役に立ちません。三つのボックスがあり、時分秒が表示されています(スクリーンショットでは15, 28, 22)。時計を正しい時刻に設定するには小さな矢印を使用します。フォーマットはここでは変更できません。お使いのデスクトップ環境の設定を参照してください。

²⁸このツールはコマンド ラインから開始でき、dracklock を root として入力します。

少なくとも、右下部では、タイムゾーンを変更ボタンをクリックして最寄りの町を一覧から選択することでタイムゾーンを選択します。



日付と時刻のフォーマットをこのツールで選択できないとしても、これらはお使いのデスクトップでロケール設定に従って表示されます。

7.5. システムの言語を設定する

localedrake



このツール²⁹は Mageia コントロールセンター (MCC) のシステム セクションで見つかり、"システムの言語を設定" と書かれています。これは言語を選択するウィンドウを開きます。選択された言語はインストールの間の言語に適用されます。

上級ボタンを用いると古いエンコーディング (非 UTF8) の互換性を有効化する選択が可能です。

二番目のウィンドウは選択された言語に従って国の一覧を表示します。ボタン他の国を用いると一覧にない国を選択できます。

変更を行った後はセッションを開始し直す必要があります。

²⁹このツールはコマンドラインから開始でき、localedrake を root として入力します。

7.5.1. 入力メソッド

他の国画面では入力メソッドの選択も行えます（一覧の下にあるドロップ ダウン メニューから）。入力メソッドはユーザが複数言語の文字（中国語、日本語、韓国語など）を入力できるようにします。

アジアとアフリカのロケールでは、IBus が既定の入力メソッドとして設定されるため、ユーザは手動でこれを設定する必要はありません。

他の入力メソッド (SCIM, GCIN, HIME など) も同様の機能を提供します。ドロップ ダウン メニューにない場合、Mageia コントロール センターの別の場所でインストールすることが可能です。[「ソフトウェアの管理 \(ソフトウェアの追加と削除\)」](#) を参照してください。

7.6. システム ログを見る

logdrake

このツール³⁰ は Mageia コントロール センターのシステム タブで見つかり、"システム ログを見る" と書かれています。

7.6.1. ログの内容を検索する

最初に、検索文字列を以下に一致するフィールドに入力し、結果から除外したい文字列をかつ以下に一致しないフィールドに入力します。次に、検索対象のファイルを、ファイルを選択フィールドで選択します。更に、任意で検索を特定の日に限定することもできます。月と年のそれぞれ

³⁰このツールはコマンド ラインから開始でき、logdrake を root として入力します。

のそばにある小さな矢印を使用して日付をカレンダーで選択し、"指定した日の分だけを表示" にチェックします。最後に、検索ボタンを押すとファイルの内容というウィンドウに結果が表示されます。結果は保存ボタンをクリックすることで .txt 形式で保存することができます。



Mageia ツールのログは Mageia コントロール センターのツール群のような Mageia の設定ツールからのログを保管しています。これらのログは設定が変更されるたびに更新されます。

7.6.2. メール警告を設定する

メール警告は自動的にシステムの負荷やサービスを一時間ごとにチェックし、必要があれば設定されたアドレスにメールを送信します。

このツールを設定するには、メール警告ボタンをクリックし、次の画面で、メール警告システムを設定のドロップ ダウン ボタンをクリックします。ここで、すべての実行中のサービスが表示され、監視したいものを選択することができます (上のスクリーンショットを参照)。

以下のサービスが監視できます:

- Webmin サービス
- Postfix メール サーバ
- FTP サーバ
- Apache WWW サーバ
- SSH サーバ
- Samba サーバ
- Xinetd サービス
- BIND ドメイン名の解決

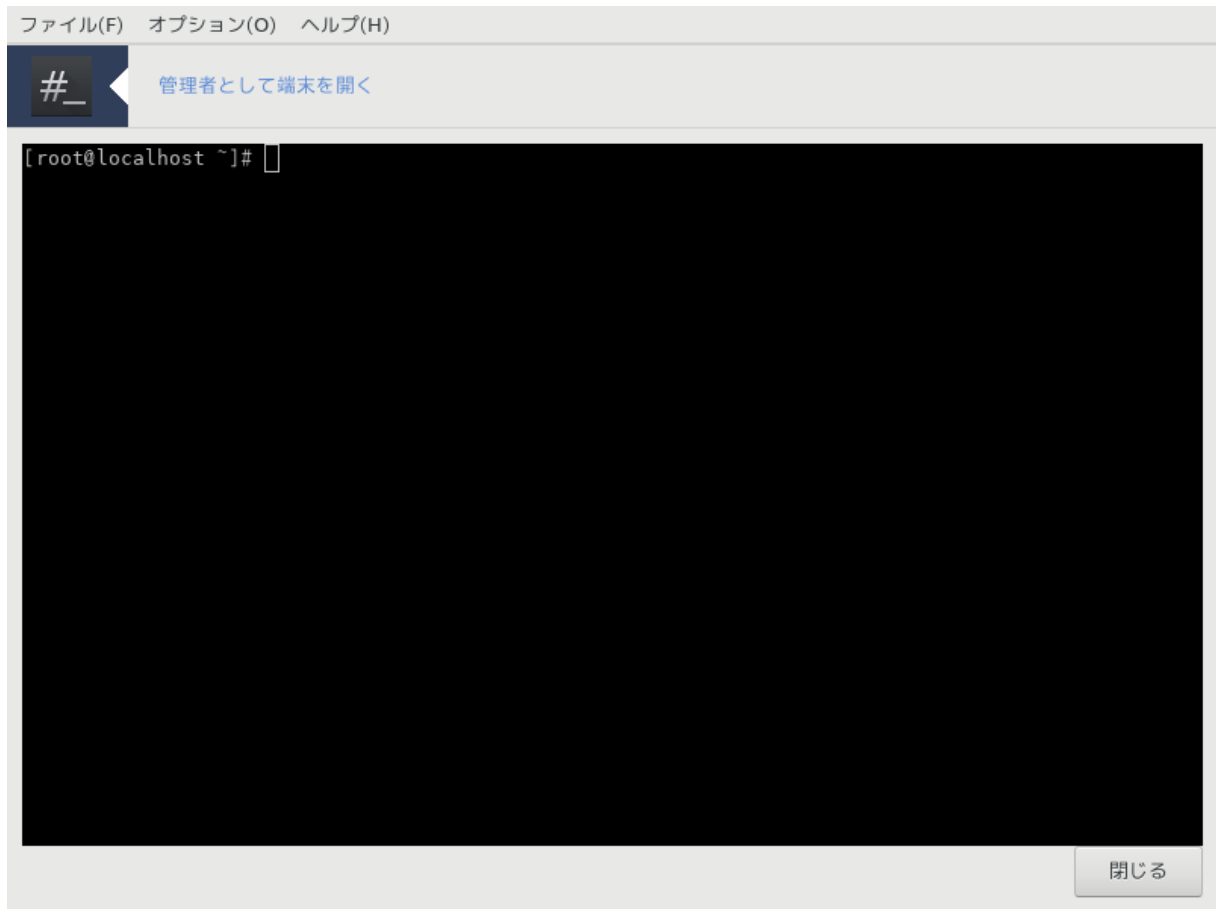


次の画面では、あなたが許容できないと考えるロード値を選択します。ロードはプロセスへの要求を表し、高くなるとシステムが低速になり、非常に高くなるとプロセスが制御不能になったことを示すかもしれません。既定値は3です。ロード値はプロセッサ数の3倍に設定することを推奨します。

最後の画面では、警告を受け取る人のメール アドレスと使用するメール サーバ (ローカルかインターネット上) を入力します。

7.7. 管理者として端末を開く

drakconsole

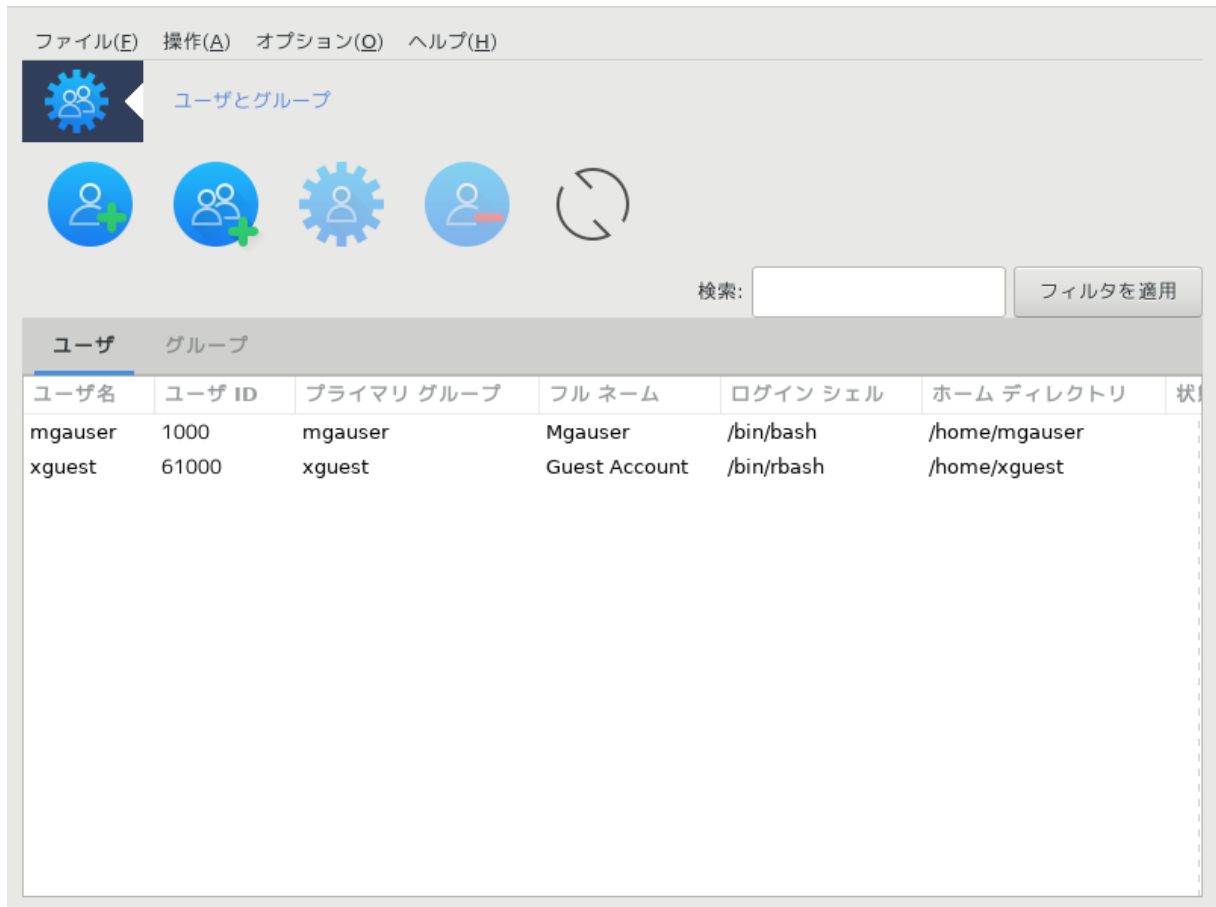


このツール³¹では root として直接端末を開くことができます。それ以上の情報は必要ないでしょう。

7.8. ユーザとグループ

userdrake

³¹このツールはコマンド ラインから開始でき、drakconsole を root として入力します。



このツール³²は Mageia コントロール センターのシステム タブで見つかり、"システムのユーザを管理" と書かれています。

このツールは管理者がユーザとグループを管理できるようにし、これはユーザやグループの追加と削除およびユーザやグループの設定 (ID, シェルなど) の変更を意味します。

userdrake が開かれているとき、システム上に存在するすべてのユーザはユーザ タブに一覧表示され、すべてのグループはグループ タブに一覧表示されます。両方のタブは同様に動作します。

1 ユーザを追加

このボタンは空の入力欄を複数含んだ新しいウィンドウを開きます:

³²このツールはコマンド ラインから開始でき、userdrake を root として入力します。

新規ユーザを作成

フルネーム: john smith

ログイン: jsmith

パスワード: ●●●●●●●●

パスワードを確認: ●●●●●●●●

ログインシェル: /bin/bash

ホームディレクトリを作成
ホームディレクトリ: /home/jsmith

このユーザ専用のグループを作成
 ユーザ ID を手動で指定

UID: 1000 - +

変更するにはアイコンをクリック 

キャンセル OK

フルネームは苗字と下の名前のための入力欄として意図されていますが、別の何かや空白でも問題ありません!

入力が必要な欄はログインのみです。

パスワードを設定することは強く推奨されます。右には小さな盾があり、これが赤い場合、パスワードは弱く、短すぎるかログイン名に近すぎます。数字、大文字と小文字のアルファベット、記号などを使用してください。盾はパスワードの強度が上がるにつれてオレンジそして緑に変わります。

パスワードを確認の入力欄は意図したものを入力したことを保証するためのものです。

ログインシェルは追加するユーザによって用いられるシェルを変更できるドロップダウンリストで、選択肢は Bash, Dash, Sh です。

このユーザ専用のグループを作成は、チェックした場合に自動的に同名のグループを作成し、新しいユーザだけをそのメンバとします (これは編集できます)。

他の項目は分かりやすいものです。OK をクリックすると新しいユーザがすぐに作成されます。

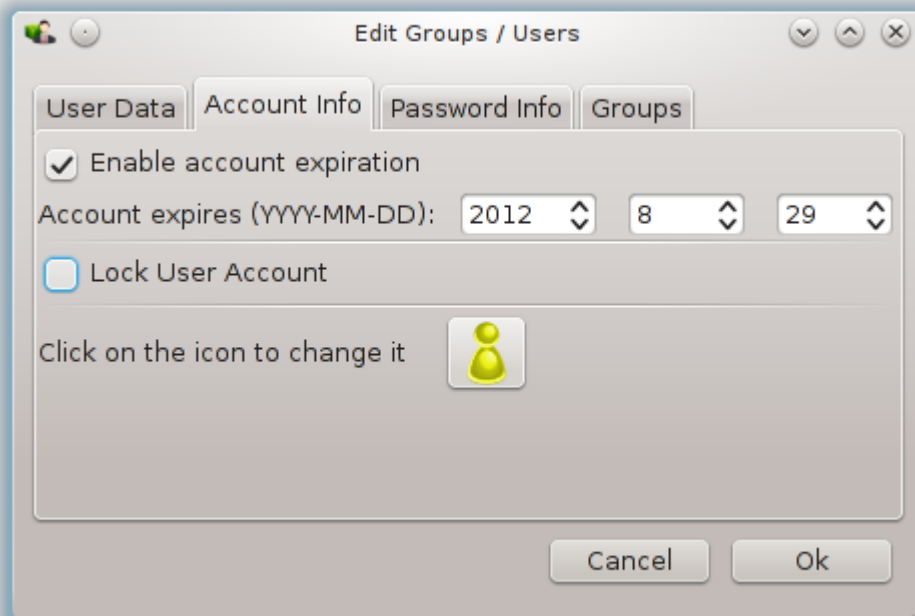
2 グループを追加

新しいグループ名のみを入力する必要があり、必要であれば、グループ ID を追加で指定します。

3 編集 (選択したユーザ)

ユーザのデータ: ユーザの作成時に指定されたすべてのデータを変更することができます (ID は変更できません)。

アカウントの情報:

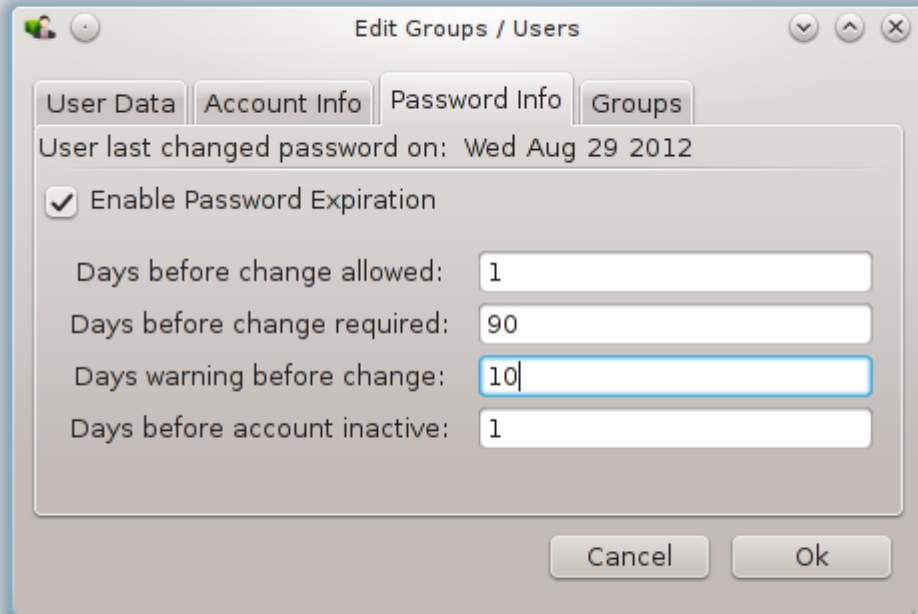


最初の項目はアカウントの有効期限を設定するためのものです。この日より後にはログインできません。これは一時的なアカウントで有用です。

二つめの項目はアカウントをロックするためのもので、アカウントがロックされている限りはログインできません。

アイコンを変更することもできます。

パスワードの情報: パスワードの有効期限を設定でき、これはユーザに自分のパスワードを定期的に変更させます。



グループ: ここでそのユーザがメンバとなっているグループを選択できます。



ログイン中のユーザ アカウントを変更している場合、変更は次回のログインまで適用されません。

4 編集 (選択したグループ)

グループのデータ: グループ名を変更できます。

グループのユーザ: ここでグループのメンバのユーザを選択できます。

5 削除

ユーザかグループを選択し、削除をクリックして削除します。ユーザの場合、ウィンドウが現れてホーム ディレクトリとメール箱も削除するかを質問します。ユーザ専用のグループが作成されている場合、同様に削除されます。



空でないグループを削除することもできます。

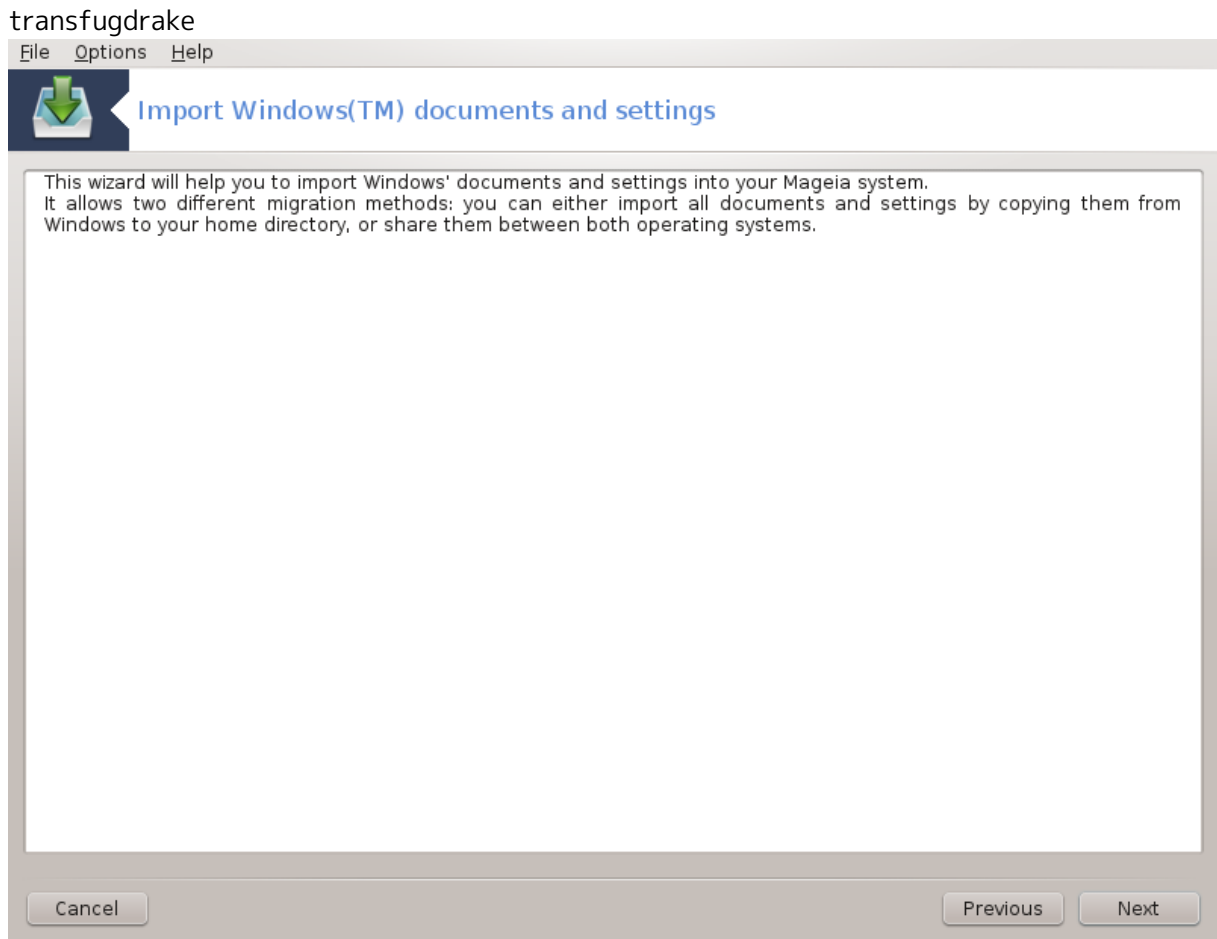
6 再読み込み

ユーザ データベースは Userdrake の外側で変更される可能性があります。このアイコンをクリックすると表示を更新します。

7 ゲスト アカウント

ゲストは特別なアカウントです。これは誰かに対して十分安全にシステムの一時的な使用を許可するように意図されています。ログイン名は xguest で、パスワードはなく、このアカウントからシステムに対する変更は行えません。個人のディレクトリはセッションの終わりに削除されます。このアカウントは既定で有効で、無効にするには、メニューの操作 -> ゲスト アカウントをアンインストールをクリックします。

7.9. Windows(TM) のドキュメントと設定をインポートする



このツール³³ は Mageia コントロール センターのシステム タブで見つかり、Windows(TM) のドキュメントと設定をインポートと書かれています。

このツールでは管理者がユーザのドキュメントや設定を Windows® 2000, Windows® XP, Windows® Vista™ から同一コンピュータ上の Mageia にインポートすることができます。



次へを押した後、すべての変更は transfugdrake によってすぐに適用されます。

transfugdrake の開始後にこのツールとインポート項目についての幾つかの説明を含んだ最初のウィザード ページが表示されます。

解説を読んで理解したら、すぐに次へボタンを押します。これはWindows® の検出を実行するでしょう。

³³このツールはコマンド ラインから開始でき、transfugdrake を root として入力します。

検出の段階が完了すると、インポート手順のために Windows® と Mageia のアカウントを選択できるページが表示されます。自分のユーザ アカウント以外を選択することもできます。

File Options Help

Import Windows(TM) documents and settings

Multiple users have been detected, please select a user in the list below.

Windows user:

Linux user:

Cancel Previous Next



移行アシスタント (transfugdrake のバックエンド) の制約により Windows® の特別なシンボルのあるユーザ アカウント名が正しく表示されない可能性があるということを考慮してください。

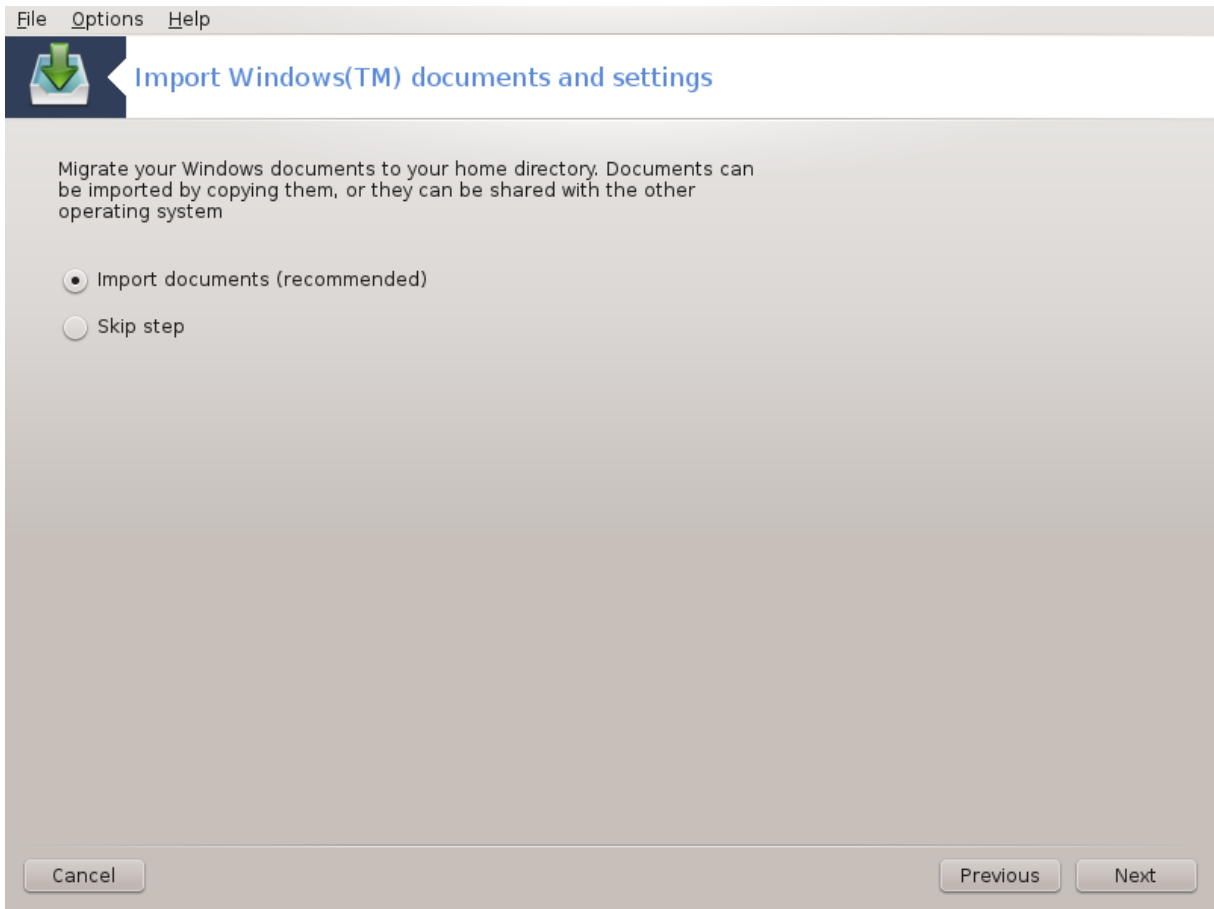


移行にはドキュメントのフォルダのサイズによってしばらく時間がかかるかもしれません。



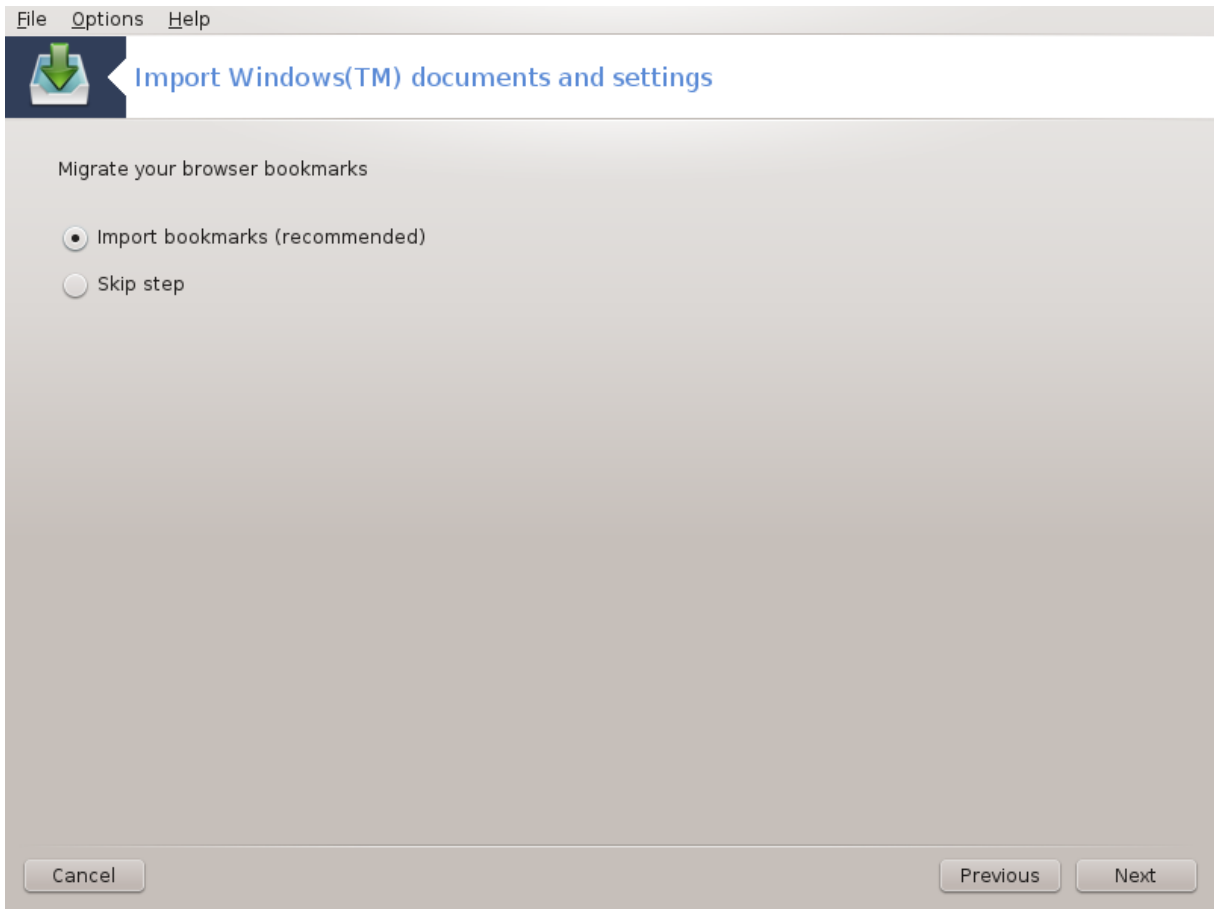
幾つかの Windows® アプリケーション (特にドライバ) は異なる目的のユーザ アカウントを作成する場合があります。例えば、Windows® の NVidia ドライバは UpdatusUser を用いて更新されます。このようなアカウントはインポートの目的で使用しないでください。

アカウントの選択を終えた後は次へボタンを押します。次のページはドキュメントをインポートする方法を選択するのに用いられます:



Transfugdrake は Windows® のデータをマイ ドキュメント、マイ ミュージック、マイ ピクチャ フォルダからインポートするように設計されています。このウィンドウでは適切な項目を選択することでインポートをスキップすることも可能です。

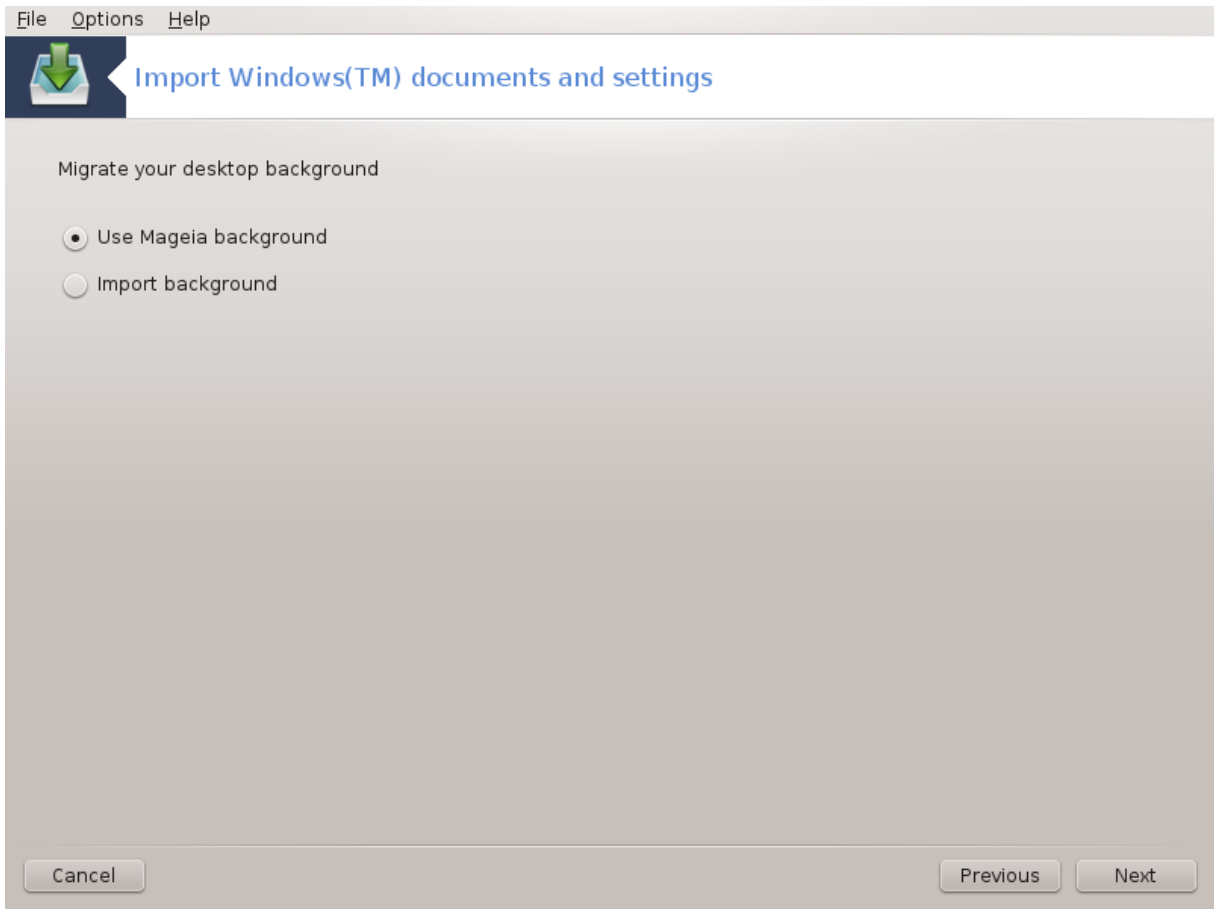
ドキュメントのインポート方法の選択が完了したら、次へボタンを押します。次のページはブックマークをインポートする方法を選択するのに用いられます:



Transfugdrake は Internet Explorer や Mozilla Firefox のブックマークを Mageia の Mozilla Firefox にインポートすることができます。

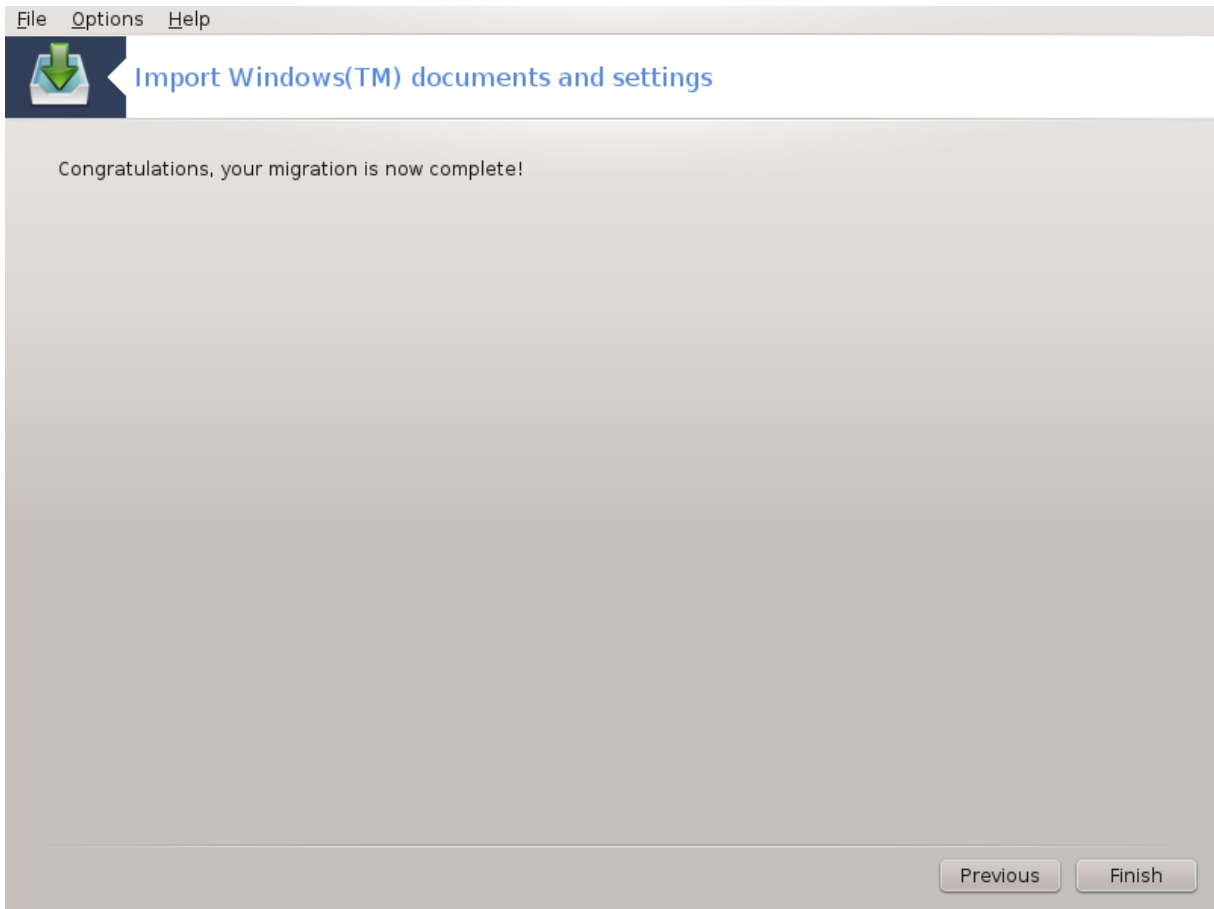
お好みのインポート項目を選択して次へボタンを押します。

次のページではデスクトップの背景をインポートできます：



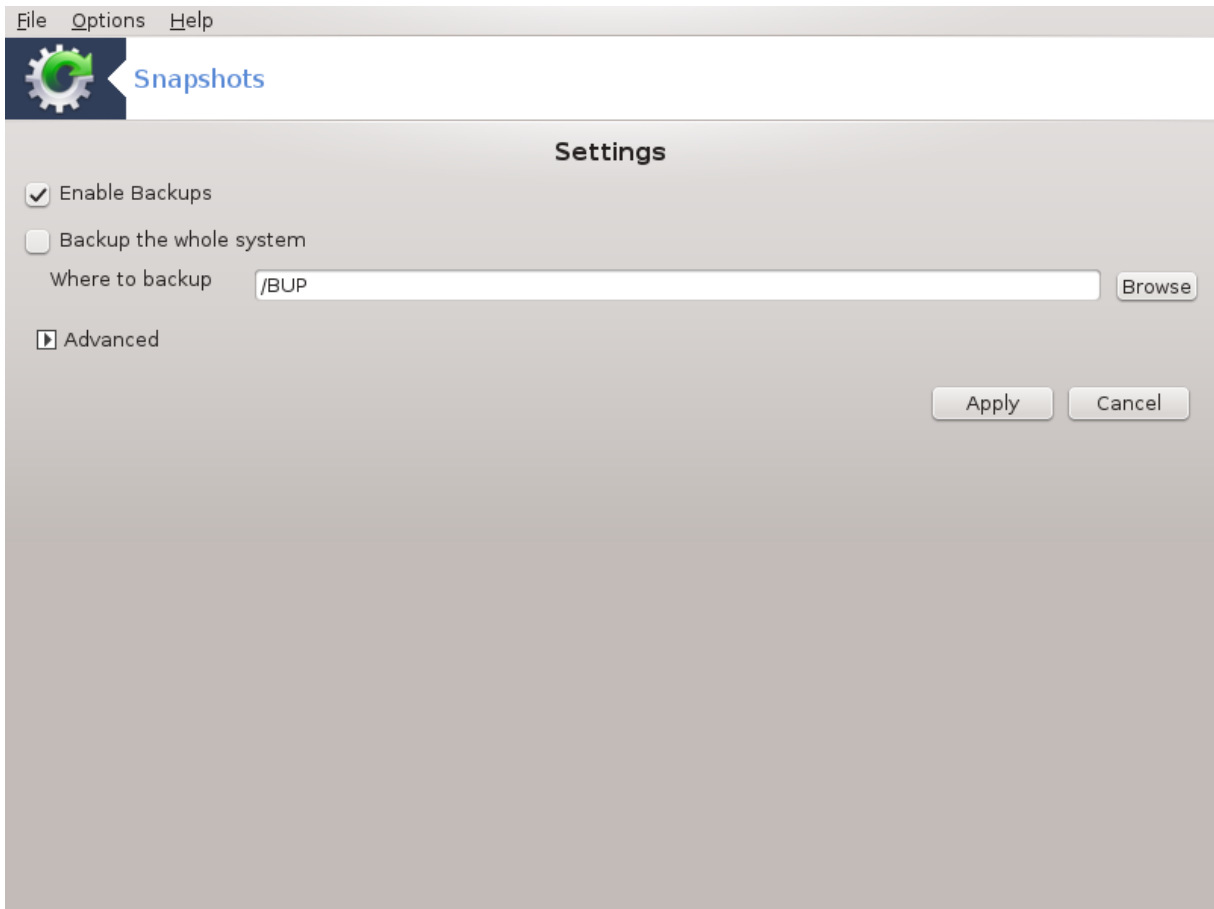
お好みの項目を選択して次へボタンを押します。

ウィザードの最終ページでは幾つかのおめでとうメッセージが表示されます。そのまま完了ボタンを押します。



7.10. スナップショット

draknsnapshot-config



このツール³⁴はMCCのシステムタブの管理ツールセクションで利用できます。

MCC内のこのツールを最初に開始する際、draknsnapshotのインストールについてのメッセージが表示されます。続行するにはインストールをクリックします。Draknsnapshotと幾つかの他の必要なパッケージがインストールされます。

スナップショットを再度クリックすると、設定画面が表示されます。バックアップを有効にするにチェックし、システム全体をバックアップしたい場合は、システム全体をバックアップにチェックします。

あなたのディレクトリの一部だけをバックアップしたい場合、上級を選択します。小さなポップアップ画面が現れます。バックアップ対象のディレクトリやファイルの追加や削除をするにはバックアップの一覧の隣にある追加と削除のボタンを使用します。除外の一覧の隣にある同様のボタンはサブディレクトリや中のファイルを除外するのに使用し、これらはバックアップには含まれません。完了したら閉じるをクリックします。

今度はバックアップ先のパスを指定するか、参照ボタンで正しいパスを選択します。マウント済みのUSBキーや外部HDは/run/media/your_user_name/の中で見つかります。

適用をクリックするとスナップショットを作成します。

³⁴このツールはコマンドラインから開始でき、draknsnapshot-configをrootとして入力します。

8. ネットワーク共有



この画面ではドライブやディレクトリの共有を行うための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

1. Windows(R) 共有の設定

- [「Windows \(Samba\) 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする」](#)
- [「ディレクトリやドライブを Samba で共有する」](#) = Windows (SMB) システムとドライブやディレクトリを共有

2. NFS 共有の設定

- [「NFS 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする」](#)
- [「NFS を使ってドライブ/ディレクトリを共有する」](#)

3. WebDAV 共有の設定

- [「WebDAV 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする」](#)

8.1. Windows (Samba) 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする

```
diskdrake --smb
```

8.1.1. はじめに

このツール³⁵では共有ディレクトリを同一マシンのすべてのユーザからアクセスできるようになることを示すことができます。これに使用されるプロトコルはSMBで、Windows(R)システムで普及しているものです。共有ディレクトリはブート時から直接利用できます。共有ディレクトリはユーザがファイルブラウザのようなツールで単一のセッションで直接アクセスすることもできます。

このツールを開始する前に、利用可能なサーバの名前を「[ホストの定義](#)」などで付けておくといでしょう。

8.1.2. 手順

サーバを検索を選択すると、ディレクトリを共有しているサーバの一覧が得られます。

サーバ名とその前にある>をクリックすると共有ディレクトリの一覧が表示され、アクセスしたいディレクトリを選択します。

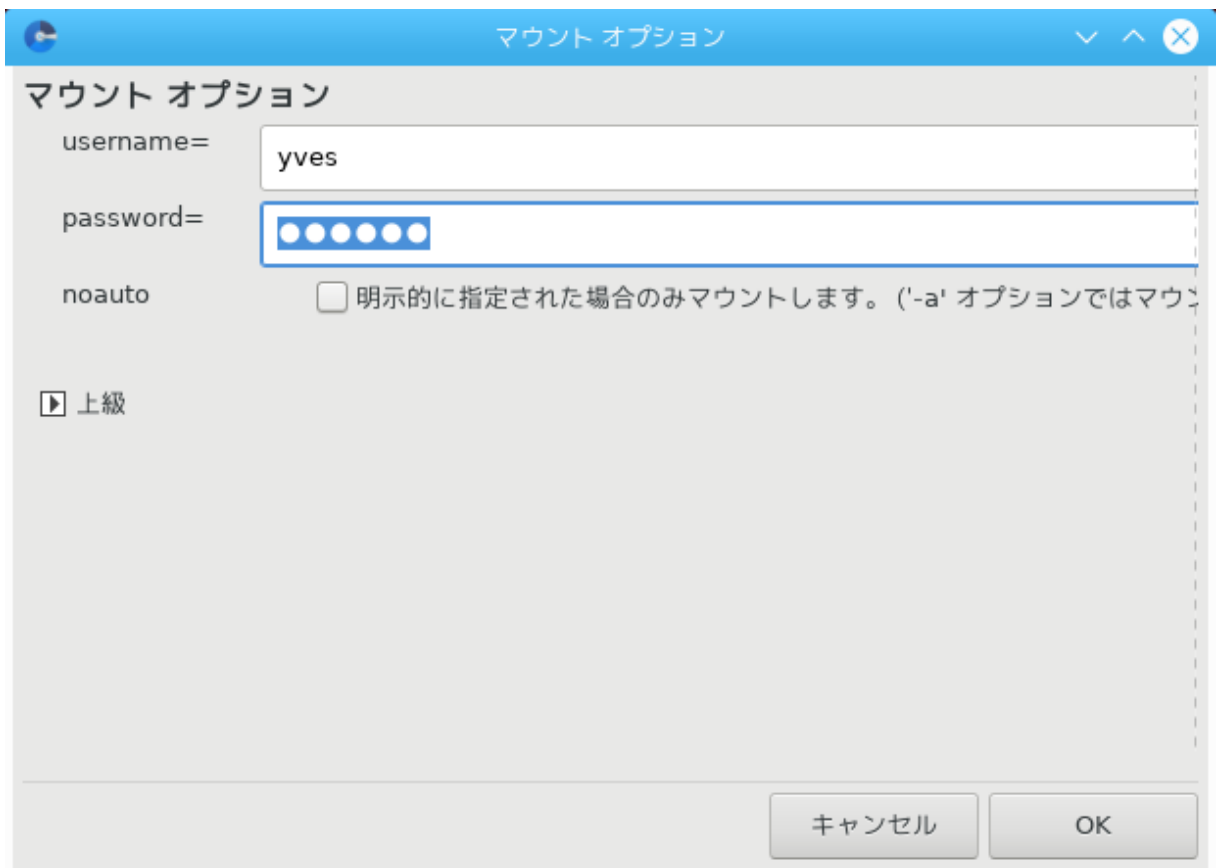
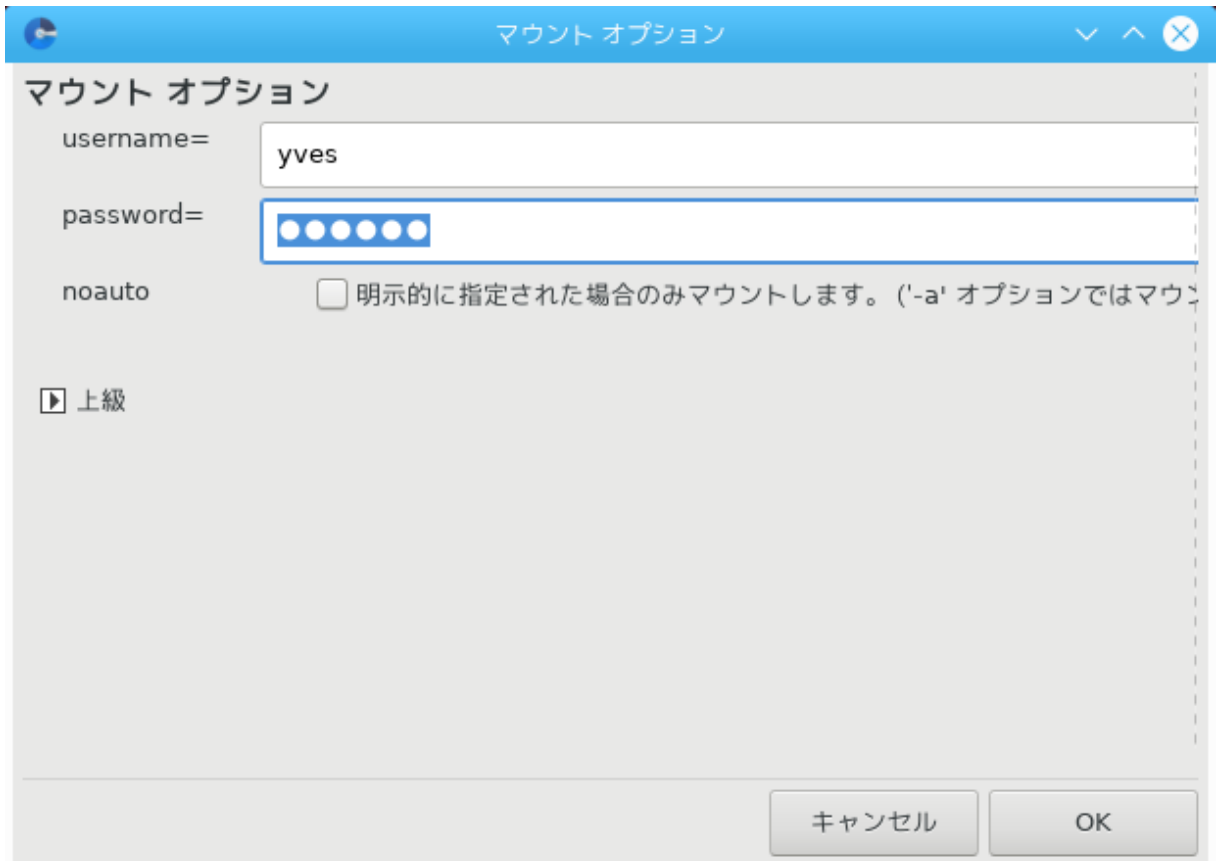
マウント ポイント ボタンが押せるようになり、ディレクトリをマウントする場所を指定する必要があります。



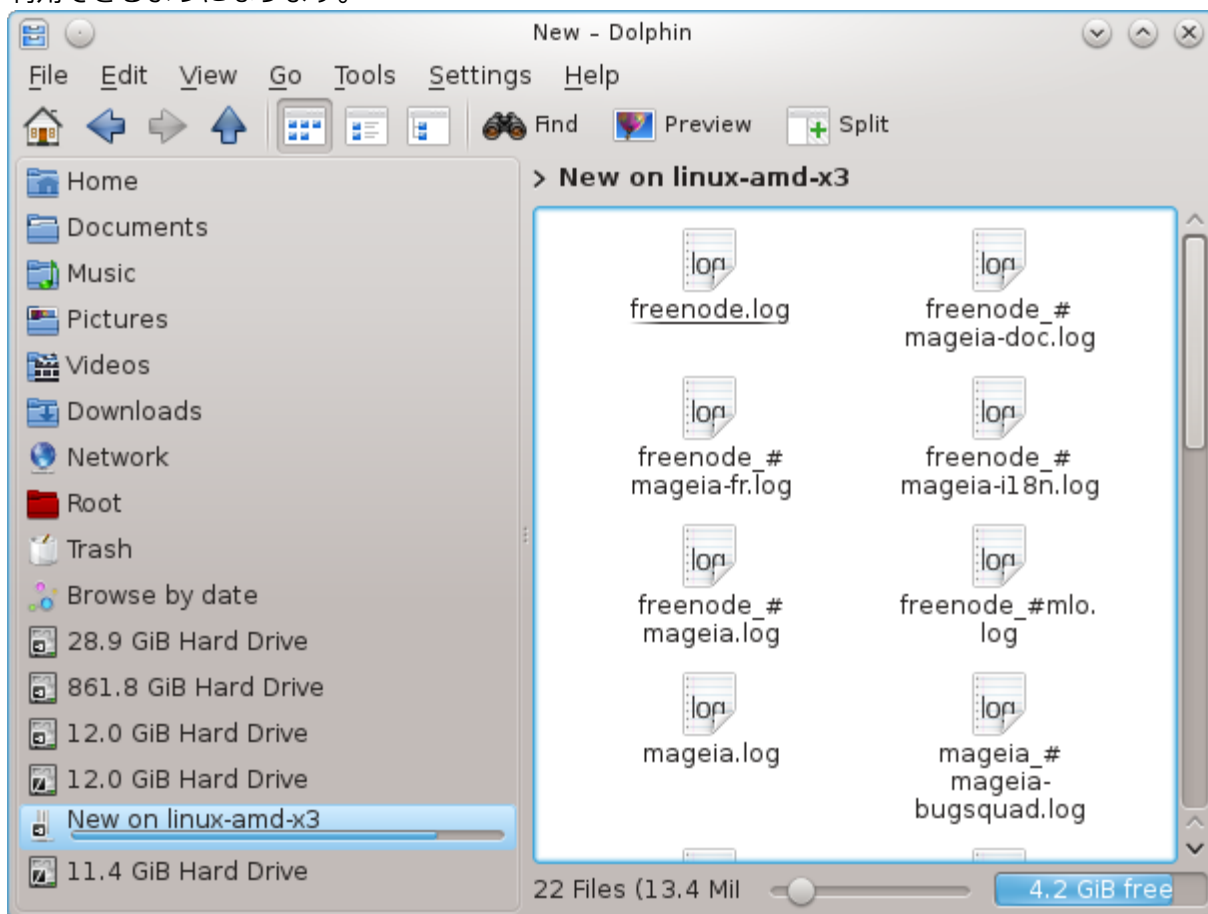
マウント ポイントを選択した後、マウント ボタンでこれをマウントできます。オプション ボタンでは幾つかのオプションの確認や変更も行えます。

オプションでは、SMB サーバに接続するためのユーザ名とパスワードを指定することができます。ディレクトリをマウントした後は、同じボタンでマウント解除ができます。

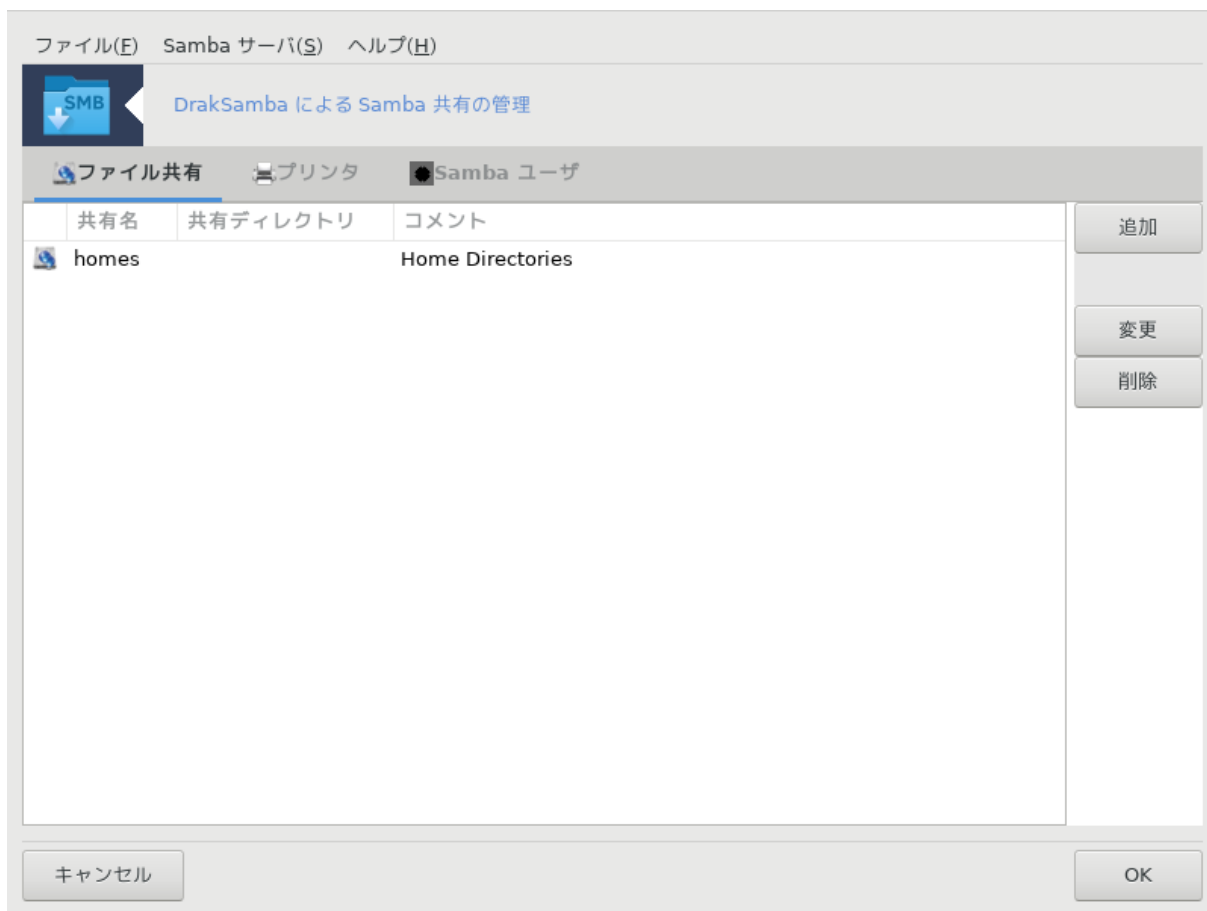
³⁵このツールはコマンド ラインから開始でき、`diskdrake --smb` を root として入力します。



完了 ボタンで設定を受け入れると、メッセージが表示されて "/etc/fstab の変更を保存しますか?" と質問されます。これはネットワークが利用できる場合にこのディレクトリをブートのたびに利用可能にします。新しいディレクトリはその後 Dolphin などのお使いのファイル ブラウザで利用できるようになります。



8.2. ディレクトリやドライブを Samba で共有する draksambashare



8.2.1. はじめに

Samba は異なるオペレーティング システム間でディレクトリやプリンタのようなリソースを共有するのに用いられるプロトコルです。このツールではこのマシンを SMB/CIFS プロトコルを用いる Samba サーバとして設定することができます。このプロトコルは Windows(R) でも用いられており、この OS のワークステーションは Samba サーバのリソースにアクセスすることができます。

8.2.2. 準備

他のワークステーションからアクセスされるためには、サーバは固定 IP アドレスを持つ必要があります。これはサーバ上で「[ネットワークセンター](#)」などによって直接指定でき、もしくは MAC アドレスでワークステーションを識別する DHCP サーバでは常に同じアドレスを提供します。また、ファイアウォールが Samba サーバへの外部からの要求を許可する必要もあります。

8.2.3. ウィザード - スタンドアロン サーバ

初回実行時、このツール群³⁶ は必要なパッケージがインストール済みかをチェックし、まだない場合にはインストールするように提案します。その後 Samba サーバの設定ウィザードが起動します。

³⁶このツールはコマンド ラインから開始でき、draksambashare を root として入力します。



今回初めてこのツールを起動したようです。
Samba サーバの基本的な設定を行うための
ウィザードが表示されます。

OK

次のウィンドウで、スタンドアロン サーバの設定は既に選択されています。

Samba サーバ設定ウィザード

Samba によって、あなたのサーバを Linux 以外のワークステーションから利用できるファイルおよびプリンタサーバにすることができます。

- PDC - プライマリドメインコントローラ
- スタンドアロン - スタンドアロンサーバ

キャンセル

OK

次にワークグループ名を指定します。この名前は共有リソースへのアクセスのために同じものにしてください。

netbios 名はネットワーク上でサーバを示す名前です。

ワークグループ

Samba はサービスを提供する Windows のワークグループを知る必要があります。

ワークグループ:

MGAGROUP

Netbios 名:

PicturesServer

キャンセル

OK

セキュリティ モードを選択します:

- ユーザ: クライアントはリソースにアクセスするために認証しなければなりません
- 共有: クライアントは各共有ごとに別々に認証を行います

リソースにアクセスできるホストを IP アドレスもしくはホスト名で指定できます。

セキュリティ モード

ユーザ レベル: クライアントは、プロトコル ネゴシエーションの直後にセッション セットアップ要求を送ります。この要求には、ユーザ名とパスワードが含まれます。
共有レベル: クライアントは各共有ごとに認証を行います
ドメイン レベル: すべてのユーザとグループのアカウントを一ヶ所の共有されたアカウント リポジトリに保存する仕組みを提供します。中心のアカウント リポジトリはドメイン (セキュリティ) コントローラ間で共有されます。

セキュリティ モード

許可するホスト

サーバのバナーを指定します。バナーはこのサーバを Windows ワークステーション内で説明する方法です。

サーバのパナーです。

パナーは、Windows のワークステーションに対して、このサーバに関する情報を提供します。

パナー:

キャンセル OK

Samba が情報を記録可能な場所は次のステップで指定できます。

Samba ログ

ログ ファイル: 接続マシンごとにログ ファイルを分けるために file.%m を使用します
ログ レベル: ログ レベル (冗長さ) を 0 から 10 の値で設定します
ログの最大サイズ: ログ ファイルの最大サイズを制限します (単位: Kb)。

ログ ファイル:

ログの最大サイズ:

ログ レベル:

キャンセル OK

設定を受け入れる前に、ウィザードは選択されたパラメータの一覧を表示します。受け入れた場合、設定は /etc/samba/smb.conf に書き込まれます。

ウィザードは Samba を設定するために以下のパラメータを収集しました。

これらの値でサーバを設定する場合は「次へ」を、値を訂正する場合は「戻る」をクリックしてください。

以前幾つかの共有を作成している場合、それらはこの設定の中に現れます。

Samba の種類:	スタンドアロン - スタンドアロン サーバ
ワークグループ:	MGAGROUP
サーバのパナー:	MageiaPicturesShare (Samba Server %v)
ログ ファイル:	/var/log/samba/%m.log

上級

キャンセル OK

8.2.4. ウィザード - プライマリ ドメイン コントローラ

PDC サーバ: プライマリ ドメイン コントローラ

PDC として設定されたサーバは、ドメイン全体で Windows の認証を行います。単一のサーバのインストールは smbpasswd もしくは tdbsam のパスワード バックエンドを使用するかもしれません

Domain master = yes を設定し、サーバに NetBIOS 名 を登録させます。この名前は他のサーバに認識されます。

Wins サポート:

管理者ユーザ:

OS レベル: 128

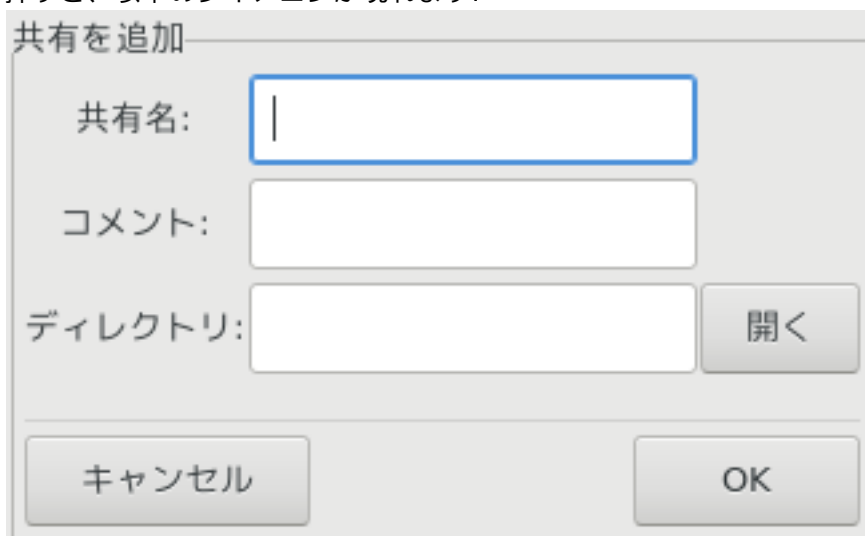
キャンセル OK

"プライマリドメインコントローラ"が選択されている場合、ウィザードはWinsをサポートするかどうかと管理者ユーザの名前を指定するよう求めます。これに続いて、スタンドアロンサーバと同様のステップが続きますが、セキュリティモードを選択できる点が異なります:

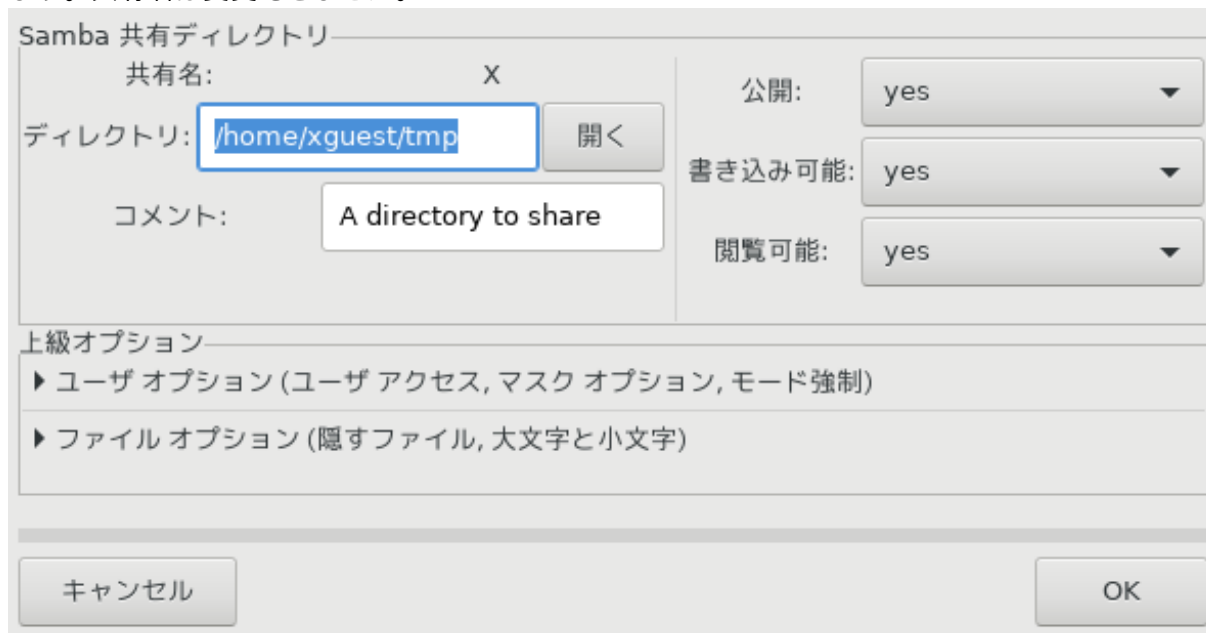
- ドメイン: すべてのユーザとグループのアカウントを中央の共有されたアカウントリポジトリに格納する仕組みを提供します。この集中アカウントリポジトリは(セキュリティ)コントローラ間で共有されます。

8.2.5. ディレクトリを共有する

追加ボタンを押すと、以下のダイアログが現れます:



新しいエントリがこのように追加されます。これは変更ボタンで変更することができます。ディレクトリが全員に見えるようにするかどうかも、書き込み可能や閲覧可能といった項目が編集できます。共有名は変更できません。



8.2.6. メニュー エントリ

一覧に一つ以上のエントリがあるときに、メニューのエントリが使用できます。

ファイル|設定を書き込む。 現在の設定を /etc/samba/smb.conf に保存します。

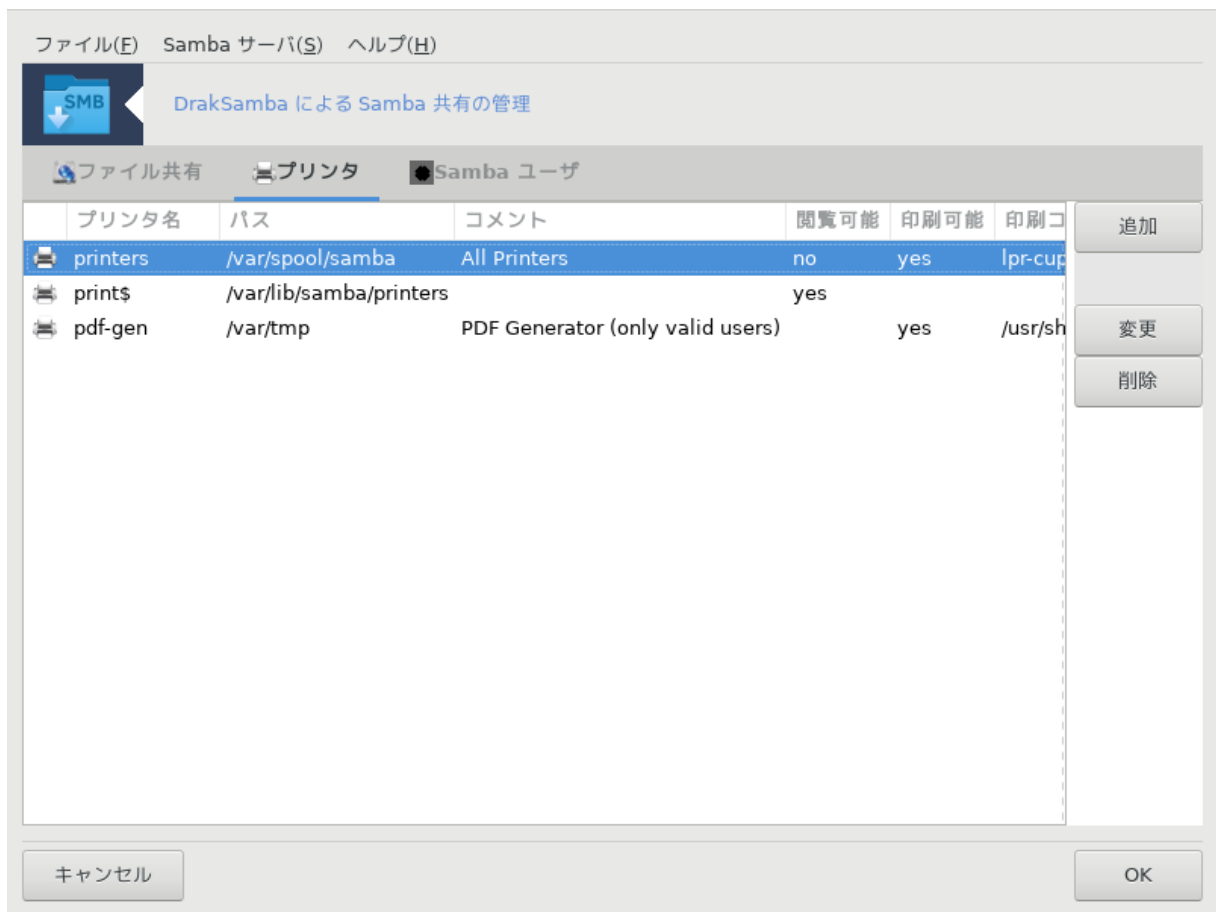
Samba サーバ|設定。 このコマンドにより、ウィザードを再度実行できます。

Samba サーバ|再起動。 サーバを停止した後、現在の設定ファイルを用いて再起動します。

Samba サーバ|再読み込み。 表示されている設定は現在の設定ファイルから再読み込みされます。

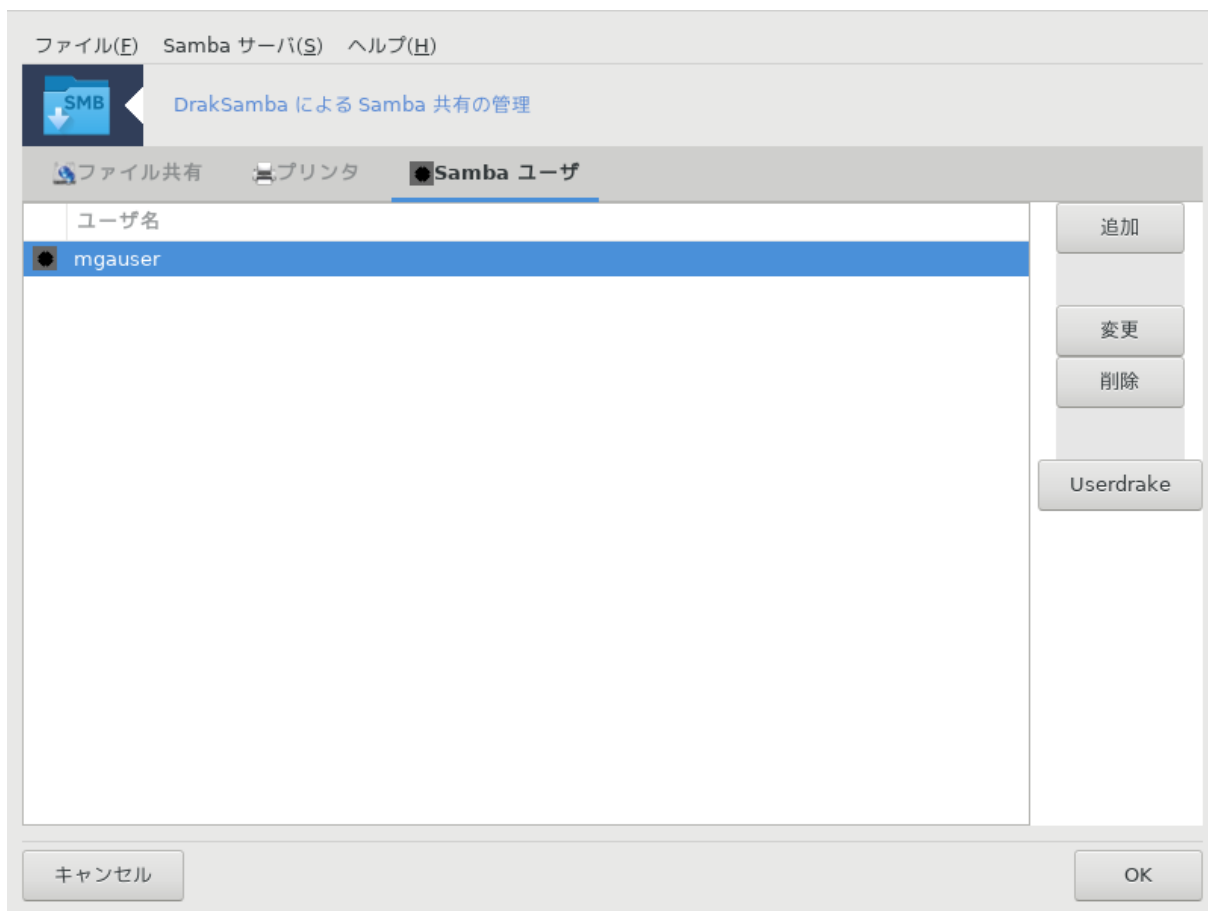
8.2.7. プリンタの共有

Samba はプリンタを共有することもできます。



8.2.8. Samba のユーザ

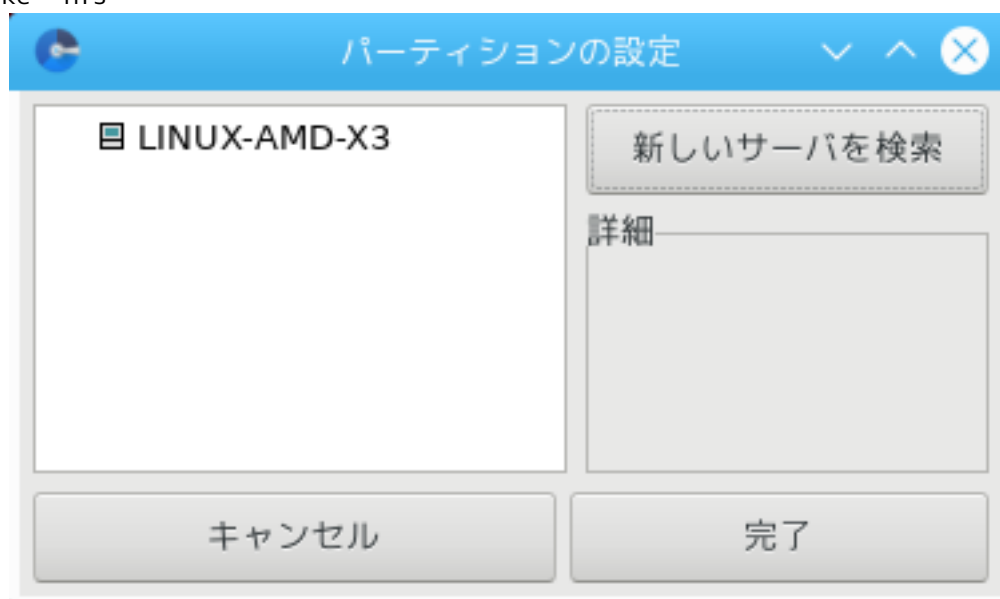
このタブでは、認証が必要な場合に共有リソースにアクセス可能なユーザを追加できます。ユーザは [「ユーザとグループ」](#)



から追加できます。

8.3. NFS 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする

diskdrake --nfs



8.3.1. はじめに

このツール³⁷では幾つかの共有ディレクトリを同一マシンのすべてのユーザからアクセス可能であることを示すことができます。これに使用されるプロトコルは NFS で、大部分の Linux や Unix システムで利用可能です。共有ディレクトリはブート時から前述した通りに利用できるようになります。共有ディレクトリはユーザがファイル ブラウザのようなツールで単一のセッションで直接アクセスすることもできます。

8.3.2. 手順

サーバを検索を選択するとディレクトリを共有するサーバの一覧を取得します。

サーバ名の前の > シンボルをクリックすると共有ディレクトリの一覧が表示され、アクセスしたいディレクトリを選択します。



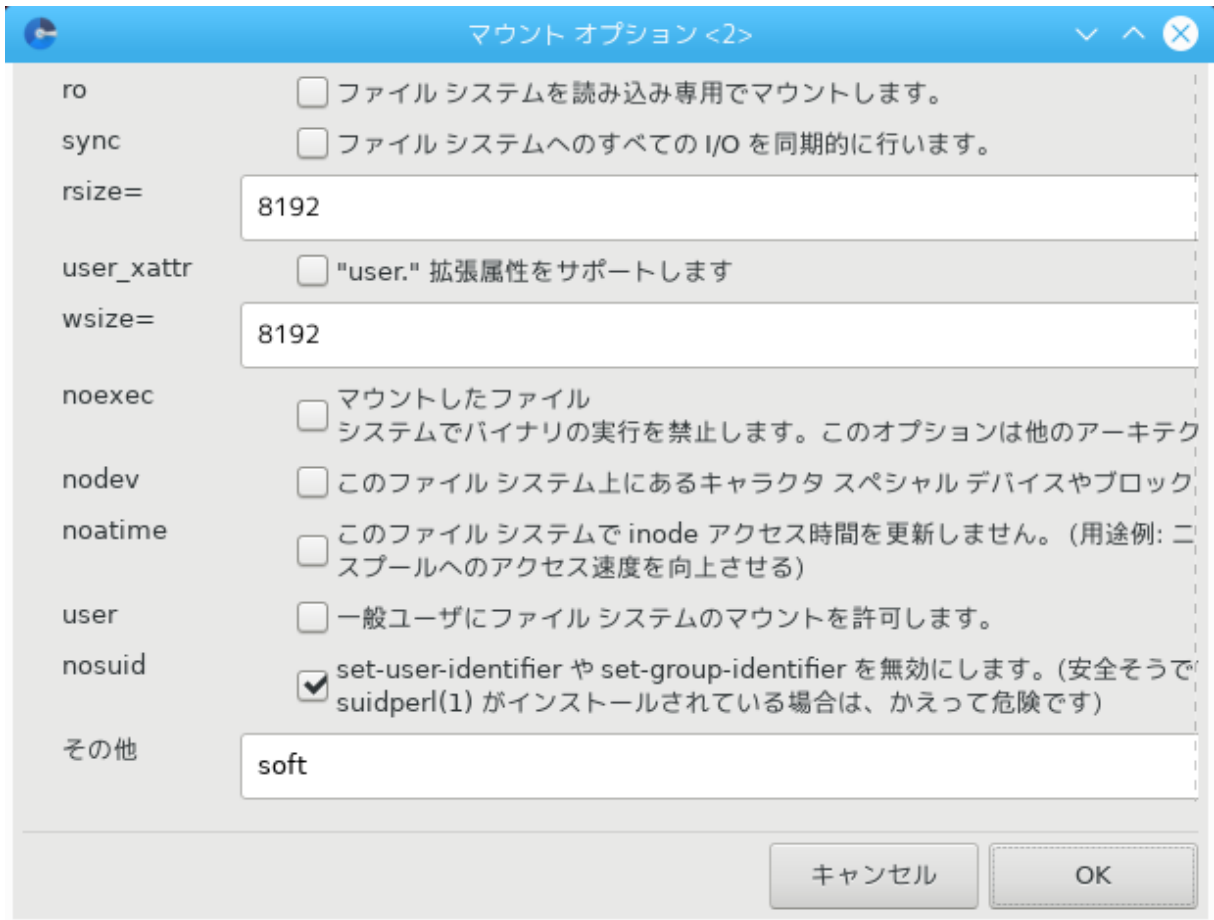
マウントポイント ボタンが押せるようになり、ディレクトリをマウントする場所を指定する必要があります。

³⁷このツールはコマンドラインから開始でき、diskdrake --nfs を root として入力します。

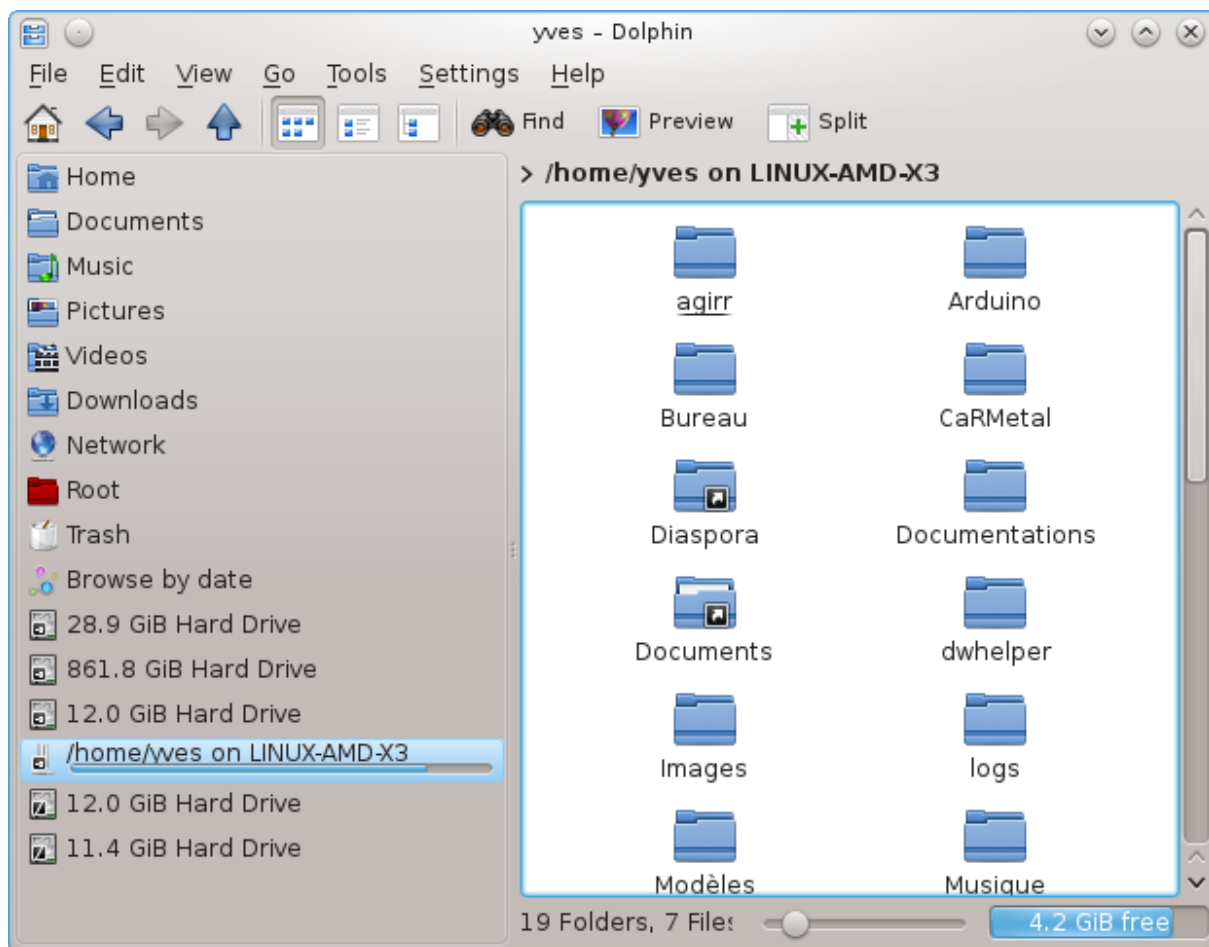


マウント ポイントを選択した後、これをマウントすることができます。オプション ボタンでは幾つかのオプションの確認や変更もできます。ディレクトリをマウントした後は、同じボタンでマウント解除ができます。

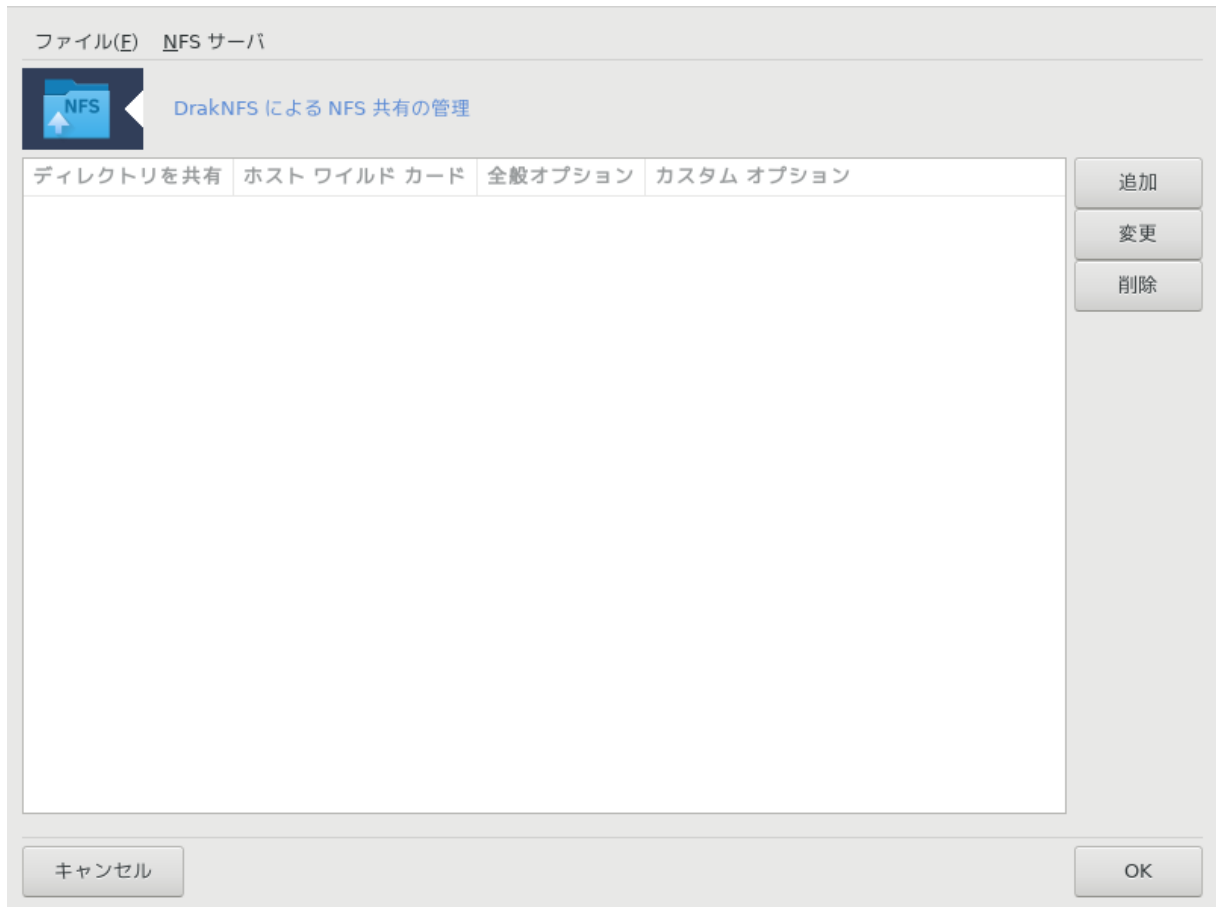




完了ボタンで設定を受け入れると、メッセージが表示されて "/etc/fstab の変更を保存しますか?" と質問されます。これはネットワークが利用できる場合にこのディレクトリをブートのたびに利用可能にします。新しいディレクトリはその後 Dolphin などのお使いのファイル ブラウザで利用できるようになります。



8.4. NFS を使ってドライブ/ディレクトリを共有する draknfs



8.4.1. 要件

このウィザード³⁸は初回時に実行され、以下のメッセージを表示する可能性があります:

パッケージ `nfs-utils` が必要です。インストールしますか?

インストールの完了後、空の一覧のあるウィンドウが表示されます。

8.4.2. メイン ウィンドウ

共有ディレクトリの一覧が表示されています。この段階では、一覧は空です。追加ボタンを押すと設定ツールを使用できます。

8.4.3. エントリを変更

この設定ツールは "エントリを変更" と書かれています。これは変更ボタンで起動することもできます。以下のパラメータが利用できます。

³⁸このツールはコマンド ラインから開始でき、`draknfs` を `root` として入力します。

エントリを変更

NFS ディレクトリ

ディレクトリ:

ホスト アクセス

アクセス:

ユーザ ID マッピング

ユーザ ID:

匿名ユーザ ID:

匿名グループ ID:

▼ 上級

同期アクセス:

安全な接続:

読み込み専用の共有:

サブツリーのチェック:

8.4.3.1. NFS ディレクトリ

ここで共有するディレクトリを指定することができます。ディレクトリ ボタンを押すとこれを選択するダイアログを使用できます。

8.4.3.2. ホスト アクセス

ここでは共有ディレクトリにアクセス可能なホストを指定できます。

NFS クライアントは様々な方法で指定することができます:

単一ホスト: リゾルバによって認識される省略名で、完全修飾ドメイン名もしくは IP アドレスです

ネット グループ: NIS ネット グループを @group として指定できます

ワイルド カード: マシン名にワイルド カード文字 * と ? を含めることができます。例えば: *.cs.foo.edu はドメイン cs.foo.edu のすべてのホストと合致します

IP ネットワーク: IP (サブ) ネットワーク上のすべてのホストに同時にディレクトリをエクスポートすることもできます。例えば、'255.255.252.0' もしくは '22' をネットワークのベース アドレスに追加します。

8.4.3.3. ユーザ ID マッピング

root ユーザを匿名としてマップ: uid/gid 0 からの要求を匿名 uid/gid にマップします (root_squash)。クライアントの root ユーザからはサーバ自体の root によって作成されたサーバ上のファイルは読み書きできません。

実リモート root アクセスを許可: root のマッピングを無効にします。この項目は主にディスクのないクライアントで有効です (no_root_squash)。

すべてのユーザを匿名ユーザにマップ: すべての uid と gid を匿名ユーザにマップをします (all_squash)。NFS でエクスポートされた公開 FTP ディレクトリやニュース スプール ディレクトリなどで有効です。既定の設定はこれと反対のユーザ ID マッピングなし (no_all_squash) です。

anonuid と anongid: 匿名アカウントの uid と gid を明示的に指定します。

8.4.3.4. 上級設定

安全な接続: この項目はリクエストが IPPORT_RESERVED (1024) 未満のインターネット ポートから起こることを要求します。この項目は既定で有効です。

読み込み専用の共有: 読み込みのみか読み書き両方の要求をこの NFS ボリュームで許可します。既定ではファイル システムを変更する要求は許可しません。これはこの項目を用いることでも明示できます。

同期アクセス: NFS サーバが NFS プロトコルに違反することを防ぎ、要求に対してこれらの要求が安定したストレージ (例 ディスク ドライブ) に渡されることによるいかなる変更が行われるよりも前に応答を行います。

サブ ツリーのチェック: サブ ツリーのチェックを有効にし、これは幾つかの場合においてセキュリティを向上させる助けとなりますが、信頼性を低下させる可能性があります。詳しくは exports(5) の man ページを参照してください。

8.4.4. メニュー エントリ

今のところ、一覧には少なくとも一つのエントリがあります。



8.4.4.1. ファイル|設定を書き込む

現在の設定を保存します。

8.4.4.2. NFS サーバ|再起動

サーバを停止した後、現在の設定ファイルを用いて再起動します。

8.4.4.3. NFS サーバ|再読み込み

表示されている設定は現在の設定ファイルから再読み込みされます。

8.5. WebDAV 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスする

diskdrake --dav



このツール³⁹は Mageia コントロール センターで見つかり、ネットワーク共有タブの WebDAV 共有ドライブ/ディレクトリにアクセスと書かれています。

8.5.1. はじめに

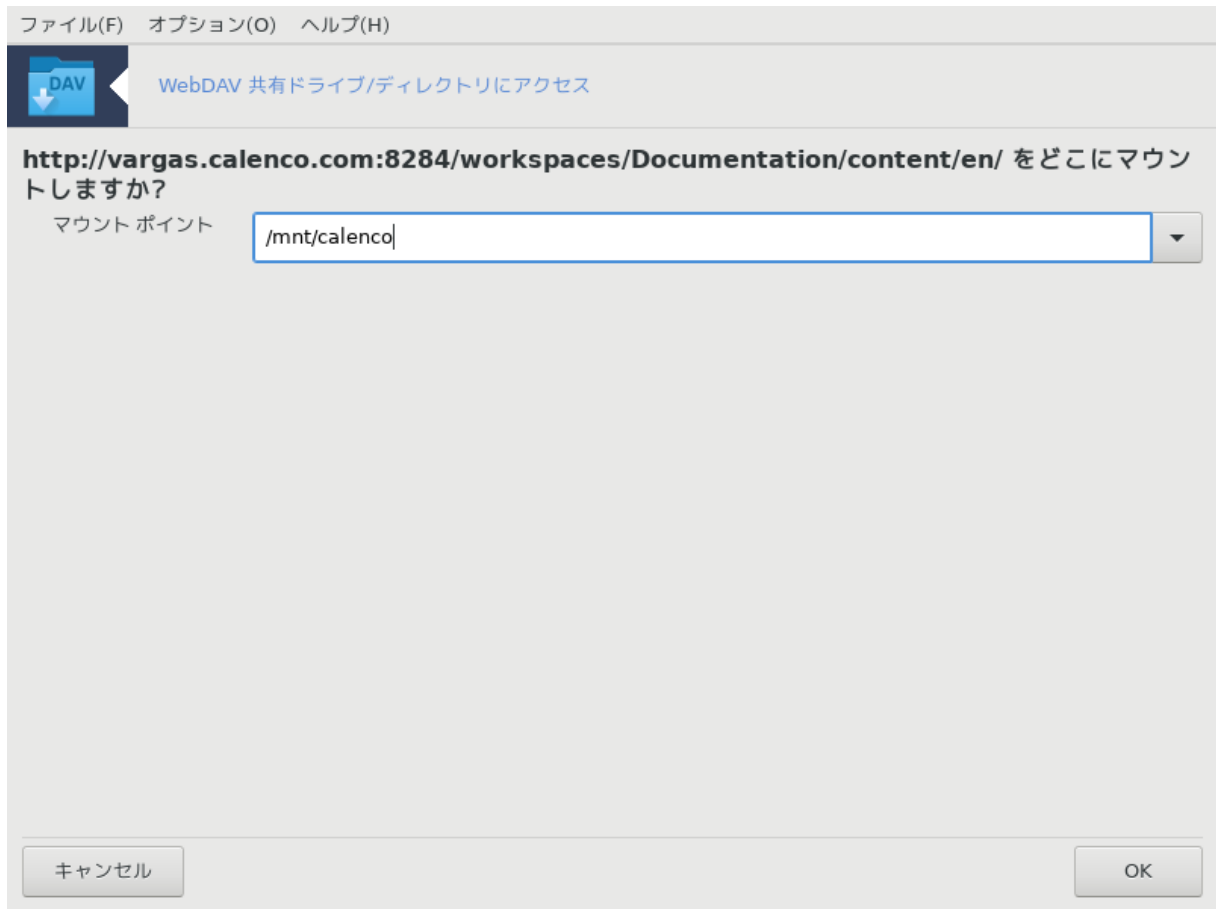
[WebDAV](https://ja.wikipedia.org/wiki/WebDAV) [https://ja.wikipedia.org/wiki/WebDAV] はウェブ サーバのディレクトリをローカルにマウントできるようにするためのプロトコルです。これはローカルディレクトリとして見えます。リモート マシンでは WebDAV サーバが動作している必要があります。WebDAV サーバを設定することはこのツールの目的ではありません。

8.5.2. 新しいエントリを作成する

このツールの最初の画面は既に設定済みのエントリがあればそれを表示し、他には新規ボタンがあります。新しいエントリを作成するにはそれを使用します。新しい画面の入力欄にサーバの URL を入力します。

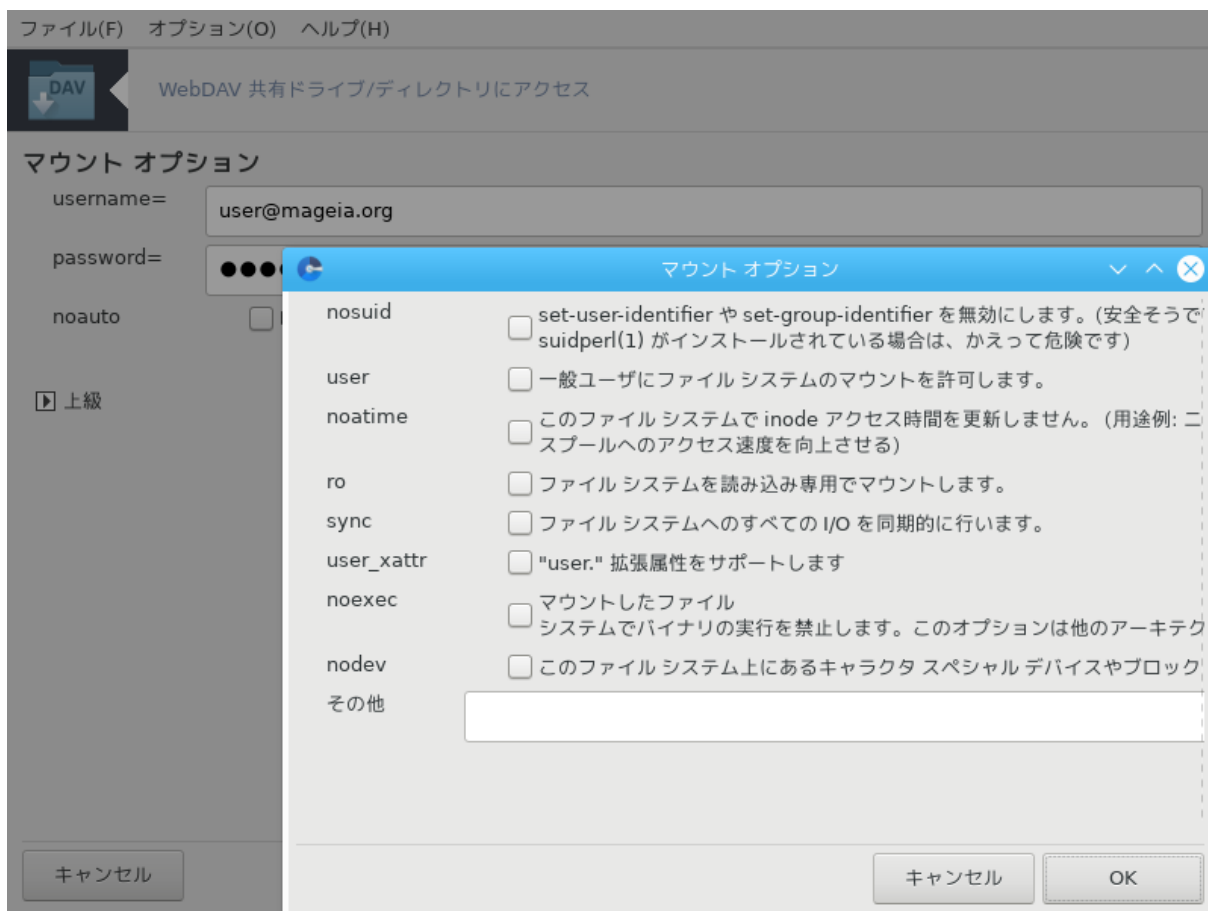
次に幾つかの操作を選択するためのラジオ ボタンのある画面が表示されます。マウント ポイントのラジオ ボタンを選択して OK をクリックして続行します。サーバは既に設定済みですが、必要があれば修正します。

³⁹このツールはコマンド ラインから開始でき、diskdrake --dav を root として入力します。



リモート ディレクトリの内容はこのマウント ポイントを通してアクセスできるようになります。

次のステップでは、あなたのユーザ名とパスワードを入力します。幾つかの他のオプションが必要であれば、上級の画面で入力することができます。



項目マウントではすぐにマウントを行うことができます。

ラジオ ボタンの完了で設定を受け入れた後、最初の画面が再度表示され、新しいマウント ポイントが一覧に追加されます。終了を選択した後、/etc/fstab に変更を保存するかどうかを質問されます。リモート ディレクトリをブートのたびに利用可能にしたいのであればこの項目を選択してください。設定を一度だけ使用するのであれば、これを保存しないでください。

9. ローカル ディスク



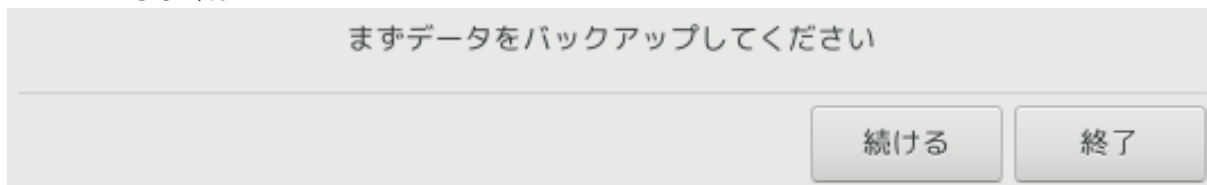
この画面ではお使いのローカル ディスクの管理や共有を行うための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

ローカル ディスク

1. [「ディスク パーティションを管理する」](#)
2. [「CD/DVD 書き込みドライブ」](#)
3. [「ハード ディスクのパーティションを共有する」](#)

9.1. ディスク パーティションを管理する

drakdisk もしくは diskdrake

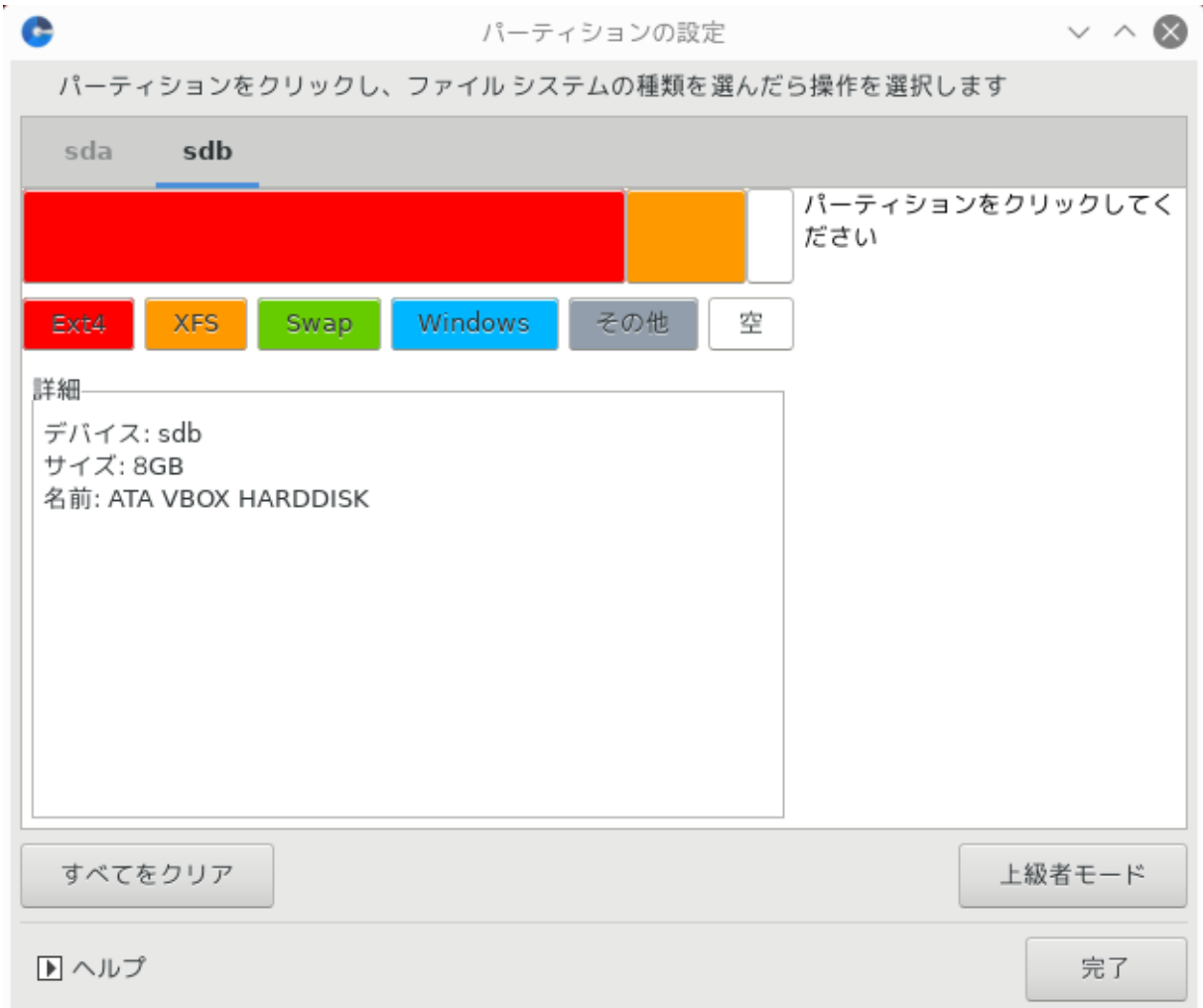


このツール⁴⁰ は非常に強力で、ほんの小さな操作ミスをしたり猫がお使いのキーボードの上で飛び跳ねたりするとパーティション上のすべてのデータを失うことにつなが

⁴⁰このツールはコマンド ラインから開始でき、drakdisk もしくは diskdrake を root として入力します。

る可能性があり、ハード ディスク全体を削除することすらあります。そのため、上記の画面がこのツールの画面の手前に表示されます。続行したいかはっきりしなければ終了をクリックしてください。

複数のハード ディスクをお使いの場合、適切なタブ (sda, sdb, sdc など) を選択することで作業したいハード ディスクに切り替えることができます。



ハード ディスクを好みに合わせて調整するために、たくさんの操作が選択できます。ハード ディスク全体を消去したり、パーティションを分割もしくは結合したり、それらのサイズを変更したり、ファイル システムを変更したり、フォーマットを行ったり、パーティションの中身を見たり: すべて行うことができます。底部のすべてをクリア ボタンはディスク全体を消すためのもので、それ以外のボタンはパーティションをクリックした後で右側に見えるようになります。



UEFI システムをお使いの場合、"EFI システム パーティション" と呼ばれる小さなパーティションが見え、/boot/EFI にマウントされます。これはお使いの異なるオペレーティング システムのブート ロードを含んでいるため、削除しないでください。

選択したパーティションが下の例のようにマウントされている場合、サイズ変更、フォーマット、削除は行えません。これを行えるようにするには先にパーティションをマウント解除しなければなりません。

パーティションのサイズ変更は右側にしか行えません。

パーティションの種類を変更する (例えば ext3 を ext4 にする) にはそのパーティションを削除後に新しい種類でパーティションを作り直す必要があります。作成ボタンはディスクの空の部分が選択されているときに現れます。

存在しないマウント ポイントを選択することが可能で、これは自動的に作成されます。

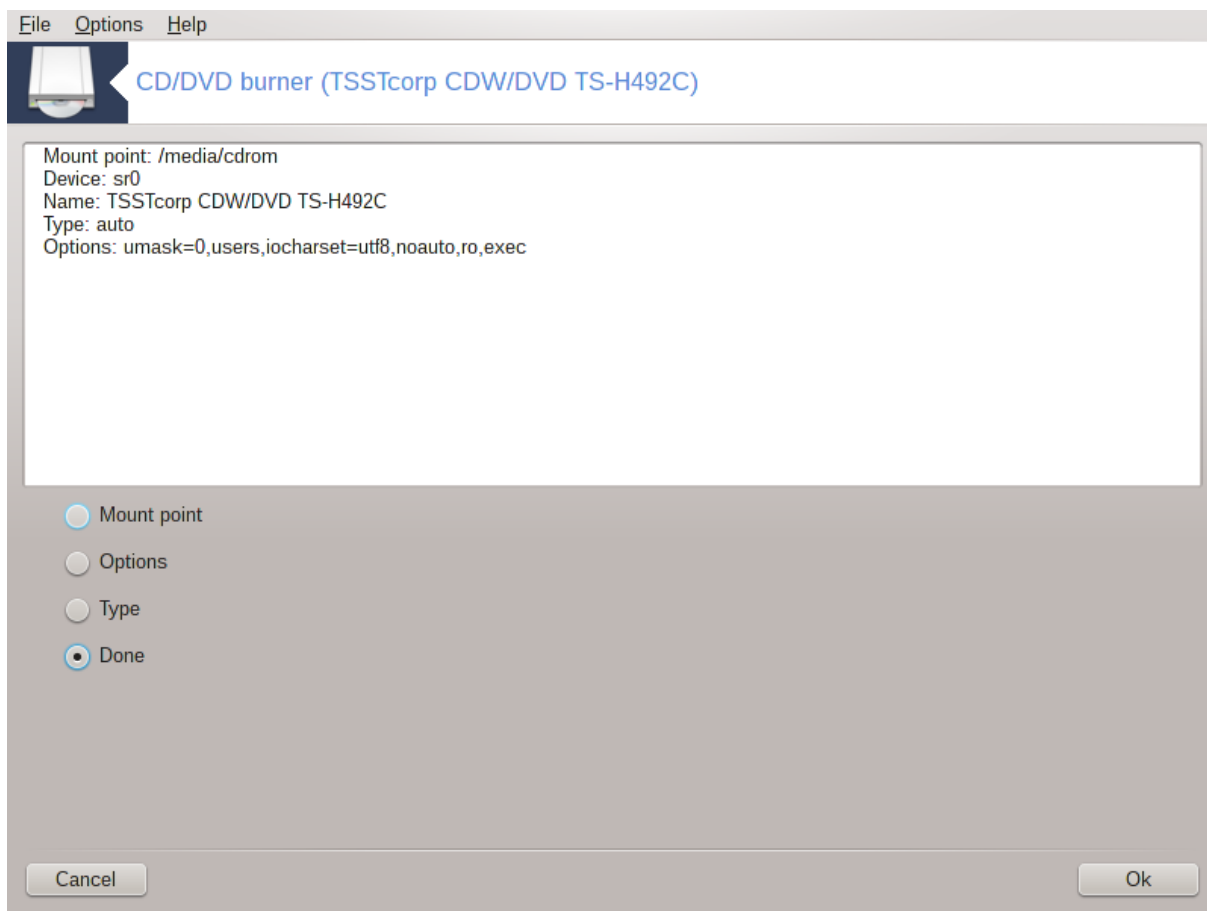


上級者モードを選択すると、下のスクリーンショットから見るように、パーティションのラベル付けのような幾つかの追加の操作が行えるようになります。



9.2. CD/DVD 書き込みドライブ

diskdrake --removable



このツール⁴¹は Mageia コントロール センターのローカル ディスク タブで見つかり、取り外し可能ハードウェア (CD/DVD とフロッピーのドライブのみ) に応じた名前が付けられています。

この目的はお使いの取り外し可能ディスクをマウントする方法を明確にすることです。

ウィンドウの上部にはお使いのハードウェアの短い説明と選択済みのマウント オプションが表示されています。下部のメニューでこれらを変更します。変更する項目をチェックしたら OK ボタンを押します。

9.2.1. マウント ポイント

これをチェックするとマウント ポイントを変更します。既定値は /media/cdrom です。

9.2.2. オプション

多数のマウント オプションがここで選択でき、一覧から直接追加するか上級のサブ メニューから追加します。主なものは以下です:

9.2.2.1. user/nouser

user は一般ユーザ (root ではない) が取り外し可能ディスクのマウントをできるようにし、このオプションは noexec, nosuid, nodev のオプション指定を伴います。ディスクをマウントしたユーザだけがそれをマウント解除できます。

⁴¹このツールはコマンド ラインから開始でき、diskdrake --removable を root として入力します。

9.3. ハード ディスクのパーティションを共有する

diskdrake --fileshare



このシンプルなツール⁴²は、管理者であるあなたに対して、ユーザが自分の /home のサブ ディレクトリの一部を他の Linux や Windows のオペレーティング システムを実行しているコンピュータが存在する可能性のある同一ネットワークのユーザと共有できるようにします。

これは Mageia コントロール センターで見つかり、ローカル ディスク タブに "ハード ディスクのパーティションを共有" と書かれています。

はじめに、質問に答えます: "ユーザに一部のディレクトリの共有を許可しますか?" すべてのユーザに対して共有しない場合は共有しないを、すべてのユーザに対して共有する場合はすべてのユーザに許可を、ユーザによって異なる場合はカスタムをクリックします。最後の場合においては、自分のディレクトリを共有したいユーザは fileshare グループに属していなければならず、これはシステムによって自動的に作られます。これについては後で訊かれます。

OK をクリックすると二番目の画面が現れ、NFS か SMB を選択します。NFS はネットワーク上に Linux のオペレーティング システムしかない場合に、SMB はネットワークに Linux と Windows の両方のマシンがある場合にクリックし、次に OK をクリックします。インストールする必要のあるパッケージがあればインストールされます。

カスタムの項目が選択されていなければ設定はこれで完了です。その場合、追加の画面が現れて Userdrake の実行を促します。このツールはユーザを fileshare グループに追加して自分のディレクトリを共有できるようにします。ユーザ タブでは、ユーザをクリックして fileshare グループに追加し、編集をクリックします。グループ タブでは、fileshare グループをチェックして OK をクリックします。Userdrake についての詳しい情報は、[「ユーザとグループ」](#)を参照してください。

⁴²このツールはコマンド ラインから開始でき、diskdrake --fileshare を root として入力します。



新しくユーザを fileshare グループに追加する際、変更を反映するためにネットワークを一度切断して再接続する必要があります。

以降、fileshare グループに所属するユーザは自分のファイル マネージャの中でディレクトリを共有するかどうかを選択できるようになりますが、すべてのファイル マネージャにこの機能があるわけではありません。

10. セキュリティ



この画面では幾つかのセキュリティ ツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

セキュリティ

1. [「MSEC: システムのセキュリティと監査」](#) = システムのセキュリティ, パーミッション, 監査を設定
2. [「個人用ファイアウォールを設定する」](#)
3. [「Mageia ツールの認証を設定する」](#)
4. [「ネットワーク インターフェースとファイアウォールの高度な設定」](#)
5. [「ペアレンタル コントロール」](#)

10.1. MSEC: システムのセキュリティと監査

msecgui



10.1.1. 説明

msecgui⁴³ は msec のグラフィック ユーザ インターフェイスで、これは二つのアプローチでシステムのセキュリティを設定できるようにするものです:

- システムの動作を設定し、msec はシステムに対してより安全になるような変更を適用します。
- 何か危険に思われることがあった場合に警告するために自動的に定期チェックを行います。

msec は "セキュリティ レベル" の概念を用いており、変更や強制を監査可能な一連のシステム権限を設定することが意図されています。それらの幾つかは Mageia によって提案されるものですが、自分でカスタマイズしたセキュリティ レベルを定義することも可能です。

10.1.2. 概要タブ

上のスクリーンショットを参照してください。

最初のタブには異なるセキュリティ ツール群の一覧があり、右側のボタンでそれらを設定することができます:

- ファイアウォール, MCC / セキュリティ / 個人用ファイアウォールの設定 でも見つかります
- 更新, MCC / ソフトウェアの管理 / システムを更新 でも見つかります
- msec 自体の幾つかの情報:

⁴³このツールはコマンド ラインから開始でき、msecgui を root として入力します。

- 有効か無効
- 設定された基本セキュリティ レベル
- 前回の定期チェックの日時と詳細結果を見るためのボタンとすぐにチェックを実行するための別のボタン。

10.1.3. セキュリティ設定タブ

二つめのタブもしくはセキュリティの設定ボタンをクリックすると下と同じ画面に切り替わりま

ファイル(E) ヘルプ(H)

MSEC: システムのセキュリティと監査

概要 **セキュリティ設定**

基本セキュリティ システムセキュリティ ネットワークセキュリティ 定期チェック 例外 パーミッション

セキュリティレベルの選択
このアプリケーションではシステムのセキュリティを設定することができます。
有効にする場合は、適切なセキュリティレベルを選択してください:

MSEC ツールを有効にする

ベース セキュリティレベルの選択

レベル名	説明
standard	このプロファイルはそこそこ安全な一連のセキュリティ機能を設定します。これはデスクトップ用途で推奨されるレベルです。どのプロファイルを使用すればよいか分からない場合、これを使用してください。
netbook	このプロファイルはローカル ユーザによってのみアクセスされバッテリーで動作するネットブック、ラップトップ、ローエンド デバイスに向けたものです。
fileserver	このプロファイルは認証されていないインターネット ユーザからのアクセスを受けないローカル ネットワーク サーバに向けたものです。
webserver	このプロファイルは認証されていないインターネット ユーザからアクセスされるサーバ向けに提供されます。
secure	このプロファイルは代償の代わりに最大限のセキュリティを提供するよう設定されており、システムへのリモート アクセスは制限されます。このレベルはセキュリティが関わるシステムやサーバで推奨されます。
audit_daily	このプロファイルは msec にシステム設定を変更させずに定期チェックでのみ使用しているユーザ向けを意図しています。これはすべての定期チェックを毎日一度だけ行うように設定します。
audit_weekly	このプロファイルは 'audit_daily' プロファイルと似ていますが、すべてのチェックを週ごとに実行します。

セキュリティ警告をメールで送信する:

セキュリティ警告をデスクトップに表示

10.1.3.1. 基本セキュリティ タブ

セキュリティレベル:

MSEC ツールを有効にするにチェックした後、このタブでは太字で表示されるセキュリティレベルをダブルクリックで選択することができます。このボックスがチェックされていない場合、レベル « none » が適用されます。以下のレベルが利用可能です:

1. レベル none。このレベルはシステムのセキュリティを制御するのに msec を使用することを望まず、自分でチューニングすることを好む場合が意図されます。これはすべてのセキュリティチェックを無効化し、システムの設定に一切の制限を行いません。システムを攻撃に対して脆弱にしてしまうため、このレベルは何をしているのか分かっている場合にのみ使用してください。
2. レベル standard。これはインストール時の既定の設定でかつ普通のユーザ向けを意図しています。これは幾つかのシステム設定を強制し、システム ファイル, システム アカウント, 脆弱な

ディレクトリ パーミッションにおける変更を検出するセキュリティ チェックを日ごとに実行します (このレベルは過去の msec のバージョンのレベル 2 と 3 に近いです)。

3. レベル secure。このレベルはシステムを確実に安全でかつ使えるものにしたい場合を意図しています。これはシステムのパーミッションを更に制限し、より多くの定期チェックを行います。その上で、システムへのアクセスはより制限されます (このレベルは過去の msec のバージョンのレベル 4 (High) と 5 (Paranoid) に近いです)。
4. これらのレベルに加え、fileserver, webserver, netbook のような異なるタスク志向のセキュリティも提供されます。このようなレベルは最も一般的な用途に従ってシステムのセキュリティを事前に設定しようとします。
5. 最後の audit_daily と audit_weekly と呼ばれる二つのレベルは実際にはセキュリティ レベルではなく、定期チェックを行うだけのツールになります。

これらのレベルは /etc/security/msec/level.<levelname> に保存されます。カスタマイズされたセキュリティ レベルを定義することも可能で、level.<levelname> というファイル群にそれらを /etc/security/msec/ フォルダの中に配置します。この機能はカスタマイズされた、もしくはより安全なシステム設定を要求するパワー ユーザ向けに意図されています。



ユーザによって変更されたパラメータは既定のレベルの設定よりも優先されるということを心に留めておいてください。

セキュリティ警告:

セキュリティ警告をメールで送信する: にチェックした場合、msec によって生成されたセキュリティ警告がローカルのメールですぐそばのフィールドに入力されたセキュリティ管理者宛に送られます。ローカルのユーザが完全なメール アドレスのいずれかを入力できます (ローカルのメールとメール マネージャが適切に設定されていなければなりません)。最後に、セキュリティ警告はお使いのデスクトップ上で直接受け取ることができます。適切なボックスにチェックすると有効になります。



セキュリティ警告の設定項目は起こりうるセキュリティ問題をセキュリティ管理者へ即座に知らせるために有効にすることを強く推奨します。さもなければ、管理者は /var/log/security の中にあるログ ファイル群を定期的にチェックする必要があります。

セキュリティ設定:

カスタマイズされたレベルの作成以外にもコンピュータのセキュリティをカスタマイズする方法はあり、任意の設定項目を変更するためにこのタブを後から使用することもできます。msec の現在の設定は /etc/security/msec/security.conf に保存されています。このファイルは現在のセキュリティ レベル名と、設定項目群に対するすべての変更の一覧を含んでいます。

10.1.3.2. システム セキュリティ タブ

このタブはすべてのセキュリティ設定の項目を左側のコラムに、説明を真ん中のコラムに、それらの現在の値を右側のコラムに表示します。

システム セキュリティ設定		
セキュリティ項目	説明	値
ENABLE_STARTUP_MSEC	MSEC の設定をシステム開始時に強制します	yes
ENABLE_STARTUP_PERMS	MSEC によるファイルやディレクトリのパーミッション強制をシステム開始時に行います。このパラメータが 'enforce' に設定されている場合、システムパーミッションはシステムのセキュリティ設定に従って自動的に強制されます。	yes
ENABLE_MSEC_CRON	システム設定の変更についての毎時のセキュリティチェックを行います。	yes
ENABLE_SULOGIN	シングルユーザレベルに移行する際に root のパスワードを要求します (man sulogin(8))。	no
ENABLE_AT_CRONTAB	crontab と at をユーザに対して有効にします。許可するユーザを /etc/cron.allow と /etc/at.allow に記述してください (at(1) と crontab(1) の man ページを参照)。	yes
ALLOW_XSERVER_TO_LISTEN	X サーバがネットワークからの接続を tcp ポート 6000 番で受け入れるのを許可します。	no
ALLOW_ROOT_LOGIN	端末上の直接の root ログインを許可します。	no
ALLOW_USER_LIST	ディスプレイマネージャ (sddm および gdm) がローカルユーザの一覧を表示するのを許可します。	yes
ALLOW_AUTOLOGIN	自動ログインを許可します。	yes
ENABLE_CONSOLE_LOG	ジャーナルメッセージを 12 番の端末に出力します。	yes
CREATE_SERVER_LINK	/etc/security/msec/server.SERVER_LEVEL を指し示すシンボリックリンク /etc/security/msec/server を作成します。/etc/security/msec/server は chkconfig によって使用され、パッケージのインストール時にこのファイル内に存在する場合にサービスの追加を決定するためにこれを追加します。既定では、二つのプリセットが提供さ	no

設定項目の値を変更するには、それをダブルクリックすると新しいウィンドウが現れます (下のスクリーンショットを参照)。これは項目名、短い説明、現在値と既定値、新しい値が選択可能なドロップダウンリストを表示します。OK ボタンを押すと選択が有効になります。

ENABLE_SULOGIN の新しい値を選択
▼ ▲ ✕

ENABLE_SULOGIN

シングルユーザレベルに移行する際に root のパスワードを要求します (man sulogin(8))。

現在の値: no

レベルの既定値: no

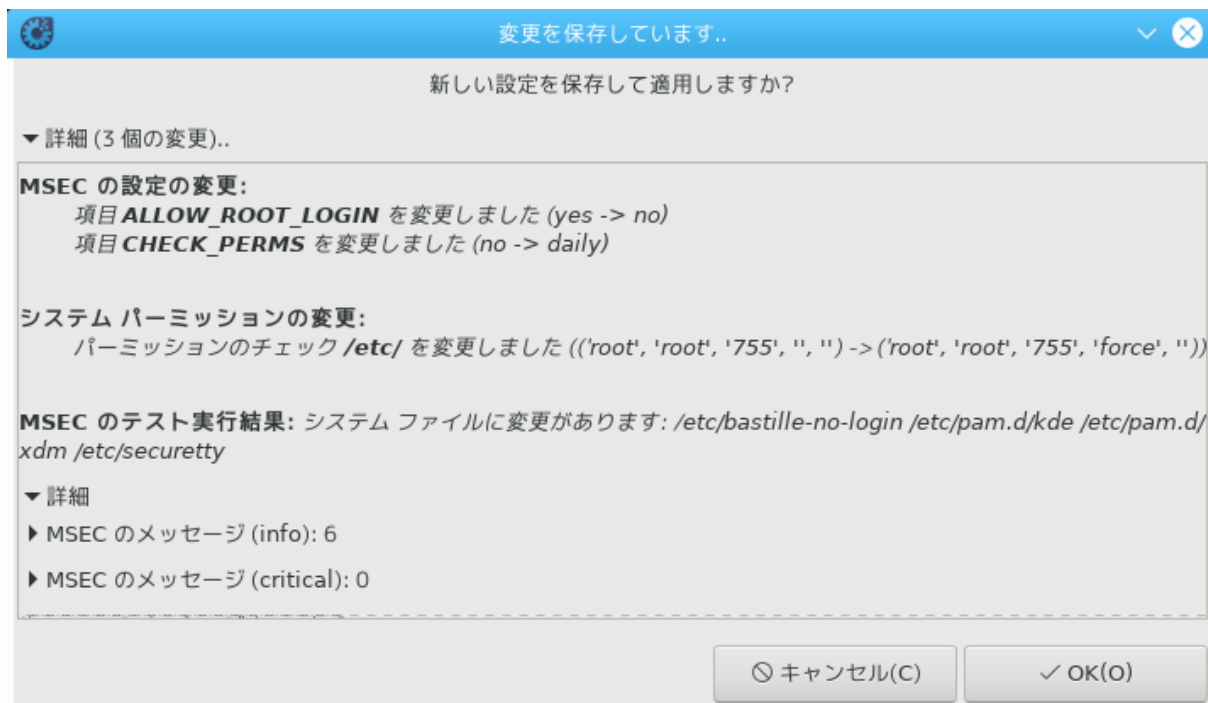
新しい値: no ▼

✓ OK(O)

⊗ キャンセル(C)



msecgui を終了する際、忘れずにメニューのファイル -> 設定を保存で確実に設定を保存してください。設定が変更されている場合、msecgui は保存前に変更をプレビューすることができます。



10.1.3.3. ネットワーク セキュリティ

このタブはすべてのネットワーク設定を表示し、前のタブと同様に動作します

ファイル(E) ヘルプ(H)

MSEC: システムのセキュリティと監査

概要 セキュリティ設定

基本セキュリティ システム セキュリティ **ネットワーク セキュリティ** 定期チェック 例外 パーミッション

ネットワーク セキュリティ設定
これらの項目はリモートの脅威、認証されていないアクセス、不正侵入に対するネットワーク セキュリティを定義します。

セキュリティ項目	説明	値
ACCEPT_BOGUS_ERROR_RESPONSES	偽の IPv4 エラー メッセージを許可します。	no
ACCEPT_BROADCASTED_ICMP_ECHO	ブロードキャストの ICMP echo を受け入れます。	yes
ACCEPT_ICMP_ECHO	ICMP echo を許可します。	no
ALLOW_REMOTE_ROOT_LOGIN	sshd を通したリモート root ログインを許可します。yes を選択すると、ログインは許可されます。without-password を選択すると、公開鍵認証のログインのみが許可されます。詳しい情報は sshd_config(5) の man ページを参照してください。	without-password
ALLOW_X_CONNECTIONS	ローカルユーザが X サーバに接続するのを許可します。有効な引数: yes (すべての接続が許可されます), local (ローカル接続のみ), no (接続なし)	local
ALLOW_XSERVER_TO_LISTEN	X サーバがネットワークからの接続を tcp ポート 6000 番で受け入れるのを許可します。	no
AUTHORIZE_SERVICES	tcp_wrapper によって制御されるネットワーク サービスに対する完全なアクセスを許可します (hosts.deny(5) を参照)。yes の場合、すべてのサービスが許可されます。local の場合、ローカル サービスへの接続のみが許可されます。no の場合、サービスは /etc/hosts.allow で手動で許可しなければなりません (hosts.allow(5) を参照)。	yes
ENABLE_IP_SPOOFING_PROTECTION	IP スプーフィング保護を有効にします。	yes
ENABLE_LOG_STRANGE_PACKETS	おかしなネットワーク パケットの記録を有効にします。	yes

10.1.3.4. 定期チェック タブ

定期チェックは msec が潜在的に危険と考えるすべての状況についてセキュリティ警告を用いてセキュリティ管理者に通知することを狙いとしています。

このタブは定期セキュリティ チェックを有効にするがチェックされている場合に msec によって行われたすべての定期チェックとそれらの頻度を表示します。変更は前のタブと同様に行われます。

ファイル(E) ヘルプ(H)

MSEC: システムのセキュリティと監査

概要 **セキュリティ設定**

基本セキュリティ システム セキュリティ ネットワーク セキュリティ **定期チェック** 例外 パーミッション

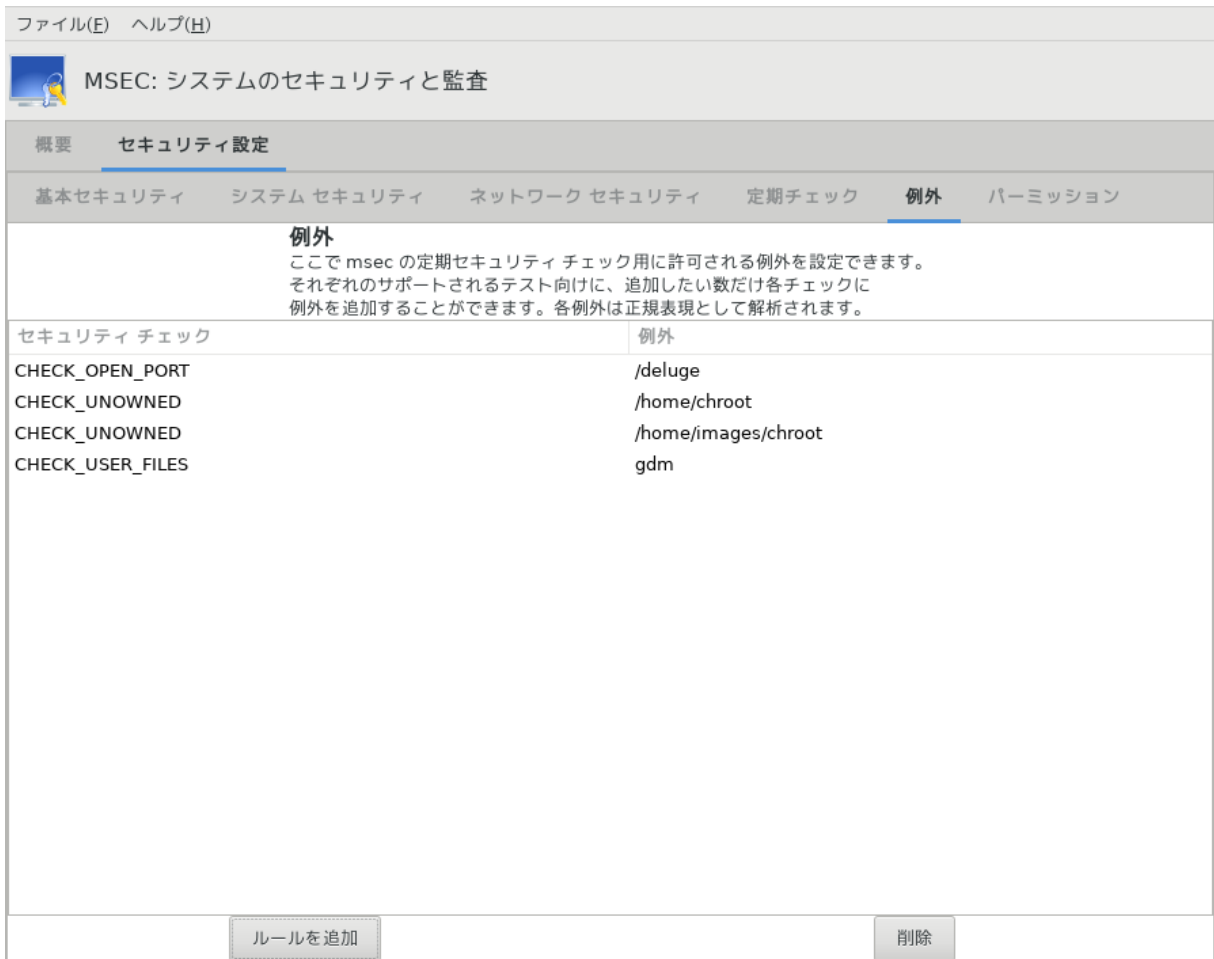
定期セキュリティ チェック
 これらの項目は定期的に行われるセキュリティ チェックを設定します。

定期セキュリティ チェックを有効にする

セキュリティ項目	説明	値
CHECK_PERMS	msec のポリシーで指定されたファイルに対する定期パーミッション チェックを有効にします。	no
CHECK_PERMS_ENFORCE	msec のセキュリティ ポリシーにおいて msec にファイル パーミッションを指定値へ強制することを許可します。	no
CHECK_USER_FILES	一般ユーザの、他の誰かによって所有されたり書き込めたりするべきではないファイルに対するパーミッションのチェックを有効にします。	daily
CHECK_SUID_ROOT	root の suid が設定されたファイルに対する追加/削除のチェックを有効にします。	weekly
CHECK_SUID_MDS	suid が設定されたファイルに対するチェックサム検証を有効にします。	weekly
CHECK_SGID	sgid が設定されたファイルに対する追加/削除のチェックを有効にします。	weekly
CHECK_WRITABLE	全員が書き込み可能なファイル/ディレクトリのチェックを有効にします。	weekly
CHECK_UNOWNED	所有者のないファイルのチェックを有効にします。	weekly
FIX_UNOWNED	nobody/nogroup を使用するための所有者のないファイルの所有者と所有グループを修正します。	no
EXCLUDE_REGEX	ディスクのチェックから除外するパターンです。このパラメータは regex (7) として解析されるため、複雑な表現を使用することができます。	
CHECK_PROMISC	イーサネット カードのプロミスクラス モードのチェックを有効にします。	daily

10.1.3.5. 例外タブ

時に警告メッセージは把握済みな望まれる状況が原因となります。これらの場合においてこれらは役に立たず管理者にとって時間の無駄となります。このタブでは望まない警告メッセージを避けたい分だけの数の例外を作成できます。これは msec の初回実行時には間違いなく空です。下のスクリーンショットは四つの例外を表示しています。



例外を作成するには、ルールを追加ボタンをクリックします。



チェックのドロップ ダウン リストから望みの定期チェックを選択し、例外をテキスト入力欄に入力します。例外の追加は決して最終的なものではなく、例外タブの削除ボタンを用いて削除するかダブルクリックで変更することができます。

10.1.3.6. パーミッション

このタブはファイルやディレクトリのパーミッションをチェックおよび強制するためのものです。

セキュリティ用と同様、msec には異なるパーミッションのレベル (standard, secure など) があり、これらは選択されたセキュリティ レベルに従って有効になります。自分でカスタマイズしたパーミッション レベルを作成することができ、それらはフォルダ /etc/security/msec/ の中に perm.<levelname> というファイル名で保存されます。この機能はカスタマイズされた設定を要求するパワー ユーザ向けに意図されています。任意のパーミッションを変更するためにこのタブを後から使用することもできます。現在のパーミッションは /etc/security/msec/perms.conf に保存されます。このファイルはパーミッションに対するすべての変更の一覧を含んでいます。

ファイル(E) ヘルプ(H)

MSEC: システムのセキュリティと監査

概要 セキュリティ設定

基本セキュリティ システム セキュリティ ネットワーク セキュリティ 定期チェック 例外 **パーミッション**

ファイル パーミッション
 これらの項目は重要なファイルやディレクトリのシステム パーミッションを微調整することを可能にします。以下のパーミッションは定期的にチェックされ、所有者、グループ、現在のパーミッションに対する変更は報告されます。パーミッションは強制することができ、変更が検知された際には自動的に指定値に変更されます。

パス	ユーザ	グループ	パーミッション	強制	ACL
/	root	adm	755	<input type="checkbox"/>	
/bin/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/bin/ping	root	root	4755	<input type="checkbox"/>	
/bin/rpm	rpm	rpm	755	<input type="checkbox"/>	
/boot/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/dev/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/conf.modules	root	root	644	<input type="checkbox"/>	
/etc/cron.daily/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/cron.hourly/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/cron.monthly/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/cron.weekly/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/crontab	root	root	644	<input type="checkbox"/>	
/etc/dhcpd/	root	root	755	<input type="checkbox"/>	
/etc/dhcpd/*	root	root	644	<input type="checkbox"/>	
/etc/hosts.allow	root	root	644	<input type="checkbox"/>	

ルールを追加 削除

既定のパーミッションはルールの一覧（一行に一つ）として見ることができます。左側にルールに関係するファイルやフォルダがあり、次に所有者、その次がグループそしてルールによって付与されるパーミッションとなります。もし、ルールの:

- 強制がチェックされていない場合、msec はこのルールで定義されているパーミッションが変更されていないかをチェックし、変更された場合には警告メッセージを送りますが、行うのはそれだけで何も変更は行いません。
- 強制がチェックされている場合、msec は次回の定期チェック時にパーミッションを強制します。



これが動作するためには、定期チェック タブの項目 CHECK_PERMS が適切に設定されていなければなりません。

新しいルールを作成するには、ルールを追加ボタンをクリックして下の例で示されるようにフィールドを入力します。ファイルのフィールドではジョーカーの * が使用できます。“current” は変更なしを意味します。

新しいパーミッションチェックを追加しています

新しいファイルのパーミッションを変更しています

ファイル:

新しいファイル所有者とパーミッションを指定してください。もしくは、'current' を指定して現在の設定を保持してください。

ユーザ:

グループ:

パーミッション:

追加の ACL (アクセス制御リスト) をファイルに強制するには、以下の形式で指定してください:
user1:acl,user2:acl
詳しくは 'man setfacl' を参照してください。

ACL:

✓ OK(O) ⊗ キャンセル(C)

OK ボタンをクリックして選択を有効にします。終了する際、忘れずにメニューのファイル->設定を保存で確実に設定を保存してください。設定が変更されている場合、msecgui は保存前に変更をプレビューすることができます。



設定ファイル /etc/security/msec/perms.conf を編集することによってルールを作成もしくは変更することもできます。



パーミッションタブ内の変更 (もしくは設定ファイルの直接編集) は次回の定期チェックで反映されます (定期チェック タブの項目 CHECK_PERMS を参照)。それらをすぐに反映させたい場合、端末内で root 権限で msecperms コマンドを使用してください。msecperms に変更されることになるパーミッションは msecperms -p コマンドで事前に知ることができます。



端末やファイル マネージャでパーミッションを変更する際、パーミッション タブで強制がチェックされたファイルに対して、msecgui は定期チェック タブの項目 CHECK_PERMS と CHECK_PERMS_ENFORCE の設定に従ってしばらくしてから変更前のパーミッションに戻すということを忘れないでください。

10.2. 個人用ファイアウォールを設定する

drakfirewall

個人用ファイアウォールの設定

インターネットに接続を許可するサービスを選んでください。

- すべて (ファイアウォールなし)
- Web サーバ
- ドメイン ネーム サーバ
- SSH サーバ
- FTP サーバ
- メール サーバ
- POP と IMAP のサーバ
- NFS サーバ
- Windows ファイル共有 (SMB)
- Syslog ネットワーク ロギング
- CUPS サーバ
- エコー リクエスト (ping)
- ネットワーク サービスの自動検出 (zeroconf と slp)
- BitTorrent

▶ 上級

キャンセル OK

このツール⁴⁴ は Mageia コントロール センターのセキュリティ タブで見つかり、"個人用ファイアウォールの設定" と書かれています。これは "システムのセキュリティ、パーミッション、監査の設定" の最初のタブにあるのと同じツールです。

Mageia には基本的なファイアウォールが既定でインストールされています。すべての外部からの接続は許可されていなければブロックされます。上の最初の画面では、どのサービスに対する外部からの接続の試行を受け入れるかを選択できます。セキュリティのためには - ファイアウォールを無効化したいのであれば、最初のボックス - すべて (ファイアウォールなし) をチェックしないでください。そして、必要なサービスだけをチェックしてください。

開くポート番号を手動で入力することができます。上級をクリックすると新しいウィンドウが開きます。その他のポートのフィールドの中に、以下の例に従って必要なポートを入力します：

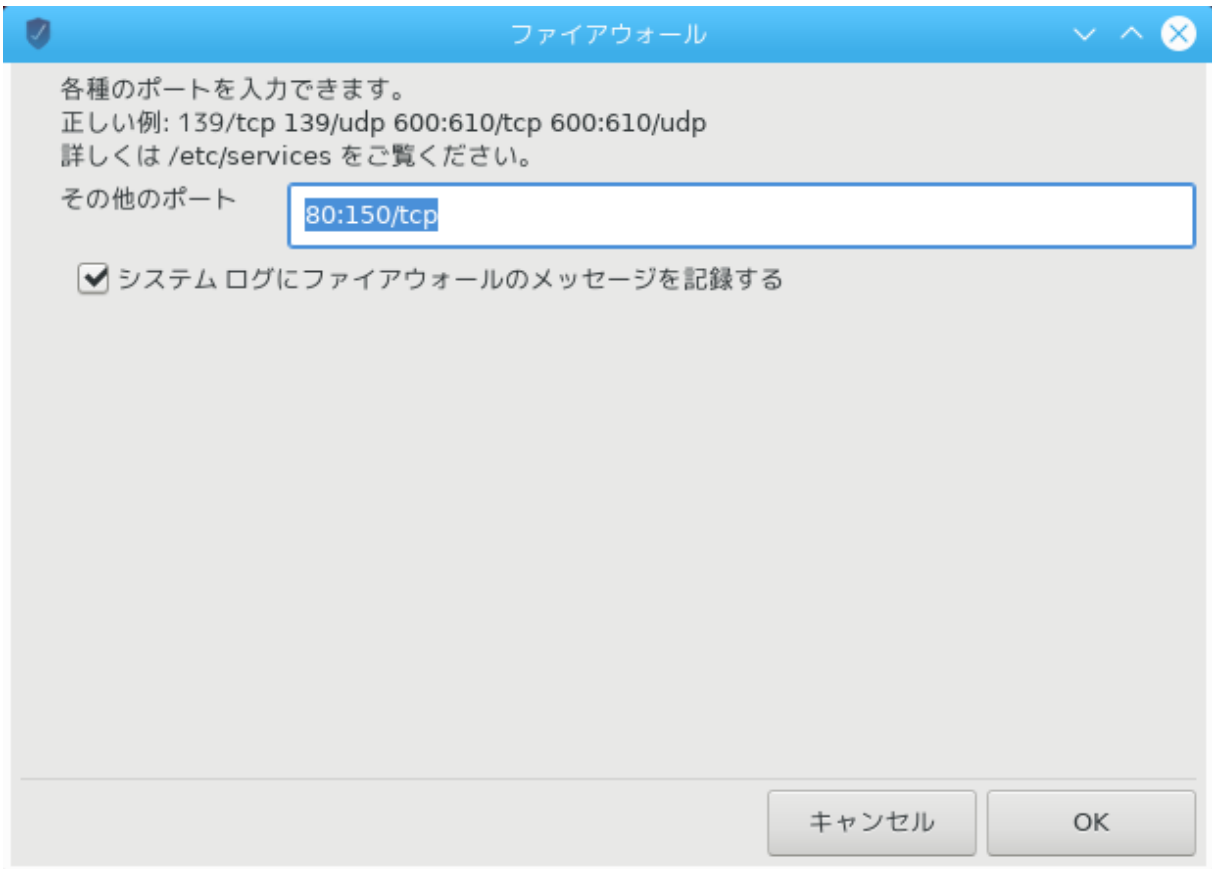
80/tcp : tcp プロトコルのポート 80 を開く

24000:24010/udp : udp プロトコルの 24000 から 24010 のすべてのポートを開く

ポート番号を列挙する場合はスペースで区切ります。

⁴⁴このツールはコマンド ラインから開始でき、drakfirewall を root として入力します。

システム ログにファイアウォールのメッセージを記録するのボックスがチェックされている場合、ファイアウォールのメッセージはシステム ログに保存されます。



特定のサービス(ウェブやメールのサーバ, ファイル共有など)を動かしていない場合、何もチェックしないということは可能で、これはむしろ推奨されます。これはあなたがインターネットに接続することを妨げるものではありません。

次の画面は対話式ファイアウォールの設定項目を扱います。少なくとも最初の対話式ファイアウォールを使うボックスがチェックされている場合にこれらの機能は接続の試行を警告するようにできます。二番目のボックスをチェックするとポートがスキャンされたときに警告します(お使いのマシンに侵入しようとしてどこかで失敗したのを見つけるため)。三番目以降の各ボックスはあなたが最初の二つの画面で開いたポートに対応しています; 下のスクリーンショットでは、そのようなボックスが二つあります: SSH サーバと 80:150/tcp です。これらをチェックすると、これらのポートの接続が試行されるたびに警告します。

これらの警告はネットワーク アプレットを通して警告ポップアップによって通知されます。



個人用ファイアウォールの設定

誰かがサービスにアクセスしたりあなたのコンピュータに侵入しようとしたときに警告を受けることができます。
監視するネットワーク アクティビティを選んでください。

- 対話式ファイアウォールを使う
- ポート スキャンの検出
- SSH サーバ
- 80:150/tcp

キャンセル

OK

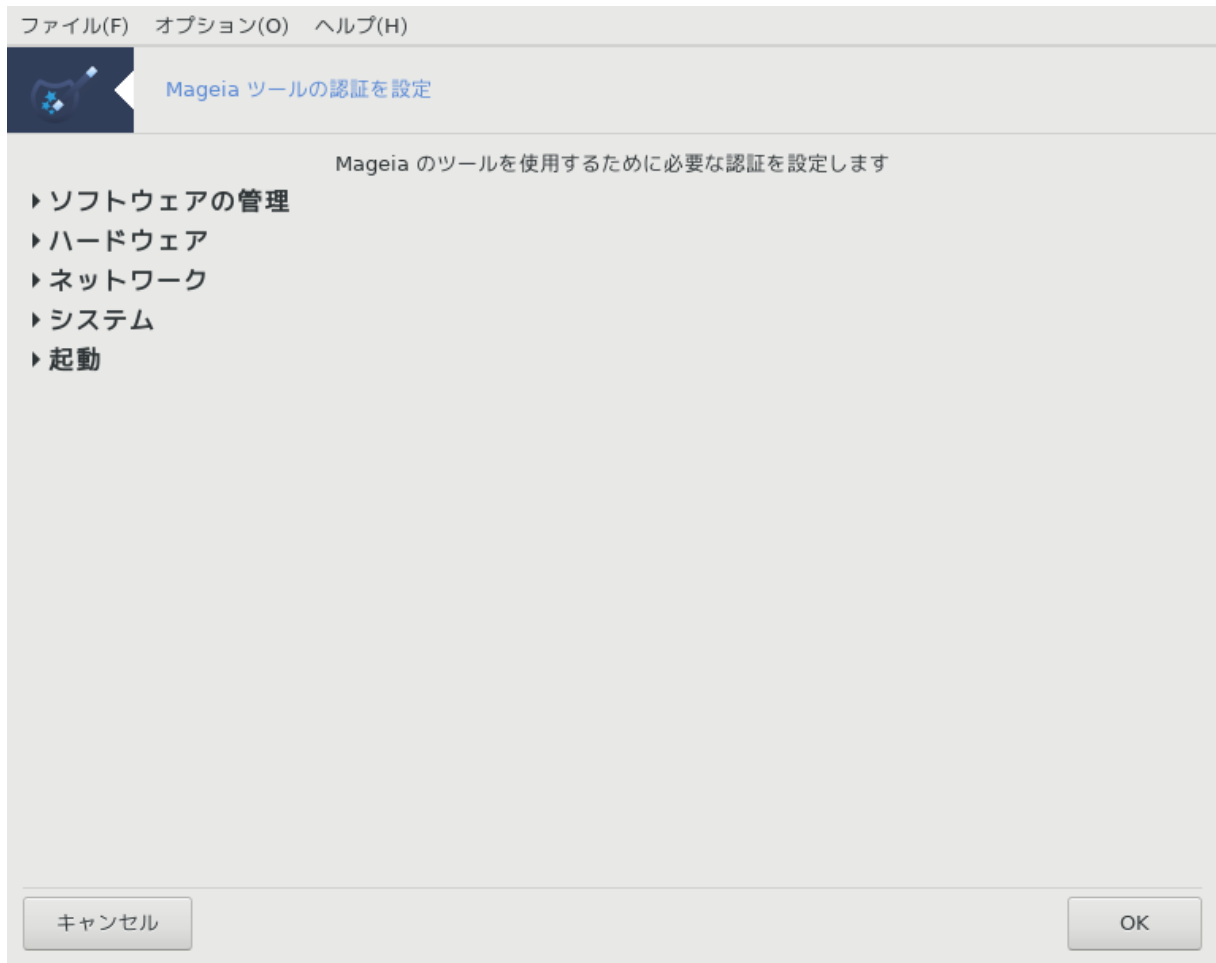


最後の画面では、どのネットワーク インターフェースがインターネットに接続されていて、かつ保護されなければならないかを選択します。OK ボタンをクリックすると、必要なパッケージがダウンロードされます。



どれを選択するか分からない場合、MCC のネットワーク タブ内を見てください。新しいネットワーク インターフェースを設定のアイコンです。

10.3. Mageia ツールの認証を設定する draksec



このツール⁴⁵は Mageia コントロールセンターのセキュリティタブにあります。

これは通常管理者によって行われる処理を通常のユーザが行うために必要な権限を与えます。

展開したい項目の左にある小さな矢印をクリックします:

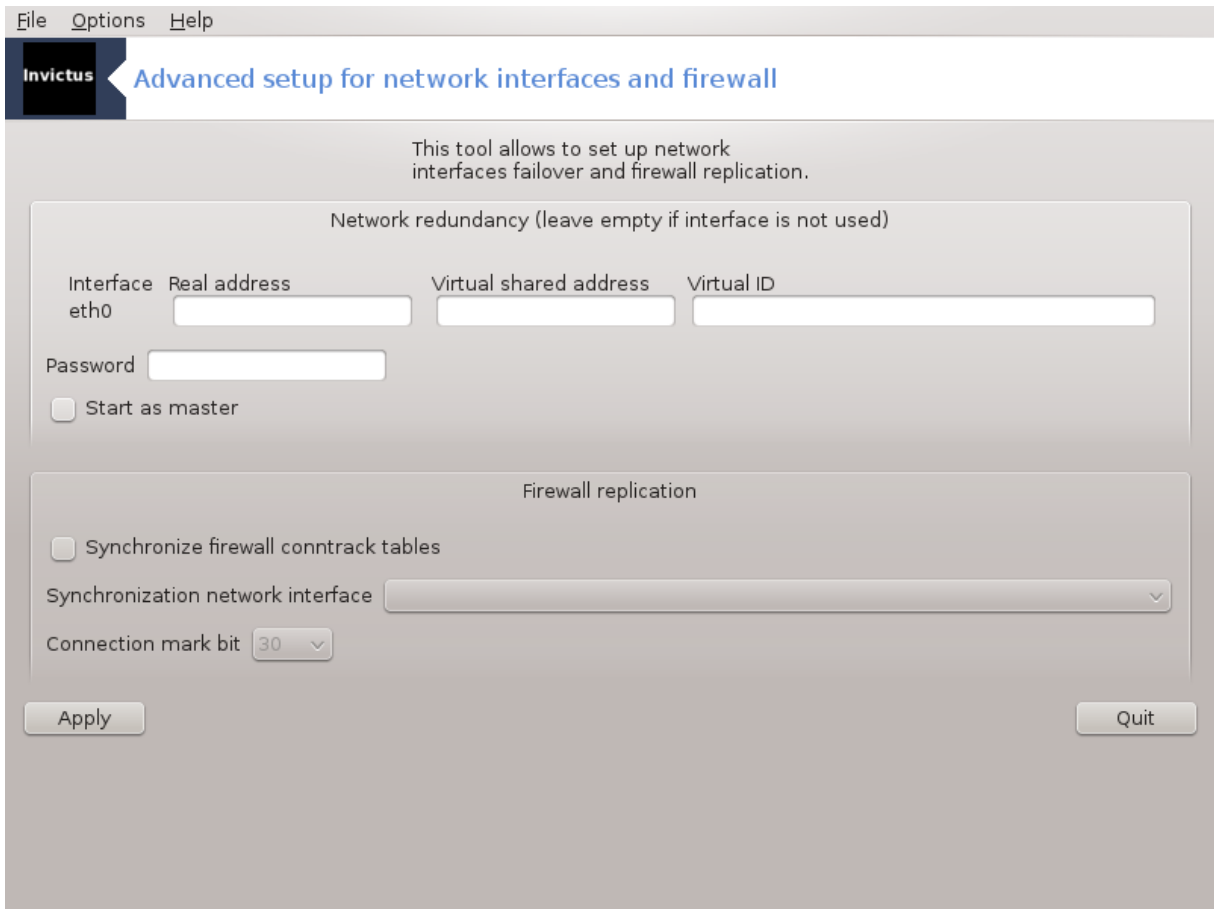
⁴⁵このツールはコマンドラインから開始でき、draksec を root として入力します。



Mageia コントロール センターの中で利用できるツールのほとんどがウィンドウの左側に表示され (上のスクリーンショットを参照)、各ツールには右側にドロップ ダウン リストがあり、以下の選択肢があります:

- 既定: 起動モードは選択されたセキュリティレベルによって決まります。MCC の同じタブのツール "システムのセキュリティ, パーミッション, 監査の設定" を参照してください。
- ユーザのパスワード: ツールが起動する前にユーザのパスワードを訊かれます。
- root のパスワード: ツールが起動する前に root のパスワードを訊かれます。
- パスワードなし: パスワードを訊かれずにツールが起動します。

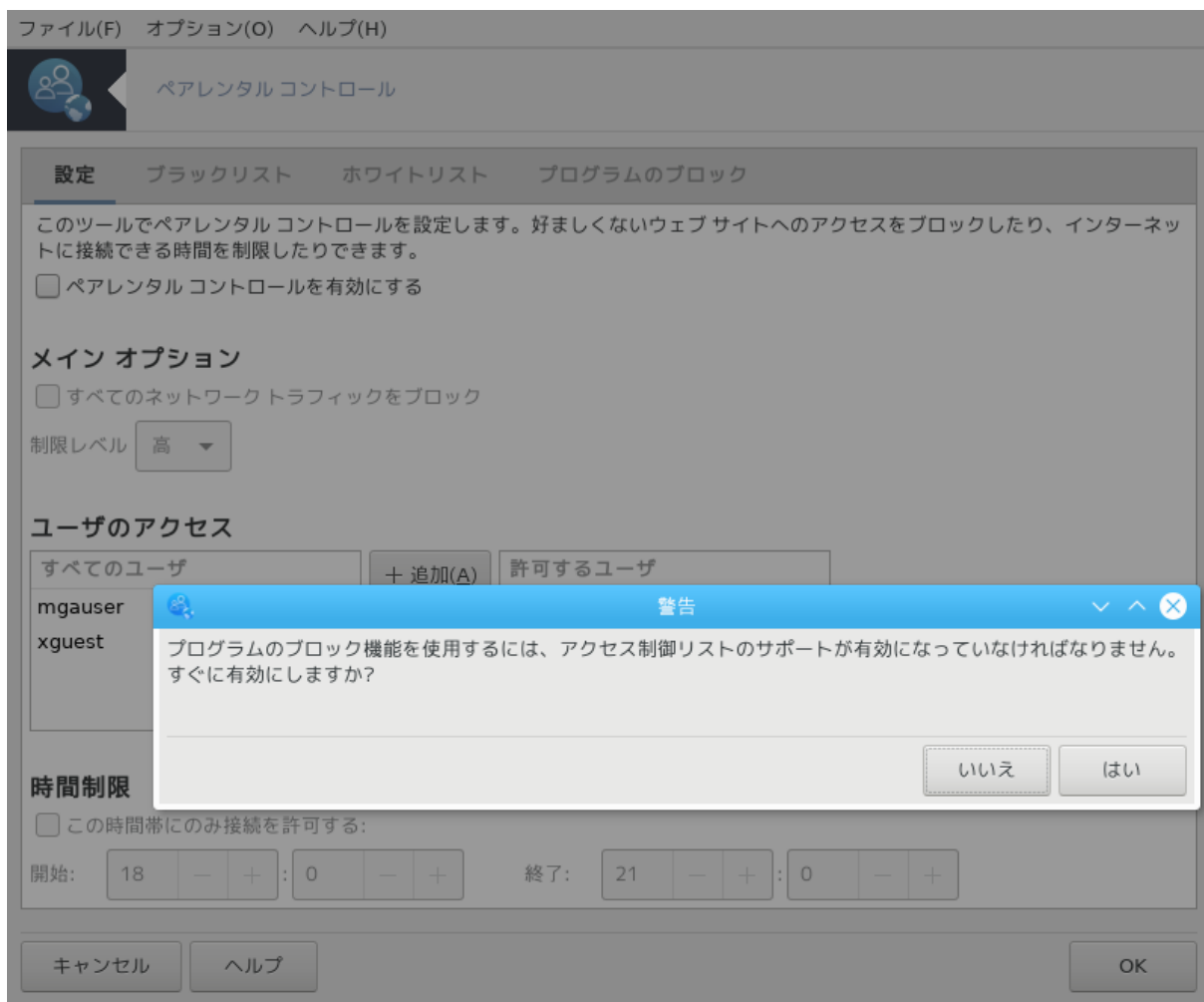
10.4. ネットワーク インターフェースとファイアウォールの高度な設定 drakinvictus



このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Doc チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

このツールはコマンド ラインから開始でき、drakinictus を root として入力します。

10.5. ペアレンタル コントロール drakguard



このツール⁴⁶は Mageia コントロール センターのセキュリティ タブで見つかり、ペアレンタル コントロールと書かれています。これが見つからない場合、drakguard パッケージをインストールする必要があります (既定ではインストールされません)。

10.5.1. 説明

Drakguard はお使いのコンピュータ上のペアレンタル コントロールを設定する簡単な方法で、誰が何を行えるかやその時間帯を制限します。Drakguard には三つの有用な機能があります：

- 指定ユーザのウェブ アクセスの時間帯を制限します。これは Mageia に組み込まれた shorewall ファイアウォールを制御することで実現しています。
- 指定ユーザが特定のコマンドを実行するのを妨げ、これらのユーザはあなたが許可したコマンドしか実行できません。
- ウェブ サイトへのアクセスを制限し、手動で定義したブラックリスト/ホワイトリストの両方だけでなく、ウェブ サイトの内容による動的な制限も行います。これを実現するために Drakguard はオープンソースな一流のペアレンタル コントロール ブロッカーである DansGuardian を使用しています。

⁴⁶このツールはコマンド ラインから開始でき、drakguard を root として入力します。

10.5.2. ペアレンタル コントロールを設定する



お使いのコンピュータが Ext2, Ext3, ReiserFS のいずれかでフォーマットされたハード ドライブ パーティションを含んでいる場合、お使いのパーティションで ACL を設定するように勧めるポップアップが表示されます。ACL は Access Control List を表しており、個別のファイルに対するアクセスを特定のユーザに制限することを可能にする Linux カーネルの機能です。ACL は Ext4 や Btrfs のファイルシステムに組み込まれていますが、Ext2, Ext3, Reiserfs のパーティションではオプションによって有効にしなければなりません。この促しに対して 'はい' を選択した場合、drakguard はお使いのすべてのパーティションで ACL をサポートするよう設定し、再起動を提案します。

ペアレンタル コントロールを有効にする: チェックした場合、ペアレンタル コントロールが有効になり、プログラムのブロック タブが操作できるようになります。

すべてのネットワークトラフィックをブロック: チェックした場合、ホワイトリスト タブの項目以外のすべてのウェブ サイトがブロックされます。チェックしない場合、ブラックリスト タブの項目以外のすべてのウェブ サイトが許可されます。

ユーザのアクセス: 左側のユーザはあなたが定義したルールに従ってアクセスが制限されます。右側のユーザはアクセスが制限されません。そのため、このコンピュータを使用している大人のユーザは不便を感じることはありません。左側のユーザを選択して追加をクリックするとこのユーザを許可ユーザとして追加します。右側のユーザを選択して削除をクリックするとこのユーザを許可ユーザから削除します。

時間制限: チェックした場合、インターネットのアクセスは開始時刻と終了時刻の間に制限されます。これ以外の時間帯では完全にブロックされます。

10.5.2.1. ブラックリスト/ホワイトリスト タブ

上部の最初のフィールドにウェブサイトの URL を入力して追加ボタンをクリックします。

10.5.2.2. プログラムのブロック タブ

定義されたアプリケーションをブロックする: 特定のアプリケーションへのアクセスを制限するための ACL の使用を有効にします。ブロックしたいアプリケーションのパスを入力します。

ブロックの除外ユーザ: 右側に並んでいるユーザは acl によるブロックの対象となりません。

11. 起動



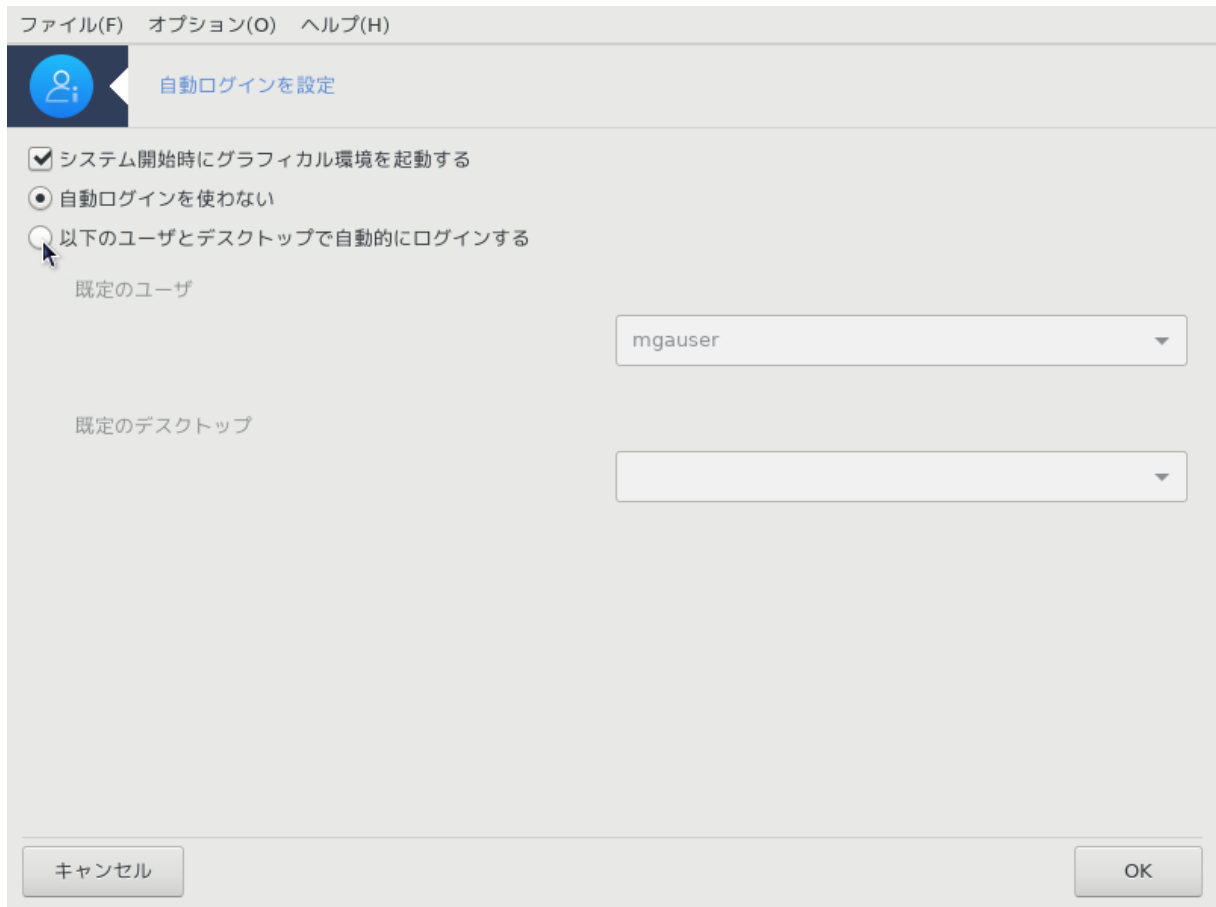
この画面では起動方法を設定するための幾つかのツールからいずれかを選ぶことができます。詳しく知るには下のリンクをクリックします。

起動方法の設定

1. [「自動ログインを設定する」](#)
2. [「システムの起動を設定する」](#)
3. [「ディスプレイ マネージャの設定」](#)

11.1. 自動ログインを設定する

drakautologin



このツール⁴⁷では決まったユーザがパスワードなしでそのユーザのデスクトップ環境に自動的にログインするようにできます。これは自動ログインと呼ばれ、一般的にはこのマシンを一人しか使用していないような場合において良い考えです。

これは Mageia コントロール センターの起動タブで見つかり、"自動ログインを設定" と書かれています。

インターフェースのボタンはとても分かりやすいものです：

ブート後に X Window System を実行したい場合は、システム開始時にグラフィカル環境を起動するをチェックします。そうでなければ、システムはテキスト モードで開始します。その場合でも、グラフィック インターフェースを手動で起動することは可能です。コマンド 'startx' もしくは 'systemctl start dm' を実行することでこれが行えます。

最初のボックスがチェックされている場合、他の二つの項目が設定でき、ユーザ (とパスワード) を質問するようにし続けたい場合の自動ログインを使わないの項目か、自動ログインが必要な場合の以下のユーザとデスクトップで自動的にログインするの項目のいずれかをチェックします。この場合、既定のユーザと既定のデスクトップも指定する必要があります。

11.2. システムの起動を設定する

drakboot

⁴⁷このツールはコマンド ラインから開始でき、drakautologin を root として入力します。

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

システムの起動を設定

• **ブート ロード**

使用するブート ロード

起動デバイス

• **メイン オプション**

既定のイメージが起動するまでの秒数

• **セキュリティ**

パスワード

パスワード (再入力)

上級

BIOS ではなく UEFI のシステムをお使いであれば、ユーザ インターフェースは少しだけ異なり、ブート デバイスはもちろん EFI システム パーティション (ESP) となります。

ファイル(F) オプション(O) ヘルプ(H)

システムの起動を設定

• ブート ロード

使用するブート ロード GRUB2 (グラフィカル表示)

起動デバイス EFI システム パーティション

• メイン オプション

既定のイメージが起動するまでの秒数 10

• セキュリティ

パスワード

パスワード (再入力)

上級

キャンセル 次へ

このツール⁴⁸ではブートに関する設定(ブート ロードの選択, パスワードの設定, 既定の起動項目など)が行えます。

これは Mageia コントロール センターの起動タブで見つかり、"システムの起動を設定"と書かれています。



何をしているのかを正確に分かっていないのであればこのツールを使用しないでください。幾つかの設定を変更するとお使いのマシンが二度と起動しなくなる可能性があります!

最初のパートはブート ロードと呼ばれ、BIOS を使用している場合は、使用するブート ロードを Grub, Grub2, Lilo の中から選択することができ、グラフィカル メニューとテキスト メニューも選択できます。これは単に好みの問題で、他に重要なことはありません。また、起動デバイスも設定することができ、ここは上級者以外は変更しないでください。この起動デバイスはブート ロードのインストール先で、何か変更を行うとお使いのマシンが起動しなくなる可能性があります。

UEFI システムでは、ブート ロードは Grub2-efi となり、これは /boot/EFI パーティションにインストールされます。この FAT32 でフォーマットされたパーティションはすべてのインストール済みのオペレーティング システムに共通のものです。

二番目のパートはメイン オプションと呼ばれ、既定のイメージが起動するまでの秒数を設定できます。この時間だけ、Grub や Lilo は起動可能なオペレーティング システムの一覧を表示し、あな

⁴⁸このツールはコマンド ラインから開始でき、drakboot を root として入力します。

たによる選択を促します。どれも選択されない場合、ブート ロードはその時間が経過すると既定の項目を起動します。

三番目で最後のパートはセキュリティと呼ばれ、ブート ロードにパスワードを設定することができます。これは起動するエントリを選択したり設定を変更したりする際にユーザ名とパスワードを訊かれることを意味します。ユーザ名は "root" でパスワードはここで選択されたものです。

上級ボタンでは幾つかの追加の設定が行えます。

ACPI を有効にする:

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) は電源管理の標準です。これは使用されていないデバイスを停止することでエネルギーを節約でき、これは APM より前に使用されていた方式でした。お使いのコンピュータが ACPI に対応している場合はこのボックスをチェックします。

SMP を有効にする:

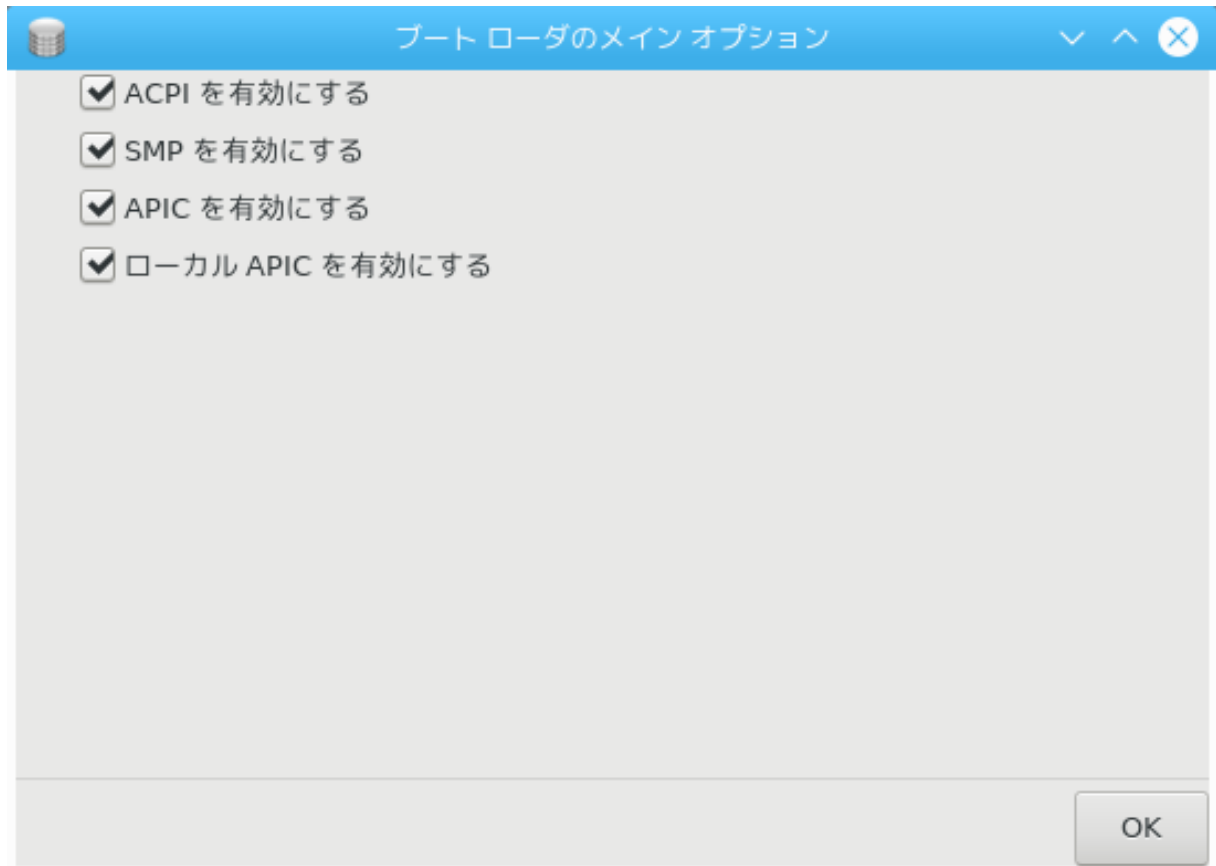
SMP は Symmetric Multi Processors を表し、これはマルチ コア プロセッサ向けのアーキテクチャです。



ハイパー スレッディング対応のプロセッサをお持ちの場合、Mageia はこれを二つのプロセッサとして扱い、SMP を有効にします。

APIC を有効にする と ローカル APIC を有効にする:

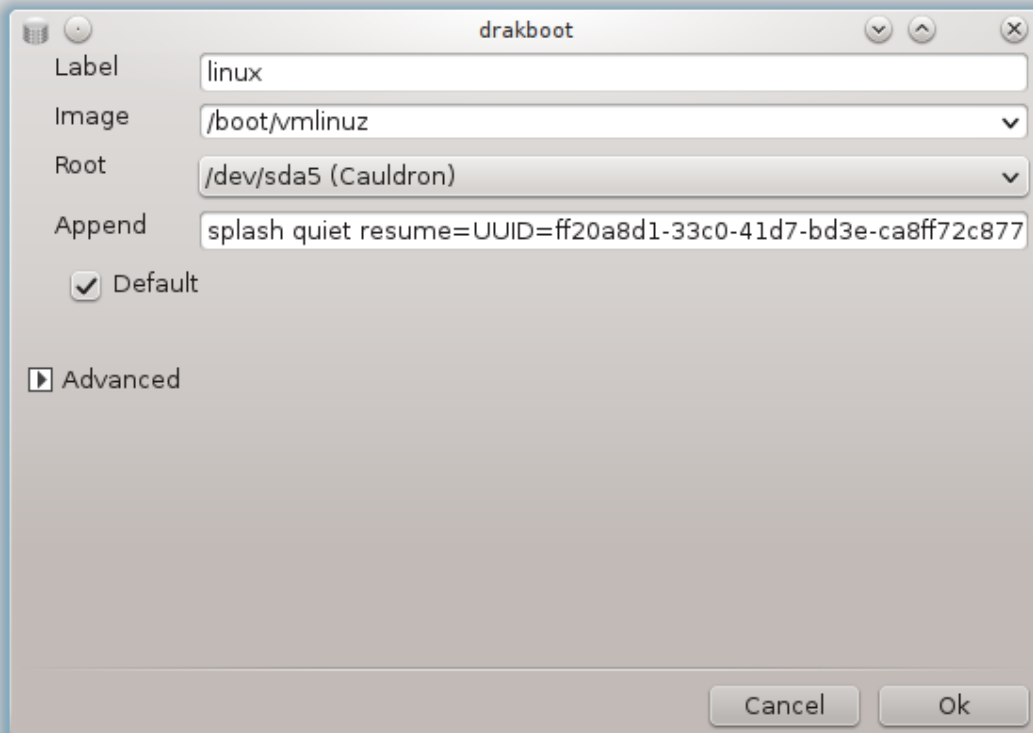
APIC は Advanced Programmable Interrupt Controller を表しています。Intel APIC システムには二つのコンポーネントが存在し、ローカル APIC (LAPIC) と I/O APIC があります。後者は割り込みを管理し、周辺のバスからプロセッサ内の一つ以上のローカル APIC に受信します。これはマルチプロセッサ システムにおいて非常に有用です。幾つかのコンピュータは APIC システムで問題が発生し、フリーズや不正確なデバイス検出 (エラー メッセージ "spurious 8259A interrupt: IRQ7") を引き起こすことがあります。この場合、APIC やローカル APIC を無効化します。



次への画面は選択したブートローダによって異なります。

- Grub Legacy もしくは Lilo の場合:

この場合、起動時にすべての選択可能なエントリの一覧を見ることができます。既定の項目はアスタリスクが付いています。メニューエントリの順番を変更するには、上下矢印をクリックして選択された項目を移動します。追加もしくは変更のボタンをクリックした場合、ブートローダのメニューに新しいエントリを追加したり既存の項目を編集したりするための新しいウィンドウが現れます。これらのツールを用いるには、Lilo もしくは Grub についてよく知っている必要があります。



ラベル フィールドは自由に記述でき、ここにはメニューに表示したい内容を記述します。これは Grub の "title" コマンドに相当します。例: Mageia3

イメージフィールドはカーネルの名前を含みます。これは Grub の "kernel" コマンドに相当します。例えば /boot/vmlinuz です。

root フィールドはカーネルが保存されているデバイス名を含みます。これは Grub の "root" コマンドに相当します。例えば (hd0,1) です。

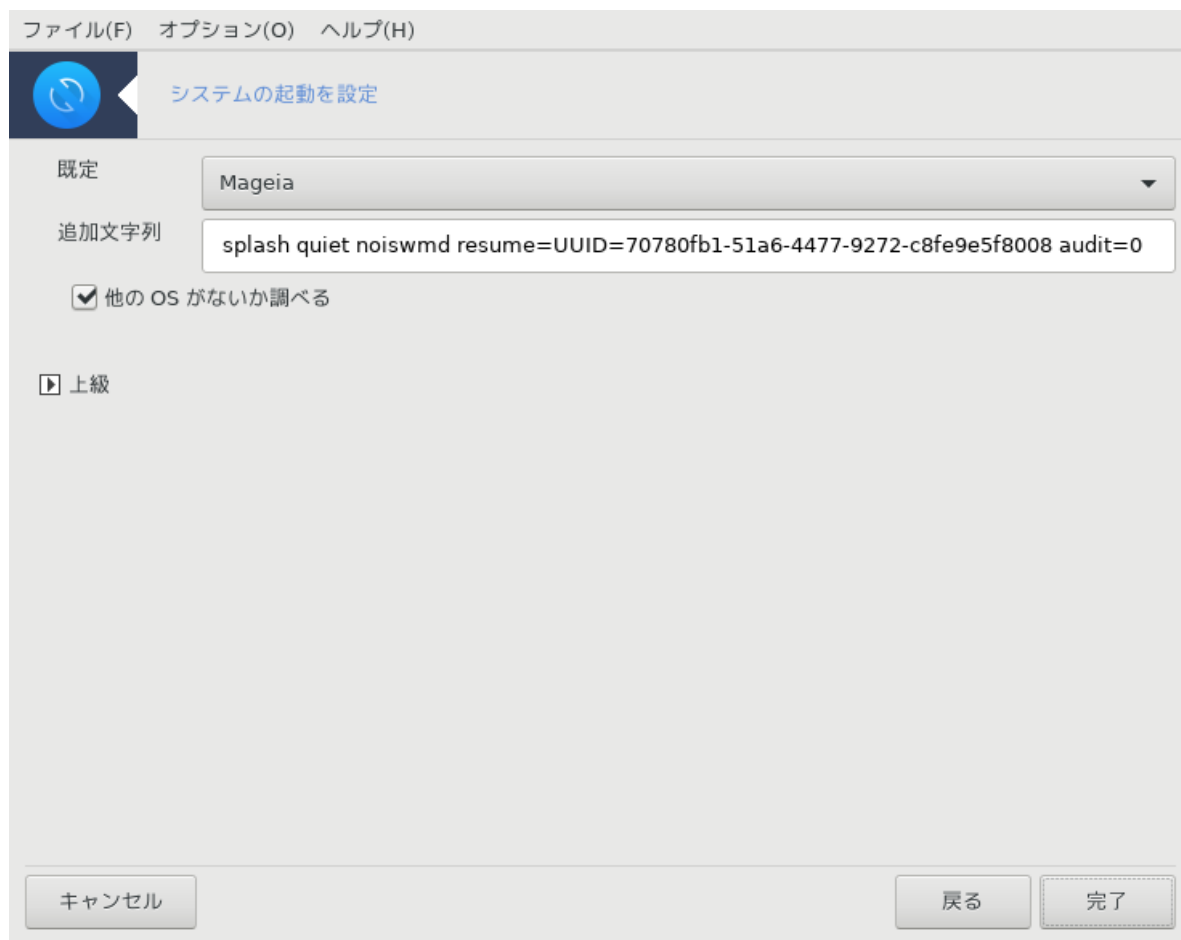
追加文字列フィールドは起動時にカーネルに渡されるオプションを含みます。

既定がチェックされている場合、Grub はこのエントリを既定で起動します。

上級と呼ばれる追加の画面では、ビデオ モード, initrd ファイル, ネットワーク プロファイル ([「ネットワークプロファイルを管理する」](#)を参照) をドロップダウンリストで選択できます。

- Grub2 もしくは Grub2-efi の場合 (Legacy モードで既定で用いられるブートローダと UEFI モード):

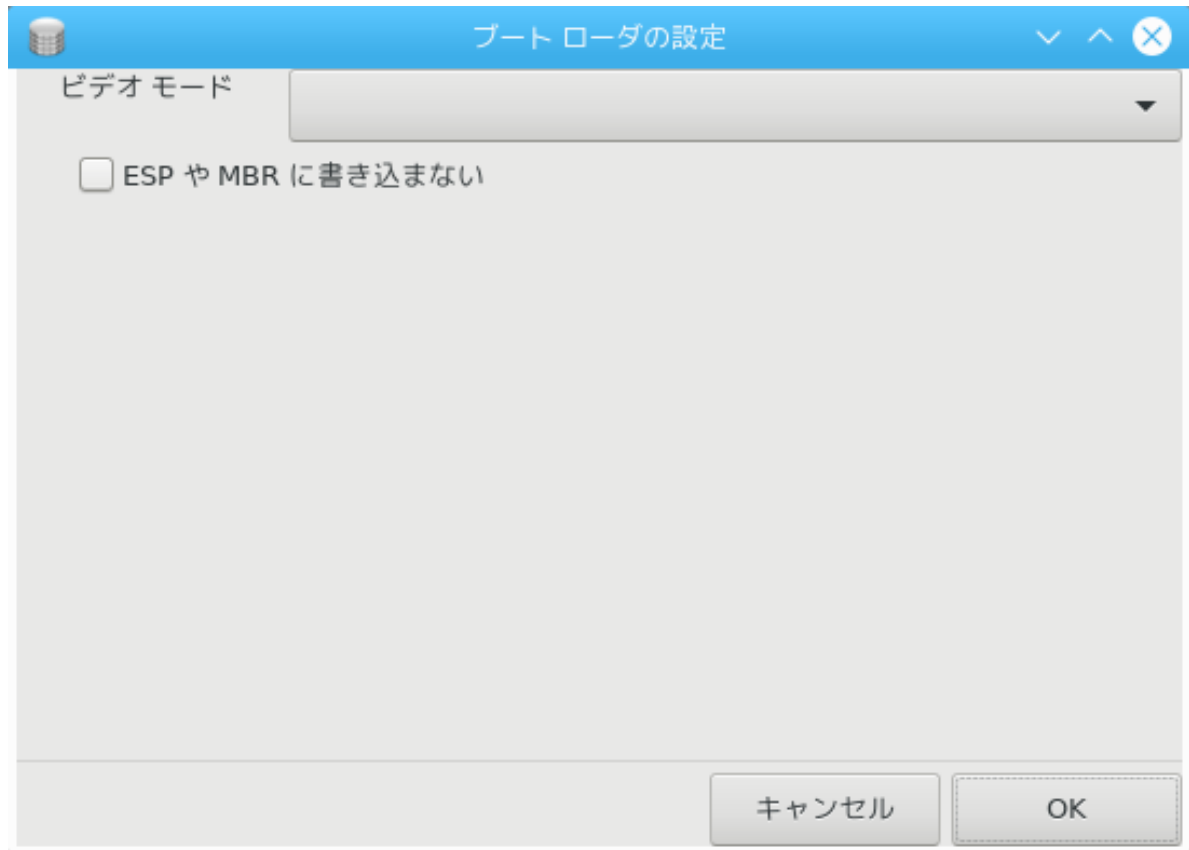
この場合、既定と書かれたドロップダウンリストがすべての選択可能なエントリを表示します; 既定の項目にしたいものをクリックしてください。



追加文字列フィールドは起動時にカーネルに渡されるオプションを含みます。

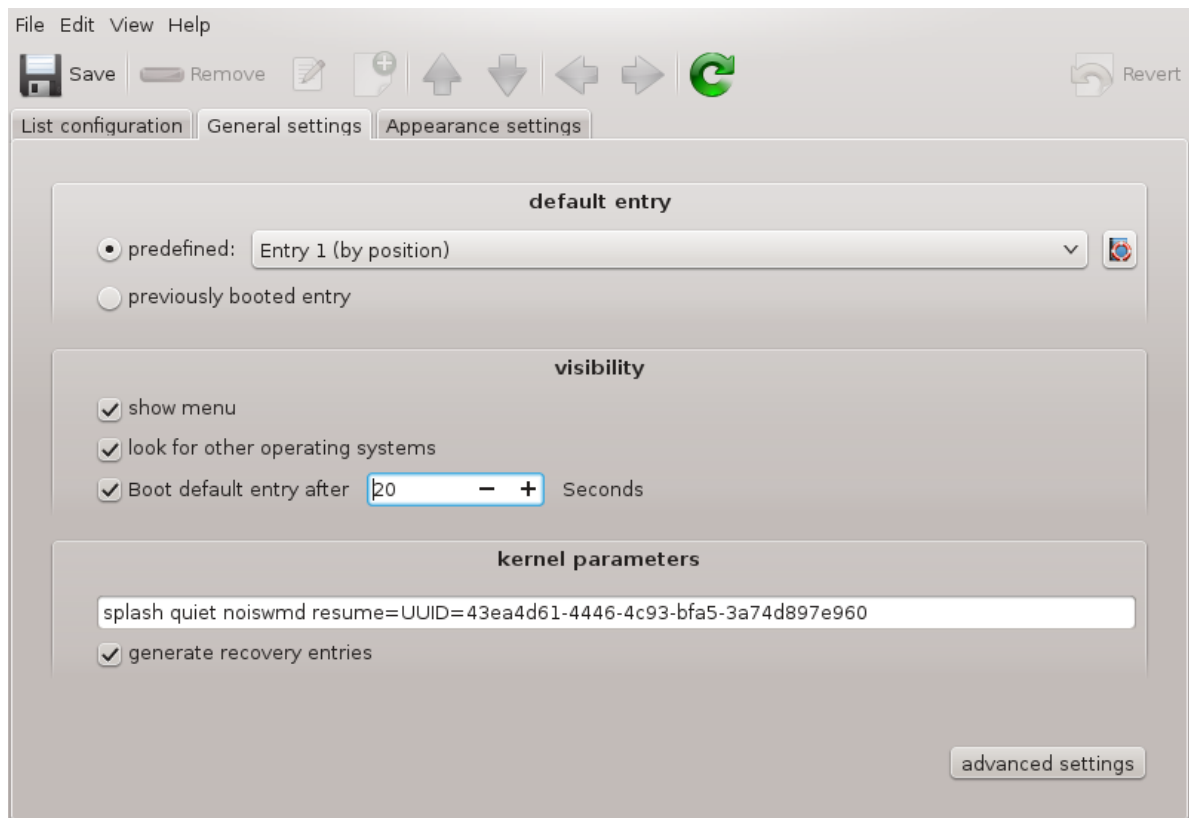
他のオペレーティング システムがインストールされている場合、Mageia はお使いの Mageia の起動メニューにそれらを追加しようとしています。この動作を望まない場合、他の OS がないか調べるのチェックを外してください。

上級と呼ばれる追加の画面では、ビデオ モードが選択できます。Mageia をブート可能にすることを望まず、他の OS からチェイン ロードしたいのであれば、ESP や MBR に書き込まないをチェックして警告を受け入れてください。



ESP にも MBR にもインストールしないことはそのシステムが他の OS からチェーンロードされない限り起動できないことを意味します。

多くの他のパラメータを設定するには Grub Customizer というツールを用いることができ、Mageia のリポジトリで利用可能です (下記参照)。



11.3. ディスプレイ マネージャの設定 dracdm



ここで⁴⁹ お使いのデスクトップ環境にログインするためにどのディスプレイ マネージャを使用するかを選択できます。お使いのシステムで利用可能な項目だけが表示されます。

ほとんどのユーザはログイン画面の見た目の違いしか気づかないでしょう。しかしながら、サポートされる機能にも違いがあります。LXDM は軽量なディスプレイ マネージャで、SDDM や GDM にはより多くの機能があります。

12. 他の Mageia のツール群

Mageia コントロール センターの中で開始できるもの以外にも Mageia のツールが存在します。詳しく知るには下のリンクをクリックするか、続くページを読み進めてください。

1. [「Mageia バグ報告ツール」](#) drakbug
2. [「ログやシステム情報をバグ報告のために収集する」](#) drakbug_report
3. [「利用可能な NFS や SMB の共有を表示する」](#) 未執筆
4. [「PCI, USB, PCMCIA の情報を表示する」](#)
5. 他にもツールがありますか？

12.1. Mageia バグ報告ツール drakbug

⁴⁹このツールはコマンド ラインから開始でき、drakedm を root として入力します。

Mageia release 7 (Cauldron) for x86_64

使用テーマ: Adwaita

バグを報告するには、報告ボタンをクリックしてください。

クラッシュしたときに行っていたことを記述してください:

Mageia
のツ
ールを
選
択:

または
アプ
リ
ケー
ション
名
(または
フルパ
ス):

パッケージ:
...

カーネ
ル:
4.14.13-desktop-1.mga7

ヘルプ 報告 閉じる

通常、このツール⁵⁰ は Mageia のツールがクラッシュしたときに自動的に開始します。しかしながら、バグを報告した後に、このツールが提供する幾つかの情報を確認するためにこれを開始して、得られた情報をそのバグ報告で提供するように頼まれる可能性もあります。

新しくバグを報告する必要があるあって、あなたがバグ報告を行ったことがない場合、"報告" ボタンを押す前に[適切にバグを報告するには \(英語\)](https://wiki.mageia.org/en/How_to_report_a_bug_properly) [https://wiki.mageia.org/en/How_to_report_a_bug_properly] をお読みください。

そのバグが既に他の人によって報告されている場合 (drakbug の出力するエラー メッセージが同じになる)、あなたも同じバグに遭遇したということをその既存の報告にコメントするのは有用なことです。

12.2. ログやシステム情報をバグ報告のために収集する drakbug_report

このツール⁵¹ はコマンド ライン上でしか開始や使用ができません。

⁵⁰このツールはコマンド ラインから開始でき、drakbug を root として入力します。

⁵¹このツールはコマンド ラインから開始でき、drakbug_report を root として入力します。

このコマンドの出力はファイルに保存することが推奨されます。例えば `drakbug_report > drakbugreport.txt` となります。しかし、まずは十分なディスク領域があるかを確認してください: このファイルは容易に数 GB の大きさになりえます。



出力は、まず不要な部分を除かないとバグ報告に添付するには遥かに大きすぎます。

このコマンドはお使いのシステム上の以下の情報を収集します:

- `lspci`
- `pci_devices`
- `dmidecode`
- `fdisk`
- `scsi`
- `/sys/bus/scsi/devices`
- `lsmod`
- `cmdline`
- `pcmcia: stab`
- `usb`
- `partitions`
- `cpuinfo`
- `syslog`
- `Xorg.log`
- `monitor_full_edid`
- `stage1.log`
- `ddebug.log`
- `install.log`
- `fstab`
- `modprobe.conf`
- `lilo.conf`
- `grub: menu.lst`
- `grub: install.sh`
- `grub: device.map`
- `xorg.conf`
- `urpmi.cfg`
- `modprobe.preload`
- `sysconfig/i18n`
- `/proc/iomem`
- `/proc/ioport`
- `mageia version`
- `rpm -qa`

- df



このヘルプが書かれた時点では、このコマンドの出力の "syslog" の部分は空で、これは私たちが systemd へ移行したことにまだ対応していないためです。今でもこれが空の場合、"syslog" は (root として) `journalctl -a > journalctl.txt` を実行することで取得できます。ディスク領域が多くない場合、例えば、以下によりログの最後の 5000 行を代わりに得ることができます: `journalctl -a | tail -n5000 > journalctl5000.txt`

12.3. 利用可能な NFS や SMB の共有を表示する

lsnetdrake

このツール⁵² はコマンド ライン上でしか開始や使用ができません。

このページはリソース不足によりまだ書かれていません。このヘルプを書くことができるとお考えの場合、[Documentation チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]に連絡してください。よろしくお願いします。

12.4. PCI, USB, PCMCIA の情報を表示する

lspcidrake

このツール⁵³ はコマンド ライン上でしか開始や使用ができません。これは root で使用した場合に幾つかの詳しい情報を提供します。

lspcidrake はコンピュータに接続されたすべてのデバイス (USB, PCI, PCMCIA) と使用ドライバの一覧を出力します。動作には ldetect と ldetect-1st のパッケージが必要です。

```
[root@localhost ~]# lspcidrake
iwl3945      : Intel Corporation|PRO/Wireless 3945ABG [Golan] Network Connection [NETWORK_OTHER] (rev: 02)
tg3         : Broadcom Corporation|NetXtreme BCM5755M Gigabit Ethernet PCI Express [NETWORK_ETHERNET] (rev: 02)
firewire_ohci : 02 Micro, Inc.|Firewire (IEEE 1394) [SERIAL_FIREWIRE] (rev: 02)
yenta_socket : 02 Micro, Inc.|Cardbus bridge [BRIDGE_CARDBUS] (rev: 21)
i2c_i801    : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) SMBus Controller [SERIAL_SMBUS] (rev: 02)
unknown    : Intel Corporation|82801HM/HEM (ICH8M/ICH8M-E) SATA Controller [AHCI mode] [STORAGE_SATA] (rev: 02)
ata_piix   : Intel Corporation|82801HM/HEM (ICH8M/ICH8M-E) IDE Controller [STORAGE_IDE] (rev: 02)
lpc_ich    : Intel Corporation|82801HM (ICH8M) LPC Interface Controller [BRIDGE_ISA] (rev: 02)
unknown    : Intel Corporation|82801 Mobile PCI Bridge [BRIDGE_PCI] (rev: f2)
ehci_pci   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB2 EHCI Controller #1 [SERIAL_USB] (rev: 02)
uhci_hcd   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB UHCI Controller #3 [SERIAL_USB] (rev: 02)
uhci_hcd   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB UHCI Controller #2 [SERIAL_USB] (rev: 02)
uhci_hcd   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB UHCI Controller #1 [SERIAL_USB] (rev: 02)
shpchp    : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) PCI Express Port 6 [BRIDGE_PCI] (rev: 02)
shpchp    : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) PCI Express Port 2 [BRIDGE_PCI] (rev: 02)
shpchp    : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) PCI Express Port 1 [BRIDGE_PCI] (rev: 02)
snd_hda_intel : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) HD Audio Controller [MULTIMEDIA_AUDIO_DEV] (rev: 02)
ehci_pci   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB2 EHCI Controller #2 [SERIAL_USB] (rev: 02)
uhci_hcd   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB UHCI Controller #5 [SERIAL_USB] (rev: 02)
uhci_hcd   : Intel Corporation|82801H (ICH8 Family) USB UHCI Controller #4 [SERIAL_USB] (rev: 02)
unknown    : Intel Corporation|Mobile GM965/GL960 Integrated Graphics Controller (secondary) [DISPLAY_OTHER] (rev: 0c)
Card: Intel 810 and later: Intel Corporation|Mobile GM965/GL960 Integrated Graphics Controller (primary) [DISPLAY_VGA] (rev: 0c)
unknown    : Intel Corporation|Mobile PM965/GM965/GL960 Memory Controller Hub [BRIDGE_HOST] (rev: 0c)
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 ehci_hcd|EHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 ehci_hcd|EHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : Dell Computer Corp.|Port Replicator [Hub|Unused|TT per port]
usbhid     : PixArt|USB Optical Mouse [Human Interface Device|Boot Interface Subclass|Mouse]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 uhci_hcd|UHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : 02 Micro, Inc.|Oz776 1.1 Hub [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
unknown    : 02|02Micro CCID SC Reader [Chip|SmartCard]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 uhci_hcd|UHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 uhci_hcd|UHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 uhci_hcd|UHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
hub        : Linux 3.12.0-desktop-0.rc5.1.mga4 uhci_hcd|UHCI Host Controller [Hub|Unused|Full speed (or root) hub]
Module:i8k : Dell .*|Latitude.*
Pkg:i8kutils : Dell .*|Latitude.*
hid_generic : PixArt USB Optical Mouse
[root@localhost ~]#
```

-v オプションを付けると、lspcidrake はベンダとデバイスの識別情報を追加します。

⁵²このツールはコマンド ラインから開始でき、lsnetdrake を root として入力します。

⁵³このツールはコマンド ラインから開始でき、lspcidrake を root として入力します。

lspcidrake はしばしば非常に長い一覧を生成するため、情報を探すには、これらの例のようにしばしば grep コマンドとともにパイプラインで用いられます:

グラフィック カードについての情報;

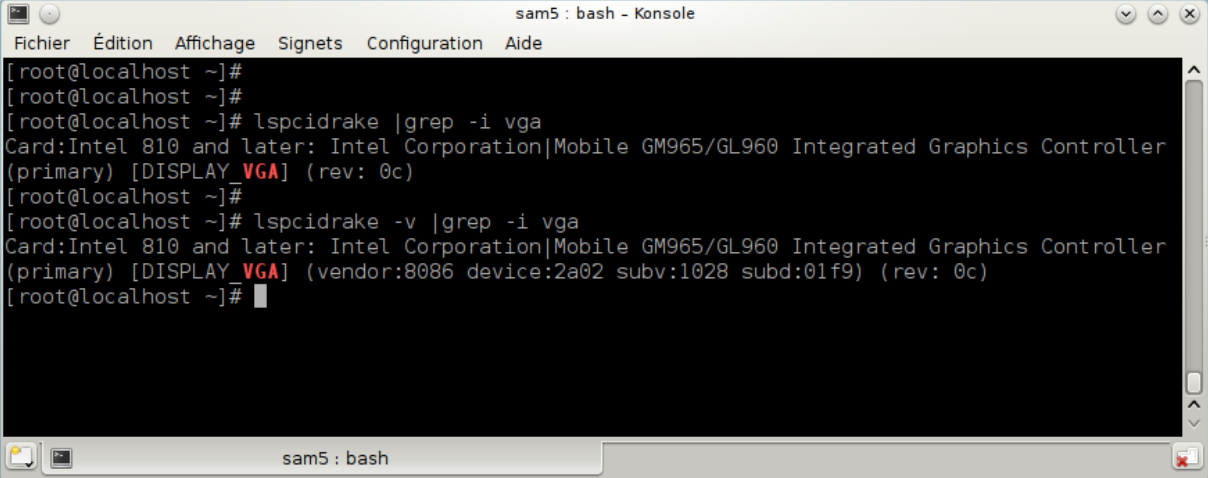
```
lspcidrake | grep VGA
```

ネットワークについての情報

```
lspcidrake | grep -i network
```

-i を付けると大文字と小文字の区別を無視します。

下のスクリーンショットでは、lspcidrake の -v オプションと grep の -i オプションの働きを見ることができます。



```

[root@localhost ~]#
[root@localhost ~]#
[root@localhost ~]# lspcidrake |grep -i vga
Card: Intel 810 and later: Intel Corporation|Mobile GM965/GL960 Integrated Graphics Controller
(primary) [DISPLAY VGA] (rev: 0c)
[root@localhost ~]#
[root@localhost ~]# lspcidrake -v |grep -i vga
Card: Intel 810 and later: Intel Corporation|Mobile GM965/GL960 Integrated Graphics Controller
(primary) [DISPLAY VGA] (vendor:8086 device:2a02 subv:1028 subd:01f9) (rev: 0c)
[root@localhost ~]#
```

ハードウェアについての情報を提供する別のツールがあり、これは dmidecode と呼ばれます (root で実行します)。